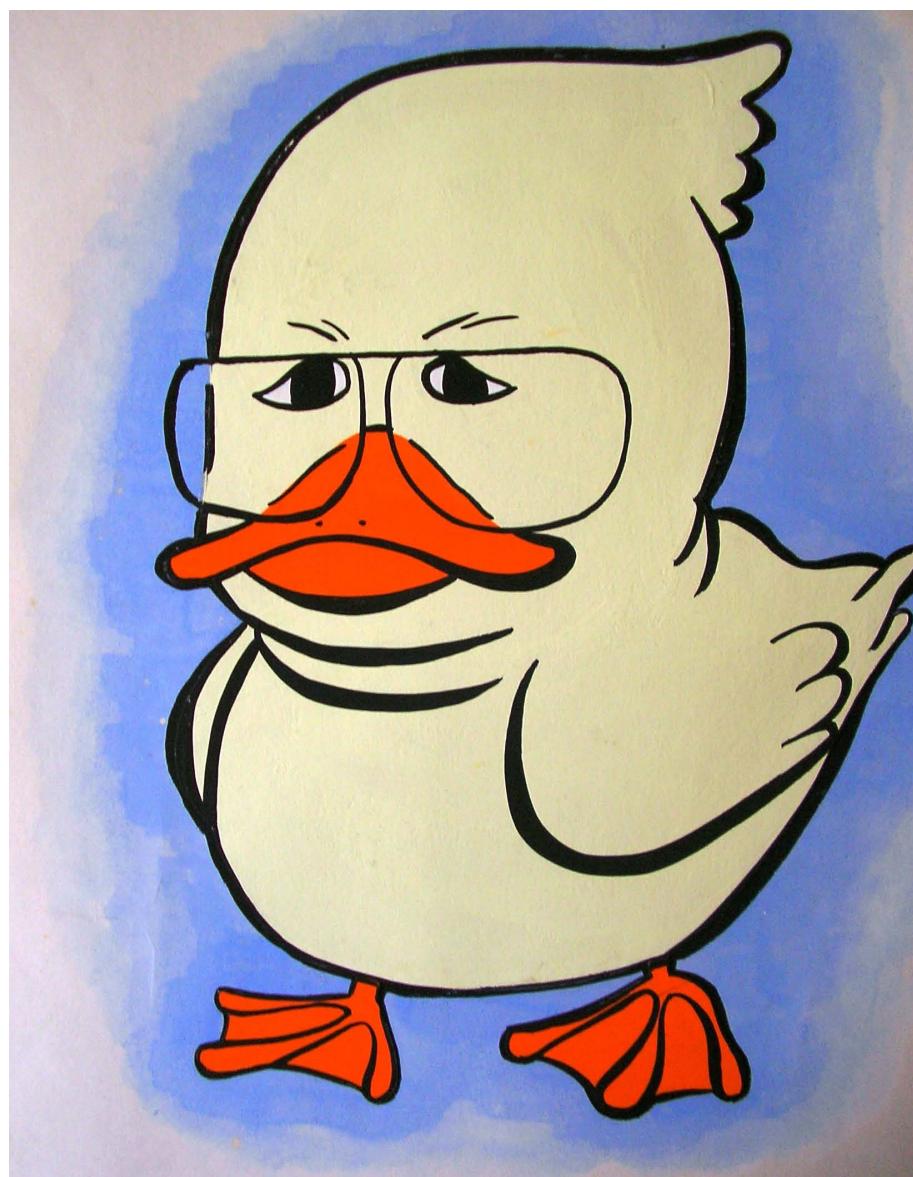


初等的な不等式 III

柳田 五夫



目次

1	SMV-Theorem	3
2	EV-Theorem	6
2.1	補助定理 2.1 の証明	6
2.2	補助定理 2.2 の証明	17
2.3	定理 2.3 の証明	21
3	Right Convex Function Theorem	35
4	練習問題	49

ここでは、**対称式**の不等式を扱っている。三次の対称的な多項式の不等式の一部については、初等的な不等式 **II** で扱ったが、ここでは、次数に関係なく多項式の不等式を主に扱い、多項式以外の不等式も扱う。証明が難しい不等式の証明に対して有効な、**SMV-Theorem**, **EV-Theorem**, **RCF-Theorem** 等を証明し、使用する。

1 SMV-Theorem

(a_1, a_2, \dots, a_n) を任意の実数列とする。この実数列に対して、次の変換 Δ を行う。

1. $a_i = \min(a_1, a_2, \dots, a_n)$, $a_j = \max(a_1, a_2, \dots, a_n)$ を満たす $i, j \in \{1, 2, \dots, n\}$ を選ぶ。
2. a_i と a_j を $\frac{a_i + a_j}{2}$ で置き換える。

最初の数列を $(a_1^1, a_2^1, \dots, a_n^1) (= (a_1, a_2, \dots, a_n))$ と表し、変換 Δ を行った後の数列を $(a_1^2, a_2^2, \dots, a_n^2)$ と表すことにする。同様にして、数列 $(a_1^k, a_2^k, \dots, a_n^k)$ に変換 Δ を行った後の数列を $(a_1^{k+1}, a_2^{k+1}, \dots, a_n^{k+1})$ と表すことにする。

[補助定理 1.1] (General mixing variable lemma)

(a_1, a_2, \dots, a_n) を任意の実数列とする。この実数列に対して、変換 Δ を k 回行った数列を $(a_1^{k+1}, a_2^{k+1}, \dots, a_n^{k+1})$ とすると、各 i ($1 \leq i \leq n$) に対して

$$\lim_{k \rightarrow \infty} a_i^k = a, \quad a = \frac{a_1 + a_2 + \dots + a_n}{n}$$

が成立する。

[証明] $m_p = \min(a_1^p, a_2^p, \dots, a_n^p)$, $M_p = \max(a_1^p, a_2^p, \dots, a_n^p)$ とおくと

(i) $M_{p+1} \leq M_p$, $m_p \leq m_{p+1}$ ($p = 1, 2, \dots$)

一般性を失うことなく $a_1^p \leq a_2^p \leq \dots \leq a_n^p$ と仮定できる。

このとき、 $m_p = a_1^p$, $M_p = a_n^p$ で、 a_1^p と a_n^p は $\frac{a_1^p + a_n^p}{2} = \frac{m_p + M_p}{2}$ に置き換わるが、 $m_p \leq \frac{a_1^p + a_n^p}{2} = \frac{m_p + M_p}{2} \leq M_p$ が成り立つ。

また、 $m_p \leq a_i^p \leq M_p$ ($i = 2, 3, \dots, n - 1$) だから $M_{p+1} \leq M_p$, $m_p \leq m_{p+1}$ が成り立つ。

(ii) $m_p \leq a \leq M_p$ ($p = 1, 2, \dots$)

$a_1 + a_2 + \dots + a_n = na$ だから

$$nm_1 \leq a_1 + a_2 + \dots + a_n \leq nM_1 \text{ から } m_1 \leq a \leq M_1$$

一般性を失うことなく $a_1 \leq a_2 \leq \dots \leq a_n$ と仮定できる。

$(a_1^1, a_2^1, \dots, a_n^1) (= (a_1, a_2, \dots, a_n))$ と表し, 変換 Δ を行った後の数列 $(a_1^2, a_2^2, \dots, a_n^2)$ は $\left(\frac{a_1 + a_n}{2}, a_2, \dots, a_{n-1}, \frac{a_1 + a_n}{2} \right)$ となるから

$$\begin{aligned} a_1^2 + a_2^2 + \dots + a_n^2 &= \frac{a_1 + a_n}{2} + a_2 + \dots + a_{n-1} + \frac{a_1 + a_n}{2} \\ &= a_1 + a_2 + \dots + a_n \\ &= na \end{aligned}$$

同様にして $m_2 \leqq a \leqq M_2$ が成り立つ.

以下, 帰納的に $m_3 \leqq a \leqq M_3, \dots$ が得られる.

- (iii) $\lim_{p \rightarrow \infty} m_p = \lim_{p \rightarrow \infty} M_p = a$ を示せば, $\lim_{k \rightarrow \infty} a_i^k = a$ が示される.
 $\{m_p\}, \{M_p\}$ は

$$m_1 \leqq m_2 \leqq \dots \leqq m_p \leqq a, \quad M_1 \geqq M_2 \geqq \dots \geqq M_p \geqq \dots \geqq a$$

を満たすから収束する.

$\lim_{p \rightarrow \infty} m_p = m, \lim_{p \rightarrow \infty} M_p = M$ とおくと, (ii) より $m \leqq a \leqq M$
 次に, $m = M$ となることを示す.

このために $m < M$ と仮定して矛盾が生ずることをいう.

任意の $\epsilon > 0$ ($\epsilon < \frac{M-m}{2}$) に対して, ある正の整数 p_0 が存在し
 $p \geqq p_0 \implies |m_p - m| < \epsilon, |M_p - M| < \epsilon$ が成り立つ.

$d_m = \{x \mid |x - m| < \epsilon\}, d_M = \{x \mid |x - M| < \epsilon\}, d_{\frac{M+m}{2}} = \{x \mid |x - \frac{M+m}{2}| < \epsilon\}$
 とおくと

$$d_m \cap d_{\frac{M+m}{2}} = \emptyset, d_M \cap d_{\frac{M+m}{2}} = \emptyset$$

数列 $(a_1^{p_0}, a_2^{p_0}, \dots, a_n^{p_0})$ を考える.

一般性を失うことなく $a_1^{p_0} \leqq a_2^{p_0} \leqq \dots \leqq a_n^{p_0}$ と仮定することができる.

このとき, $m_{p_0} = a_1^{p_0}, M_{p_0} = a_n^{p_0}$ で $a_1^{p_0} \in d_m, a_n^{p_0} \in d_M$ から

$m - \epsilon < a_1^{p_0} < m + \epsilon, M - \epsilon < a_n^{p_0} < M + \epsilon$ が成り立つことから

$$\frac{M+m}{2} - \epsilon < \frac{a_1^{p_0} + a_n^{p_0}}{2} < \frac{M+m}{2} + \epsilon$$

よって

$$\frac{m_{p_0} + M_{p_0}}{2} = \frac{a_1^{p_0} + a_n^{p_0}}{2} \in d_{\frac{M+m}{2}}$$

で

$$\frac{m_{p_0} + M_{p_0}}{2} = \frac{a_1^{p_0} + a_n^{p_0}}{2} \notin d_m, \quad \frac{m_{p_0} + M_{p_0}}{2} = \frac{a_1^{p_0} + a_n^{p_0}}{2} \notin d_M$$

数列 $(a_1^{p_0}, a_2^{p_0}, \dots, a_n^{p_0})$ に変換 Δ を行った数列

$$(a_1^{p_0+1}, a_2^{p_0+1}, \dots, a_n^{p_0+1}) = \left(\frac{m_{p_0} + M_{p_0}}{2}, a_2^{p_0+1}, \dots, a_{n-1}^{p_0+1}, \frac{m_{p_0} + M_{p_0}}{2} \right)$$

では

$$m_{p_0+1} = a_2^{p_0}, \quad M_{p_0+1} = a_{n-1}^{p_0}$$

となり

$$\frac{m_{p_0+1} + M_{p_0+1}}{2} = \frac{a_2^{p_0} + a_{n-1}^{p_0}}{2} \in d_{\frac{M+m}{2}}$$

かつ

$$\frac{m_{p_0+1} + M_{p_0+1}}{2} = \frac{a_2^{p_0} + a_{n-1}^{p_0}}{2} \notin d_m, \quad \frac{m_{p_0+1} + M_{p_0+1}}{2} = \frac{a_2^{p_0} + a_{n-1}^{p_0}}{2} \notin d_M$$

である。

この操作を有限回繰り返すと d_m, d_M に属する要素がなくなり

$$\lim_{p \rightarrow \infty} m_p = m, \quad \lim_{p \rightarrow \infty} M_p = M \text{ に反する.}$$

■

[注] 変換 Δ は $\frac{a+b}{2}$ の代わりに \sqrt{ab} や $\sqrt{\frac{a^2+b^2}{2}}$ と変更することもできる.

定理 1.2 Stronger mixing variable (SMV Theorem)

(a_1, a_2, \dots, a_n) を任意の実数列とする。この実数列に対して、変換 Δ を k 回行った数列を $(a_1^{k+1}, a_2^{k+1}, \dots, a_n^{k+1})$ とする。

$f : \mathbb{R}^n \rightarrow \mathbb{R}$ は連続関数で、 a_1, a_2, \dots, a_n に関する対称式であるとする。

このとき

$$f(a_1, a_2, \dots, a_n) \geq f(a_1^2, a_2^2, \dots, a_n^2)$$

が成り立ち、 $\{f(a_1^k, a_2^k, \dots, a_n^k)\}$ が $k \rightarrow \infty$ のとき収束するならば

$$f(a_1, a_2, \dots, a_n) \geq f(a, a, \dots, a), \quad a = \frac{a_1 + a_2 + \dots + a_n}{n}$$

が成立する。

2 EV-Theorem

EV-Theorem の証明については、[1], [2] にあるものを筆者が個人的にまとめたので、ぜひ原論文にあたっていただきたい。

実際に筆者が不等式の証明に使用するのは、系 2.8 が多い。

2.1 補助定理 2.1 の証明

[補助定理 2.1] a, b, c は非負の実数で、すべてが等しいことがなく、高々 1 個だけが 0 となるものとする。

そして、 $x, y, z (x \leq y \leq z)$ は非負の実数で

$p \in (-\infty, 0) \cup (1, \infty)$ のとき

$$x + y + z = a + b + c, \quad x^p + y^p + z^p = a^p + b^p + c^p$$

$p = 0$ のとき

$$x + y + z = a + b + c, \quad xyz = abc > 0$$

を満たすものとする。

このとき、 $x \in [x_1, x_2]$ を満たすような、2 つの非負の実数 $x_1, x_2 (x_1 < x_2)$ が存在して、次のことが成り立つ。

- (1) $x = x_1, p \leq 0 \implies 0 < x < y = z$
- (2) $x = x_1, p > 1 \implies 0 = x < y \leq z$ または $0 < x < y = z$
詳しくは、 $x = x_1 = 0, p > 1 \implies 0 = x < y \leq z$
 $x = x_1 > 0, p > 1 \implies 0 < x < y = z$
- (3) $x \in (x_1, x_2) \implies x < y < z$
- (4) $x = x_2 \implies 0 < x = y < z$

[証明] $p = 0, p < 0, p > 1$ の場合にわけて証明する。

(A) $p = 0$ の場合 ($xyz = abc > 0$)

$$S = \frac{a+b+c}{3}, P = \sqrt[3]{abc}$$
 とおくと

$$a + b + c = 3S, \quad abc = P^3, \quad x + y + z = 3S, \quad xyz = P^3$$

相加平均・相乗平均の不等式から

$$S = \frac{a+b+c}{3} > \sqrt[3]{abc} = P$$

したがって、 $S > P > 0$

そして、 $0 < x \leq y \leq z, x < z$ から、 $0 < x < P$

$\therefore x = z$ と仮定すると $x \leq y \leq z$ から $x = y = z$

$x + y + z = 3S, xyz = P^3$ を用いると $3x = 3S, x^3 = P^3$ となり $S = P$ を得る。これは $S > P$ に矛盾する。よって、 $x < z$

$0 < x \leq y \leq z, x < z$ から、 $x^3 < xyz = P^3$ よって、 $0 < x < P$

さて

$$f = y + z - 2\sqrt{yz}$$

とおくと $f = (\sqrt{y} - \sqrt{z})^2 \geq 0$ で等号は $y = z$ のときに限り成り立つ。

f を x で表すことを考える。

$$y + z = 3S - x, \sqrt{yz} = \frac{\sqrt{xyz}}{\sqrt{x}} = \frac{\sqrt{P^3}}{\sqrt{x}} = P\sqrt{\frac{P}{x}}$$

$$f = 3S - x - 2P\sqrt{\frac{P}{x}}$$

$$x \text{ の関数として } f(x) = 3S - x - 2P\sqrt{\frac{P}{x}} \quad (0 < x < P) \text{ とおくと}$$

$$f'(x) = -1 + \frac{P}{x}\sqrt{\frac{P}{x}} > 0$$

したがって、 $f(x)$ は $0 < x < P$ で増加関数である。

$$\lim_{x \rightarrow +0} f(x) = -\infty, \lim_{x \rightarrow P-0} f(x) = 3(S-P) > 0$$

より 方程式 $f(x) = 0$ はただ 1 つの正の解 $x_1 (0 < x_1 < P)$ をもつ。

常に $f(x) \geq 0$ であったから、条件式を満たす x は $x \geq x_1$ である。

y と z は $y + z = 3S - x, yz = \frac{P^3}{x}$ から x の関数と考えられる。

(i) $x = x_1 (> 0)$ の場合

$f(x_1) = 0$ から $y(x_1) = z(x_1)$ が得られ $0 < x < y = z$

(ii) $x > x_1$ の場合

$f(x) > f(x_1) = 0$ から $y \neq z$ すなわち $y < z$

$x + y + z = 3S$ の両辺を x で微分すると

$$1 + y' + z' = 0 \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

$\log x + \log y + \log z = 3 \log P$ の両辺を x で微分すると

$$\frac{1}{x} + \frac{y'}{y} + \frac{z'}{z} = 0 \quad \dots\dots \textcircled{2}$$

①, ② から

$$y' = \frac{y(x-z)}{x(z-y)}, \quad z' = \frac{z(y-x)}{x(z-y)}$$

$0 < x \leqq y < z$ より $y' < 0$

したがって、 $y(x)$ は減少関数である。

$y(x_1) \leqq x_1$ と仮定すると、 $x_1 < x \leqq y$ より $y(x_1) > y(x) = y$ となり

$x_1 \geqq y(x_1) > y(x) = y$ すなわち, $x_1 > y$

これは、 $x_1 \leqq x \leqq y$ に矛盾する.

よって、 $y(x_1) > x_1$ が成り立つ。

$F(x) = y(x) - x$ とおくと, $F'(x) = y'(x) - 1 < 0$ より, $F(x)$ は減少関数で

$$F(x_1) = y(x_1) - x_1 > 0, \quad \lim_{x \rightarrow P-0} F(x) < 0$$

∴ $0 < x \leq y < z, xyz = P^3$ より

$$\lim_{x \rightarrow P-0} yz = \lim_{x \rightarrow P-0} \frac{P^3}{x} = P^2, \quad \lim_{x \rightarrow P-0} y \leq \lim_{x \rightarrow P-0} \sqrt{yz} = P$$

したがって、 $\lim_{x \rightarrow P^-} F(x) \leq 0$

$\lim_{x \rightarrow P-0} F(x) = 0$ と仮定すると, $\lim_{x \rightarrow P-0} y(x) = P$

$$\lim_{x \rightarrow P-0} z(x) = \lim_{x \rightarrow P-0} \frac{P^3}{xy(x)} = P$$

$x + y + z = 3S$ において $x \rightarrow P - 0$ とすると、 $3P = 3S$ すなわち

$S = P$ となり、 $S > P$ に矛盾する。

よって、 $\lim_{x \rightarrow P-0} F(x) < 0$

このことから、 $F(x_2) = 0$ となる x_2 ($x_1 < x_2$) が存在し、次のことが成り立つ。

$$x_1 < x_2, \quad y(x_2) = x_2$$

$$x_1 < x < x_2 \text{ のとき } y(x) > x$$

$$x_2 < x \text{ のとき } y(x) < x$$

$y \geq x$ であることを考慮すると、条件式を満たす x は $x_1 < x \leq x_2$ となる。

一方、 $z' > 0$ ($x_1 < x < x_2$) が成り立つから、 $z(x)$ は $x_1 \leq x \leq x_2$ において増加関数で

$$x_1 < x < x_2 \text{ のとき}$$

$$z(x) > z(x_1) = y(x_1) > y(x) \quad \text{すなわち} \quad z > y$$

よって、 $x_1 < x < x_2$ のとき $x < y < z$

また、 $z(x_2) > z(x_1) = y(x_1) > y(x_2) = x_2$ より

$x = x_2$ のときは

$$x_2 = y(x_2) < z(x_2)$$

よって、 $x = y < z$

(B) $p < 0$ の場合

$$S = \frac{a+b+c}{3}, R = \left(\frac{a^p + b^p + c^p}{3} \right)^{\frac{1}{p}} \text{ とおくと,}$$

$$a+b+c = 3S, a^p + b^p + c^p = 3R^p, \quad x+y+z = 3S, x^p + y^p + z^p = 3R^p$$

$f_1(x) = x^p$ ($x > 0$) とおくと, $f_1''(x) = p(p-1)x^{p-2} > 0$ より, $f_1(x)$ は凸関数だから

$$\frac{a^p + b^p + c^p}{3} > \left(\frac{a+b+c}{3} \right)^p \quad \text{すなわち} \quad \left(\frac{a^p + b^p + c^p}{3} \right)^{\frac{1}{p}} < \frac{a+b+c}{3}$$

したがって, $R < S$

そして, $0 < x \leq y \leq z, x < z$ から $3^{\frac{1}{p}}R < x < R$

∴ $x = z$ と仮定すると $x \leq y \leq z$ から $x = y = z$

$x+y+z = 3S, x^p + y^p + z^p = 3R^p$ を用いると $3x = 3S, 3x^p = 3R^p$ となり

$S = R$ を得る. これは $R < S$ に矛盾する. よって, $x < z$

このとき

$3x^p > x^p + y^p + z^p = 3R^p$ より $x < R$

$x^p < x^p + y^p + z^p = 3R^p$ より $x > 3^{\frac{1}{p}}R$

よって, $3^{\frac{1}{p}}R < x < R$

さて

$$h = (y+z) \left(\frac{y^p + z^p}{2} \right)^{-\frac{1}{p}} - 2$$

とおくと, 相加平均・相乗平均の不等式から

$$h \geq 2\sqrt{yz} \left(\sqrt{y^p z^p} \right)^{-\frac{1}{p}} - 2 = 2\sqrt{yz} \cdot \frac{1}{\sqrt{yz}} - 2 = 0$$

等号は $y = z$ のときに限り成り立つ.

h を x で表すことを考える.

$$y+z = 3S-x, \frac{y^p + z^p}{2} = \frac{3R^p - x^p}{2} \text{ より}$$

$$h = (3S-x) \left(\frac{3R^p - x^p}{2} \right)^{-\frac{1}{p}} - 2$$

x の関数として $h(x) = (3S-x) \left(\frac{3R^p - x^p}{2} \right)^{-\frac{1}{p}} - 2$ とおくと

$$\begin{aligned} h'(x) &= \frac{3}{2} \left(\frac{3R^p - x^p}{2} \right)^{-\frac{p+1}{p}} (Sx^{p-1} - R^p) \\ &= \frac{3}{2} R^p \left(\frac{3R^p - x^p}{2} \right)^{-\frac{p+1}{p}} \left\{ \frac{S}{x} \left(\frac{R}{x} \right)^{-p} - 1 \right\} > 0 \end{aligned}$$

したがって、 $h(x)$ は増加関数である。

$$h(x) \geq 0, \quad \lim_{x \rightarrow 3^{\frac{1}{p}} R - 0} h(x) = -2 < 0$$

より 方程式 $h(x) = 0$ はただ 1 つの実数解 x_1 $\left(x_1 > 3^{\frac{1}{p}} R \right)$ をもつ。

常に $h(x) \geq 0$ であったから、条件式を満たす x は $x \geq x_1$ であることがわかる。

(i) $x = x_1 (> 0)$ の場合

$h(x_1) = 0$ から $y(x_1) = z(x_1)$ が得られるから $0 < x < y = z$

(ii) $x > x_1$ の場合

$h(x) > 0$ から $y < z$ が得られる、

y と z は x の関数と考えられる。

$x + y + z = 3S$ の両辺を x で微分すると

$$1 + y' + z' = 0 \quad \dots \dots \textcircled{3}$$

$x^p + y^p + z^p = 3R^p$ の両辺を x で微分すると

$$x^{p-1} + y^{p-1}y' + z^{p-1}z' = 0 \quad \dots \dots \textcircled{4}$$

③, ④ から

$$y' = \frac{x^{p-1} - z^{p-1}}{z^{p-1} - y^{p-1}}, \quad z' = \frac{y^{p-1} - x^{p-1}}{z^{p-1} - y^{p-1}}$$

$0 < x \leq y < z$ より $y' < 0$

したがって、 $y(x)$ は減少関数である。

$y(x_1) \leq x_1$ と仮定すると、 $x_1 < x \leq y$ より $y(x_1) > y(x) = y$ となり

$x_1 \geq y(x_1) > y(x) = y$ すなわち、 $x_1 > y$

これは、 $x_1 \leq x \leq y$ に矛盾する。

よって、 $y(x_1) > x_1$ が成り立つ。

$F(x) = y(x) - x$ とおくと、 $F'(x) = y'(x) - 1 < 0$ より、 $F(x)$ は減少関数で

$$F(x_1) = y(x_1) - x_1 > 0, \quad \lim_{x \rightarrow R-0} F(x) < 0$$

$\therefore 0 < x \leq y < z, x^p + y^p + z^p = 3R^p$ より

$$2y^p \geq y^p + z^p = 3R^p - x^p \quad y \leq \left(\frac{3R^p - x^p}{2} \right)^{\frac{1}{p}}$$

$\lim_{x \rightarrow R-0} y \leq R$ となるので、 $\lim_{x \rightarrow R-0} F(x) \leq 0$

$\lim_{x \rightarrow R-0} F(x) = 0$ と仮定すると, $\lim_{x \rightarrow R-0} y(x) = R$
 $\lim_{x \rightarrow R-0} z(x) = \lim_{x \rightarrow R-0} (3R^p - x^p - y^p)^{\frac{1}{p}} = R$
 $x + y + z = 3S$ において $x \rightarrow R-0$ とすると, $3R = 3S$ すなわち $S = R$
 となり, $S > R$ に矛盾する.

よって, $\lim_{x \rightarrow R-0} F(x) < 0$
 このことから, $F(x_2) = 0$ となる $x_2 (x_1 < x_2)$ が存在し, 次のことが成り立つ.

$$\begin{aligned} x_1 &< x_2, \quad y(x_2) = x_2 \\ x_1 &< x < x_2 \text{ のとき } y(x) > x \\ x_2 &< x \text{ のとき } y(x) < x \end{aligned}$$

$y \geq x$ であることを考慮すると, 条件式を満たす x は $x_1 < x \leq x_2$ となる.
 一方, $z' > 0 \quad (x_1 < x < x_2)$ が成り立つから, $z(x)$ は $x_1 \leq x \leq x_2$ において増加関数で

$x_1 < x < x_2$ のとき

$$z(x) > z(x_1) = y(x_1) > y(x) \quad \text{すなわち} \quad z > y$$

よって, $x < y < z$

また, $z(x_2) > z(x_1) = y(x_1) > y(x_2) = x_2$ より
 $x = x_2$ のときは

$$x_2 = y(x_2) < z(x_2)$$

よって, $x = y < z$

(C) $p > 1$ の場合

$$S = \frac{a+b+c}{3}, R = \left(\frac{a^p + b^p + c^p}{3} \right)^{\frac{1}{p}} \text{ とおくと}$$

$$a+b+c = 3S, a^p + b^p + c^p = 3R^p, \quad x+y+z = 3S, x^p + y^p + z^p = 3R^p$$

$f_1(x) = x^p$ ($x > 0$) とおくと, $f_1''(x) = p(p-1)x^{p-2} > 0$ より, $f_1(x)$ は凸関数だから

$$\frac{a^p + b^p + c^p}{3} > \left(\frac{a+b+c}{3} \right)^p \quad \text{すなわち} \quad \left(\frac{a^p + b^p + c^p}{3} \right)^{\frac{1}{p}} > \frac{a+b+c}{3}$$

したがって, $R > S$

そして, $0 \leqq x \leqq y \leqq z$ から $0 \leqq x < S$

$\therefore 0 \leqq x \leqq y \leqq z$ から $3x \leqq x+y+z = 3S$

よって. $x \leqq S$

$x = S$ と仮定すると $S = x \leqq y \leqq z, y+z = 2S$ から $x = y = z = S$

$x^p + y^p + z^p = 3R^p$ を用いると $3S^p = 3R^p$ となり $S = R$ を得る. これは $R > S$ に矛盾する. よって, $x < S$

さて

$$h = \frac{2}{y+z} \left(\frac{y^p + z^p}{2} \right)^{\frac{1}{p}} - 1$$

とおくと, $f_1(x) = x^p$ ($x > 0$) は凸関数だから

$$\frac{y^p + z^p}{2} \geq \left(\frac{y+z}{2} \right)^p \quad \text{すなわち} \quad \left(\frac{y^p + z^p}{2} \right)^{\frac{1}{p}} \geq \frac{y+z}{2}$$

(等号は $y = z$ のときに限り成り立つ.)

この不等式を使うと

$$h \geq \frac{2}{y+z} \cdot \frac{y+z}{2} - 1 = 0$$

等号は $y = z$ のときに限り成り立つ.

h を x で表すことを考える.

$$y+z = 3S-x, \frac{y^p + z^p}{2} = \frac{3R^p - x^p}{2} \text{ より}$$

$$h = \frac{2}{3S-x} \left(\frac{3R^p - x^p}{2} \right)^{\frac{1}{p}} - 1$$

x の関数として $h(x) = \frac{2}{3S-x} \left(\frac{3R^p - x^p}{2} \right)^{\frac{1}{p}} - 1$ ($0 \leqq x < S < R$) とおくと,

$$h'(x) = \frac{3}{(3S-x)^2} \left(\frac{3R^p - x^p}{2} \right)^{\frac{1-p}{p}} (R^p - Sx^{p-1}) > 0$$

したがって、 $h(x)$ は増加関数である。

$$\lim_{x \rightarrow S-0} h(x) = \frac{2}{3S-S} \left(\frac{3R^p - S^p}{2} \right)^{\frac{1}{p}} - 1 > \frac{1}{S} \left(\frac{3S^p - S^p}{2} \right)^{\frac{1}{p}} - 1 = 0$$

より $\lim_{x \rightarrow S-0} h(x) > 0$ であるが

$$h(0) = \left(\frac{3}{2} \right)^{\frac{1-p}{p}} \frac{R}{S} - 1$$

の符号は不明である。したがって、 x_1 は次のように選ぶ。

$h(0) \geq 0$ のときは $x_1 = 0$ とする。

$h(0) < 0$ のときは、 $h(x) = 0$ となる正の実数解が存在するからこれを x_1 とする。

すなわち、 $h(x_1) = 0, x_1 > 0$

常に $h(x) \geq 0$ であったから、条件式を満たす x は $x \geq x_1$ であることがわかる。

(i) $x = x_1 (\geq 0)$ の場合

$h(0) \geq 0$ のとき $x_1 = 0$ より

$$0 = x_1 < y(x_1) \leq z(x_1)$$

∴ まず、次の不等式を証明しておく。

$b, c > 0$ のとき $(b+c)^p > b^p + c^p$

$a, b, c > 0$ のとき $(a+b+c)^p > a^p + b^p + c^p$

$b, c > 0$ として、 $f_2(x) = (x+c)^p - x^p - c^p (x \geq 0)$ とおくと

$f'_2(x) = p \{(x+c)^{p-1} - x^{p-1}\} > 0$ より $f_2(x)$ は $x \geq 0$ で増加関数である。

よって、 $x > 0$ のとき $f_2(x) > f_2(0) = 0$ から $f_2(b) > 0$ がいえる。

次に、 $a, b, c > 0$ として、 $f_3(x) = (x+b+c)^p - x^p - b^p - c^p (x \geq 0)$ とおくと

$f'_3(x) = p \{(x+b+c)^{p-1} - x^{p-1}\} > 0$ より $f_3(x)$ は $x \geq 0$ で増加関数である。

よって、 $x > 0$ のとき $f_3(x) > f_3(0) = (b+c)^p - b^p - c^p = f_2(b) > 0$ から $f_3(a) > 0$ がいえる。

$0 = x_1 = y(x_1)$ と仮定すると, $z(x_1) = a + b + c, z(x_1)^p = a^p + b^p + c^p$ から $(a + b + c)^p = a^p + b^p + c^p$ となる.

$a, b, c \geq 0$ で 0 となるのは高々 1 個であるから, 上で示した不等式から, この等式は成り立たない.

よって, $0 = x_1 < y(x_1) \leq z(x_1)$

$h(0) < 0$ のときは $h(x_1) = 0, x_1 > 0$ であったから $y(x_1) = z(x_1)$

したがって, $0 < x_1 < y(x_1) = z(x_1)$ となる.

$\because x_1 = y(x_1) = z(x_1)$ だと, $x_1 = y(x_1) = z(x_1) = S, x_1^p = y(x_1)^p = z(x_1)^p = R^p$ から $R = S$ となり

$R > S$ に矛盾する.

よって, $0 < x_1 < y(x_1) = z(x_1)$

(ii) $x > x_1$ の場合

$h(x) > 0$ から $y < z$ が得られる,

y と z は x の関数と考えられる.

$x + y + z = 3S$ の両辺を x で微分すると

$$1 + y' + z' = 0 \quad \dots \dots \dots \textcircled{5}$$

$x^p + y^p + z^p = 3R^p$ の両辺を x で微分すると

$$x^{p-1} + y^{p-1}y' + z^{p-1}z' = 0 \quad \dots \dots \dots \textcircled{6}$$

⑤, ⑥ から

$$y' = \frac{x^{p-1} - z^{p-1}}{z^{p-1} - y^{p-1}}, \quad z' = \frac{y^{p-1} - x^{p-1}}{z^{p-1} - y^{p-1}}$$

$0 < x \leq y < z$ より $y' < 0$

したがって, $y(x)$ は減少関数である.

$y(x_1) \leq x_1$ と仮定すると, $x_1 < x \leq y$ より $y(x_1) > y(x) = y$ となり

$x_1 \geq y(x_1) > y(x) = y$ すなわち, $x_1 > y$

これは, $x_1 < x \leq y$ に矛盾する.

よって, $y(x_1) > x_1$ が成り立つ.

$F(x) = y(x) - x$ とおくと, $F'(x) = y'(x) - 1 < 0$ より, $F(x)$ は減少関数で

$$F(x_1) = y(x_1) - x_1 > 0, \quad \lim_{x \rightarrow S-0} F(x) < 0$$

④ $0 < x \leq y < z, x + y + z = 3S$ から

$$2y < y + z = 3S - x \quad \text{すなはち} \quad y < \frac{3S - x}{2}$$

$\lim_{x \rightarrow S} y \leq S$ となるので, $\lim_{x \rightarrow S-0} F(x) \leq 0$

$\lim_{x \rightarrow S-0} F(x) = 0$ と仮定すると, $\lim_{x \rightarrow S-0} y(x) = S$

$\lim_{x \rightarrow S-0} z(x) = \lim_{x \rightarrow S-0} (3S - x - y) = S$

$x^p + y^p + z^p = 3R^p$ において $x \rightarrow S-0$ とすると, $3S^p = 3R^p$ すなはち

$S = R$ となり, $S < R$ に矛盾する.

よって, $\lim_{x \rightarrow S-0} F(x) < 0$

このことから, $F(x_2) = 0$ となる $x_2 (x_1 < x_2)$ が存在し, 次のことが成り立つ.

$$x_1 < x_2, \quad y(x_2) = x_2$$

$$x_1 < x < x_2 \text{ のとき } y(x) > x$$

$$x_2 < x \text{ のとき } y(x) < x$$

$y \geq x$ であることを考慮すると, 条件式を満たす x は $x_1 < x \leq x_2$ でなければならない.

一方, $z' > 0$ ($x_1 < x < x_2$) が成り立つから, $z(x)$ は $x_1 \leq x \leq x_2$ において増加関数で

$$x_1 < x < x_2 \text{ のとき}$$

$$z(x) > z(x_1) = y(x_1) > y(x) \quad \text{すなはち} \quad z > y$$

よって, $x < y < z$

また, $z(x_2) > z(x_1) = y(x_1) > y(x_2) = x_2$ より

$x = x_2$ のときは

$$x_2 = y(x_2) < z(x_2)$$

よって, $x = y < z$

■

2.2 補助定理 2.2 の証明

[補助定理 2.2] a, b, c は非負の実数で、すべてが等しいということではなく、高々 1 個だけが 0 となるものとする。

そして、 $x, y, z (x \leqq y \leqq z)$ は非負の実数で

$p \in (-\infty, 0) \cup (1, \infty)$ のとき

$$x + y + z = a + b + c, \quad x^p + y^p + z^p = a^p + b^p + c^p$$

$p = 0$ のとき

$$x + y + z = a + b + c, \quad xyz = abc > 0$$

を満たすものとする。

$f(u)$ は $(0, \infty)$ で微分可能な関数で、 $g(x) = f'(x^{\frac{1}{p-1}})$ は $(0, \infty)$ で狭義の凸関数であるとし

$$F_3(x, y, z) = f(x) + f(y) + f(z)$$

とおく。

このとき、次のことが成り立つ。

- (1) $p \leqq 0$ ならば、 F_3 は $0 < x = y < z$ に対してのみ最大となり、 $0 < x < y = z$ に対してのみ最小となる。
- (2) $p > 1$ で $f(u)$ が $u = 0$ で連続かつ $\lim_{u \rightarrow 0} f(u) = -\infty$ を満たすならば
 F_3 は $0 < x = y < z$ に対してのみ最大となり、 $x = 0$ か $0 < x < y = z$ に対してのみ最小となる。

補助定理 2.1 から、2 つの非負の実数 x_1, x_2 が存在して、与えられた関係式を満たすとき、 $x \in [x_1, x_2]$ であるが、 $p > 1, x_1 = 0$ のときは、 $f(u)$ が $u = 0$ で定義されない可能性があるので、 $f(u)$ が $u = 0$ で連続であるか $\lim_{u \rightarrow 0} f(u) = -\infty$ の条件が追加されていることに注意したい。

(2) が論文 [1] では次のようにになっている

2. If $p > 0$ and either $f(u)$ is continuous at $u = 0$ or $\lim_{u \rightarrow 0} f(u) = -\infty$, then F_3 is maximal only for $0 < x = y < z$, and is minimal only for either $x = 0$ or $0 < x < y = z$.

[証明] $F(x) = f(x) + f(y(x)) + f(z(x))$ が開区間 (x_1, x_2) で $F'(x) > 0$ を満たすことを示す.

$p \neq 0$ のとき, $x + y + z = a + b + c, x^p + y^p + z^p = a^p + b^p + c^p$ の両辺を x で微分すると

$$1 + y' + z' = 0, \quad x^{p-1} + y^{p-1}y' + z^{p-1}z' = 0$$

これから

$$y' = \frac{x^{p-1} - z^{p-1}}{z^{p-1} - y^{p-1}}, \quad z' = \frac{y^{p-1} - x^{p-1}}{z^{p-1} - y^{p-1}}$$

$p = 0$ のとき, $x + y + z = a + b + c, \log x + \log y + \log z = \log(abc)$ の両辺を x で微分すると

$$1 + y' + z' = 0, \quad \frac{1}{x} + \frac{y'}{y} + \frac{z'}{z} = 0$$

これから

$$y' = \frac{y(z-x)}{x(y-z)} = \frac{x^{-1} - z^{-1}}{z^{-1} - y^{-1}}, \quad z' = \frac{z(y-x)}{x(z-y)} = \frac{y^{-1} - x^{-1}}{z^{-1} - y^{-1}}$$

となり, $p = 0$ の場合も含めて

$$y' = \frac{x^{p-1} - z^{p-1}}{z^{p-1} - y^{p-1}}, \quad z' = \frac{y^{p-1} - x^{p-1}}{z^{p-1} - y^{p-1}}$$

が成り立つ.

$$\begin{aligned} g(x) &= f'\left(x^{\frac{1}{p-1}}\right) \text{ より} \\ g(x^{p-1}) &= f'(x) \end{aligned}$$

だから

$$\begin{aligned} F'(x) &= f'(x) + y'f'(y) + z'f'(z) \\ &= f'(x) + \frac{x^{p-1} - z^{p-1}}{z^{p-1} - y^{p-1}}f'(y) + \frac{y^{p-1} - x^{p-1}}{z^{p-1} - y^{p-1}}f'(z) \end{aligned}$$

となる.

$$\begin{aligned}
& \frac{F'(x)}{(x^{p-1} - y^{p-1})(x^{p-1} - z^{p-1})} \\
&= \frac{f'(x)}{(x^{p-1} - y^{p-1})(x^{p-1} - z^{p-1})} + \frac{f'(y)}{(y^{p-1} - z^{p-1})(y^{p-1} - x^{p-1})} \\
&\quad + \frac{f'(z)}{(z^{p-1} - x^{p-1})(z^{p-1} - y^{p-1})} \\
&= \frac{g(x^{p-1})}{(x^{p-1} - y^{p-1})(x^{p-1} - z^{p-1})} + \frac{g(y^{p-1})}{(y^{p-1} - z^{p-1})(y^{p-1} - x^{p-1})} \\
&\quad + \frac{g(z^{p-1})}{(z^{p-1} - x^{p-1})(z^{p-1} - y^{p-1})} \\
&\quad (X = x^{p-1}, Y = y^{p-1}, Z = z^{p-1} \text{ とおくと}) \\
&= \frac{g(X)}{(X - Y)(X - Z)} + \frac{g(Y)}{(Y - X)(Y - Z)} + \frac{g(Z)}{(Z - X)(Z - Y)}
\end{aligned}$$

$x < y < z$ より $X < Y < Z$ または $X > Y > Z$ が成り立つ。

$X < Y < Z$ のときを考える。($X > Y > Z$ のときも同様に示せる。)

$g(x)$ は狭義の凸関数であるから

$$Y = \frac{(Z - Y)X + (Y - X)Z}{(Y - X) + (Z - Y)} = \frac{Z - Y}{Z - X}X + \frac{Y - X}{Z - X}Z \text{ より}$$

$$g(Y) < \frac{Z - Y}{Z - X}g(X) + \frac{Y - X}{Z - X}g(Z)$$

$$\frac{Z - Y}{Z - X}g(X) - g(Y) + \frac{Y - X}{Z - X}g(Z) > 0$$

両辺を $(Z - Y)(Y - X) (> 0)$ で割ると

$$\frac{g(X)}{(X - Y)(X - Z)} + \frac{g(Y)}{(Y - X)(Y - Z)} + \frac{g(Z)}{(Z - X)(Z - Y)} > 0$$

すなわち

$$\frac{F'(x)}{(X - Y)(X - Z)} > 0$$

$(X - Y)(X - Z) > 0$ だから, $F'(x) > 0$

$p > 1, x_1 = 0$ かつ $\lim_{u \rightarrow 0} f(u) = -\infty$ 以外ならば, $f(u)$ は $u = 0$ で連続であるから,
 $F(x) = f(x) + f(y(x)) + f(z(x))$ を $[x_1, x_2]$ で考えることができる。

すると, $F(x)$ が $x = x_1$ で最小, $x = x_2$ で最大であるから補助定理 2.1 より次のことがいえる。

- (1) $p \leq 0$ ならば, F_3 は $0 < x = y < z$ に対してのみ最大となり, $0 < x < y = z$ に対してのみ最小となる.
- (2) $p > 1$ で $x_1 > 0$ ならば,

F_3 は $0 < x = y < z$ に対してのみ最大となり, $0 < x < y = z$ に対してのみ最小となる.

$p > 1, x_1 = 0$ で, $\lim_{u \rightarrow 0} f(u) = -\infty$ の場合

$F(x)$ が $x = x_2$ で最大であるから補助定理 2.1 より次のことがいえる.

F_3 は $0 < x = y < z$ に対してのみ最大となる.

最小値に関しては, 補助定理 2.1 からわかるこのみである. 条件をみたす x, y, z に関して, $0 = x < y \leq z$ が成り立つ. 最小値が存在すれば, $0 = x < y \leq z$ に対してのみである.

以上をまとめると, 次のようになる.

$p > 1$ で $f(u)$ が $u = 0$ で連続かつ $\lim_{u \rightarrow 0} f(u) = -\infty$ を満たすならば,

F_3 は $0 < x = y < z$ に対してのみ最大となり, $0 < x < y = z$ か $x = 0$ に対してのみ最小となる. ■

2.3 定理 2.3 の証明

定理 2.3 Equal Variable theorem (EV-Theorem)

$a_1, a_2, \dots, a_n (n \geq 3)$ は非負の実数とする。

そして, $x_1 \leqq x_2 \leqq \dots \leqq x_n$ は非負の実数で

$p \in (-\infty, \infty), p \neq 0, p \neq 1$ のとき

$$x_1 + x_2 + \dots + x_n = a_1 + a_2 + \dots + a_n, \quad x_1^p + x_2^p + \dots + x_n^p = a_1^p + a_2^p + \dots + a_n^p$$

$p = 0$ のとき

$$x_1 + x_2 + \dots + x_n = a_1 + a_2 + \dots + a_n, \quad x_1 x_2 \cdots x_n = a_1 a_2 \cdots a_n > 0$$

を満たすものとする。

$f(u)$ は $(0, \infty)$ で微分可能な関数で, $g(x) = f'(x^{\frac{1}{p-1}})$ は $(0, \infty)$ で狭義の凸関数であるとし

$$F_n(x_1, x_2, \dots, x_n) = f(x_1) + f(x_2) + \dots + f(x_n)$$

とおく.

このとき, 次のことが成り立つ.

- (1) $p \leqq 0$ ならば, F_n は $0 < x_1 = x_2 = \dots = x_{n-1} \leqq x_n$ のとき最大となり,
 $0 < x_1 \leqq x_2 = x_3 = \dots = x_n$ のとき最小となる.
- (2) $p > 0$ で $f(u)$ が $u = 0$ で連続かつ $\lim_{u \rightarrow 0} f(u) = -\infty$ を満たすならば
 F_n は $0 \leqq x_1 = x_2 = \dots = x_{n-1} \leqq x_n$ のとき最大となり,

$x_1 = 0$ か $0 < x_1 \leqq x_2 = x_3 = \dots = x_n$ のとき最小となる.

[証明] $p \in (-\infty, 0) \cup (1, \infty)$ の場合

$p > 1, x_1 = 0, \lim_{u \rightarrow 0} f(u) = -\infty$ の場合を除けば, $F_n(x_1, x_2, \dots, x_n)$ は最大値と最小値をもつ.

- (i) $p < 0$ の場合

条件

$$x_1^p + x_2^p + \dots + x_n^p = a_1^p + a_2^p + \dots + a_n^p$$

を考えるので、 $x_1, x_2, \dots, x_n > 0$, $a_1, a_2, \dots, a_n > 0$ である。

F_n が $0 < x_1 = x_2 = \dots = x_{n-1} \leq x_n$ で最大となることを示すために、 F_n が $0 < b_1 \leq b_2 \leq \dots \leq b_{n-1} \leq b_n$, $b_1 < b_{n-1}$ を満たす $(b_1, b_2, \dots, b_{n-1}, b_n)$ で最大値をとると仮定して矛盾を導く。

y_1, y_{n-1}, y_n は正の実数で

$$y_1 + y_{n-1} + y_n = b_1 + b_{n-1} + b_n, \quad y_1^p + y_{n-1}^p + y_n^p = b_1^p + b_{n-1}^p + b_n^p$$

を満たすようにとる。 $0 < b_1 < b_{n-1} \leq b_n$ より、 b_1, b_{n-1}, b_n はすべて等しくなることはなく、0 となるのはない。

補助定理 2.2 より、 $G_3(y_1, y_{n-1}, y_n) = f(y_1) + f(y_{n-1}) + f(y_n)$ は

$0 < y_1 = y_{n-1} \leq y_n$ に対してのみ最大となるから

$$G_3(y_1, y_{n-1}, y_n) = f(y_1) + f(y_{n-1}) + f(y_n) \leq 2f(y_1) + f(y_n) = M$$

等号は、 $0 < y_1 = y_{n-1} \leq y_n$ に対してのみ成り立つ。

(y_1, y_{n-1}, y_n) は (b_1, b_{n-1}, b_n) もとれるので

$$f(b_1) + f(b_{n-1}) + f(b_n) < M$$

したがって

$$\begin{aligned} F_n(x_1, x_2, \dots, x_n) &= f(x_1) + f(x_2) + \dots + f(x_n) \\ &\leq f(b_1) + f(b_2) + \dots + f(b_n) \\ &< M + f(b_2) + f(b_3) + \dots + f(b_{n-2}) \end{aligned}$$

これは、 F_n が $(b_1, b_2, \dots, b_{n-1}, b_n)$ で最大値をとることに矛盾する。

よって、 F_n が $0 < x_1 = x_2 = \dots = x_{n-1} \leq x_n$ で最大となる。

F_n が $0 < x_1 \leq x_2 = x_3 = \dots = x_n$ で最小となることを示すために、 F_n が $0 < b_1 \leq b_2 \leq \dots \leq b_{n-1} \leq b_n$, $b_2 < b_n$ を満たす $(b_1, b_2, \dots, b_{n-1}, b_n)$ で最小値をとると仮定して矛盾を導く。

y_1, y_2, y_n は正の実数で

$$y_1 + y_2 + y_n = b_1 + b_2 + b_n, \quad y_1^p + y_2^p + y_n^p = b_1^p + b_2^p + b_n^p$$

を満たすようにとる。 $0 < b_1 \leq b_2 < b_n$ より、 b_1, b_{n-1}, b_n はすべて等しくなることはなく、0 となるのはない。

補助定理 2.2 より, $G_3(y_1, y_2, y_n) = f(y_1) + f(y_2) + f(y_n)$ は $0 < y_1 \leq y_2 = y_n$ に対してのみ最小となるから

$$G_3(y_1, y_2, y_n) = f(y_1) + f(y_2) + f(y_n) \geq f(y_1) + 2f(y_2) = m$$

等号は, $0 < y_1 \leq y_2 = y_n$ に対してのみ成り立つ.

(y_1, y_2, y_n) は (b_1, b_2, b_n) もとれるので

$$f(b_1) + f(b_2) + f(b_n) > m$$

したがって

$$\begin{aligned} F_n(x_1, x_2, \dots, x_n) &= f(x_1) + f(x_2) + \dots + f(x_n) \\ &\geq f(b_1) + f(b_2) + \dots + f(b_n) \\ &> m + f(b_3) + f(b_4) + \dots + f(b_{n-1}) \end{aligned}$$

これは, F_n が $(b_1, b_2, \dots, b_{n-1}, b_n)$ で最小値をとることに矛盾する.

よって, F_n が $0 < x_1 \leq x_2 = x_3 = \dots = x_n$ で最小となる.

(ii) $p = 0$ の場合

F_n が $0 < x_1 = x_2 = \dots = x_{n-1} \leq x_n$ で最大となることを示すために, F_n が $0 < b_1 \leq b_2 \leq \dots \leq b_{n-1} \leq b_n$, $b_1 < b_{n-1}$ を満たす $(b_1, b_2, \dots, b_{n-1}, b_n)$ で最大値をとると仮定して矛盾を導く.

y_1, y_{n-1}, y_n は正の実数で

$$y_1 + y_{n-1} + y_n = b_1 + b_{n-1} + b_n, \quad y_1 y_{n-1} y_n = b_1 b_{n-1} b_n$$

を満たすようにとる. $0 < b_1 < b_{n-1} \leq b_n$ より, b_1, b_{n-1}, b_n はすべて等しくなることはなく, 0 となるのはない.

補助定理 2.2 より, $G_3(y_1, y_{n-1}, y_n) = f(y_1) + f(y_{n-1}) + f(y_n)$ は $0 < y_1 = y_{n-1} \leq y_n$ に対してのみ最大となるから

$$G_3(y_1, y_{n-1}, y_n) = f(y_1) + f(y_{n-1}) + f(y_n) \leq 2f(y_1) + f(y_n) = M$$

等号は, $0 < y_1 = y_{n-1} \leq y_n$ に対してのみ成り立つ.

(y_1, y_{n-1}, y_n) は (b_1, b_{n-1}, b_n) もとれるので

$$f(b_1) + f(b_{n-1}) + f(b_n) < M$$

したがって

$$\begin{aligned} F_n(x_1, x_2, \dots, x_n) &= f(x_1) + f(x_2) + \dots + f(x_n) \\ &\leq f(b_1) + f(b_2) + \dots + f(b_n) \\ &< M + f(b_2) + f(b_3) + \dots + f(b_{n-2}) \end{aligned}$$

これは、 F_n が $(b_1, b_2, \dots, b_{n-1}, b_n)$ で最大値をとることに矛盾する。

よって、 F_n が $0 < x_1 = x_2 = \dots = x_{n-1} \leq x_n$ で最大となる。

F_n が $0 < x_1 \leq x_2 = x_3 = \dots = x_n$ で最小となることを示すために、 F_n が $0 < b_1 \leq b_2 \leq \dots \leq b_{n-1} \leq b_n, b_2 < b_n$ を満たす $(b_1, b_2, \dots, b_{n-1}, b_n)$ で最小値をとると仮定して矛盾を導く。

y_1, y_2, y_n は正の実数で

$$y_1 + y_2 + y_n = b_1 + b_2 + b_n, \quad y_1 y_2 y_n = b_1 b_2 b_n$$

を満たすようにとる。 $0 < b_1 \leq b_2 < b_n$ より、 b_1, b_{n-1}, b_n はすべて等しくなることはなく、0 となるのはない。

補助定理 2.2 より、 $G_3(y_1, y_2, y_n) = f(y_1) + f(y_2) + f(y_n)$ は $0 < y_1 \leq y_2 = y_n$ に対してのみ最小となるから

$$G_3(y_1, y_2, y_n) = f(y_1) + f(y_2) + f(y_n) \geq f(y_1) + 2f(y_2) = m$$

等号は、 $0 < y_1 \leq y_2 = y_n$ に対してのみ成り立つ。

(y_1, y_2, y_n) は (b_1, b_2, b_n) もとれるので

$$f(b_1) + f(b_2) + f(b_n) > m$$

したがって

$$\begin{aligned} F_n(x_1, x_2, \dots, x_n) &= f(x_1) + f(x_2) + \dots + f(x_n) \\ &\geq f(b_1) + f(b_2) + \dots + f(b_n) \\ &> m + f(b_3) + f(b_4) + \dots + f(b_{n-1}) \end{aligned}$$

これは、 F_n が $(b_1, b_2, \dots, b_{n-1}, b_n)$ で最小値をとることに矛盾する。

よって、 F_n が $0 < x_1 \leq x_2 = x_3 = \dots = x_n$ で最小となる。

(iii) $p > 1$ の場合

F_n が $0 \leq x_1 = x_2 = \dots = x_{n-1} \leq x_n$ で最大となることを示すために、 F_n が $0 \leq b_1 \leq b_2 \leq \dots \leq b_{n-1} \leq b_n, b_1 < b_{n-1}$ を満たす $(b_1, b_2, \dots, b_{n-1}, b_n)$ で最大値をとると仮定して矛盾を導く。

y_1, y_{n-1}, y_n は非負の実数で

$$y_1 + y_{n-1} + y_n = b_1 + b_{n-1} + b_n, \quad y_1^p + y_{n-1}^p + y_n^p = b_1^p + b_{n-1}^p + b_n^p$$

を満たすようにとる. $0 \leqq b_1 < b_{n-1} \leqq b_n$ より, b_1, b_{n-1}, b_n はすべて等しくなることはなく, 0 となるのは高々 1 個である.

補助定理 2.2 より, $G_3(y_1, y_{n-1}, y_n) = f(y_1) + f(y_{n-1}) + f(y_n)$ は $0 < y_1 = y_{n-1} \leqq y_n$ に対してのみ最大となるから

$$G_3(y_1, y_{n-1}, y_n) = f(y_1) + f(y_{n-1}) + f(y_n) \leqq 2f(y_1) + f(y_n)M$$

等号は, $0 < y_1 = y_{n-1} \leqq y_n$ に対してのみ成り立つ.

(y_1, y_{n-1}, y_n) は (b_1, b_{n-1}, b_n) もとれるので

$$f(b_1) + f(b_{n-1}) + f(b_n) < M$$

したがって

$$\begin{aligned} F_n(x_1, x_2, \dots, x_n) &= f(x_1) + f(x_2) + \dots + f(x_n) \\ &\leqq f(b_1) + f(b_2) + \dots + f(b_n) \\ &< M + f(b_2) + f(b_3) + \dots + f(b_{n-2}) \end{aligned}$$

これは, F_n が $(b_1, b_2, \dots, b_{n-1}, b_n)$ で最大値をとることに矛盾する.

よって, F_n が $0 \leqq x_1 = x_2 = \dots = x_{n-1} \leqq x_n$ で最大となる.

F_n が $0 \leqq x_1 \leqq x_2 = x_3 \dots = x_n$ で最小となることを示すために, F_n が $0 \leqq b_1 \leqq b_2 \leqq \dots \leqq b_{n-1} \leqq b_n, b_2 < b_n$ を満たす $(b_1, b_2, \dots, b_{n-1}, b_n)$ で最小値をとると仮定して矛盾を導く.

y_1, y_2, y_n は非負の実数で

$$y_1 + y_2 + y_n = b_1 + b_2 + b_n, \quad y_1^p + y_2^p + y_n^p = b_1^p + b_2^p + b_n^p$$

を満たすようにとる. $0 \leqq b_1 \leqq b_2 < b_n$ より, b_1, b_{n-1}, b_n はすべて等しくなることはなく, 0 となるのは高々 1 個である.

補助定理 2.2 より, $G_3(y_1, y_2, y_n) = f(y_1) + f(y_2) + f(y_n)$ は $0 < y_1 \leqq y_2 = y_n$ に対してのみ最小となるから

$$G_3(y_1, y_2, y_n) = f(y_1) + f(y_2) + f(y_n) \geqq f(y_1) + 2f(y_2) = m$$

等号は, $0 < y_1 \leqq y_2 = y_n$ に対してのみ成り立つ.

(y_1, y_2, y_n) は (b_1, b_2, b_n) もとれるので

$$f(b_1) + f(b_2) + f(b_n) > m$$

したがって

$$\begin{aligned} F_n(x_1, x_2, \dots, x_n) &= f(x_1) + f(x_2) + \dots + f(x_n) \\ &\geq f(b_1) + f(b_2) + \dots + f(b_n) \\ &> m + f(b_3) + f(b_4) + \dots + f(b_{n-1}) \end{aligned}$$

これは、 F_n が $(b_1, b_2, \dots, b_{n-1}, b_n)$ で最小値をとることに矛盾する。

よって、 F_n が $0 \leq x_1 \leq x_2 = x_3 = \dots = x_n$ で最小となる。

(iv) $p \in (0, 1)$ の場合

この場合は、 $p > 1$ の場合に帰着させることができる。

$$x_1 + x_2 + \dots + x_n = a_1 + a_2 + \dots + a_n, \quad x_1^p + x_2^p + \dots + x_n^p = a_1^p + a_2^p + \dots + a_n^p$$

において $q = \frac{1}{p} (> 1)$, $y_i = x_i^{\frac{1}{q}} = x_i^p$, $b_i = a_i^{\frac{1}{q}} = a_i^p (i = 1, 2, \dots, n)$
とおくと

$$y_1 + y_2 + \dots + y_n = b_1 + b_2 + \dots + b_n, \quad y_1^q + y_2^q + \dots + y_n^q = b_1^q + b_2^q + \dots + b_n^q$$

となる。

また

$$\begin{aligned} F_n(x_1, x_2, \dots, x_n) &= f(x_1) + f(x_2) + \dots + f(x_n) \\ &= f(y_1^q) + f(y_2^q) + \dots + f(y_n^q) \\ &= f_1(y_1) + f_1(y_2) + \dots + f_1(y_n) \end{aligned}$$

となる。ただし、 $f_1(x) = f(x^q)$ とおいた。

次に $f_1'(x^{\frac{1}{q-1}})$ を考える。

$f_1'(x) = qf'(x^q)x^{q-1}$ であるから

$$f_1'\left(x^{\frac{1}{q-1}}\right) = qf'\left(x^{\frac{q}{q-1}}\right)x = \frac{1}{p}xf'\left(x^{\frac{1}{1-p}}\right)$$

したがって、 $h(x) = xf'\left(x^{\frac{1}{1-p}}\right)$ が $(0, \infty)$ で狭義の凸関数であることを示せばよい。

$h(x) = xf'\left(x^{\frac{1}{1-p}}\right)$, $g(x) = f'\left(x^{\frac{1}{p-1}}\right)$ から

$$g\left(\frac{1}{x}\right) = f'\left(x^{\frac{1}{1-p}}\right) = \frac{h(x)}{x}$$

$g(x)$ が $(0, \infty)$ で狭義の凸関数なので

$$ug\left(\frac{1}{x}\right) + vg\left(\frac{1}{y}\right) > (u+v)g\left(\frac{\frac{u}{x} + \frac{v}{y}}{u+v}\right)$$

$$\frac{u}{x}h(x) + \frac{v}{y}h(y) > (u+v)\frac{\frac{u}{x} + \frac{v}{y}}{u+v}h\left(\frac{\frac{u}{x} + \frac{v}{y}}{\frac{u}{x} + \frac{v}{y}}\right)$$

$u = tx, v = (1-t)y, t \in (0, 1)$ を代入すると

$$th(x) + (1-t)h(y) > h(tx + (1-t)y)$$

これは、 $h(x)$ が $(0, \infty)$ で狭義の凸関数であることを示している。 ■

定理 2.3 で $p = 2$ とおくことにより次の系 2.4 を得る.

系 2.4 $a_1, a_2, \dots, a_n (n \geq 3)$ は非負の実数とする。

そして, $x_1 \leqq x_2 \leqq \dots \leqq x_n$ は非負の実数で

$$x_1 + x_2 + \dots + x_n = a_1 + a_2 + \dots + a_n, \quad x_1^2 + x_2^2 + \dots + x_n^2 = a_1^2 + a_2^2 + \dots + a_n^2$$

を満たすものとする。

$f(u)$ は $(0, \infty)$ で微分可能な関数で, $g(x) = f'(x)$ は $(0, \infty)$ で狭義の凸関数であるとし

$$F_n(x_1, x_2, \dots, x_n) = f(x_1) + f(x_2) + \dots + f(x_n)$$

とおく.

このとき, 次のことが成り立つ.

$f(u)$ が $u = 0$ で連続かつ $\lim_{u \rightarrow 0} f(u) = -\infty$ を満たすならば

F_n は $0 \leqq x_1 = x_2 = \dots = x_{n-1} \leqq x_n$ のとき最大で,

$x_1 = 0$ か $0 < x_1 \leqq x_2 = x_3 = \dots = x_n$ のとき最小となる.

定理 2.3 で $p = -1$ とおくことにより次の系 2.5 を得る.

系 2.5 $a_1, a_2, \dots, a_n (n \geq 3)$ は正の実数とする。

そして, $x_1 \leqq x_2 \leqq \dots \leqq x_n$ は正の実数で

$$x_1 + x_2 + \dots + x_n = a_1 + a_2 + \dots + a_n, \quad \frac{1}{x_1} + \frac{1}{x_2} + \dots + \frac{1}{x_n} = \frac{1}{a_1} + \frac{1}{a_2} + \dots + \frac{1}{a_n}$$

を満たすものとする。

$f(u)$ は $(0, \infty)$ で微分可能な関数で, $g(x) = f' \left(\frac{1}{\sqrt{x}} \right)$ は $(0, \infty)$ で狭義の凸関数であるとし

$$F_n(x_1, x_2, \dots, x_n) = f(x_1) + f(x_2) + \dots + f(x_n)$$

とおく.

このとき, 次のことが成り立つ.

F_n は $0 < x_1 = x_2 = \dots = x_{n-1} \leqq x_n$ のとき最大で, $0 < x_1 \leqq x_2 = x_3 = \dots = x_n$ のとき最小となる.

定理 2.3 で $p = 0$ とおくことにより次の系 2.6 を得る.

系 2.6 $a_1, a_2, \dots, a_n (n \geq 3)$ は正の実数とする。

そして, $x_1 \leqq x_2 \leqq \dots \leqq x_n$ は正の実数で

$$x_1 + x_2 + \dots + x_n = a_1 + a_2 + \dots + a_n, \quad x_1 x_2 \cdots x_n = a_1 a_2 \cdots a_n$$

を満たすものとする。

$f(u)$ は $(0, \infty)$ で微分可能な関数で, $g(x) = f' \left(\frac{1}{x} \right)$ は $(0, \infty)$ で狭義の凸関数であるとし

$$F_n(x_1, x_2, \dots, x_n) = f(x_1) + f(x_2) + \dots + f(x_n)$$

とおく.

このとき, 次のことが成り立つ.

F_n は $0 < x_1 = x_2 = \dots = x_{n-1} \leqq x_n$ のとき最大で, $0 < x_1 \leqq x_2 = x_3 = \dots = x_n$ のとき最小となる.

系 2.7 $a_1, a_2, \dots, a_n (n \geq 3)$ は非負の実数とする。

そして, $x_1 \leqq x_2 \leqq \dots \leqq x_n$ は非負の実数で

$$x_1 + x_2 + \dots + x_n = a_1 + a_2 + \dots + a_n, \quad x_1^p + x_2^p + \dots + x_n^p = a_1^p + a_2^p + \dots + a_n^p$$

を満たすものとする。ここで, p は実数で, $p \neq 0, p \neq 1$ とする.

このとき, 次のことが成り立つ.

(a) $p < 0$ の場合

$P = x_1 x_2 \cdots x_n$ は $0 < x_1 = x_2 = \dots = x_{n-1} \leqq x_n$ のとき最小で,

$0 < x_1 \leqq x_2 = x_3 = \dots = x_n$ のとき最大となる.

(b) $p > 0$ のとき

$P = x_1 x_2 \cdots x_n$ は $0 \leqq x_1 = x_2 = \dots = x_{n-1} \leqq x_n$ のとき最大で,

$x_1 = 0$ か $0 < x_1 \leqq x_2 = x_3 = \dots = x_n$ のとき最小となる.

系 2.8 $a_1, a_2, \dots, a_n (n \geq 3)$ は非負の実数とする。

そして, $x_1 \leqq x_2 \leqq \dots \leqq x_n$ は非負の実数で

$p \in (-\infty, 0) \cup (0, 1) \cup (1, \infty)$ のとき

$$x_1 + x_2 + \dots + x_n = a_1 + a_2 + \dots + a_n, \quad x_1^p + x_2^p + \dots + x_n^p = a_1^p + a_2^p + \dots + a_n^p$$

$p = 0$ のとき

$$x_1 + x_2 + \dots + x_n = a_1 + a_2 + \dots + a_n, \quad x_1 x_2 \cdots x_n = a_1 a_2 \cdots a_n > 0$$

を満たすものとする。 $E = x_1^q + x_2^q + \dots + x_n^q$ とおく。

このとき, 次のことが成り立つ。

(1) $p \leqq 0$ の場合

(a) $q \in (p, 0) \cup (1, \infty)$ のとき

E は $0 < x_1 = x_2 = \dots = x_{n-1} \leqq x_n$ のとき最大で,

$0 < x_1 \leqq x_2 = x_3 = \dots = x_n$ のとき最小となる。

(b) $q \in (-\infty, p) \cup (0, 1)$ のとき

E は $0 < x_1 = x_2 = \dots = x_{n-1} \leqq x_n$ のとき最小で,

$0 < x_1 \leqq x_2 = x_3 = \dots = x_n$ のとき最大となる。

(2) $0 < p < 1$ の場合

(a) $q \in (0, p) \cup (1, \infty)$ のとき

E は $0 \leqq x_1 = x_2 = \dots = x_{n-1} \leqq x_n$ のとき最大で,

$x_1 = 0$ か $0 < x_1 \leqq x_2 = x_3 = \dots = x_n$ のとき最小となる。

(b) $q \in (-\infty, 0) \cup (p, 1)$ のとき

E は $0 \leqq x_1 = x_2 = \dots = x_{n-1} \leqq x_n$ のとき最小で,

$x_1 = 0$ か $0 < x_1 \leqq x_2 = x_3 = \dots = x_n$ のとき最大となる。

(3) $p > 1$ の場合

(a) $q \in (0, 1) \cup (p, \infty)$ のとき

E は $0 \leqq x_1 = x_2 = \dots = x_{n-1} \leqq x_n$ のとき最大で,

$x_1 = 0$ か $0 < x_1 \leqq x_2 = x_3 = \dots = x_n$ のとき最小となる。

(b) $q \in (-\infty, 0) \cup (1, p)$ のとき

E は $0 \leqq x_1 = x_2 = \dots = x_{n-1} \leqq x_n$ のとき最小で,

$x_1 = 0$ か $0 < x_1 \leqq x_2 = x_3 = \dots = x_n$ のとき最大となる。

系 2.9 $a_1, a_2, \dots, a_n (n \geq 3)$ は非負の実数とする。

そして, $p \in \{2, 3\}$, $x_1 \leqq x_2 \leqq \dots \leqq x_n$ は非負の実数で

$$x_1 + x_2 + \dots + x_n = a_1 + a_2 + \dots + a_n, \quad x_1^p + x_2^p + \dots + x_n^p = a_1^p + a_2^p + \dots + a_n^p$$

を満たすものとする. $E = \sum_{1 \leq i < j < k \leq n} x_i x_j x_k$ とおく.

このとき, 次のことが成り立つ.

E は $0 \leqq x_1 = x_2 = \dots = x_{n-1} \leqq x_n$ のとき最大で,

$x_1 = 0$ または $0 < x_1 \leqq x_2 = x_3 = \dots = x_n$ のとき最小となる.

系 2.10 $a_1, a_2, \dots, a_n (n \geq 3)$ は非負の実数とする。

そして, $x_1 \leqq x_2 \leqq \dots \leqq x_n$ は非負の実数で

$$x_1^2 + x_2^2 + \dots + x_n^2 = a_1^2 + a_2^2 + \dots + a_n^2, \quad x_1^3 + x_2^3 + \dots + x_n^3 = a_1^3 + a_2^3 + \dots + a_n^3$$

を満たすものとする. $E = \sum_{1 \leq i < j < k \leq n} x_i x_j x_k$ とおく.

このとき, 次のことが成り立つ.

E は $0 \leqq x_1 = x_2 = \dots = x_{n-1} \leqq x_n$ のとき最大で,

$x_1 = 0$ または $0 < x_1 \leqq x_2 = x_3 = \dots = x_n$ のとき最小となる.

[系 2.7 の証明] $f(u) = p \log u$ に対して定理 2.3 を適用する.

$$f'(u) = \frac{p}{u}, \quad g(x) = f'\left(x^{\frac{1}{p-1}}\right) = px^{\frac{1}{1-p}}, \quad g''(x) = \frac{p^2}{(1-p)^2} x^{\frac{2p-1}{p-1}}$$

$x > 0$ のとき, $g''(x) > 0$ だから, $g(x)$ は $(0, \infty)$ で狭義の凸関数である.

$$\begin{aligned} \log P &= \log x_1 + \log x_2 + \dots + \log x_n \\ &= \frac{f(x_1) + f(x_2) + \dots + f(x_n)}{p} \\ &= \frac{F_n(x_1, x_2, \dots, x_n)}{p} \end{aligned}$$

(b) $p > 0$ のとき

$$\lim_{u \rightarrow 0} f(u) = -\infty$$

$F_n(x_1, x_2, \dots, x_n)$ は $0 \leqq x_1 = x_2 = \dots = x_{n-1} \leqq x_n$ のとき最大で,

$0 < x_1 \leqq x_2 = x_3 = \dots = x_n$ のとき最小となる.

よって, $P = x_1 x_2 \cdots x_n$ は $0 \leq x_1 = x_2 = \cdots = x_{n-1} \leq x_n$ のとき最大で,
 $0 < x_1 \leq x_2 = x_3 = \cdots = x_n$ のとき最小となる.

(a) $p < 0$ のとき

$$\begin{aligned}\log P &= \log x_1 + \log x_2 + \cdots + \log x_n \\ &= \frac{F_n(x_1, x_2, \dots, x_n)}{p}\end{aligned}$$

であったから

$F_n(x_1, x_2, \dots, x_n)$ は $0 \leq x_1 = x_2 = \cdots = x_{n-1} \leq x_n$ のとき最大で,
 $0 < x_1 \leq x_2 = x_3 = \cdots = x_n$ のとき最小となる.

よって, $P = x_1 x_2 \cdots x_n$ は $0 \leq x_1 = x_2 = \cdots = x_{n-1} \leq x_n$ のとき最小で,
 $0 < x_1 \leq x_2 = x_3 = \cdots = x_n$ のとき最大となる. ■

[系 2.8 の証明]

$f(u) = q(q-1)(q-p)u^q$ に対して定理 2.3 を適用する.

$p > 0, q > 0$ のとき, $f(u)$ は $u = 0$ で連続で,

$p > 0, q < 0$ のとき, $\lim_{u \rightarrow 0} f(u) = -\infty$

$$\begin{aligned}f'(u) &= q^2(q-1)(q-p)u^{q-1}, \\ g(x) &= f'\left(x^{\frac{1}{p-1}}\right) \\ &= q^2(q-1)(q-p)x^{\frac{q-1}{p-1}}, \\ g''(x) &= \frac{q^2(q-1)^2(q-p)^2}{(p-1)^2}x^{\frac{q-2p+1}{p-1}}\end{aligned}$$

$x > 0$ のとき, $g''(x) > 0$ だから, $g(x)$ は $(0, \infty)$ で狭義の凸関数である. 結論は定理 2.3 より得られる. ■

[系 2.9 の証明]

$$\begin{aligned}\left(\sum_{i=1}^n x_i\right)^3 &= \sum_{i=1}^n x_i^3 + 3 \sum_{i=1}^n \{(x_1 + x_2 + \cdots + x_n)x_i^2 - x_i^3\} + 6 \sum_{1 \leq i < j < k \leq n} x_i x_j x_k \\ &= 3 \left(\sum_{i=1}^n x_i\right) \left(\sum_{i=1}^n x_i^2\right) - 2 \sum_{i=1}^n x_i^3 + 6 \sum_{1 \leq i < j < k \leq n} x_i x_j x_k\end{aligned}$$

から

$$6 \sum_{1 \leq i \leq j \leq k \leq n} x_i x_j x_k = \left(\sum_{i=1}^n x_i \right)^3 - 3 \left(\sum_{i=1}^n x_i \right) \left(\sum_{i=1}^n x_i^2 \right) + 2 \sum_{i=1}^n x_i^3 \quad \dots \dots (*)$$

$p = 2$ の場合

等式 (*) から E が最大となるのは $\sum_{i=1}^n x_i^3$ が最大となるときで、 E が最小となるのは $\sum_{i=1}^n x_i^3$ が最小となるときである。

系 2.8 から $0 \leq x_1 = x_2 = \dots = x_{n-1} \leq x_n$ のとき $\sum_{i=1}^n x_i^3$ が最大となり、 $x_1 = 0$ または $0 < x_1 \leq x_2 = x_3 = \dots = x_n$ のとき $\sum_{i=1}^n x_i^3$ が最小となる。

$p = 3$ の場合

等式 (*) から E が最大となるのは $\sum_{i=1}^n x_i^2$ が最小となるときで、 E が最小となるのは $\sum_{i=1}^n x_i^3$ が最大となるときである。

系 2.8 から $0 \leq x_1 = x_2 = \dots = x_{n-1} \leq x_n$ のとき $\sum_{i=1}^n x_i^2$ が最小となり、 $x_1 = 0$ または $0 < x_1 \leq x_2 = x_3 = \dots = x_n$ のとき $\sum_{i=1}^n x_i^2$ が最大となる。 ■

[系 2.10 の証明]

$$6 \sum_{1 \leq i < j < k \leq n} x_i x_j x_k = \left(\sum_{i=1}^n x_i \right)^3 - 3 \left(\sum_{i=1}^n x_i \right) \left(\sum_{i=1}^n x_i^2 \right) + 2 \sum_{i=1}^n x_i^3 \quad \dots \dots (*)$$

また、 $t = \sum_{i=1}^n x_i$ 、 $k = \sum_{i=1}^n x_i^2$ とおき、関数 $f(t) = t^3 - 3kt$ ($t \geq \sqrt{k}$) を考えると、 $f(t)$ は増加関数だから

E が最大となるのは $\sum_{i=1}^n x_i$ が最大となるときで、 E が最小となるのは $\sum_{i=1}^n x_i$ が最小となるときである。

$y_i = x_i^2$, $b_i = a_i^2$ ($i = 1, 2, \dots, n$) とおき、系 2.8 ($p = \frac{3}{2}$, $q = \frac{1}{2}$) を適用すればよい。
 $0 \leq b_1, b_2, \dots, b_n$, $0 \leq y_1 \leq y_2 \leq \dots \leq y_n$ で

$$y_1 + y_2 + \dots + y_n = b_1 + b_2 + \dots + b_n, \quad y_1^{\frac{3}{2}} + y_2^{\frac{3}{2}} + \dots + y_n^{\frac{3}{2}} = b_1^{\frac{3}{2}} + b_2^{\frac{3}{2}} + \dots + b_n^{\frac{3}{2}}$$

ならば, $y_1^{\frac{1}{2}} + y_2^{\frac{1}{2}} + \cdots + y_n^{\frac{1}{2}}$ が最大となるのは $0 \leq y_1 = y_2 = \cdots = y_{n-1} \leq y_n$ すなわち E が最大となるのは $0 \leq x_1 = x_2 = \cdots = x_{n-1} \leq x_n$ のときで, $y_1^{\frac{1}{2}} + y_2^{\frac{1}{2}} + \cdots + y_n^{\frac{1}{2}}$ が最小となるのは $y_1 = 0$ または $0 < y_1 \leq y_2 = y_3 = \cdots = y_n$ すなわち E が最小となるのは $x_1 = 0$ または $0 < x_1 \leq x_2 = x_3 = \cdots = x_n$ となるときである. ■

3 Right Convex Function Theorem

以下の定理の証明については、[2] にあるものを筆者が個人的にまとめたなので、ぜひ原論文にあたっていただきたい。

定理 3.1 Right Convex Function Theorem (RCF - Theorem)

$f(u)$ は区間 $I \subset \mathbb{R}$ で定義され、 $u \geq s$ ($s \in I$) で凸関数である。

$$f(x_1) + f(x_2) + \cdots + f(x_n) \geq nf\left(\frac{x_1 + x_2 + \cdots + x_n}{n}\right) \quad \dots\dots (1)$$

が

$$\frac{x_1 + x_2 + \cdots + x_n}{n} = s, \quad x_2 = x_3 = \cdots = x_n \geq s$$

を満たすすべての $x_1, x_2, \dots, x_n \in I$ に対して成り立つならば

$\frac{x_1 + x_2 + \cdots + x_n}{n} \geq s$ を満たすすべての $x_1, x_2, \dots, x_n \in I$ に対して
(1) は成り立つ。

[定理 3.1 の証明] 一般性を失うことなく $x_1 \leq x_2 \leq \cdots \leq x_n$ と仮定できる。

$s \leq x_1$ ならば $s_1 \leq x_1 \leq x_2 \leq \cdots \leq x_n$ で、 $f(u)$ は $u \geq s$ で凸関数であるから、(1) は Jensen の不等式より成り立つ。

さて $x_1 < s$ と仮定する。 $x_1 + x_2 + \cdots + x_n \geq ns$ であるから

$$x_1 \leq \cdots \leq x_k < s \leq x_{k+1} \leq \cdots \leq x_n$$

を満たす $k \in \{1, 2, \dots, n-1\}$ が存在する。

$\because (x_1 - s) + (x_2 - s) + \cdots + (x_n - s) \geq 0$ だから、ある $i \in \{1, 2, \dots, n\}$ が存在して、 $x_i - s \geq 0$

$A = \{j | x_j - s \geq 0\}$ とおき A の要素の最小のものを l とおくと、 $l > 1$ となるので、 $k = l - 1$ とおけばよい。

すると、 $k \in \{1, 2, \dots, n-1\}$, $x_k - s < 0$, $x_{k+1} - s \geq 0$ である。

$$S = \frac{x_1 + x_2 + \cdots + x_n}{n}, z = \frac{x_1 + x_2 + \cdots + x_k}{k}, t = \frac{x_{k+1} + x_{k+2} + \cdots + x_n}{n-k}$$

とおくと、 $z \in I$, $t \in I$, $kz + (n-k)t = nS$

そして

$$z < s \leq S < t$$

が成り立つ。

$$\because (n-k)t = nS - kz > nS - kS = (n-k)S \text{ から } t > S$$

Jensen の不等式より

$$f(x_{k+1}) + f(x_{k+2}) + \cdots + f(x_n) \geq (n-k)f(t) \quad \dots \dots \dots \quad (1)$$

が成り立つから

$$f(x_1) + f(x_2) + \cdots + f(x_k) + (n-k)f(t) \geq nf(S) \quad \dots \dots \dots \quad (2)$$

を示せばよい。なぜならば、(1) + (2) より (1) が得られるからである。

さて、 $y_i = \frac{ns - x_i}{n-1}$ ($i = 1, 2, \dots, k$) とおき、 $s < y_i \leq t$ を示す。

\because 左側の不等式は $x_i < s$ に帰する。これは $i = 1, 2, \dots, k$ に対して成り立つ。

$$s < y_i \iff s < \frac{ns - x_i}{n-1} \iff (n-1)s < ns - x_i \iff x_i < s$$

右側の不等式は次のように示すことができる。

$$y_i \leq y_1 = \frac{ns - x_1}{n-1} \leq \frac{nS - x_1}{n-1} = \frac{x_2 + \cdots + x_n}{n-1}$$

が成り立ち

$$k=1 \text{ のとき}, \quad \frac{x_2 + \cdots + x_n}{n-1} = t$$

$k \geq 2$ のとき

$$\begin{aligned} \frac{x_2 + \cdots + x_n}{n-1} &= \frac{(x_2 + \cdots + x_k) + (x_{k+1} + \cdots + x_n)}{n-1} \\ &= \frac{(x_2 + \cdots + x_k) + (n-k)t}{n-1} \\ &< \frac{(k-1)s + (n-k)t}{n-1} \\ &< \frac{(k-1)t + (n-k)t}{n-1} \\ &= t \end{aligned}$$

したがって、 $y_i \leq t$

$$y_i = \frac{ns - x_i}{n-1} \quad (i = 1, 2, \dots, k) \text{ と } s < y_i \text{ から}$$

$$\frac{x_i + (n-1)y_i}{n} = \frac{ns - x_i}{n} = s, \quad y_i > s$$

となるので、仮定より

$$f(x_i) + f(y_i) + f(y_i) + \cdots + f(y_i) \geq n f\left(\frac{x_i + (n-1)y_i}{n}\right)$$

すなわち

$$f(x_i) + (n-1)f(y_i) \geq nf(s)$$

が成り立つ.

$i = 1, 2, \dots, k$ とおいた不等式の辺々を加えると

$$f(x_1) + f(x_2) + \cdots + f(x_k) \geq knf(s) - (n-1)\{f(y_1) + f(y_2) + \cdots + f(y_k)\}$$

したがって、②を示すために

$$knf(s) + (n-k)f(t) \geq nf(S) + (n-1)\{f(y_1) + f(y_2) + \dots + f(y_k)\} \quad \dots \dots \dots \quad (3)$$

を示せばよい。

$$s_1 = \frac{(n+k-1)s - kz}{n-1} \text{ とおくと}$$

$$\begin{aligned}
s < s_1 &= \frac{(n+k-1)s - kz}{n-1} = \frac{ns + (k-1)s - kz}{n-1} \\
&\leq \frac{nS + (k-1)s - kz}{n-1} = \frac{(k-1)s + nS - kz}{n-1} \\
&= \frac{(k-1)s + x_1 + x_2 + \cdots + x_n - (x_1 + x_2 + \cdots + x_k)}{n-1} \\
&= \frac{(k-1)s + x_{k+1} + x_{k+2} + \cdots + x_n}{n-1} = \frac{(k-1)s + (n-k)t}{n-1} \\
&\leq \frac{(k-1)t + (n-k)t}{n-1} = t
\end{aligned}$$

∴ $s < s_1$ を示しておく.

$$s < s_1 \iff s < \frac{(n+k-1)s - kz}{n-1} \iff (n-1)s < (n+k-1)s - kz \iff z < s$$

さて、Karamat の不等式を適用しよう.

$$(s_1, \underbrace{s, s, \dots, s}_{k-1}) \succ (y_1, y_2, \dots, y_k)$$

∴ $s < y_i$ ($k = 1, 2, \dots, k$) と $s_1 + (k-1)s = y_1 + y_2 + \dots + y_k$ を使うと

$$\begin{aligned}
s_1 - y_1 &= y_1 + y_2 + \dots + y_k - (k-1)s - y_1 \\
&= y_2 + \dots + y_k - (k-1)s \\
&> (k-1)s - (k-1)s = 0 \\
s_1 + s - (y_1 + y_2) &= y_1 + y_2 + \dots + y_k - (k-1)s + s - (y_1 + y_2) \\
&= y_3 + \dots + y_k - (k-2)s \\
&> (k-2)s - (k-2)s = 0 \\
&\dots\dots \\
s_1 + \underbrace{s + \dots + s}_{k-1} &= y_1 + y_2 + \dots + y_k
\end{aligned}$$

$f(u)$ は $u \geqq s$ で凸関数だから、Karamat の不等式より

$$f(s_1) + (k-1)f(s) \geqq f(y_1) + f(y_2) + \dots + f(y_k)$$

が成り立つから、③ が成り立つためには

$$knf(s) + (n-k)f(t) \geqq nf(S) + (n-1)\{f(s_1) + (k-1)f(s)\}$$

すなわち

$$(n+k-1)f(s) + (n-k)f(t) \geqq nf(S) + (n-1)f(s_1) \quad \dots\dots \textcircled{4}$$

を示せばよい。

この不等式は Jensen の不等式からいえる。次の不等式に n と $n-1$ をそれぞれかけて加えればよい。

$$\frac{t-S}{t-s}f(s) + \frac{S-s}{t-s}f(t) \geqq f(S)$$

$$\frac{t-s_1}{t-s}f(s) + \frac{s_1-s}{t-s}f(t) \geqq f(s_1)$$

■

定理 3.1-2 Right Convex Function Theorem (RCF - Theorem)

$f(u)$ は区間 $I \subset \mathbb{R}$ で定義され, $u \geqq s$ ($s \in I$) で凸関数である.

$$f(x) + (n-1)f(y) \geqq nf(s)$$

が

$$x \leqq s \leqq y, \quad x + (n-1)y = ns$$

を満たすすべての $x, y \in I$ に対して成り立つならば

$$\frac{x_1 + x_2 + \cdots + x_n}{n} \geqq s \text{ を満たすすべての } x_1, x_2, \dots, x_n \in I \text{ に対して}$$

$$f(x_1) + f(x_2) + \cdots + f(x_n) \geqq nf\left(\frac{x_1 + x_2 + \cdots + x_n}{n}\right) \quad \dots \dots (1)$$

が成り立つ.

$g(t) = \frac{f(t) - f(s)}{t - s}$ に対して, $x < s < y, x + (n-1)y = ns$ のとき

$$\begin{aligned} f(x) + (n-1)f(y) - nf(s) &= f(x) - f(s) + (n-1)\{f(y) - f(s)\} \\ &= (x-s)g(x) + (n-1)(y-s)g(y) \\ &= (s-x)\{g(y) - g(x)\} \end{aligned}$$

だから, 定理 3.1-2 の仮定の条件は次の定理 3.1-3 の条件と同値である.

($f(x) + (n-1)f(y) \geqq nf(s)$ は $x = s$ と $y = s$ のときは明らかに成り立つので,
 $x \leqq s \leqq y$ ではなく $x < s < y$ でよい.)

定理 3.1-3 Right Convex Function Theorem (RCF - Theorem)

$f(u)$ は区間 $I \subset \mathbb{R}$ で定義され, $u \geqq s$ ($s \in I$) で凸関数である.

$$g(t) = \frac{f(t) - f(s)}{t - s} \text{ に対して}$$

$$g(x) \leqq g(y)$$

が $x < s < y, x + (n-1)y = ns$ を満たすすべての $x, y \in I$ に対して成り立つならば

$$\frac{x_1 + x_2 + \cdots + x_n}{n} \geqq s \text{ を満たすすべての } x_1, x_2, \dots, x_n \in I \text{ に対して}$$

$$f(x_1) + f(x_2) + \cdots + f(x_n) \geqq nf\left(\frac{x_1 + x_2 + \cdots + x_n}{n}\right) \quad \dots \dots (1)$$

が成り立つ.

定理 3.1-4 Right Convex Function Theorem (RCF - Theorem)

$f(u)$ は区間 $I \subset \mathbb{R}$ で定義され, I で微分可能で, $u \geq s$ ($s \in I$) で凸関数である.

$$f'(x) \leq f'(y)$$

が $x \leq s \leq y$, $x + (n-1)y = ns$ を満たすすべての $x, y \in I$ に対して成り立つならば

$$\frac{x_1 + x_2 + \cdots + x_n}{n} \geq s \text{ を満たすすべての } x_1, x_2, \dots, x_n \in I \text{ に対して}$$

$$f(x_1) + f(x_2) + \cdots + f(x_n) \geq nf\left(\frac{x_1 + x_2 + \cdots + x_n}{n}\right) \quad \dots \dots (1)$$

が成り立つ.

[定理 3.1-4 の証明] $F(x) = f(x) + (n-1)f\left(\frac{ns-x}{n-1}\right) - nf(s)$ とおくと

$$\begin{aligned} F'(x) &= f'(x) - f'\left(\frac{ns-x}{n-1}\right) \\ &= f'(x) - f'(y) \leq 0 \end{aligned}$$

$F(x)$ は $x \leq s$ で減少関数だから, $F(x) \geq F(s) = 0$

よって, $f(x) + (n-1)f(y) \geq nf(s)$ は成り立つから, 定理 3.1-2 の仮定は定理 3.1-4 の条件で置き換えることができる. ■

系 3.2 Right Convex Function Corollary

$f(u)$ は区間 $(0, \infty)$ で定義された連続関数とする.

$r > 0$ は定数で, $f_1(u) = f(e^u)$ が $[\log r, \infty)$ で凸関数で

$$f(a_1) + f(a_2) + \cdots + f(a_n) \geq nf(\sqrt[n]{a_1 a_2 \cdots a_n}) \quad \dots \dots (2)$$

が

$$\sqrt[n]{a_1 a_2 \cdots a_n} = r, \quad a_2 = a_3 = \cdots = a_n \geq r$$

を満たすすべての $a_1, a_2, \dots, a_n (> 0)$ に対して成り立つならば

$\sqrt[n]{a_1 a_2 \cdots a_n} \geq r$ を満たすすべての a_1, a_2, \dots, a_n に対して (2) が成り立つ.

[系 3.2 の証明] RCF-Theorem を $f_1(u) = f(e^u)$ に対して適用する. ただし, s を $\log r$, x_i を $\log a_i$ に置き換えるものとする.

詳しくみてみると, RCF-Theorem

$f(e^u)$ は区間 \mathbb{R} で定義され, $[s, \infty)$ で凸関数である.

$$f(e^{x_1}) + f(e^{x_2}) + \cdots + f(e^{x_n}) \geq nf\left(e^{\frac{x_1+x_2+\cdots+x_n}{n}}\right) \quad \dots \dots \dots (1)$$

が

$$\frac{x_1+x_2+\cdots+x_n}{n} = s, \quad x_2 = x_3 = \cdots = x_n \geq s$$

を満たすすべての x_1, x_2, \dots, x_n に対して成り立つならば

$\frac{x_1+x_2+\cdots+x_n}{n} \geq s$ を満たすすべての x_1, x_2, \dots, x_n に対して
(1) は成り立つ.

を次の同値変形を用いて書き直したものである.

$$f(a_1) + f(a_2) + \cdots + f(a_n) \geq nf(\sqrt[n]{a_1 a_2 \cdots a_n}) \quad \dots \dots \dots (2)$$

$$\iff f(e^{x_1}) + f(e^{x_2}) + \cdots + f(e^{x_n}) \geq nf\left(e^{\frac{x_1+x_2+\cdots+x_n}{n}}\right) \quad \dots \dots \dots (1)$$

$$\sqrt[n]{a_1 a_2 \cdots a_n} = r, \quad a_2 = a_3 = \cdots = a_n \geq r$$

$$\iff \sqrt[n]{e^{x_1} e^{x_2} \cdots e^{x_n}} = r, \quad e^{x_2} = e^{x_3} = \cdots = e^{x_n} \geq r$$

$$\frac{x_1+x_2+\cdots+x_n}{n} = \log r (= s), \quad x_2 = x_3 = \cdots = x_n \geq \log r (= s) \quad \blacksquare$$

系 3.2-2 Right Convex Function Corollary

$f(u)$ は区間 $(0, \infty)$ で定義された連続関数とする.

$r > 0$ は定数で, $f_1(u) = f(e^u)$ が $[\log r, \infty)$ で凸関数で

$$f(x) + (n-1)f(y) \geq nf(r)$$

が

$$x \leqq r \leqq y, \quad xy^{n-1} = r^n$$

を満たすすべての $x, y (> 0)$ に対して成り立つならば

$\sqrt[n]{a_1 a_2 \cdots a_n} \geq r$ を満たすすべての a_1, a_2, \dots, a_n に対して

$$f(a_1) + f(a_2) + \cdots + f(a_n) \geq nf(\sqrt[n]{a_1 a_2 \cdots a_n}) \quad \dots \dots \dots (2)$$

が成り立つ.

系 3.2-3 Right Convex Function Corollary

$f(u)$ は区間 $(0, \infty)$ で定義された微分可能な関数とする。

$r > 0$ は定数で, $f_1(u) = f(e^u)$ が $[\log r, \infty)$ で凸関数で

$$xf'(x) \leqq yf'(y)$$

が

$$x \leqq r \leqq y, \quad xy^{n-1} = r^n$$

を満たすすべての $x, y (> 0)$ に対して成り立つならば

$\sqrt[n]{a_1 a_2 \cdots a_n} \geqq r$ を満たすすべての a_1, a_2, \dots, a_n に対して

$$f(a_1) + f(a_2) + \cdots + f(a_n) \geqq nf(\sqrt[n]{a_1 a_2 \cdots a_n}) \quad \cdots \cdots (2)$$

が成り立つ。

[系 3.2-3 の証明] $F(x) = f(x) + (n-1)f(y) - nf(r)$ とおくと

$xy^{n-1} = r^n$ から $y' = -\frac{y}{(n-1)x}$ だから

$$F'(x) = f'(x) + (n-1)f'(y)y' = f'(x) - \frac{yf'(y)}{x} = \frac{xf'(x) - yf'(y)}{x} \leqq 0$$

$F(x)$ は減少関数で, $x \leqq r$ のとき $F(x) \geqq F(r) = 0$

ゆえに, $f(x) + (n-1)f(y) \geqq nf(r)$

■

定理 3.3 Left Concave Function Theorem (LCF - Theorem)

$f(u)$ は区間 $I \subset \mathbb{R}$ で定義され, $u \leqq s$ ($s \in I$) で凹関数である.

$$f(x_1) + f(x_2) + \cdots + f(x_n) \leqq nf\left(\frac{x_1 + x_2 + \cdots + x_n}{n}\right) \quad \dots\dots (3)$$

が

$$\frac{x_1 + x_2 + \cdots + x_n}{n} = s, \quad x_1 = x_2 = \cdots = x_{n-1} \leqq s$$

を満たすすべての $x_1, x_2, \dots, x_n \in I$ に対して成り立つならば

$\frac{x_1 + x_2 + \cdots + x_n}{n} \leqq s$ を満たすすべての $x_1, x_2, \dots, x_n \in I$ に対して
(3) は成り立つ.

定理 3.3-2 Left Concave Function Theorem (LCF - Theorem)

$f(u)$ は区間 $I \subset \mathbb{R}$ で定義され, $u \leqq s$ ($s \in I$) で凹関数である.

$$(n-1)f(x) + f(y) \leqq nf(s)$$

が

$$x \leqq s \leqq y, \quad (n-1)x + y = ns$$

を満たすすべての $x, y \in I$ に対して成り立つならば

$\frac{x_1 + x_2 + \cdots + x_n}{n} \leqq s$ を満たすすべての $x_1, x_2, \dots, x_n \in I$ に対して

$$f(x_1) + f(x_2) + \cdots + f(x_n) \leqq nf\left(\frac{x_1 + x_2 + \cdots + x_n}{n}\right) \quad \dots\dots (3)$$

が成り立つ.

定理 3.3-3 Left Concave Function Theorem (LCF - Theorem)

$f(u)$ は区間 $I \subset \mathbb{R}$ で定義され, $u \leq s$ ($s \in I$) で凹関数である.

$$g(t) = \frac{f(t) - f(s)}{t - s} \text{ に対して}$$

$$g(x) \geq g(y)$$

が $x < s < y$, $(n-1)x + y = ns$ を満たすすべての $x, y \in I$ に対して成り立つならば

$$\frac{x_1 + x_2 + \cdots + x_n}{n} \geq s \text{ を満たすすべての } x_1, x_2, \dots, x_n \in I \text{ に対して}$$

$$f(x_1) + f(x_2) + \cdots + f(x_n) \leq nf\left(\frac{x_1 + x_2 + \cdots + x_n}{n}\right) \quad \dots \dots (3)$$

が成り立つ.

定理 3.3-4 Left Concave Function Theorem (LCF - Theorem)

$f(u)$ は区間 $I \subset \mathbb{R}$ で定義され, I で微分可能で, $u \leq s$ ($s \in I$) で凹関数である.

$$f'(x) \geq f'(y)$$

が $x \leq s \leq y$, $(n-1)x + y = ns$ を満たすすべての $x, y \in I$ に対して成り立つならば

$$\frac{x_1 + x_2 + \cdots + x_n}{n} \leq s \text{ を満たすすべての } x_1, x_2, \dots, x_n \in I \text{ に対して}$$

$$f(x_1) + f(x_2) + \cdots + f(x_n) \leq nf\left(\frac{x_1 + x_2 + \cdots + x_n}{n}\right) \quad \dots \dots (3)$$

が成り立つ.

系 3.4 Left Concave Function Corollary

$f(u)$ は区間 $(0, \infty)$ で定義された連続関数とする。

$r > 0$ は定数で, $f_1(u) = f(e^u)$ が $(-\infty, \log r]$ で凹関数で

$$f(a_1) + f(a_2) + \cdots + f(a_n) \leq n f(\sqrt[n]{a_1 a_2 \cdots a_n}) \quad \dots \dots (4)$$

が

$$\sqrt[n]{a_1 a_2 \cdots a_n} = r, \quad a_1 = a_2 = \cdots = a_{n-1} \leqq r$$

を満たすすべての $a_1, a_2, \dots, a_n (> 0)$ に対して成り立つならば

$\sqrt[n]{a_1 a_2 \cdots a_n} \leqq r$ を満たすすべての a_1, a_2, \dots, a_n に対して (4) が成り立つ。

系 3.4-2 Left Concave Function Corollary

$f(u)$ は区間 $(0, \infty)$ で定義された連続関数とする。

$r > 0$ は定数で, $f_1(u) = f(e^u)$ が $(-\infty, \log r]$ で凹関数で

$$(n-1)f(x) + f(y) \leq n f(r)$$

が

$$x \leqq r \leqq y, \quad x^{n-1}y = r^n$$

を満たすすべての $x, y (> 0)$ に対して成り立つならば

$\sqrt[n]{a_1 a_2 \cdots a_n} \geqq r$ を満たすすべての a_1, a_2, \dots, a_n に対して

$$f(a_1) + f(a_2) + \cdots + f(a_n) \leq n f(\sqrt[n]{a_1 a_2 \cdots a_n}) \quad \dots \dots (4)$$

が成り立つ。

系 3.4-3 Left Concave Function Corollary

$f(u)$ は区間 $(0, \infty)$ で定義された微分可能な関数とする。

$r > 0$ は定数で, $f_1(u) = f(e^u)$ が $(-\infty, \log r]$ で凹関数で

$$xf'(x) \geq yf'(y)$$

が

$$x \leqq r \leqq y, \quad x^{n-1}y = r^n$$

を満たすすべての $x, y (> 0)$ に対して成り立つならば

$\sqrt[n]{a_1 a_2 \cdots a_n} \geqq r$ を満たすすべての a_1, a_2, \dots, a_n に対して

$$f(a_1) + f(a_2) + \cdots + f(a_n) \leqq n f(\sqrt[n]{a_1 a_2 \cdots a_n}) \quad \cdots \cdots (4)$$

が成り立つ。

定理 3.5 Left Concave - Right Convex Function Theorem (LCRCF - Theorem)

$a < c$ は実数の定数, $f(u)$ は区間 $I = [a, \infty)$ で連続な関数で, $[a, c]$ で狭義の凹関数, $[c, \infty)$ で狭義の凸関数とする.

$x_1, x_2, \dots, x_n \in I$, $x_1 + x_2 + \dots + x_n = S = \text{constant}$ ならば

$$E = f(x_1) + f(x_2) + \dots + f(x_n)$$

は $x_1 = x_2 = \dots = x_{n-1} \leqq x_n$ のとき最大となる.

[定理 3.5 の証明] 一般性を失うことなく $x_1 \leqq x_2 \leqq \dots \leqq x_n$ と仮定することができる.

$x_n \leqq c$ ならば Jensen の不等式から

$$E = f(x_1) + f(x_2) + \dots + f(x_n) \leqq f\left(\frac{x_1 + x_2 + \dots + x_n}{n}\right) = nf(S)$$

ゆえに, E は $x_1 = x_2 = \dots = x_n$ のとき最大となる.

$x_n > c$ ならば

$$a \leqq x_1 \leqq \dots \leqq x_k \leqq x_{k+1} \leqq \dots \leqq x_n$$

となる $k \in \{1, 2, \dots, n-1\}$ が存在する.

$$(x_{k+1} + \dots + x_n - (n-k-1)c, \underbrace{c, \dots, c}_{n-k-1}) \succ (x_n, x_{n-1}, \dots, x_{k+1})$$

だから 凸関数に対する Karamat の不等式より

$$f(x_{k+1}) + \dots + f(n) \leqq (n-k-1)f(c) + f(x_{k+1} + \dots + x_n - (n-k-1)c) \quad (1)$$

凹関数に対する Jensen の不等式より

$$(n-k-1)f(c) + f(x_1) + f(x_2) + \dots + f(x_k) \leqq (n-1)f\left(\frac{(n-k-1)c + x_1 + \dots + x_k}{n-1}\right) \quad (2)$$

(1), (2)の辺々を加えると

$$f(x_1) + f(x_2) + \dots + f(x_n) \leqq (n-1)f(x) + f(y) \quad (3)$$

ただし

$$x = \frac{(n-k-1)c + x_1 + \dots + x_k}{n-1}, y = x_{k+1} + \dots + x_n - (n-k-1)c$$

とおいた。

このとき、

$$(n-1)x + y = x_1 + x_2 + \cdots + x_n, x < y$$

が成り立つ。

∴

$$\begin{aligned} & n-1)x + y \\ &= (n-k-1)c + x_1 + \cdots + x_k + x_{k+1} + \cdots + x_n - (n-k-1)c \\ &= x_1 + x_2 + \cdots + x_n \\ x &= \frac{(n-k-1)c + x_1 + \cdots + x_k}{n-1} \leq \frac{(n-k-1)c + kc}{n-1} = c < y \end{aligned}$$

③ から、 E は $x_1 = x_2 = \cdots = x_{n-1} = x \leqq x_n = y$ のとき最大となる。 ■

$I = (a, \infty)$ において連続な関数で $\lim_{u \rightarrow a+0} f(u) = -\infty$ を満たす場合も同様なことが成り立つ。

定理 3.5-2 Left Concave - Right Convex Function Theorem (LCRCF - Theorem)

$a < c$ は実数の定数、 $f(u)$ は区間 $I = (a, \infty)$ において連続な関数で $\lim_{u \rightarrow a+0} f(u) = -\infty$ を満たし、 $(a, c]$ で狭義の凹関数、 $[c, \infty)$ で狭義の凸関数とする。 $x_1, x_2, \dots, x_n \in I$ 、 $x_1 + x_2 + \cdots + x_n = S = \text{constant}$ ならば

$$E = f(x_1) + f(x_2) + \cdots + f(x_n)$$

は $x_1 = x_2 = \cdots = x_{n-1} \leqq x_n$ のとき最大となる。

4 練習問題

問題 1 $x_i \geq 1 (i = 1, 2, \dots, n)$ のとき

$$n + (x_1 + x_2 + \dots + x_n) \geq \sqrt[n]{x_1 x_2 \cdots x_n} \left(n + \frac{1}{x_1} + \frac{1}{x_2} + \dots + \frac{1}{x_n} \right)$$

(不等式への招待 P.90)

(解答) 一般性を失うことなく $1 \leq x_1 \leq x_2 \leq \dots \leq x_n$ と仮定できる。
 $f(x_1, x_2, \dots, x_n) = n + (x_1 + x_2 + \dots + x_n) - \sqrt[n]{x_1 x_2 \cdots x_n} \left(n + \frac{1}{x_1} + \frac{1}{x_2} + \dots + \frac{1}{x_n} \right)$
 とおくと

$$\begin{aligned} & f(x_1, x_2, \dots, x_n) - f(\sqrt{x_1 x_n}, x_2, \dots, x_{n-1}, \sqrt{x_1 x_n}) \\ &= x_1 + x_n - 2\sqrt{x_1 x_n} - \sqrt[n]{x_1 x_2 \cdots x_n} \left(\frac{1}{x_1} + \frac{1}{x_n} - \frac{2}{\sqrt{x_1 x_n}} \right) \\ &= (\sqrt{x_1} - \sqrt{x_n})^2 - \sqrt[n]{x_1 x_2 \cdots x_n} \left[\frac{(\sqrt{x_1} - \sqrt{x_n})^2}{x_1 x_n} \right] \\ &= (\sqrt{x_1} - \sqrt{x_n})^2 \left(1 - \frac{\sqrt[n]{x_1 x_2 \cdots x_n}}{x_1 x_n} \right) \end{aligned}$$

$1 \leq x_1 \leq x_2 \leq \dots \leq x_n$ から $x_n \geq \sqrt[n]{x_1 x_2 \cdots x_n}$ が成り立つので

$$x_1 x_n \geq x_n \geq \sqrt[n]{x_1 x_2 \cdots x_n}$$

したがって

$$f(x_1, x_2, \dots, x_n) - f(\sqrt{x_1 x_n}, x_2, \dots, \sqrt{x_1 x_n}) \geq 0$$

SMV - Theorem より, $G = \sqrt[n]{x_1 x_2 \cdots x_n}$ とおくと

$$f(x_1, x_2, \dots, x_n) \geq f(G, G, \dots, G)$$

が成り立つ。

$$f(G, G, \dots, G) = n + nG - G \left(n + \frac{n}{G} \right) = 0 \text{ だから } f(x_1, x_2, \dots, x_n) \geq 0 \quad \blacksquare$$

[注] [9] 例題 5 で扱った問題である。

問題 2 (Pham Kim Hung)

$k > 0$ を実数の定数, a, b, c, d は正の実数で, $a + b + c + d = 4$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$(abc)^k + (bcd)^k + (cda)^k + (dab)^k \leq \max \left\{ 4, \left(\frac{4}{3} \right)^{3k} \right\}$$

(解答) 系 2.8 ($p = 0, q = -k$) を適用する.

一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c \leq d$ と仮定できる.

$$(abc)^k + (bcd)^k + (cda)^k + (dab)^k \leq M$$

不等式を同次化すると

$$(abc)^k + (bcd)^k + (cda)^k + (dab)^k \leq M \left(\frac{a+b+c+d}{4} \right)^{3k}$$

となるので, 条件 $a + b + c + d = 4$ をはずして考えることができる.

$$\begin{aligned} (abc)^k + (bcd)^k + (cda)^k + (dab)^k &\leq M \left(\frac{a+b+c+d}{4} \right)^{3k} \\ \iff \frac{1}{a^k} + \frac{1}{b^k} + \frac{1}{c^k} + \frac{1}{d^k} &\leq \frac{M}{(abcd)^k} \cdot \left(\frac{a+b+c+d}{4} \right)^{3k} \end{aligned}$$

$$a + b + c + d = \text{constant}, \quad abcd = \text{constant}$$

ならば, $\frac{1}{a^k} + \frac{1}{b^k} + \frac{1}{c^k} + \frac{1}{d^k}$ は $0 < a \leq b = c = d$ のとき最大となる.

$$\frac{1}{a^k} + \frac{3}{b^k} \leq \frac{M}{(ab^3)^k} \cdot \left(\frac{a+3b}{4} \right)^{3k}$$

を考える. この不等式の両辺に a^k をかけ, $t = \frac{a}{b}$ とおくと, $0 < t \leq 1$ で

$$1 + 3t^k \leq M \left(\frac{t+3}{4} \right)^{3k}$$

$$1 + 3t^k \leq M \left(\frac{t+3}{4} \right)^{3k} \iff \frac{4^{3k}}{M} \leq \frac{(t+3)^{3k}}{1+3t^k}$$

より

$$f(t) = \frac{(t+3)^{3k}}{1+3t^k} \quad (0 < t \leq 1)$$

とおくと

$$f'(t) = \frac{3k(t+3)^{3k-1}(2t^k - 3t^{k-1} + 1)}{(1+3t^k)^2}$$

$g(t) = 2t^k - 3t^{k-1} + 1$ とおくと, $g'(t) = t^{k-2} \{2kt - 3(k-1)\}$

(i) $k \geq 3$ の場合

$$\frac{3(k-1)}{2k} \geq 1 \text{ だから, } 0 < t < 1 \text{ のとき } g'(t) < 0$$

$0 < t \leq 1$ で $g(t)$ は減少関数となり, $g(t) \geq g(1) = 0$

よって, $f'(t) \geq 0$ だから, $0 < t \leq 1$ で $f(t)$ は増加関数となり, $\lim_{t \rightarrow +0} f(t) = 3^{3k}$

ゆえに, $3^{3k} \geq \frac{4^{3k}}{M}$ から $M \geq \left(\frac{4}{3}\right)^{3k}$

(ii) $0 < k \leq 1$ の場合

$g'(t) > 0$ だから $0 < t \leq 1$ で $g(t)$ は増加関数となり, $g(t) \leq g(1) = 0$

よって, $f'(t) \leq 0$ だから, $0 < t \leq 1$ で $f(t)$ は減少関数となり, $f(t) \geq f(1) = \frac{4^{3k}}{4}$

ゆえに, $\frac{4^{3k}}{4} \geq \frac{4^{3k}}{M}$ から $M \geq 4$

(iii) $1 < k < 3$ の場合

$0 < \frac{3(k-1)}{2k} < 1$ だから $g(t)$ の増減表は次のようになる.

t	0	\dots	$\frac{3(k-1)}{2k}$	\dots	1
$g'(t)$		-	0	+	
$g(t)$	(1)	\searrow	極小	\nearrow	0

増減表から, $g(t) = 0$ となる $t = \alpha$ ($0 < \alpha < 1$) がある.

$f(t)$ の増減表は次のようになる.

t	0	\dots	α	\dots	1
$f'(t)$		+	0	-	
$f(t)$		\nearrow	極大	\searrow	

$$\lim_{t \rightarrow +0} f(t) = 3^{3k}, \quad f(1) = \frac{4^{3k}}{4}$$

より

$$f(t) \geq \min \left\{ 3^{3k}, \frac{4^{3k}}{4} \right\} \geq \frac{4^{3k}}{M}$$

よって

$$M \geq \max \left\{ 4, \left(\frac{4}{3} \right)^{3k} \right\}$$

以上のことから, $M = \max \left\{ 4, \left(\frac{4}{3} \right)^{3k} \right\}$ とすることができます.

■

問題 3 (Pham Kim Hung)

a, b, c, d は非負の実数で, $a + b + c + d = 4$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$(1 + a^2)(1 + b^2)(1 + c^2)(1 + d^2) \geq (1 + a)(1 + b)(1 + c)(1 + d)$$

(解 1) 一般性を失うことなく $0 \leqq a \leqq b \leqq c \leqq d$ と仮定できる.

$$f(a, b, c, d) = (1 + a^2)(1 + b^2)(1 + c^2)(1 + d^2) - (1 + a)(1 + b)(1 + c)(1 + d)$$

とおくと

$$\begin{aligned} & f(a, b, c, d) - f\left(\frac{a+c}{2}, b, \frac{a+c}{2}, d\right) \\ &= (1 + b^2)(1 + d^2) \left[(1 + a^2)(1 + c^2) - \left\{ 1 + \left(\frac{a+c}{2} \right)^2 \right\}^2 \right] \\ &\quad - (1 + b)(1 + d) \left[(1 + a)(1 + c) - \left(1 + \frac{a+c}{2} \right)^2 \right] \\ &= (1 + b^2)(1 + d^2) \left[\frac{(c-a)^2(8 - a^2 - 6ac - c^2)}{16} \right] \\ &\quad - (1 + b)(1 + d) \left[-\frac{(c-a)^2}{4} \right] \\ &= (1 + b^2)(1 + d^2) \left[\frac{(c-a)^2(8 - a^2 - 6ac - c^2)}{16} \right] \\ &\quad + (1 + b)(1 + d) \left[\frac{(c-a)^2}{4} \right] \end{aligned}$$

$8 - a^2 - 6ac - c^2 \geqq 0$ を示す.

$a + c \leqq b + d, (a + c) + (b + d) = 4$ より $a + c \leqq 2$

このとき, 相加平均・相乗平均の不等式を使うと

$$2 \geqq a + c \geqq 2\sqrt{ac}$$

から, $ac \leqq 1$

よって

$$a^2 + 6ac + c^2 = (a + c)^2 + 4ac \leqq 2^2 + 4 \cdot 1 = 8$$

が成り立つから

$$f(a, b, c, d) \geqq f\left(\frac{a+c}{2}, b, \frac{a+c}{2}, d\right)$$

$f(a, b, c, d)$ は a, b, c に関する対称式だから, SMV-Theorem より

$$f(a, b, c, d) \geq f(t, t, t, d), \quad t = \frac{a+b+c}{3}$$

$0 \leqq t \leqq 1 \leqq d, 3t + d = 4$ のとき $f(t, t, t, d) \geqq 0$ すなわち

$$(1+t^2)^3(1+d^2) \geqq (1+t)^3(1+d)$$

を示せばよい。

$$\begin{aligned} & (1+t^2)^3(1+d^2) - (1+t)^3(1+d) \\ &= (1+t^2)^3 \{1 + (4-3t)^2\} - (1+t)^3(5-3t) \\ &= 9t^8 - 24t^7 + 44t^6 - 72t^5 + 81t^4 - 68t^3 + 54t^2 - 36t + 12 \\ &= (t-1)^2(9t^6 - 6t^5 + 23t^4 - 20t^3 + 18t^2 - 12t + 12) \end{aligned}$$

ここで

$$\begin{aligned} & 9t^6 - 6t^5 + 23t^4 - 20t^3 + 18t^2 - 12t + 12 \\ &= (9t^6 - 6t^5 + t^4) + (22t^4 - 20t^3 + 18t^2) - 12t + 12 \\ &= t^4(3t-1)^2 + 2t^2 \underbrace{(11t^2 - 10t + 9)}_{\geqq 0} + 12(1-t) > 0 \end{aligned}$$

だから, $(1+t^2)^3(1+d^2) \geqq (1+t)^3(1+d)$ は成り立つ。 ■

(解 2) 一般性を失うことなく $0 \leqq a \leqq b \leqq c \leqq d$ と仮定できる。

$f(x) = \log(1+x) - \log(1+x^2)$ ($x \geqq 0$) とおくと, 証明すべき不等式は

$$f(a) + f(b) + f(c) + f(d) \leqq 4f\left(\frac{a+b+c+d}{4}\right)$$

となる。

$$f''(x) = \frac{x^4 + 4x^3 - 2x^2 - 4x - 3}{(x+1)^2(x^2+1)^2}$$

$g(x) = x^4 + 4x^3 - 2x^2 - 4x - 3$ とおくと

$$g'(x) = 4(x^3 + 3x^2 - x - 1), \quad g''(x) = 4(3x^2 + 6x - 1)$$

$g''(x) = 0$ は正の解をただ 1 つもつ。

これを α ($0 < \alpha < 1$) とおくと

$0 \leqq x < \alpha$ のとき $g''(x) < 0$, $\alpha < x$ のとき $g''(x) > 0$ で

$g'(0) = -4, g'(1) = 8$ だから $g'(x) = 0$ は正の解をただ 1 つもつ.

これを $\beta (0 < \beta < 1)$ とおくと

$0 \leqq x < \beta$ のとき $g'(x) < 0, \beta < x$ のとき $g'(x) > 0$ で

$g(0) = -3, g(1) = -4, g(2) = 29$ だから $g(x) = 0$ は正の解をただ 1 つもつ.

これを $\gamma (1 < \gamma < 2)$ とおくと, $f(x)$ は $[0, \gamma]$ で凹関数である.

$s = \frac{a+b+c+d}{4} = 1 < \gamma$ とおくと, $f(x)$ は $[0, s]$ で凹関数であるから, LCF-Theorem より

$$a = b = c \leqq 1 \leqq d$$

のとき不等式が成り立つことを示せばよい.

$$0 \leqq x \leqq 1 \leqq y, 3x + y = 4$$

のとき, $(1+x^2)^3(1+y^2) \geqq (1+x)^3(1+y)$ を示せばよい.

$$F(x) = (1+x^2)^3(1+y^2) - (1+x)^3(1+y) \text{ とおくと } \frac{dy}{dx} = -3 \text{ だから}$$

$$\begin{aligned} F'(x) &= 6x(1+x^2)^2(1+y^2) + (1+x^2)^3 \cdot 2yy' - 3(1+x)^2(1+y) - (1+x)^3y' \\ &= 6x(1+x^2)^2(1+y^2) - 6y(1+x^2)^3 - 3(1+x)^2(1+y) + 3(1+x)^3 \\ &= 6(1+x^2)^2(x-y)(1-xy) + 3(1+x)^2(x-y) \\ &= 3(x-y) \{ 2(1+x^2)^2(1-xy) + (1+x)^2 \} \\ &= 3(x-y) \{ 2(1+x^2)^2(3x^2 - 4x + 1) + (1+x)^2 \} \\ &= 3(x-y)(6x^6 - 8x^5 + 14x^4 - 16x^3 + 11x^2 - 6x + 3) \\ &= 3(x-y)(6x^6 - 8x^5 + 6x^4 + 8x^4 - 16x^3 + 8x^2 + 3x^2 - 6x + 3) \\ &= 3(x-y) \left\{ 2 \underbrace{(3x^2 - 4x + 3)}_{\geqq 0} x^4 + 8(x-1)^2 x^2 + 3(x-1)^2 \right\} \leqq 0 \end{aligned}$$

$F(x)$ は減少関数で, $0 \leqq x \leqq 1$ で $F(x) \geqq F(1) = 0$

■

問題 4 (Pham Kim Hung)

a, b, c, d は正の実数で, $abcd = 1$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$(1 + a^2)(1 + b^2)(1 + c^2)(1 + d^2) \geq (a + b + c + d)^2$$

(解答) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c \leq d$ と仮定できる.

$$f(a, b, c, d) = (1 + a^2)(1 + b^2)(1 + c^2)(1 + d^2) - (a + b + c + d)^2$$

とおくと

$$\begin{aligned} & f(a, b, c, d) - f(\sqrt{ac}, b, \sqrt{ac}, d) \\ &= (1 + b^2)(1 + d^2) \{ (1 + a^2)(1 + c^2) - (1 + ac)^2 \} \\ &\quad - (a + b + c + d)^2 + (b + d + 2\sqrt{ac})^2 \\ &= (1 + b^2)(1 + d^2)(c - a)^2 - \{ 2(b + d) + (\sqrt{c} + \sqrt{a})^2 \} (\sqrt{c} - \sqrt{a})^2 \\ &= (\sqrt{c} - \sqrt{a})^2 [(1 + b^2)(1 + d^2)(\sqrt{c} + \sqrt{a})^2 - \{ 2b + 2d + (\sqrt{c} + \sqrt{a})^2 \}] \\ &= (\sqrt{c} - \sqrt{a})^2 \{ (b^2 + d^2 + b^2 d^2)(\sqrt{c} + \sqrt{a})^2 - 2(b + d) \} \end{aligned}$$

$(b^2 + d^2 + b^2 d^2)(\sqrt{c} + \sqrt{a})^2 - 2(b + d) > 0$ を示す.

$$(b^2 + d^2 + b^2 d^2)(\sqrt{c} + \sqrt{a})^2 \geq (b^2 + d^2 + b^2 d^2) \cdot 4\sqrt{ca} = \frac{4(b^2 + d^2 + b^2 d^2)}{\sqrt{bd}}$$

だから

$$\frac{4(b^2 + d^2 + b^2 d^2)}{\sqrt{bd}} > 2(b + d)$$

を示せばよい.

$$\frac{4(b^2 + d^2 + b^2 d^2)}{\sqrt{bd}} > 2(b + d) \iff 4(b^2 + d^2 + b^2 d^2)^2 > (b + d)^2 bd$$

で

$$\begin{aligned} (b + d)^2 bd &\leq (b + d)^2 \cdot \frac{(b + d)^2}{4} \\ &\leq (b^2 + d^2)^2 < (b^2 + d^2 + b^2 d^2)^2 \\ &< 4(b^2 + d^2 + b^2 d^2)^2 \end{aligned}$$

よって

$$f(a, b, c, d) \geq f(\sqrt{ac}, b, \sqrt{ac}, d)$$

が成り立つ。

$f(a, b, c, d)$ は a, b, c に関する対称式だから

$$f(a, b, c, d) \geqq f(t, t, t, d), t = \sqrt[3]{abc}$$

$0 < t \leqq 1 \leqq d, t^3d = 1$ のとき, $f(t, t, t, d) \geqq 0$ を示せばよい。

$$\begin{aligned} f(t, t, t, d) \geqq 0 &\iff (1+t^2)^3(1+d^2) \geqq (3t+d)^2 \\ &\iff (1+t^2)^3 \left(1 + \frac{1}{t^6}\right) \geqq \left(3t + \frac{1}{t^3}\right)^2 \\ &\iff t^{12} + 3t^{10} - 6t^8 + 2t^6 - 3t^4 + 3t^2 \geqq 0 \\ &\iff t^2(t-1)^2(t+1)^2(t^6 + 5t^4 + 3t^2 + 3) \geqq 0 \end{aligned}$$

最後の不等式は明らかに成り立つ。 ■

問題 5 (Pham Kim Hung)

a, b, c, d は正の実数で, $a + b + c + d = 4$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$(1 + 3a)(1 + 3b)(1 + 3c)(1 + 3d) \leq 125 + 131abcd$$

(初等的な不等式 I 問題 99)

(解答) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c \leq d$ と仮定できる.

$f(a, b, c, d) = (1 + 3a)(1 + 3b)(1 + 3c)(1 + 3d) - (125 + 131abcd)$ とおくと

$$\begin{aligned} & f(a, b, c, d) - f\left(a, \frac{b+d}{2}, c, \frac{b+d}{2}\right) \\ &= (1 + 3a)(1 + 3c) \left[(1 + 3b)(1 + 3d) - \left\{1 + \frac{3(b+d)}{2}\right\}^2\right] - 131ac \left\{bd - \left(\frac{b+d}{2}\right)^2\right\} \\ &= -\frac{9(b-d)^2(1+3a)(1+3c)}{4} + \frac{131ac(b-d)^2}{4} \\ &= -\frac{(b-d)^2}{4} \{9(1+3a)(1+3c) - 131ac\} \\ &= -\frac{(b-d)^2}{4} \{9 + 27(a+c) - 50ac\} \end{aligned}$$

$9 + 27(a+c) - 50ac > 0$ を示す.

$a + c \leq b + d$, $(a + c) + (b + d) = 4$ より $a + c \leq 2$ であるから

$$\frac{1}{a} + \frac{1}{c} \geq \frac{4}{a+c} \geq 2 \quad \text{ゆえに} \quad a + c \geq 2ac$$

これを使うと

$$9 + 27(a+c) > 25(a+c) \geq 50ac$$

よって

$$f(a, b, c, d) \leq f\left(a, \frac{b+d}{2}, c, \frac{b+d}{2}\right)$$

$f(a, b, c, d)$ は b, c, d の対称式だから, SMV-Theorem より

$$f(a, b, c, d) \leq f(a, t, t, t), \quad t = \frac{b+c+d}{3}$$

$0 < a \leq 1 \leq t < \frac{4}{3}$, $a + 3t = 4$ のとき

$$\begin{aligned} f(a, t, t, t) &= (1 + 3a)(1 + 3t)^3 - (125 + 131at^3) \\ &= (13 - 9t)(1 + 3t)^3 - \{125 + 131(4 - 3t)t^3\} \\ &= 150t^4 - 416t^3 + 270t^2 + 108t - 112 \\ &= 2(t-1)^2(3t-4)(25t+14) \leq 0 \end{aligned}$$

■

問題 6 (Vasile Cîrtoaje)

a, b, c, d は非負の実数で, $a + b + c + d = 4$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$(1 + 3a^2)(1 + 3b^2)(1 + 3c^2)(1 + 3d^2) \leq 255 + a^2b^2c^2d^2$$

(解答) 一般性を失うことなく $0 \leq a \leq b \leq c \leq d$ と仮定できる.

$$f(a, b, c, d) = (1 + 3a^2)(1 + 3b^2)(1 + 3c^2)(1 + 3d^2) - (255 + a^2b^2c^2d^2)$$

とおくと

$$\begin{aligned} & f(a, b, c, d) - f\left(a, \frac{b+d}{2}, c, \frac{b+d}{2}\right) \\ &= (1 + 3a^2)(1 + 3c^2) \left[(1 + 3b^2)(1 + 3d^2) - \left\{ 1 + 3\left(\frac{b+d}{2}\right)^2 \right\}^2 \right] \\ &\quad - a^2c^2 \left\{ b^2d^2 - \left(\frac{b+d}{2}\right)^4 \right\} \\ &= (1 + 3a^2)(1 + 3c^2) \left[-\frac{3(b-d)^2(3b^2 + 18bd + 3d^2 - 8)}{16} \right] \\ &\quad - a^2c^2 \left\{ -\frac{(b-d)^2(b^2 + 6bd + d^2)}{16} \right\} \\ &= \frac{(b-d)^2}{16} \{ a^2c^2(b^2 + 6bd + d^2) - 3(1 + 3a^2)(1 + 3c^2)(3b^2 + 18bd + 3d^2 - 8) \} \end{aligned}$$

$a^2c^2(b^2 + 6bd + d^2) - 3(1 + 3a^2)(1 + 3c^2)(3b^2 + 18bd + 3d^2 - 8) < 0$ を示す.

$A = b^2 + 6bd + d^2$ とおくと, $b + d \geq 2$ だから, $A = (b + d)^2 + 4bd \geq 4$ がなりたつから, $0 < A \leq 3A - 8$

また, $a^2c^2 < 3(1 + 3a^2)(1 + 3c^2)$ だから, $a^2c^2A < 3(1 + 3a^2)(1 + 3c^2)(3A - 8)$ すなわち

$$a^2c^2(b^2 + 6bd + d^2) < 3(1 + 3a^2)(1 + 3c^2)(3b^2 + 18bd + 3d^2 - 8)$$

よって, $f(a, b, c, d) \leq f\left(a, \frac{b+d}{2}, c, \frac{b+d}{2}\right)$

$f(a, b, c, d)$ は b, c, d に関する対称式だから,

$$f(a, b, c, d) \leq f(a, t, t, t), t = \frac{b+c+d}{3}$$

したがって, $0 \leq a \leq 1 \leq t, a + 3t = 4$ のとき

$$(1 + 3a^2)(1 + 3t^2)^3 \leq 255 + a^2t^6$$

を示せばよい。

$$F(t) = (1+3a^2)(1+3t^2)^3 - a^2 t^6 \quad (0 \leqq a \leqq 1 \leqq t, a+3t=4) \text{ とおくと, } a' = -3 \text{ で}$$

$$\begin{aligned} F'(t) &= 6aa'(1+3t^2)^3 + 18t(1+3a^2)(1+3t^2)^2 - 2aa't^6 - 6a^2t^5 \\ &= -18a(1+3t^2)^3 + 18t(1+3a^2)(1+3t^2)^2 + 6at^6 - 6a^2t^5 \\ &= 18(1+3t^2)^2 \{t(1+3a^2) - a(1+3t^2)\} + 6at^5(t-a) \\ &= 18(1+3t^2)^2(t-a)(1-3at) + 6at^5(t-a) \\ &= 6(t-a)[3(1+3t^2)^2(1-3at) + at^5] \\ &= 6(t-a)[3(1+3t^2)^2\{1-3(4-3t)t\} + (4-3t)t^5] \\ &= 6(t-a)(240t^6 - 320t^5 + 189t^4 - 216t^3 + 45t^2 - 36t + 3) \end{aligned}$$

$$g(t) = 240t^6 - 320t^5 + 189t^4 - 216t^3 + 45t^2 - 36t + 3 \quad \left(1 \leqq t \leqq \frac{4}{3}\right) \text{ とおくと}$$

$$\begin{aligned} g'(t) &= 2(720t^5 - 800t^4 + 378t^3 - 324t^2 + 45t - 18) \\ &= 2[(t-1)(720t^4 - 80t^3 + 298t^2 - 26t + 19) + 1] \\ &= 2 \left[(t-1) \left\{ \underbrace{(720t^4 - 80t^3 + 200t^2)}_{>0} + \underbrace{(98t^2 - 26t + 19)}_{>0} \right\} + 1 \right] > 0 \end{aligned}$$

$g(t)$ は増加関数で, $g(1) = -95 < 0$, $g\left(\frac{4}{3}\right) = \frac{361}{3} > 0$ だから, $g(t) = 0$ は $1 < t < \frac{4}{3}$ の範囲でただ 1 つの解をもつ。

これを α とおくと

$$1 \leqq t < \alpha \text{ で } g(t) < 0, \quad \alpha < t \leqq \frac{4}{3} \text{ で } g(t) > 0 \text{ である。}$$

したがって, $F(t)$ の増減は次のようになる。

t	1	\cdots	α	\cdots	$\frac{4}{3}$
$F'(t)$		-	0	+	
$F(t)$		\searrow	極小	\nearrow	

$$F(1) = 255, F\left(\frac{4}{3}\right) = \frac{6859}{27} < 255 \text{ であるから, } F(t) \leqq 255$$

■

問題 7 (Pham Kim Hung)

a, b, c, d は非負の実数で, $a + b + c + d = 4$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$(1 + 2a)(1 + 2b)(1 + 2c)(1 + 2d) \leq 10(a^2 + b^2 + c^2 + d^2) + 41abcd$$

(解答) 一般性を失うことなく $0 \leq a \leq b \leq c \leq d$ と仮定できる.

$f(a, b, c, d) = 10(a^2 + b^2 + c^2 + d^2) + 41abcd - (1 + 2a)(1 + 2b)(1 + 2c)(1 + 2d)$ とおく.

$$\begin{aligned} & f(a, b, c, d) - f\left(a, \frac{b+d}{2}, c, \frac{b+d}{2}\right) \\ &= 10 \left\{ b^2 + d^2 - 2 \left(\frac{b+d}{2} \right)^2 \right\} + 41ac \left\{ bd - \left(\frac{b+d}{2} \right)^2 \right\} \\ &\quad - (1+2a)(1+2c) \left\{ (1+2b)(1+2d) - (1+b+d)^2 \right\} \\ &= 5(b-d)^2 - \frac{41}{4}ac(b-d)^2 + (1+2a)(1+2c)(b-d)^2 \\ &= (b-d)^2 \left\{ 5 - \frac{41}{4}ac + (1+2a)(1+2c) \right\} \\ &= (b-d)^2 \left(6 + 2a + 2c - \frac{25}{4}ac \right) \end{aligned}$$

$6 + 2a + 2c - \frac{25}{4}ac > 0$ を示す.

$(a+c) + (b+d) = 4, a+c \leq b+d$ より $a+c \leq 2$ だから $2 \geq a+c \geq 2\sqrt{ac}$
よって, $ac \leq 1$

また

$$\frac{1}{a} + \frac{1}{c} \geq \frac{4}{a+c} \geq 2$$

より, $a+c \geq 2ac$ が成り立つから

$$\begin{aligned} 6 + 2a + 2c - \frac{25}{4}ac &\geq 6 + 4ac - \frac{25}{4}ac \\ &= 6 - \frac{9}{4}ac \\ &= \frac{9}{4}(1-ac) + \frac{15}{4} > 0 \end{aligned}$$

したがって

$$f(a, b, c, d) - f\left(a, \frac{b+d}{2}, c, \frac{b+d}{2}\right) \geq 0$$

$f(a, b, c, d)$ は b, c, d に関する対称式だから, SMV-Theorem より

$$f(a, b, c, d) \geq f(a, t, t, t), \quad t = \frac{b+c+d}{3}$$

が成り立つ。

$0 \leqq a \leqq 1 \leqq t, a + 3t = 4$ のとき

$$\begin{aligned}f(a, t, t, t) &= 10(a^2 + 3t^2) + 41at^3 - (1 + 2a)(1 + 2t)^3 \\&= 10(4 - 3t)^2 + 30t^2 + 41(4 - 3t)t^3 - \{1 + 2(4 - 3t)\}(1 + 2t)^3 \\&= -75t^4 + 164t^3 + 48t^2 - 288t + 151 \\&= (t - 1)^2(-75t^2 + 14t + 151)\end{aligned}$$

$-75t^2 + 14t + 151 > 0$ を示す。

$1 \leqq t \leqq \frac{4}{3}$ だから

$$75t^2 \leqq 75 \cdot \left(\frac{4}{3}\right)^2 = \frac{400}{3} < 151$$

よって、 $-75t^2 + 14t + 151 > 0$ が成り立つから、 $f(a, t, t, t) \geqq 0$

■

問題 8 (Pham Kim Hung)

a, b, c, d は正の実数で, $a + b + c + d = 4$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$(1 + a^2)(1 + b^2)(1 + c^2)(1 + d^2) \geq \frac{10^4}{9^3}$$

(解 1) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c \leq d$ と仮定できる.

$f(a, b, c, d) = (1 + a^2)(1 + b^2)(1 + c^2)(1 + d^2)$ とおくと

$$\begin{aligned} f(a, b, c, d) - f\left(\frac{a+c}{2}, b, \frac{a+c}{2}, d\right) \\ = (1 + b^2)(1 + d^2) \left[(1 + a^2)(1 + c^2) - \left\{ 1 + \left(\frac{a+c}{2} \right)^2 \right\}^2 \right] \\ = \frac{(1 + b^2)(1 + d^2)(a - c)^2(8 - a^2 - 6ac - c^2)}{16} \end{aligned}$$

$8 - a^2 - 6ac - c^2 \geq 0$ を示す.

$(a + c) + (b + d) = 4, a + c \leq b + d$ より $a + c \leq 2$

相加平均・相乗平均の不等式を使うと

$2 \geq a + c \geq 2\sqrt{ac}$ から $ac \leq 1$

よって

$$a^2 + 6ac + c^2 = (a + c)^2 + 4ac \leq 2^2 + 4 \cdot 1 = 8$$

$8 - a^2 - 6ac - c^2 \geq 0$ が成り立つので

$$f(a, b, c, d) \geq f\left(\frac{a+c}{2}, b, \frac{a+c}{2}, d\right)$$

$f(a, b, c, d)$ a, b, c の対称式だから, SMV-Theorem より

$$f(a, b, c, d) \geq f(t, t, t, d), \quad t = \frac{a+b+c}{3}$$

が成り立つ.

$g(t) = f(t, t, t, d) = (1 + t^2)^3(1 + d^2), 0 < t \leq 1 \leq d, 3t + d = 4$ とおくと

$$\begin{aligned} g'(t) &= 6t(1 + t^2)^2(1 + d^2) + (1 + t^2)^3 \cdot 2dd' \\ &= 6t(1 + t^2)^2(1 + d^2) - 6d(1 + t^2)^3 \\ &= 6(1 + t^2)^2(t - d)(1 - dt) \\ &= 24(1 + t^2)^2(t - 1)^2(3t - 1) \end{aligned}$$

t	0	\dots	$\frac{1}{3}$	\dots	1
$g'(t)$		-	0	+	0
$g(t)$		\searrow	極小	\nearrow	

したがって

$$g(t) \geq g\left(\frac{1}{3}\right) = \frac{10^4}{9^3}$$

■

(解 2) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c \leq d$ と仮定できる.

$f(x) = -\log(1 + x^2)$ ($x \geq 0$) とおくと, 証明すべき不等式は

$$f(a) + f(b) + f(c) + f(d) \leq -\log \frac{10^4}{9^3}$$

となる.

$$f''(x) = \frac{2(x^2 - 1)}{(1 + x^2)^2}$$

から, $f(x)$ は $[0, 1]$ で凹関数, $[1, \infty)$ で凸関数である.

LCRCF-Theorem より, $f(a) + f(b) + f(c) + f(d)$ は $0 < a = b = c \leq d$ のとき最大となる.

$a = b = c = t$ とおくと, $0 < t \leq 1 \leq d$ のとき, $(1 + t^2)^3(1 + d^2) \geq \frac{10^4}{9^3}$ を示せばよい. 後は解 1 参照.

■

問題 9 (Pham Kim Hung)

a, b, c, d, e, f は正の実数で, $a + b + c + d + e + f = 6$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$(1+a^2)(1+b^2)(1+c^2)(1+d^2)(1+e^2)(1+f^2) \geq (1+a)(1+b)(1+c)(1+d)(1+e)(1+f)$$

(解答) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c \leq d \leq e \leq f$ と仮定できる.

$F(x) = \log(1+x) - \log(1+x^2)$ ($x \geq 0$) とおくと, 証明すべき不等式は

$$F(a) + F(b) + F(c) + F(d) + F(e) + F(f) \leq 6F\left(\frac{a+b+c+d+e+f}{6}\right)$$

となる.

$F(x)$ が凹関数となる x の範囲を調べる.

$$F''(x) = \frac{x^4 + 4x^3 - 2x^2 - 4x - 3}{(1+x^2)^2(1+x)^2}$$

$G(x) = x^4 + 4x^3 - 2x^2 - 4x - 3$ とおくと

$$G'(x) = 4x^3 + 12x^2 - 4x - 4, \quad G''(x) = 12x^2 + 24x - 4 = 4(3x^2 + 6x - 1)$$

$$G''(x) = 0 \text{ はただ 1 つの正の解 } \alpha = \frac{-3 + 2\sqrt{3}}{3} \quad (0 < \alpha < 1) \text{ をもち}$$

$0 < x < \alpha$ で $G''(x) < 0$, $\alpha < x$ で $G''(x) > 0$

$G'(0) = -4 < 0$, $G'(1) = 8 > 0$ より $G'(x) = 0$ はただ 1 つの正の解 β ($0 < \beta < 1$) をもち

$0 < x < \beta$ で $G'(x) < 0$, $\beta < x$ で $G'(x) > 0$

$G(1) = -4 < 0$, $G(2) = 29 > 0$ より $g(t) = 0$ はただ 1 つの正の解 γ ($1 < \gamma < 2$) をもち

$0 < x < \gamma$ で $G(x) < 0$, $\gamma < x$ で $G(x) > 0$

よって, $F(x)$ は $[0, \gamma]$ で凹関数である.

$$s = \frac{a+b+c+d+e+f}{6} = 1 < \gamma$$

となる $s = 1$ に対して, $F(x)$ は $x \leq s = 1$ で凹関数である.

LCF-Theorem より $a = b = c = d = e \leq f$ のとき不等式が成り立つことを示せばよい.

$H(a) = 5F(a) + F(f)$ ($0 < a \leq 1 \leq f$, $5a + f = 6$) とおくと, $f' = -5$ で

$$\begin{aligned}
H(a) &= 5 \{ \log(1+a) - \log(1+a^2) \} + \log(1+f) - \log(1+f^2) \\
H'(a) &= 5 \left\{ \frac{1}{1+a} - \frac{2a}{1+a^2} \right\} + \frac{f'}{1+f} - \frac{2ff'}{1+f^2} \\
&= \frac{5}{1+a} - \frac{5}{1+f} - \frac{10a}{1+a^2} + \frac{10f}{1+f^2} \\
&= 5(f-a) \left\{ \frac{1}{(1+a)(1+f)} + \frac{2(1-af)}{(1+a^2)(1+f^2)} \right\} \\
&= 30(1-a) \left[\frac{1}{(1+a)(7-5a)} + \frac{2(5a-1)(a-1)}{(1+a^2)\{1+(6-5a)^2\}} \right] \\
&= 30(1-a) \cdot \frac{-25a^4 + 20a^3 + 98a^2 - 140a + 51}{(1+a)(7-5a)(1+a^2)\{1+(6-5a)^2\}}
\end{aligned}$$

$0 < a \leq 1$ のとき $-25a^4 + 20a^3 + 98a^2 - 140a + 51 > 0$ を示す.

$a = \frac{1}{s}$ とおくと, 証明すべき不等式は

$$51s^4 - 140s^3 + 98s^2 + 20s - 25 > 0$$

となる. $s \geq 1$ だから $t = s-1 (\geq 0)$ とおくと

$$\begin{aligned}
&51s^4 - 140s^3 + 98s^2 + 20s - 25 > 0 \\
&\iff 51(t+1)^4 - 140(t+1)^3 + 98(t+1)^2 + 20(t+1) - 25 > 0 \\
&\iff 51t^4 + 64t^3 - 16t^2 + 4 > 0 \\
&51t^4 + 64t^3 - 16t^2 + 4 = \underbrace{51t^4 - 16t^2 + 4}_{>0} + 64t^3 > 0
\end{aligned}$$

だから, $H'(a) \geq 0$ となる.

$H(a)$ は増加関数で, $0 < a \leq 1$ のとき $H(a) \leq H(1) = 0$

■

問題 10 (Nguyen Minh Duc, IMO Short list)

a, b, c, d は非負の実数で, $a + b + c + d = 1$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$abc + bcd + cda + dab \leq \frac{1}{27} + \frac{176}{27}abcd$$

(初等的な不等式 I 問題 98)

(解 1) 一般性を失うことなく $0 \leq a \leq b \leq c \leq d$ と仮定できる.

$$f(a, b, c, d) = abc + bcd + cda + dab - \frac{176}{27}abcd = ac(b+d) + bd\left(c+a - \frac{176}{27}ca\right)$$

とおくと

$$\begin{aligned} f(a, b, c, d) - f\left(a, \frac{b+d}{2}, c, \frac{b+d}{2}\right) &= \left(c+a - \frac{176}{27}ca\right) \left\{ bd - \left(\frac{b+d}{2}\right)^2 \right\} \\ &= -\frac{(b-d)^2}{4} \left(c+a - \frac{176}{27}ca\right) \end{aligned}$$

$c+a - \frac{176}{27}ca \geq 0$ を示す.

$a+c \leq b+d$, $(a+c)+(b+d)=1$ から $a+c \leq \frac{1}{2}$
 $a \neq 0$ のとき

$$\frac{1}{a} + \frac{1}{c} \geq \frac{4}{a+c} \geq 8 > \frac{176}{27} \quad \text{ゆえに} \quad c+a > \frac{176}{27}ca$$

$a=0$ のとき

$$c+a - \frac{176}{27}ca = c \geq 0$$

したがって $c+a - \frac{176}{27}ca \geq 0$ なので

$$f(a, b, c, d) \leq f\left(a, \frac{b+d}{2}, c, \frac{b+d}{2}\right)$$

$f(a, b, c, d)$ は b, c, d についての対称式であるから, SMV-Theorem より

$$f(a, b, c, d) \leq f(a, t, t, t), \quad t = \frac{b+c+d}{3}$$

このことから, $a+3t=1$, $a \leq \frac{1}{4} \leq t \leq \frac{1}{3}$ のとき

$$3at^2 + t^3 \leq \frac{1}{27} + \frac{176}{27}at^3$$

を示せばよい.

$$\begin{aligned}
\frac{1}{27} + \frac{176}{27}at^3 - (3at^2 + t^3) &= \frac{1}{27} + \frac{176}{27}(1-3t)t^3 - 3(1-3t)t^2 - t^3 \\
&= \frac{1}{27} \cdot \{176(1-3t)t^3 + 1 - 27t^3 - 81(1-3t)t^2\} \\
&= \frac{1-3t}{27} \cdot (176t^3 + 1 + 3t + 9t^2 - 81t^2) \\
&= \frac{1-3t}{27} \cdot (176t^3 - 72t^2 + 3t + 1) \\
&= \frac{(1-3t)(4t-1)^2(11t+1)}{27} \geq 0
\end{aligned}$$

よって

$$3at^2 + t^3 \leq \frac{1}{27} + \frac{176}{27}at^3$$

は成り立つ. ■

(解 2) 一般性を失うことなく $0 \leqq a \leqq b \leqq c \leqq d$ と仮定できる.

$a = 0$ のとき

$b, c, d \geqq 0, b+c+d=1$ のとき $bcd \leqq \frac{1}{27}$ を示せばよい.

これは相加平均・相乗平均の不等式を使うと

$$\frac{1}{3} = \frac{b+c+d}{3} \geqq \sqrt[3]{bcd}$$

から $bcd \leqq \left(\frac{1}{3}\right)^3 \leqq \frac{1}{27}$ が得られる.

$0 < a \leqq b \leqq c \leqq d$ の場合

$$\begin{aligned}
abc + bcd + cda + dab &\leqq \frac{1}{27} + \frac{176}{27}abcd \\
\iff \frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} + \frac{1}{d} &\leqq \frac{1}{27abcd} + \frac{176}{27}
\end{aligned}$$

系 2.8 ($p=0, q=-1$) を適用する.

$$a+b+c+d = \text{constant}, abcd = \text{constant}$$

ならば, $\frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} + \frac{1}{d}$ は $0 < a \leqq b = c = d$ のとき最大となる. 後は解 1 参照. ■

問題 11 a, b, c, d は非負の実数で, $a + b + c + d = 4$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$16 + 2abcd \geq 3(ab + ac + ad + bc + bd + cd)$$

(解 1) 一般性を失うことなく $0 \leq a \leq b \leq c \leq d$ と仮定できる.

$$\begin{aligned} f(a, b, c, d) &= 16 + 2abcd - 3(ab + ac + ad + bc + bd + cd) \\ &= 16 + 2abcd - 3\{a(b+c+d) + c(b+d) + bd\} \end{aligned}$$

とおくと

$$\begin{aligned} &f(a, b, c, d) - f\left(a, \frac{b+d}{2}, c, \frac{b+d}{2}\right) \\ &= 2ac\left\{bd - \left(\frac{b+d}{2}\right)^2\right\} + 3\left\{\left(\frac{b+d}{2}\right)^2 - bd\right\} \\ &= \frac{(b-d)^2}{4}(3-2ac) \end{aligned}$$

$3-2ac > 0$ が成り立つことを示す.

$$a+c \leq b+d, (a+c)+(b+d) = 4 \text{ から } a+c \leq 2$$

よって, $2 \geq a+c \geq 2\sqrt{ac}$ から $ac \leq 1$ となるので, $3 > 2 \geq 2ac$

以上のことから, $f(a, b, c, d) \geq f\left(a, \frac{b+d}{2}, c, \frac{b+d}{2}\right)$ が成り立つ.

$f(a, b, c, d)$ は b, c, d に関する対称式だから, SMV-Theorem より

$$f(a, b, c, d) \geq f(a, t, t, t), \quad t = \frac{b+c+d}{3}$$

$0 \leq a \leq 1 \leq t \leq \frac{4}{3}$, $a+3t=4$ のとき

$$\begin{aligned} f(a, t, t, t) &= 16 + 2at^3 - 3(3at + 3t^2) = 16 + 2(4-3t)t^3 - 9(4-3t)t - 9t^2 \\ &= -6t^4 + 8t^3 + 18t^2 - 36t + 16 \\ &= 2(t-1)^2(4-3t)(t+2) \geq 0 \end{aligned}$$
■

(解 2) 系 2.8 ($p=0, q=2$) を適用する.

一般性を失うことなく $0 \leq a \leq b \leq c \leq d$ と仮定できる.

$a \neq 0$ の場合

$$\begin{aligned} &16 + 2abcd \geq 3(ab + ac + ad + bc + bd + cd) \\ \iff &16 + 2abcd \geq \frac{3\{(a+b+c+d)^2 - (a^2 + b^2 + c^2 + d^2)\}}{2} \end{aligned}$$

$$a + b + c + d = 4, abcd = \text{constant}$$

ならば, $a^2 + b^2 + c^2 + d^2$ は $0 < a \leqq b = c = d$ のとき最小となる. 残りは解 1 参照.

$a = 0$ の場合

$b + c + d = 4$ のとき, $16 \geqq 3(bc + cd + db)$ を示せばよい.

これは, $(x + y + z)^2 \geqq 3(xy + yz + zx)$ を用いると

$$16 = (b + c + d)^2 \geqq 3(bc + cd + db)$$

からいえる. ■

問題 12 a, b, c, d, e は非負の実数で, $a + b + c + d + e = 5$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$4(a^2 + b^2 + c^2 + d^2 + e^2) + 5abcde \geq 25$$

(解 1) 一般性を失うことなく $0 \leq a \leq b \leq c \leq d \leq e$ と仮定できる.

$f(a, b, c, d, e) = 4(a^2 + b^2 + c^2 + d^2 + e^2) + 5abcde$ とおくと

$$\begin{aligned} & f(a, b, c, d, e) - f\left(a, \frac{b+e}{2}, c, d, \frac{b+e}{2}\right) \\ &= 4 \left\{ b^2 + e^2 - 2 \left(\frac{b+e}{2}\right)^2 \right\} + 5acd \left\{ be - \left(\frac{b+e}{2}\right)^2 \right\} \\ &= 2(b-e)^2 - \frac{5acd(b-e)^2}{4} \\ &= \frac{(b-e)^2}{4}(8 - 5acd) \end{aligned}$$

$8 - 5acd > 0$ を示す.

$$3\sqrt[3]{acd} \leq a + c + d \leq \frac{2}{3}(a + b + c + d + e) = \frac{10}{3}$$

から

$$acd \leq \left(\frac{10}{9}\right)^3 < \frac{8}{5}$$

よって, $f(a, b, c, d, e) \geq f\left(a, \frac{b+e}{2}, c, d, \frac{b+e}{2}\right)$ が成り立つ.

SMV-Theorem より

$$f(a, b, c, d, e) \geq f(a, t, t, t, t), \quad t = \frac{b+c+d+e}{4}$$

$0 \leq a \leq 1 \leq t, a + 4t = 5$ のとき $4(a^2 + 4t^2) + 5at^4 \geq 25$ を示せばよい.

$$\begin{aligned} 4(a^2 + 4t^2) + 5at^4 - 25 &= 16t^2 - 25 + a(4a + 5t^4) \\ &= -a(4t + 5) + a(4a + 5t^4) \\ &= a \{4(a-t) + 5(t-1)(t^3 + t^2 + t + 1)\} \\ &= a \{4(a-t) - (a-t)(t^3 + t^2 + t + 1)\} \\ &= a(a-t) \{4 - (t^3 + t^2 + t + 1)\} \\ &= a(t-a)(t^3 + t^2 + t - 3) \\ &= a(t-a)(t-1)(t^2 + 2t + 3) \geq 0 \end{aligned}$$

■

(解 2) 系 2.8 ($p = 0, q = 2$) を適用する.

一般性を失うことなく $0 \leqq a \leqq b \leqq c \leqq d \leqq e$ と仮定できる.

$a \neq 0$ の場合

$$a + b + c + d + e = 5, abcde = \text{constant}$$

ならば, $a^2 + b^2 + c^2 + d^2 + e^2$ は $0 < a \leqq b = c = d = e$ のとき最小となる.

$0 < a \leqq 1 \leqq t, a + 4t = 5$ のとき $4(a^2 + 4t^2) + 5at^4 \geqq 25$ を示せばよい.

$$\begin{aligned} 4(a^2 + 4t^2) + 5at^4 - 25 &= 16t^2 - 25 + a(4a + 5t^4) \\ &= -a(4t + 5) + a(4a + 5t^4) \\ &= a \{ 4(a - t) + 5(t - 1)(t^3 + t^2 + t + 1) \} \\ &= a \{ 4(a - t) - (a - t)(t^3 + t^2 + t + 1) \} \\ &= a(a - t) \{ 4 - (t^3 + t^2 + t + 1) \} \\ &= a(t - a)(t^3 + t^2 + t - 3) \\ &= a(t - a)(t - 1)(t^2 + 2t + 3) \geqq 0 \end{aligned}$$

$a = 0$ の場合

証明すべき不等式は

$$4(b^2 + c^2 + d^2 + e^2) \geqq 25$$

となる. これはコーチー・シュワルツの不等式を使うと

$$(1^2 + 1^2 + 1^2 + 1^2)(b^2 + c^2 + d^2 + e^2) \geqq (b + c + d + e)^2 = 25$$

から成り立つことがわかる. ■

問題 13 (Turkevici's Inequality)

a, b, c, d は正の実数のとき、次の不等式を証明せよ。

$$a^4 + b^4 + c^4 + d^4 + 2abcd \geq a^2b^2 + b^2c^2 + c^2d^2 + d^2a^2 + a^2c^2 + b^2d^2$$

(初等的な不等式 I 問題 125)

(解 1) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c \leq d$ と仮定できる。

$$\begin{aligned} f(a, b, c, d) &= a^4 + b^4 + c^4 + d^4 + 2abcd - (a^2b^2 + b^2c^2 + c^2d^2 + d^2a^2 + a^2c^2 + b^2d^2) \\ &= a^4 + b^4 + c^4 + d^4 + 2abcd - (a^2 + c^2)(b^2 + d^2) - a^2c^2 - b^2d^2 \end{aligned}$$

とおくと

$$\begin{aligned} f(a, b, c, d) - f(a, \sqrt{bd}, c, \sqrt{bd}) &= b^4 + d^4 - 2b^2d^2 - (a^2 + c^2)(b^2 + d^2 - 2bd) \\ &= (b^2 - d^2)^2 - (a^2 + c^2)(b - d)^2 \\ &= (b - d)^2 \{(b + d)^2 - (a^2 + c^2)\} \\ &= (b - d)^2 \{(b^2 - a^2) + (d^2 - c^2) + 2bd\} \geq 0 \end{aligned}$$

から

$$f(a, b, c, d) \geq f(a, \sqrt{bd}, c, \sqrt{bd})$$

$f(a, b, c, d)$ は b, c, d に関する対称式だから、SMV-Theorem より

$$f(a, b, c, d) \geq f(a, t, t, t), t = \sqrt[3]{bcd}$$

したがって、 $a, t > 0, a \leq t$ のとき $f(a, t, t, t) \geq 0$ を示せばよい。

$$\begin{aligned} f(a, t, t, t) &= a^4 + 3t^4 + 2at^3 - (3t^4 + 3a^2t^2) \\ &= a^4 + 2at^3 - 3a^2t^2 \\ &= a(a - t)^2(a + 2t) \geq 0 \end{aligned}$$

よって、 $f(a, t, t, t) \geq 0$

■

(解 2) 系 2.8 ($p = 0, q = 2$) を適用する。

一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c \leq d$ と仮定できる。

$A = a^2, B = b^2, C = c^2, D = d^2$ とおくと、証明すべき不等式は、 $A, B, C, D > 0$ のとき

$$A^2 + B^2 + C^2 + D^2 + 2\sqrt{ABCD} \geq AB + BC + CD + DA + AC + BD$$

となる。

$$\begin{aligned} A^2 + B^2 + C^2 + D^2 + 2\sqrt{ABCD} &\geq AB + BC + CD + DA + AC + BD \\ \iff A^2 + B^2 + C^2 + D^2 + 2\sqrt{ABCD} &\geq \frac{(A+B+C+D)^2 - (A^2 + B^2 + C^2 + D^2)}{2} \\ \iff 3(A^2 + B^2 + C^2 + D^2) + 4\sqrt{ABCD} &\geq (A+B+C+D)^2 \end{aligned}$$

だから

$$A + B + C + D = \text{constant}, \quad ABCD = \text{costant}$$

ならば、 $A^2 + B^2 + C^2 + D^2$ は $0 < A \leqq B = C = D$ のとき最小となる。

よって、 $0 < a \leqq b = c = d$ のときを考えればよい。後は解 1 参照。 ■

問題 14 (CGMO 2011)

a, b, c, d は正の実数で, $abcd = 1$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$\frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} + \frac{1}{d} + \frac{9}{a+b+c+d} \geq \frac{25}{4}$$

(解 1) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c \leq d$ と仮定できる.

$$f(a, b, c, d) = \frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} + \frac{1}{d} + \frac{9}{a+b+c+d}$$

とおく.

$$\begin{aligned} & f(a, b, c, d) - f(\sqrt{ac}, b, \sqrt{ac}, d) \\ &= \frac{1}{a} + \frac{1}{c} - \frac{2}{\sqrt{ac}} + \frac{9}{a+b+c+d} - \frac{9}{b+d+2\sqrt{ac}} \\ &= \frac{(\sqrt{a} - \sqrt{c})^2}{ac} - \frac{9(\sqrt{a} - \sqrt{c})^2}{(a+b+c+d)(b+d+2\sqrt{ac})} \\ &= \frac{(\sqrt{a} - \sqrt{c})^2 \{(a+b+c+d)(b+d+2\sqrt{ac}) - 9ac\}}{ac(a+b+c+d)(b+d+2\sqrt{ac})} \end{aligned}$$

$0 < a \leq b \leq c \leq d$ 且 $a+c \geq 2\sqrt{ac}$ を使うと

$$\begin{aligned} (a+b+c+d)(b+d+2\sqrt{ac}) &\geq (2a+2c)(a+c+2\sqrt{ac}) \\ &\geq 4\sqrt{ac}(2\sqrt{ac}+2\sqrt{ac}) \\ &= 16ac > 9ac \end{aligned}$$

よって, $f(a, b, c, d) \geq f(\sqrt{ac}, b, \sqrt{ac}, d)$

$f(a, b, c, d)$ は a, b, c に関する対称式だから, SMV-Theorem より

$$f(a, b, c, d) \geq f(\sqrt[3]{abc}, \sqrt[3]{abc}, \sqrt[3]{abc}, d)$$

$x = \sqrt[3]{abc}, y = d$ とおくと, $0 < x \leq 1 \leq y, x^3y = 1$ のとき

$$\frac{3}{x} + \frac{1}{y} + \frac{9}{3x+y} \geq \frac{25}{4}$$

を示せばよい.

$$x^3y = 1 \text{ の両辺を } x \text{ で微分することにより } y' = -\frac{3y}{x}$$

$$g(x) = \frac{3}{x} + \frac{1}{y} + \frac{9}{3x+y} \text{ とおくと}$$

$$\begin{aligned} g'(x) &= -\frac{3}{x^2} - \frac{y'}{y^2} - \frac{9(3+y')}{(3x+y)^2} \\ &= -\frac{3}{x^2} + \frac{3}{xy} - \frac{27(x-y)}{x(3x+y)^2} \\ &= \frac{3(x-y)(9x^2 - 3xy + y^2)}{x^2y(3x+y)^2} \leqq 0 \end{aligned}$$

$g(x)$ は減少関数で, $0 < x \leq 1$ のとき $g(x) \geq g(1) = \frac{25}{4}$

■

(解 2) 系 2.8 ($p = 0, q = -1$) を適用する.

一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c \leq d$ と仮定できる.

$$a+b+c+d = \text{constant}, \quad abcd = 1$$

ならば, $\frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} + \frac{1}{d}$ は $0 < a = b = c \leq d$ のとき最小となる. 後は解 1 参照.

■

問題 15 (AoPS Forum)

a, b, c, d, e は正の実数で, $abcde = 1$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$\frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} + \frac{1}{d} + \frac{1}{e} + \frac{16}{a+b+c+d+e} \geq \frac{41}{5}$$

(解 1) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c \leq d \leq e$ と仮定できる.

$$f(a, b, c, d, e) = \frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} + \frac{1}{d} + \frac{1}{e} + \frac{16}{a+b+c+d+e} - \frac{41}{5}$$

とおくと

$$\begin{aligned} & f(a, b, c, d, e) - f(\sqrt{ad}, b, c, \sqrt{ad}, e) \\ &= \frac{1}{a} + \frac{1}{d} - \frac{2}{\sqrt{ad}} + \frac{16}{a+b+c+d+e} - \frac{16}{b+c+e+2\sqrt{ad}} \\ &= \frac{(\sqrt{a} - \sqrt{d})^2}{ad} - \frac{16(\sqrt{a} - \sqrt{d})^2}{(a+b+c+d+e)(b+c+e+2\sqrt{ad})} \\ &= (\sqrt{a} - \sqrt{d})^2 \cdot \frac{(a+b+c+d+e)(b+c+e+2\sqrt{ad}) - 16ad}{ad(a+b+c+d+e)(b+c+e+2\sqrt{ad})} \end{aligned}$$

$(a+b+c+d+e)(b+c+e+2\sqrt{ad}) - 16ad > 0$ を示す.

相加平均・相乗平均の不等式を使うと

$$\begin{aligned} (a+b+c+d+e)(b+c+e+2\sqrt{ad}) &\geq (3a+2d)(2a+d+2\sqrt{ad}) \\ &\geq 2\sqrt{6ad}(2\sqrt{2ad} + 2\sqrt{ad}) \\ &= 4\sqrt{6}(\sqrt{2}+1)ad > 16ad \end{aligned}$$

よって

$$f(a, b, c, d, e) \geq f(\sqrt{ad}, b, c, \sqrt{ad}, e)$$

$f(a, b, c, d, e)$ は a, b, c, d に関する対称式だから, SMV-Theorem より

$$f(a, b, c, d, e) \geq f(t, t, t, t, e), t = \sqrt[4]{abcd}$$

$0 < t \leq 1 \leq e, t^4 e = 1$ のとき

$$\frac{4}{t} + \frac{1}{e} + \frac{16}{4t+e} \geq \frac{41}{5}$$

を示せばよい.

$$\begin{aligned} & \frac{4}{t} + \frac{1}{e} + \frac{16}{4t+e} \geq \frac{41}{5} \\ \iff & \frac{4}{t} + t^4 + \frac{16t^4}{1+4t^5} \geq \frac{41}{5} \end{aligned}$$

$$g(t) = \frac{4}{t} + t^4 + \frac{16t^4}{1+4t^5} \quad (0 < t \leq 1) \text{ とおくと}$$

$$\begin{aligned} g'(t) &= 4t^3 - \frac{4}{t^2} - \frac{64(t^8 - t^3)}{(1+4t^5)^2} \\ &= 4(t^5 - 1) \cdot \frac{(1+4t^5)^2 - 16t^5}{t^2(1+4t^5)^2} \\ &= \frac{4(t^5 - 1)(4t^5 - 1)^2}{t^2(1+4t^5)^2} \leq 0 \end{aligned}$$

$g(t)$ は減少関数で, $(0, 1]$ で $g(t) \geq g(1) = \frac{41}{5}$

■

(解 2) 系 2.8 ($p = 0, q = -1$) を適用する.

一般性を失うことなく $0 < a \leqq b \leqq c \leqq d \leqq e$ と仮定できる.

$$a + b + c + d + e = \text{constant}, \quad abcde = 1$$

ならば, $\frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} + \frac{1}{d} + \frac{1}{e}$ は $0 < a = b = c = d \leqq e$ のとき最小となる. 後は解 1 参照.

■

問題 16 (Vasile Cîrtoaje)

正の実数 x_1, x_2, \dots, x_n は $x_1 x_2 \cdots x_n = 1$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$\frac{1}{x_1} + \frac{1}{x_2} + \cdots + \frac{1}{x_n} + \frac{4n}{n + x_1 + x_2 + \cdots + x_n} \geq n + 2$$

(解 1) 一般性を失うことなく $0 < x_1 \leq x_2 \leq \cdots \leq x_n$ と仮定できる.

$$f(x_1, x_2, \dots, x_n) = \frac{1}{x_1} + \frac{1}{x_2} + \cdots + \frac{1}{x_n} + \frac{4n}{n + x_1 + x_2 + \cdots + x_n}$$

とおき

$$f(x_1, x_2, \dots, x_n) - f(\sqrt{x_1 x_{n-1}}, x_2, \dots, x_{n-2}, \sqrt{x_1 x_{n-1}}, x_n) \geq 0$$

を示す.

$$\begin{aligned} & f(x_1, x_2, \dots, x_n) - f(\sqrt{x_1 x_{n-1}}, x_2, \dots, x_{n-2}, \sqrt{x_1 x_{n-1}}, x_n) \\ &= \frac{1}{x_1} + \frac{1}{x_{n-1}} - \frac{2}{\sqrt{x_1 x_{n-1}}} + \frac{4n}{n + x_1 + x_2 + \cdots + x_n} \\ &\quad - \frac{4n}{n + \sqrt{x_1 x_{n-1}} + x_2 + x_3 + \cdots + x_{n-2} + \sqrt{x_1 x_{n-1}} + x_n} \\ &= \frac{(\sqrt{x_1} - \sqrt{x_{n-1}})^2}{x_1 x_{n-1}} \\ &\quad - \frac{4n(\sqrt{x_1} - \sqrt{x_{n-1}})^2}{(n + x_1 + x_2 + \cdots + x_n)(n + 2\sqrt{x_1 x_{n-1}} + x_2 + x_3 + \cdots + x_{n-2} + x_n)} \\ &= (\sqrt{x_1} - \sqrt{x_{n-1}})^2 \\ &\quad \times \frac{(n + x_1 + x_2 + \cdots + x_n)(n + 2\sqrt{x_1 x_{n-1}} + x_2 + x_3 + \cdots + x_{n-2} + x_n) - 4nx_1 x_{n-1}}{x_1 x_{n-1}(n + x_1 + x_2 + \cdots + x_n)(n + 2\sqrt{x_1 x_{n-1}} + x_2 + x_3 + \cdots + x_{n-2} + x_n)} \\ &= (n + x_1 + x_2 + \cdots + x_n)(n + 2\sqrt{x_1 x_{n-1}} + x_2 + x_3 + \cdots + x_{n-2} + x_n) - 4nx_1 x_{n-1} > 0 \quad (*) \end{aligned}$$

を示す.

$n = 3$ のとき

$$x_3 \geq 1 \text{ だから } x_1 x_2 = \frac{1}{x_3} \leq 1$$

$$\begin{aligned} (3 + x_1 + x_2 + x_3)(3 + 2\sqrt{x_1 x_2} + x_3) &\geq (3 + x_1 + 2x_2)(3 + 2\sqrt{x_1 x_2} + x_2) \\ &> 3(x_1 + x_2) + 6\sqrt{x_1 x_2} \\ &\geq 6\sqrt{x_1 x_2} + 6\sqrt{x_1 x_2} \\ &= 12\sqrt{x_1 x_2} \geq 12x_1 x_2 \end{aligned}$$

から, (*) は成り立つ.

$n \geqq 4$ の場合

$$\begin{aligned}
& (n + x_1 + x_2 + \cdots + x_n)(n + 2\sqrt{x_1 x_{n-1}} + x_2 + x_3 + \cdots + x_{n-2} + x_n) \\
& \geqq \{n + (n-2)x_1 + 2x_{n-1}\} \{n + 2\sqrt{x_1 x_{n-1}} + (n-3)x_1 + x_{n-1}\} \\
& > (n-2)(n-3)x_1^2 + 2x_{n-1}^2 + \{(n-2)x_1 + 2x_{n-1}\} \cdot 2\sqrt{x_1 x_{n-1}} + (3n-8)x_1 x_{n-1} \\
& \geqq 2\sqrt{2(n-2)(n-3)}x_1 x_{n-1} + 2\sqrt{2(n-2)x_1 x_{n-1}} \cdot 2\sqrt{x_1 x_{n-1}} + (3n-8)x_1 x_{n-1} \\
& = \left\{ 2\sqrt{2(n-2)(n-3)} + 4\sqrt{2(n-2)} + 3n - 8 \right\} x_1 x_{n-1} \\
& \geqq \left\{ 2\sqrt{2(n-2)(n-3)} + 4\sqrt{2(4-2)} + 3n - 8 \right\} x_1 x_{n-1} \\
& = \left\{ 2\sqrt{2(n-2)(n-3)} + 3n \right\} x_1 x_{n-1}
\end{aligned}$$

だから

$$2\sqrt{2(n-2)(n-3)} + 3n \geqq 4n$$

を示す.

$$\begin{aligned}
2\sqrt{2(n-2)(n-3)} + 3n \geqq 4n & \iff 2\sqrt{2(n-2)(n-3)} \geqq n \\
& \iff 8(n-2)(n-3) \geqq n^2 \\
& \iff 7n^2 - 40n + 48 \geqq 0 \\
& \iff (7n-12)(n-4) \geqq 0
\end{aligned}$$

より、(*) は成り立つ.

よって、 $f(x_1, x_2, \dots, x_n) \geqq f(\sqrt{x_1 x_{n-1}}, x_2, \dots, x_{n-2}, \sqrt{x_1 x_{n-1}}, x_n)$
 $f(x_1, x_2, \dots, x_n)$ は x_1, x_2, \dots, x_{n-1} に関する対称式だから、SMV-Theorem より

$$f(x_1, x_2, \dots, x_n) \geqq f(t, t, \dots, t, x_n), t = \sqrt[n-1]{x_1 x_2 \cdots x_{n-1}}$$

したがって、 $0 < t \leqq 1 \leqq x_n, t^{n-1} x_n = 1$ のとき

$f(t, t, \dots, t, x_n) \geqq n+2$ を示せばよい.

$$\begin{aligned}
f(t, t, \dots, t, x_n) &= \frac{n-1}{t} + \frac{1}{x_n} + \frac{4n}{n + (n-1)t + x_n} \\
&= \frac{n-1}{t} + t^{n-1} + \frac{4nt^{n-1}}{nt^{n-1} + (n-1)t^n + 1}
\end{aligned}$$

$$g(t) = \frac{n-1}{t} + t^{n-1} + \frac{4nt^{n-1}}{(n-1)t^n + nt^{n-1} + 1} \quad (0 < t \leq 1) \text{ とおくと}$$

$$\begin{aligned} g'(t) &= -\frac{n-1}{t^2} + (n-1)t^{n-2} + \frac{4n(n-1)(t^{n-2} - t^{2n-2})}{\{(n-1)t^n + nt^{n-1} + 1\}^2} \\ &= \frac{(n-1)(t^n - 1)}{t^2} - \frac{4n(n-1)(t^n - 1)t^{n-2}}{\{(n-1)t^n + nt^{n-1} + 1\}^2} \\ &= (n-1)(t^n - 1) \left[\frac{1}{t^2} - \frac{4nt^{n-2}}{\{(n-1)t^n + nt^{n-1} + 1\}^2} \right] \\ &= \frac{(n-1)(t^n - 1) \{(n-1)^2 t^{2n} + (2n^2 - 2n)t^{2n-1} + n^2 t^{2n-2} - (2n+2)t^n + 2nt^{n-1} + 1\}}{t^2 \{(n-1)t^n + nt^{n-1} + 1\}^2} \end{aligned}$$

ここで

$$\begin{aligned} &(n-1)^2 t^{2n} + (2n^2 - 2n)t^{2n-1} + n^2 t^{2n-2} - (2n+2)t^n + 2nt^{n-1} + 1 \\ &= (n^2 - 2n)t^{2n} + (t^n - 1)^2 + 2nt^{n-1}(1-t) + (2n^2 - 2n)t^{2n-1} + n^2 t^{2n-2} > 0 \end{aligned}$$

だから, $g'(t) \leq 0$

$g(t)$ は減少関数で, $0 < t \leq 1$ のとき, $g(t) \geq g(1) = n+2$ ■

(解 2) 系 2.8 ($p=0, q=-1$) を適用する.

一般性を失うことなく $0 < x_1 \leq x_2 \leq \dots \leq x_n$ と仮定できる.

$$x_1 + x_2 + \dots + x_n = \text{constant}, \quad x_1 x_2 \cdots x_n = 1$$

ならば, $\frac{1}{x_1} + \frac{1}{x_2} + \dots + \frac{1}{x_n}$ は $0 < x_1 = x_2 = \dots = x_{n-1} \leq x_n$ のとき最小となる.

後は解 1 参照. ■

問題 17 n は 4 以上の正の整数で、正の実数 x_1, x_2, \dots, x_n は $x_1 x_2 \cdots x_n = 1$ を満たすとき、次の不等式を証明せよ。

$$\frac{1}{x_1} + \frac{1}{x_2} + \cdots + \frac{1}{x_n} + \frac{3n}{x_1 + x_2 + \cdots + x_n} \geq n + 3$$

(解 1) 一般性を失うことなく $0 < x_1 \leq x_2 \leq \cdots \leq x_n$ と仮定できる。

$$f(x_1, x_2, \dots, x_n) = \frac{1}{x_1} + \frac{1}{x_2} + \cdots + \frac{1}{x_n} + \frac{3n}{x_1 + x_2 + \cdots + x_n}$$

とおき、 $f(x_1, x_2, \dots, x_n) - f(\sqrt{x_1 x_{n-1}}, x_2, \dots, x_{n-2}, \sqrt{x_1 x_{n-1}}, x_n) \geq 0$ を示す。

$$\begin{aligned} & f(x_1, x_2, \dots, x_n) - f(\sqrt{x_1 x_{n-1}}, x_2, \dots, x_{n-2}, \sqrt{x_1 x_{n-1}}, x_n) \\ &= \frac{1}{x_1} + \frac{1}{x_{n-1}} - \frac{2}{\sqrt{x_1 x_{n-1}}} \\ &\quad + \frac{3n}{x_1 + x_2 + \cdots + x_n} - \frac{3n}{\sqrt{x_1 x_{n-1}} + x_2 + x_3 + \cdots + x_{n-2} + \sqrt{x_1 x_{n-1}} + x_n} \\ &= \frac{(\sqrt{x_1} - \sqrt{x_{n-1}})^2}{x_1 x_{n-1}} \\ &\quad - \frac{3n(\sqrt{x_1} - \sqrt{x_{n-1}})^2}{(x_1 + x_2 + \cdots + x_n)(2\sqrt{x_1 x_{n-1}} + x_2 + x_3 + \cdots + x_{n-2} + x_n)} \\ &= (\sqrt{x_1} - \sqrt{x_{n-1}})^2 \\ &\quad \times \frac{(x_1 + x_2 + \cdots + x_n)(2\sqrt{x_1 x_{n-1}} + x_2 + x_3 + \cdots + x_{n-2} + x_n) - 3nx_1 x_{n-1}}{x_1 x_{n-1}(x_1 + x_2 + \cdots + x_n)(2\sqrt{x_1 x_{n-1}} + x_2 + x_3 + \cdots + x_{n-2} + x_n)} \end{aligned}$$

$0 < x_1 \leq x_2 \leq \cdots \leq x_n$ と相加平均・相乗平均の不等式を使うと

$$\begin{aligned} & (x_1 + x_2 + \cdots + x_n)(2\sqrt{x_1 x_{n-1}} + x_2 + x_3 + \cdots + x_{n-2} + x_n) \\ & \geq \{(n-2)x_1 + 2x_{n-1}\}\{(n-3)x_1 + x_{n-1} + 2\sqrt{x_1 x_{n-1}}\} \\ &= (n-2)(n-3)x_1^2 + 2x_{n-1}^2 + (3n-8)x_1 x_{n-1} + 2\{(n-2)x_1 + 2x_{n-1}\}\sqrt{x_1 x_{n-1}} \\ &> (3n-8)x_1 x_{n-1} + 2 \cdot 2\sqrt{2(n-2)x_1 x_{n-1}} \cdot \sqrt{x_1 x_{n-1}} \\ &= \left\{(3n-8) + 4\sqrt{2(n-2)}\right\} x_1 x_{n-1} \\ &\geq \left\{(3n-8) + 4\sqrt{2(4-2)}\right\} x_1 x_{n-1} \\ &= 3nx_1 x_{n-1} \end{aligned}$$

したがって、 $f(x_1, x_2, \dots, x_n) \geq f(\sqrt{x_1 x_{n-1}}, x_2, \dots, x_{n-2}, \sqrt{x_1 x_{n-1}}, x_n)$ が成り立つ。
 $f(x_1, x_2, \dots, x_n)$ は x_1, x_2, \dots, x_{n-1} の対称式だから、SMV-Theorem より

$$f(x_1, x_2, \dots, x_n) \geq f(x, x, \dots, x, x_n), \quad x = \sqrt[n-1]{x_1 x_2 \cdots x_{n-1}}$$

が成り立つ。

$y = x_n$ とおき, $0 < x \leq 1 \leq y, x^{n-1}y = 1$ のとき

$f(x, x, \dots, x, y) \geq n + 3$ を示せばよい。

$$\begin{aligned} f(x, x, \dots, x, y) &= \frac{n-1}{x} + \frac{1}{y} + \frac{3n}{(n-1)x+y} \\ &= \frac{n-1}{x} + x^{n-1} + \frac{3n}{(n-1)x + \frac{1}{x^{n-1}}} \\ &= \frac{n-1}{x} + x^{n-1} + \frac{3nx^{n-1}}{(n-1)x^n + 1} \\ g(x) &= \frac{n-1}{x} + x^{n-1} + \frac{3nx^{n-1}}{(n-1)x^n + 1} \quad (0 < x \leq 1) \end{aligned}$$

とおくと

$$\begin{aligned} g'(x) &= (n-1)x^{n-2} - \frac{n-1}{x^2} - \frac{3n\{(n-1)x^{2n-2} - (n-1)x^{n-2}\}}{\{(n-1)x^n + 1\}^2} \\ &= \frac{(n-1)(x^n - 1)}{x^2} - \frac{3n(n-1)x^{n-2}(x^n - 1)}{\{(n-1)x^n + 1\}^2} \\ &= \frac{(n-1)(x^n - 1) \left[\{(n-1)x^n + 1\}^2 - 3nx^n \right]}{x^2 \{(n-1)x^n + 1\}^2} \end{aligned}$$

不等式 $(a+b)^2 \geq 4ab$ を用いると

$$\{(n-1)x^n + 1\}^2 \geq 4 \cdot 1 \cdot (n-1)x^n \geq 3nx^n$$

よって, $g'(x) \leq 0$ から $g(x)$ は減少関数で, $g(x) \geq g(1) = n + 3$ ■

(解 2) 系 2.8 (p=0,q=-1) を適用する。 $0 < x_1 \leq x_2 \leq \dots \leq x_n$ で

$$x_1 + x_2 + \dots + x_n = \text{constant}, \quad x_1 x_2 \cdots x_n = 1$$

ならば, $\frac{1}{x_1} + \frac{1}{x_2} + \dots + \frac{1}{x_n}$ は $0 < x_1 = x_2 = x_3 = \dots = x_{n-1} \leq x_n$ のとき最小となる。

しがって, $0 < x \leq 1 \leq y, x^{n-1}y = 1$ のとき

$$\frac{n-1}{x} + \frac{1}{y} + \frac{3n}{(n-1)x+y} \geq n+3$$

を示せばよい。

$$g(x) = \frac{n-1}{x} + \frac{1}{y} + \frac{3n}{(n-1)x+y} \quad (0 < x \leq 1 \leq y, x^{n-1}y = 1) \text{ とおく。}$$

$y = \frac{1}{x^{n-1}}$ を用いて y を消去できるが（解 1 参照），ここではこのまま解いてみる。
 $x^{n-1}y = 1$ の両辺を x で微分すると

$$(n-1)x^{n-2}y + x^{n-1}y' = 0 \quad \text{ゆえに} \quad y' = -\frac{(n-1)y}{x}$$

これを用いると

$$\begin{aligned} g'(x) &= -\frac{n-1}{x^2} - \frac{y'}{y^2} - \frac{3n\{(n-1)+y'\}}{\{(n-1)x+y\}^2} \\ &= -\frac{n-1}{x^2} - \frac{1}{y^2} \left(-\frac{(n-1)y}{x} \right) - \frac{3n \left\{ (n-1) - \frac{(n-1)y}{x} \right\}}{\{(n-1)x+y\}^2} \\ &= (n-1) \left(\frac{x-y}{x^2y} \right) - \frac{3n(n-1)(x-y)}{x\{(n-1)x+y\}^2} \\ &= \frac{(n-1)(x-y)[\{(n-1)x+y\}^2 - 3nxy]}{x^2y\{(n-1)x+y\}^2} \end{aligned}$$

$(a+b)^2 \geq 4ab$ を用いると

$$\{(n-1)x+y\}^2 \geq 4(n-1)xy \geq 3nxy$$

よって， $g'(x) \leq 0$ から $g(x)$ は減少関数で， $g(x) \geq g(1) = n+3$ ■

[注 1] $0 < x \leq 1$ で $\frac{n-1}{x} + x^{n-1} + \frac{3nx^{n-1}}{(n-1)x^n + 1} \geq n+3$ を証明するのに，
 $(n-1)x^n + 1$ を両辺にかけて得られる整式を扱うのは得策ではない。

参考までに， $n \geq 5$ の場合の証明をしてみたい。

$0 < x \leq 1$ のとき $t = \frac{1}{x}$ とおくと

$$\begin{aligned} &\frac{n-1}{x} + x^{n-1} + \frac{3nx^{n-1}}{(n-1)x^n + 1} \geq n+3 \\ \iff &(n-1)x^{2n} - (n^2 + 2n - 3)x^{n+1} + (n^2 + n + 2)x^n - (n+3)x + n - 1 \geq 0 \\ \iff &(n-1)t^{2n} - (n+3)t^{2n-1} + (n^2 + n + 2)t^n - (n^2 + 2n - 3)t^{n-1} + n - 1 \geq 0 \end{aligned}$$

$$F(t) = (n-1)t^{2n} - (n+3)t^{2n-1} + (n^2 + n + 2)t^n - (n^2 + 2n - 3)t^{n-1} + n - 1 \quad (t \geq 1)$$

とおくと

$$\begin{aligned} &F'(t) \\ &= t^{n-2} \{ 2n(n-1)t^{n+1} - (2n-1)(n+3)t^n + n(n^2 + n + 2)t - (n-1)^2(n+3) \} \end{aligned}$$

$G(t) = 2n(n-1)t^{n+1} - (2n-1)(n+3)t^n + n(n^2+n+2)t - (n-1)^2(n+3)$ ($t \geq 1$)
とおくと

$$\begin{aligned} G'(t) &= 2n(n-1)(n+1)t^n - (2n-1)n(n+3)t^{n-1} + n(n^2+n+2) \\ G''(t) &= 2n^2(n-1)(n+1)t^{n-1} - (2n-1)n(n-1)(n+3)t^{n-2} \\ &= n(n-1)t^{n-2}\{2n(n+1)t - (2n-1)(n+3)\} \end{aligned}$$

t	1	\dots	$\frac{(2n-1)(n+3)}{2n(n+1)}$	\dots
$G''(t)$		-	0	+
$G'(t)$		\searrow	極小	\nearrow

$G'(t)$ は $t = \frac{(2n-1)(n+3)}{2n(n+1)}$ で最小値

$$\begin{aligned} G'\left(\frac{(2n-1)(n+3)}{2n(n+1)}\right) &= -\frac{(2n-1)^n(n+3)^n}{2^{n-1}n^{n-1}(n+1)^{n-1}} + n(n^2+n+2) \\ &= \frac{2^{n-1}n^n(n+1)^{n-1}(n^2+n+2) - (2n-1)^n(n+3)^n}{2^{n-1}n^{n-1}(n+1)^{n-1}} \end{aligned}$$

をとるから、 $n \geq 5$ で

$$2^{n-1}n^n(n+1)^{n-1}(n^2+n+2) - (2n-1)^n(n+3)^n > 0 \quad \dots\dots (\star)$$

がいえれば、 $G'\left(\frac{(2n-1)(n+3)}{2n(n+1)}\right) > 0$ となる。

これから $t \geq 1$ で、 $G'(t) > 0$ がいえて $G(t)$ は増加関数となる。

よって、 $t \geq 1$ のとき $G(t) \geq G(1) = 0$ から $F'(t) \geq 0$

$F(t)$ は増加関数で、 $t \geq 1$ のとき $F(t) \geq F(1) = 0$ となる。

以下、 $n \geq 5$ のとき (\star) が成り立つことを示す。

$$\begin{aligned} (\star) \iff & (n-1)\log 2 + n \log n + (n-1)\log(n+1) + \log(n^2+n+2) \\ & > n \log(2n-1) + n \log(n+3) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} H(x) &= (x-1)\log 2 + x \log x + (x-1)\log(x+1) + \log(x^2+x+2) \\ &\quad - x \log(2x-1) - x \log(x+3) \quad (x \geq 5) \end{aligned}$$

とおくと

$$\begin{aligned}
 H'(x) &= \log 2 + \log x + 1 + \log(x+1) + \frac{x-1}{x+1} + \frac{2x+1}{x^2+2x+2} \\
 &\quad - \log(2x-1) - \frac{2x}{2x-1} - \log(x+3) - \frac{x}{x+3} \\
 &= 1 + \frac{x-1}{x+1} + \frac{2x+1}{x^2+x+2} - \frac{2x}{2x-1} - \frac{x}{x+3} + \log \frac{2x}{2x-1} + \log \frac{x+1}{x+3}
 \end{aligned}$$

$t > 0$ のとき、不等式 $\log t \geq 1 - \frac{1}{t}$ (等号は $t = 1$ のときに限る。) が成り立つから

$$\log \frac{2x}{2x-1} > 1 - \frac{2x-1}{2x} = \frac{1}{2x}, \quad \log \frac{x+1}{x+3} > 1 - \frac{x+3}{x+1} = -\frac{2}{x+1}$$

よって

$$\begin{aligned}
 H'(x) &> 1 + \frac{x-1}{x+1} + \frac{2x+1}{x^2+x+2} - \frac{2x}{2x-1} - \frac{x}{x+3} + \frac{1}{2x} - \frac{2}{x+1} \\
 &= \frac{4x^5 - 7x^4 - 7x^3 - 67x^2 + 19x - 6}{2x(x+1)(x+3)(2x-1)(x^2+x+2)}
 \end{aligned}$$

$x \geq 5$ のとき

$$\begin{aligned}
 4x^5 &\geq 4 \cdot 5 \cdot x^4 = 7x^4 + 13x^4 \\
 &\geq 7x^4 + 13 \cdot 5 \cdot x^3 = 7x^4 + 7x^3 + 58x^3 \\
 &\geq 7x^4 + 7x^3 + 58 \cdot 5 \cdot x^2 = 7x^4 + 7x^3 + 67x^2 + 223x^2 \\
 19x - 6 &> 0
 \end{aligned}$$

から $4x^5 - 7x^4 - 7x^3 - 67x^2 + 19x - 6 > 223x^2 > 0$ となり $H'(x) > 0$

$H(x)$ は $x \geq 5$ で増加関数で、 $x \geq 5$ のとき

$$H(x) \geq H(5)$$

$$H(5) > 0 \iff 2^4 \cdot 5^5 \cdot 6^4 \cdot 32 > 9^5 \cdot 8^5 \iff 5^5 > 2^2 \cdot 3^6$$

$5^5 = 3125, 2^2 \cdot 3^6 = 2916$ より $H(5) > 0$ すなわち $x \geq 5$ のとき $H(x) > 0$ が示せた。

したがって、 $n \geq 5$ のとき $H(n) > 0$

[注 2] (\star) を少し変形して考えてみよう。(ただし、 n の範囲が $n \geq 9$ と変わってしまうが……)

以下、 $n \geq 9$ のとき (\star) が成り立つことを示す。

$$(\star) \iff \frac{n^2+n+2}{2(n+1)} > \left(\frac{(2n-1)(n+3)}{2n(n+1)} \right)^n$$

$$f(x) = \left(\frac{(2x-1)(x+3)}{2x(x+1)} \right)^x \quad (x > 1) \text{ とおく}.$$

$$\log f(x) = x \log \frac{(2x-1)(x+3)}{2x(x+1)} = x \{ \log(2x-1)(x+3) - \log 2x(x+1) \}$$

の両辺を x で微分すると

$$\begin{aligned} \frac{f'(x)}{f(x)} &= \log \frac{(2x-1)(x+3)}{2x(x+1)} + x \left(\frac{2}{2x-1} + \frac{1}{x+3} - \frac{1}{x} - \frac{1}{x+1} \right) \\ g(x) &= \log \frac{(2x-1)(x+3)}{2x(x+1)} + x \left\{ \frac{2}{2x-1} + \frac{1}{x+3} - \frac{1}{x} - \frac{1}{x+1} \right\} \end{aligned}$$

とおくと

$$\begin{aligned} g'(x) &= 2 \left(\frac{2}{2x-1} + \frac{1}{x+3} - \frac{1}{x} \frac{1}{x+1} \right) \\ &\quad + x \left(-\frac{4}{(2x-1)^2} - \frac{1}{(x+3)^2} + \frac{1}{x^2} + \frac{1}{(x+1)^2} \right) \\ &= -\frac{3(11x^4 + \overbrace{8x^3 - 6x^2}^{>0} + 12x + 3)}{x(x+1)^2(x+3)^2(2x-1)^2} < 0 \end{aligned}$$

$g(x)$ は減少関数で $\lim_{x \rightarrow \infty} g(x) = 0$ だから $g(x) > 0$

よって, $f'(x) > 0$ となり $f(x)$ は増加関数である.

次に $\lim_{x \rightarrow \infty} f(x) = \lim_{x \rightarrow \infty} \left(\frac{(2x-1)(x+3)}{2x(x+1)} \right)^x$ を考える.

$x = \frac{1}{t}$ とおくと $x \rightarrow \infty$ のとき $x \rightarrow +0$

$$\begin{aligned} \lim_{x \rightarrow \infty} \log f(x) &= \lim_{t \rightarrow +0} \frac{1}{t} \log \frac{\left(\frac{2}{t} - 1 \right) \left(\frac{1}{t} + 3 \right)}{2 \cdot \frac{1}{t} \cdot \left(\frac{1}{t} + 1 \right)} \\ &= \lim_{t \rightarrow +0} \frac{\log(2-t)(1+3t) - \log 2(1+t)}{t} \end{aligned}$$

$h(t) = \log(2-t)(1+3t) - \log 2(1+t)$ とおくと

$$h(0) = 0, \quad h'(t) = -\frac{1}{2-t} + \frac{3}{1+3t} - \frac{1}{1+t}$$

$$\begin{aligned}
\lim_{x \rightarrow \infty} \log f(x) &= \lim_{t \rightarrow +0} \frac{\log(2-t)(1+3t) - \log 2(1+t)}{t} \\
&= \lim_{t \rightarrow +0} \frac{h(t)}{t} \\
&= \lim_{t \rightarrow +0} \frac{h(t) - h(0)}{t} \\
&= h'(0) = \frac{3}{2}
\end{aligned}$$

よって、 $\lim_{x \rightarrow \infty} f(x) = \lim_{x \rightarrow \infty} e^{\log f(x)} = e^{\frac{3}{2}}$ から

$$f(x) < e^{\frac{3}{2}} < \frac{9}{2}$$

したがって、 $n \geq 9$ のとき $\frac{n^2+n+2}{2(n+1)} > \frac{9}{2}$ を示せばよい。

$$\frac{n^2+n+2}{2(n+1)} > \frac{9}{2} \iff n(n-8) > 7$$

だから、 $n \geq 9$ のとき $n(n-8) > 7$ は成り立つ。 ■

極限値 $\lim_{x \rightarrow \infty} f(x) = \lim_{x \rightarrow \infty} \left(\frac{(2x-1)(x+3)}{2x(x+1)} \right)^x$ を求めたが、似たような問題が数学甲子園（第6回全国数学選手権大会数学甲子園準々決勝）に出題されているので紹介しておく。

次の極限値を求めなさい。（第6回数学甲子園）

$$\lim_{x \rightarrow \infty} \left(\frac{\sqrt{1+x^2}+1}{\sqrt{1+x^2}-1} \right)^x$$

(解答) $x = \frac{1}{t}$ とおくと $x \rightarrow \infty$ のとき $x \rightarrow +0$

$$\begin{aligned}
\lim_{x \rightarrow \infty} \left(\frac{\sqrt{1+x^2}+1}{\sqrt{1+x^2}-1} \right)^x &= \lim_{t \rightarrow +0} \left(\frac{\sqrt{1+\frac{1}{t^2}}+1}{\sqrt{1+\frac{1}{t^2}}-1} \right)^{\frac{1}{t}} \\
&= \lim_{t \rightarrow +0} \left(\frac{\sqrt{t^2+1}+t}{\sqrt{t^2+1}-t} \right)^{\frac{1}{t}} \\
&= \lim_{t \rightarrow +0} \left(\sqrt{t^2+1}+t \right)^{\frac{2}{t}}
\end{aligned}$$

$$f(t) = (\sqrt{t^2 + 1} + t)^{\frac{2}{t}} \text{ とおくと, } \log f(t) = \frac{2 \log(\sqrt{t^2 + 1} + t)}{t}$$

$$g(t) = \log(\sqrt{t^2 + 1} + t) \text{ とおくと, }$$

$$g'(0) = 0, \quad g'(t) = \frac{1}{\sqrt{t^2 + 1}}$$

$$\begin{aligned}\lim_{t \rightarrow +0} \log f(t) &= \lim_{t \rightarrow +0} \frac{2g(t)}{t} \\ &= \lim_{t \rightarrow +0} 2 \cdot \frac{g(t) - g(0)}{t} \\ &= 2g'(0) \\ &= 2\end{aligned}$$

よって

$$\lim_{t \rightarrow +0} f(t) = \lim_{t \rightarrow +0} e^{\log f(t)} = e^2$$

から

$$\lim_{x \rightarrow \infty} \left(\frac{\sqrt{1+x^2} + 1}{\sqrt{1+x^2} - 1} \right)^x = e^2$$

■

問題 18 (AoPS Forum-Not easy one, Art of Problem Solving)

x_1, x_2, \dots, x_n は正の実数で, $x_1 x_2 \cdots x_n = 1$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$\frac{1}{x_1} + \frac{1}{x_2} + \cdots + \frac{1}{x_n} + \frac{n(n-1)}{x_1 + x_2 + \cdots + x_n} \geq k_n$$

ここで

$$k_n = \begin{cases} 2n-1 & (2 \leq n \leq 4) \\ \sqrt[n]{\frac{2(n-1)}{n-2-\sqrt{n^2-4n}}} \cdot \frac{2n\{n^2-2n-(n-1)\sqrt{n^2-4n}\}}{(n-1)(n-\sqrt{n^2-4n})} & (n \geq 5) \end{cases}$$

(解答) 系 2.8 ($p=0, q=-1$) を適用する. $0 < x_1 \leq x_2 \leq \cdots \leq x_n$ で

$$x_1 + x_2 + \cdots + x_n = \text{constant}, \quad x_1 x_2 \cdots x_n = 1$$

ならば, $\frac{1}{x_1} + \frac{1}{x_2} + \cdots + \frac{1}{x_n}$ は $0 < x_1 = x_2 = \cdots = x_{n-1} \leq x_n$ のとき最小となる.

$0 < x \leq 1 \leq y, x^{n-1}y = 1$ のとき

$$\begin{aligned} \frac{1}{y} + \frac{n-1}{x} + \frac{n(n-1)}{y+(n-1)x} &= x^{n-1} + \frac{n-1}{x} + \frac{n(n-1)}{\frac{1}{x^{n-1}} + (n-1)x} \\ &= x^{n-1} + \frac{n-1}{x} + \frac{n(n-1)x^{n-1}}{1+(n-1)x^n} \end{aligned}$$

$$g(x) = x^{n-1} + \frac{n-1}{x} + \frac{n(n-1)x^{n-1}}{1+(n-1)x^n} \quad (0 < x \leq 1) \text{ とおくと}$$

$$\begin{aligned} g'(x) &= (n-1)x^{n-2} - \frac{1}{x^2} + n(n-1) \cdot \frac{(n-1)x^{n-2}\{1+(n-1)x^n\} - n(n-1)x^{2n-2}}{\{1+(n-1)x^n\}^2} \\ &= \frac{(n-1)(x^n-1)}{x^2} - \frac{n(n-1)^2x^{n-2}(x^n-1)}{\{1+(n-1)x^n\}^2} \\ &= \frac{(n-1)(x^n-1)[\{1+(n-1)x^n\}^2 - n(n-1)x^n]}{x^2\{1+(n-1)x^n\}^2} \\ &= \frac{(n-1)(x^n-1)\{(n-1)^2x^{2n} - (n^2-3n+2)x^n + 1\}}{x^2\{1+(n-1)x^n\}^2} \end{aligned}$$

$$D = (n^2-3n+2)^2 - 4(n-1)^2 = (n-1)^2(n^2-4n) \text{ とおく.}$$

(i) $2 \leq n \leq 4$ のとき

$D \leq 0$ から $(n-1)^2x^{2n} - (n^2 - 3n + 2)x^n + 1 \geq 0$ となり $g'(x) \leq 0$

$g(x)$ は減少関数で, $g(x) \geq g(1) = 2n - 1$

(ii) $n \geq 5$ のとき

$(n-1)^2x^{2n} - (n^2 - 3n + 2)x^n + 1 = 0$ を解くと

$$x^n = \frac{n-2 \pm \sqrt{n^2 - 4n}}{2(n-1)}$$

$$\alpha = \sqrt[n]{\frac{n-2-\sqrt{n^2-4n}}{2(n-1)}}, \beta = \sqrt[n]{\frac{n-2+\sqrt{n^2-4n}}{2(n-1)}}$$

とおくと $0 < \alpha < \beta < 1$ で

x	0	\cdots	α	\cdots	β		1
$g'(x)$		-	0	+	0	-	
$g(x)$		\searrow	極小	\nearrow	極大	\searrow	$2n-1$

増減表から $g(x) \geq \min\{g(\alpha), 2n-1\}$

$$\text{ここで, } g(\alpha) = \frac{(n-1)\alpha^{2n} + (2n^2 - 3n + 2)\alpha^n + n - 1}{\alpha\{1 + (n-1)\alpha^n\}}$$

$$\begin{aligned} \frac{1}{\alpha} &= \sqrt[n]{\frac{2(n-1)}{n-2-\sqrt{n^2-4n}}}, \frac{1}{1+(n-1)\alpha^n} = \frac{2}{n-\sqrt{n^2-4n}} \\ (n-1)\alpha^{2n} + (2n^2 - 3n + 2)\alpha^n + n - 1 &= \frac{n\{n^2 - 2n - (n-1)\sqrt{n^2-4n}\}}{n-1} \end{aligned}$$

よって

$$g(\alpha) = \sqrt[n]{\frac{2(n-1)}{n-2-\sqrt{n^2-4n}}} \cdot \frac{2n\{n^2 - 2n - (n-1)\sqrt{n^2-4n}\}}{(n-1)(n-\sqrt{n^2-4n})}$$

次に, $n \geq 5$ のとき

$$\sqrt[n]{\frac{2(n-1)}{n-2-\sqrt{n^2-4n}}} \cdot \frac{2n\{n^2 - 2n - (n-1)\sqrt{n^2-4n}\}}{(n-1)(n-\sqrt{n^2-4n})} < 2n-1 \quad \dots\dots (*)$$

を示す.

$$(*) \iff \sqrt[n]{\frac{(n-1)(n-2+\sqrt{n^2-4n})}{2}} < \frac{(2n-1)(n-1)(3n-4+\sqrt{n^2-4n})}{2n(2n^2-5n+4)} \dots\dots (**)$$

(1) $n = 5$ のとき

$$\sqrt[5]{2(3+\sqrt{5})} < 1.6 < \frac{18(11+\sqrt{5})}{5 \cdot 29} \text{ で成立.}$$

(2) $n = 6$ のとき

$$\sqrt[6]{5(2+\sqrt{3})} < 1.7 < \frac{55(7+\sqrt{3})}{6 \cdot 46} \text{ で成立.}$$

(3) $n \geq 7$ の場合

まず

$$\begin{aligned} F(x) &= \log \sqrt[x]{\frac{(x-1)(x-2+\sqrt{x^2-4x})}{2}} \\ &= \frac{1}{x} \left\{ \log(x-1) + \log(x-2+\sqrt{x^2-4x}) - \log 2 \right\} \end{aligned}$$

が $[7, \infty)$ で減少関数であることを示す.

$$F'(x) = \frac{\frac{x}{x-1} + \frac{x}{\sqrt{x^2-4x}} - \log \frac{x-1}{2} - \log(x-2+\sqrt{x^2-4x})}{x^2}$$

$$G(x) = \frac{x}{x-1} + \frac{x}{\sqrt{x^2-4x}} - \log \frac{x-1}{2} - \log(x-2+\sqrt{x^2-4x}) \text{ とおくと}$$

$$G'(x) = -\frac{1}{(x-1)^2} - \frac{2x}{(x^2-4x)\sqrt{x^2-4x}} - \frac{1}{x-1} - \frac{1}{\sqrt{x^2-4x}} < 0$$

$G(x)$ は $[7, \infty)$ で減少関数である.

$$G(7) = \frac{7}{6} + \frac{7}{\sqrt{21}} - \log 3 - \log(5 + \sqrt{21})$$

$$\log 3 + \log(5 + \sqrt{21}) > 1 + \log(5 + 4.5) > 1 + \log e^2 = 3 > \frac{7}{6} + \frac{\sqrt{21}}{3}$$

ゆえに $G(7) < 0$ から $G(x) < 0$ すなわち $F'(x) < 0$ となり $F(x)$ は $[7, \infty)$ で減少関数である.

$n \geqq 7$ のとき

$$F(n) \leqq F(7) = \sqrt[7]{3(5 + \sqrt{21})} < 1.7$$

が成立するから

$$1.7 < \frac{(2n-1)(n-1)(3n-4+\sqrt{n^2-4n})}{2n(2n^2-5n+4)}$$

を示せばよい。

$n \geqq 7$ のとき $\sqrt{n^2-4n} > n - 2.5$ が成り立つから

$$\frac{(2n-1)(n-1)(3n-4+\sqrt{n^2-4n})}{2n(2n^2-5n+4)} > \frac{(2n-1)(n-1)(3n-4+n-2.5)}{2n(2n^2-5n+4)}$$

これを使うと

$$\begin{aligned} \frac{(2n-1)(n-1)(3n-4+n-2.5)}{2n(2n^2-5n+4)} &> 1.7 \\ \iff 12n^3 - 80n^2 + 99n - 65 &> 0 \end{aligned}$$

$n \geqq 7$ だから

$$12n^3 - 80n^2 + 99n - 65 \geqq 12 \cdot 7 \cdot n^2 - 80n^2 + 99 \cdot 7 - 65 = 4n^2 + 628 > 0$$

が成り立つ。 ■

問題 19 x_1, x_2, \dots, x_n は正の実数で, $x_1 + x_2 + \dots + x_n = n$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$\frac{1}{x_1} + \frac{1}{x_2} + \dots + \frac{1}{x_n} + \frac{3\sqrt{n}}{\sqrt{x_1^2 + x_2^2 + \dots + x_n^2}} \geq n + 3$$

(解答) 系 2.8 ($p = -1, q = 2$) を適用する. $0 < x_1 \leq x_2 \leq \dots \leq x_n$ で

$$x_1 + x_2 + \dots + x_n = n, \quad \frac{1}{x_1} + \frac{1}{x_2} + \dots + \frac{1}{x_n} = constant$$

ならば, $x_1^2 + x_2^2 + \dots + x_n^2$ は $0 < x_1 = x_2 = \dots = x_{n-1} \leq x_n$ のとき最大となる.

$0 < x_1 \leq 1 \leq x_n, (n-1)x_1 + x_n = n$ のとき

$$\frac{n-1}{x_1} + \frac{1}{x_n} + \frac{3\sqrt{n}}{\sqrt{(n-1)x_1^2 + x_n^2}} \geq n + 3$$

を示せばよい.

$$\frac{n-1}{x_1} + \frac{1}{x_n} - n = \frac{n(n-1)(1-x_1)^2}{x_1 x_n}, (n-1)x_1^2 + x_n^2 - n = n(n-1)(1-x_1)^2$$

であることを用いると

$$\begin{aligned} & \frac{n-1}{x_1} + \frac{1}{x_n} + \frac{3\sqrt{n}}{\sqrt{(n-1)x_1^2 + x_n^2}} \geq n + 3 \\ \iff & \frac{n-1}{x_1} + \frac{1}{x_n} - n \geq 3 \left(\frac{\sqrt{(n-1)x_1^2 + x_n^2} - \sqrt{n}}{\sqrt{(n-1)x_1^2 + x_n^2}} \right) \\ \iff & \frac{n-1}{x_1} + \frac{1}{x_n} - n \geq 3 \left(\frac{(n-1)x_1^2 + x_n^2 - n}{\sqrt{(n-1)x_1^2 + x_n^2} (\sqrt{(n-1)x_1^2 + x_n^2} + \sqrt{n})} \right) \\ \iff & \frac{n(n-1)(1-x_1)^2}{x_1 x_n} \geq 3 \cdot \frac{n(n-1)(1-x_1)^2}{\sqrt{n \{(n-1)x_1^2 + x_n^2\}} + (n-1)x_1^2 + x_n^2} \end{aligned}$$

したがって

$$\sqrt{n \{(n-1)x_1^2 + x_n^2\}} + (n-1)x_1^2 + x_n^2 > 3x_1 x_n \quad (\star)$$

を示せばよい.

$n = 2$ の場合

$$2 = x_1 + x_2 \geq 2\sqrt{x_1 x_2} \text{ から } x_1 x_2 \leq 1$$

$$\sqrt{2(x_1^2 + x_2^2)} + x_1^2 + x_2^2 \geq \sqrt{4x_1 x_2} + 2x_1 x_2 \geq 2x_1 x_2 + 2x_1 x_2 = 4x_1 x_2 > 3x_1 x_2$$

となり、(★) は成り立つ。

$n \geq 3$ の場合

相加平均・相乗平均の不等式から

$$(n-1)x_1^2 + x_n^2 \geq 2\sqrt{n-1}x_1 x_n \quad \dots \dots \dots \textcircled{1}$$

次に

$$\sqrt{n\{(n-1)x_1^2 + x_n^2\}} \geq \sqrt{n+3}x_1 x_n \quad \dots \dots \dots \textcircled{2}$$

を示す。

ヘルダーの不等式を使うと

$$\begin{aligned} & \left(\frac{n-1}{x_n^2} + \frac{1}{x_1^2} \right) \{x_n + (n-1)x_1\} \{x_n + (n-1)x_1\} \\ & \geq \left(\sqrt[3]{n-1} + \sqrt[3]{(n-1)^2} \right)^3 \\ & = (n-1) \left(1 + \sqrt[3]{n-1} \right)^3 \end{aligned}$$

よって

$$(n-1)x_1^2 + x_n^2 \geq \frac{(n-1) \left(1 + \sqrt[3]{n-1} \right)^3}{n^2} x_1^2 x_n^2$$

したがって

$$(n-1) \left(1 + \sqrt[3]{n-1} \right)^3 \geq n(n+3)$$

を示せば、② が成り立つことがわかる。

$\sqrt[3]{n-1} = t \geq \sqrt[3]{2}$ とおくと

$$\begin{aligned} & (n-1) \left(1 + \sqrt[3]{n-1} \right)^3 \geq n(n+3) \\ & \iff t^3(1+t)^3 \geq (t^3+1)(t^3+4) \\ & \iff 3t^5 + 3t^4 - 4t^3 - 4 \geq 0 \\ & \iff (t+1)(3t^4 - 4t^2 + 4t - 4) \geq 0 \end{aligned}$$

$t \geq \sqrt[3]{2}$ より $t^2 = \sqrt[3]{4} > \frac{4}{3}$ なので

$$3t^4 - 4t^2 + 4t - 4 = t^2 \underbrace{(3t^2 - 4)}_{>0} + 4 \underbrace{(t-1)}_{>0} > 0$$

よって, $(t+1)(3t^4 - 4t^2 + 4t - 4) \geq 0$ は成り立つ.

①, ②から

$$\begin{aligned}\sqrt{n\{(n-1)x_1^2 + x_n^2\}} + (n-1)x_1^2 + x_n^2 &\geq (\sqrt{n+3} + 2\sqrt{n-1})x_1x_n \\ &\geq (\sqrt{6} + 2\sqrt{2})x_1x_n \\ &> 3x_1x_n\end{aligned}$$

となり, (★) は成り立つ. ■

問題 20 (Pham Kim Hung)

$n \geq 4$ は正の整数, x_1, x_2, \dots, x_n は正の実数で, $x_1 + x_2 + \dots + x_n = n$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$\frac{1}{x_1} + \frac{1}{x_2} + \dots + \frac{1}{x_n} + \frac{\sqrt{n}(\sqrt{n+4} + 2\sqrt{n-1})}{\sqrt{x_1^2 + x_2^2 + \dots + x_n^2}} \geq n + 2\sqrt{n-1} + \sqrt{n+4}$$

(解答) 系 2.8 ($p = -1, q = 2$) を適用する. $0 < x_1 \leq x_2 \leq \dots \leq x_n$ で

$$x_1 + x_2 + \dots + x_n = n, \quad \frac{1}{x_1} + \frac{1}{x_2} + \dots + \frac{1}{x_n} = \text{constant}$$

ならば, $x_1^2 + x_2^2 + \dots + x_n^2$ は $0 < x_1 = x_2 = \dots = x_{n-1} \leq x_n$ のとき最大となる.

$0 < x_1 \leq 1 \leq x_n, (n-1)x_1 + x_n = n$ のとき

$$\frac{n-1}{x_1} + \frac{1}{x_n} + \frac{\sqrt{n}(\sqrt{n+4} + 2\sqrt{n-1})}{\sqrt{(n-1)x_1^2 + x_n^2}} \geq n + 2\sqrt{n-1} + \sqrt{n+4}$$

を示せばよい.

$$\frac{n-1}{x_1} + \frac{1}{x_n} - n = \frac{n(n-1)(1-x_1)^2}{x_1 x_n}, \quad (n-1)x_1^2 + x_n^2 - n = n(n-1)(1-x_1)^2$$

であることを用いると

$$\begin{aligned} & \frac{n-1}{x_1} + \frac{1}{x_n} + \frac{\sqrt{n}(\sqrt{n+4} + 2\sqrt{n-1})}{\sqrt{(n-1)x_1^2 + x_n^2}} \geq n + \sqrt{n+4} + 2\sqrt{n-1} \\ \Leftrightarrow & \frac{n-1}{x_1} + \frac{1}{x_n} - n \geq (\sqrt{n+4} + 2\sqrt{n-1}) \left(\frac{\sqrt{(n-1)x_1^2 + x_n^2} - \sqrt{n}}{\sqrt{(n-1)x_1^2 + x_n^2}} \right) \\ \Leftrightarrow & \frac{n-1}{x_1} + \frac{1}{x_n} - n \geq (\sqrt{n+4} + 2\sqrt{n-1}) \left(\frac{(n-1)x_1^2 + x_n^2 - n}{\sqrt{(n-1)x_1^2 + x_n^2} (\sqrt{(n-1)x_1^2 + x_n^2} + \sqrt{n})} \right) \\ \Leftrightarrow & \frac{n(n-1)(1-x_1)^2}{x_1 x_n} \geq (\sqrt{n+4} + 2\sqrt{n-1}) \cdot \frac{n(n-1)(1-x_1)^2}{\sqrt{n} \{(n-1)x_1^2 + x_n^2\} + (n-1)x_1^2 + x_n^2} \end{aligned}$$

したがって

$$\sqrt{n} \{(n-1)x_1^2 + x_n^2\} + (n-1)x_1^2 + x_n^2 \geq (\sqrt{n+4} + 2\sqrt{n-1}) x_1 x_n \quad (\star\star)$$

を示せばよい.

相加平均・相乗平均の不等式から

$$(n-1)x_1^2 + x_n^2 \geq 2\sqrt{n-1}x_1 x_n \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

次に

$$\sqrt{n \{(n-1)x_1^2 + x_n^2\}} \geq \sqrt{n+4} x_1 x_n \quad \dots \dots \textcircled{2}$$

を示す.

ヘルダーの不等式を使うと

$$\begin{aligned} & \left(\frac{n-1}{x_n^2} + \frac{1}{x_1^2} \right) \{x_n + (n-1)x_1\} \{x_n + (n-1)x_1\} \\ & \geq \left(\sqrt[3]{n-1} + \sqrt[3]{(n-1)^2} \right)^3 \\ & = (n-1) \left(1 + \sqrt[3]{n-1} \right)^3 \end{aligned}$$

よって

$$(n-1)x_1^2 + x_n^2 \geq \frac{(n-1) \left(1 + \sqrt[3]{n-1}\right)^3}{n^2} x_1^2 x_n^2$$

$$(n-1) \left(1 + \sqrt[3]{n-1}\right)^3 \geq n(n+4)$$

を示せば、② が成り立つことがわかる。

$$\sqrt[3]{n-1} = t \geq \sqrt[3]{3} \text{ とおくと}$$

$$\begin{aligned} & (n-1) \left(1 + \sqrt[3]{n-1}\right)^3 \geq n(n+4) \\ \iff & t^3(1+t)^3 \geq (t^3+1)(t^3+5) \\ \iff & 3t^5 + 3t^4 - 5t^3 - 5 \geq 0 \\ \iff & (t+1)(3t^4 - 5t^2 + 5t - 5) \geq 0 \end{aligned}$$

$t \geq \sqrt[3]{3}$ より $t^2 = \sqrt[3]{9} > 2 > \frac{5}{3}$ なので

$$3t^4 - 5t^2 + 5t - 5 = t^2 \underbrace{(3t^2 - 5)}_{>0} + 5 \underbrace{(t - 1)}_{>0} > 0$$

よって、 $(t+1)(3t^4 - 5t^2 + 5t - 5) \geq 0$ は成り立つ。

①, ②から

$$\sqrt{n \{(n-1)x_1^2 + x_n^2\}} + (n-1)x_1^2 + x_n^2 \geq (\sqrt{n+4} + 2\sqrt{n-1})x_1x_n$$

となり、(★★) は成り立つ.

1

問題 21 (Pham Kim Hung)

x_1, x_2, \dots, x_n は正の実数で, $x_1 + x_2 + \dots + x_n = n$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$\frac{1}{x_1} + \frac{1}{x_2} + \dots + \frac{1}{x_n} + \frac{2n\sqrt{n-1}}{x_1^2 + x_2^2 + \dots + x_n^2} \geq n + 2\sqrt{n-1}$$

(解答) 系 2.8 ($p = -1, q = 2$) を適用する. $0 < x_1 \leq x_2 \leq \dots \leq x_n$ で

$$x_1 + x_2 + \dots + x_n = n, \quad \frac{1}{x_1} + \frac{1}{x_2} + \dots + \frac{1}{x_n} = \text{constant}$$

ならば, $x_1^2 + x_2^2 + \dots + x_n^2$ は $0 < x_1 = x_2 = \dots = x_{n-1} \leq x_n$ のとき最大となる.

$0 < x_1 \leq 1 \leq x_n$, () $x_1 + x_n = n$ のとき

$$\frac{n-1}{x_1} + \frac{1}{x_n} + \frac{2n\sqrt{n-1}}{(n-1)x_1^2 + x_n^2} \geq n + 2\sqrt{n-1}$$

を示せばよい.

$$\frac{n-1}{x_1} + \frac{1}{x_n} - n = \frac{n(n-1)(1-x_1)^2}{x_1 x_n}, \quad (n-1)x_1^2 + x_n^2 - n = n(n-1)(1-x_1)^2$$

であることを用いると

$$\begin{aligned} & \frac{n-1}{x_1} + \frac{1}{x_n} + \frac{2n\sqrt{n-1}}{(n-1)x_1^2 + x_n^2} \geq n + 2\sqrt{n-1} \\ \iff & \frac{n-1}{x_1} + \frac{1}{x_n} - n - \frac{2\sqrt{n-1}}{(n-1)x_1^2 + x_n^2} \{(n-1)x_1^2 + x_n^2 - n\} \geq 0 \\ \iff & \frac{n(n-1)(x_1-1)^2}{x_1 x_n} - \frac{2\sqrt{n-1} n(n-1)(x_1-1)^2}{\{(n-1)x_1^2 + x_n^2\}} \geq 0 \\ \iff & n(n-1)(x_1-1)^2 \cdot \frac{(n-1)x_1^2 + x_n^2 - 2\sqrt{n-1} x_1 x_n}{x_1 x_n \{(n-1)x_1^2 + x_n^2\}} \geq 0 \\ \iff & n(n-1)(x_1-1)^2 \cdot \frac{(\sqrt{n-1} x_1 - x_n)^2}{x_1 x_n \{(n-1)x_1^2 + x_n^2\}} \geq 0 \end{aligned}$$

最後の不等式は明らかに成り立つ. ■

問題 22 a, b, c は正の実数で, $abc = 1$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$\frac{a+b+c}{3} \geq \sqrt[5]{\frac{a^2+b^2+c^2}{3}}$$

(初等的な不等式 I 問題 127)

(解 1) 証明すべき不等式を同次化すると

$$\left(\frac{a+b+c}{3}\right)^5 \geq \left(\frac{a^2+b^2+c^2}{3}\right) abc$$

となる. ここで, $a+b+c = 3$ と仮定して一般性を失わない. また, $0 < a \leq b \leq c$ とする.

$f(a, b, c) = (a^2 + b^2 + c^2) abc$ とおくと

$$\begin{aligned} f(a, b, c) - f\left(\frac{a+b}{2}, \frac{a+b}{2}, c\right) \\ = abc(a^2 + b^2 + c^2) - \left(\frac{a+b}{2}\right)^2 c \left\{ 2\left(\frac{a+b}{2}\right)^2 + c^2 \right\} \\ = c \left[ab(a^2 + b^2) - 2\left(\frac{a+b}{2}\right)^4 + c^2 \left\{ ab - \left(\frac{a+b}{2}\right)^2 \right\} \right] \\ = -\frac{c(a-b)^4}{8} - \frac{c^2(a-b)^2}{4} \\ = -\frac{(a-b)^2 c \{(a-b)^2 + 2c\}}{8} \leq 0 \end{aligned}$$

したがって

$$f(a, b, c) \leq f\left(\frac{a+b}{2}, \frac{a+b}{2}, c\right)$$

が成り立つ.

$$x = \frac{a+b}{2}, y = c \text{ とおき}$$

$$F(x) = (2x^2 + y^2)x^2y = 2x^4y + x^2y^3 \quad (0 < x \leq 1 \leq y, 2x + y = 3)$$

を考える.

$$\begin{aligned} F'(x) &= 8x^3y + 2x^4y' + 2xy^3 + 3x^2y^2y' \\ &= 8x^3y - 4x^4 + 2xy^3 - 6x^2y^2 \\ &= 2x(y-x)(2x^2 - 2xy + y^2) \geq 0 \end{aligned}$$

$F(x)$ は増加関数で, $0 < x \leq 1$ のとき $F(x) \leq F(1) = 3$

■

(解 2) 系 2.8 ($p = 0, q = 2$) を適用する.

証明すべき不等式を同次化すると

$$\left(\frac{a+b+c}{3}\right)^5 \geq \left(\frac{a^2+b^2+c^2}{3}\right) abc$$

となる. 条件 $abc = 1$ を除いて考える.

一般性を失うことなく $0 < a \leqq b \leqq c$ と仮定できる.

$$a + b + c = \text{constant}, \quad abc = \text{constant}$$

ならば, $a^2 + b^2 + c^2$ は $a = b \leqq c$ のとき最大となる.

したがって, $0 < a \leqq 1 \leqq c$ のとき

$$\left(\frac{2a+c}{3}\right)^5 \geq \left(\frac{2a^2+c^2}{3}\right) a^2 c$$

を示せばよい. $x = \frac{a}{c} (\leqq 1)$ とおくと

$$\left(\frac{2a+c}{3}\right)^5 \geq \left(\frac{2a^2+c^2}{3}\right) a^2 c \iff (2x+1)^5 \geq 81x^2(2x^2+1)$$

したがって, $(2x+1)^5 - 81x^2(2x^2+1) \geqq 0$ を示す.

$$\begin{aligned} (2x+1)^5 - 81x^2(2x^2+1) &\geqq 0 \\ \iff 32x^5 - 82x^4 + 80x^3 - 41x^2 + 10x + 1 &\geqq 0 \\ \iff (x-1)^2(32x^3 - 18x^2 + 12x + 1) &\geqq 0 \end{aligned}$$

最後の不等式は

$$32x^3 - 18x^2 + 12x + 1 = 2 \underbrace{(16x^2 - 9x + 6)}_{>0} x + 1 > 0$$

なので成り立つことがわかる. ■

問題 23 (France Team Selection Test 2007)

a, b, c, d は正の実数で, $a + b + c + d = 1$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$6(a^3 + b^3 + c^3 + d^3) \geq a^2 + b^2 + c^2 + d^2 + \frac{1}{8}$$

(初等的な不等式 I 問題 144)

(解 1) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c \leq d$ と仮定できる.

$$f(a, b, c, d) = 6(a^3 + b^3 + c^3 + d^3) - (a^2 + b^2 + c^2 + d^2) - \frac{1}{8} \text{ とおくと}$$

$$\begin{aligned} & f(a, b, c, d) - f\left(a, \frac{b+d}{2}, c, \frac{b+d}{2}\right) \\ &= 6 \left\{ b^3 + d^3 - 2 \left(\frac{b+d}{2} \right)^3 \right\} - \left\{ b^2 + d^2 - 2 \left(\frac{b+d}{2} \right)^2 \right\} \\ &= \frac{9(b-d)^2(b+d)}{2} - \frac{(b-d)^2}{2} \\ &= \frac{(b-d)^2}{2} \{9(b+d) - 1\} \end{aligned}$$

$9(b+d) - 1 > 0$ を示す.

$$(a+c) + (b+d) = 1, a+c \leq b+d \text{ から } b+d \geq \frac{1}{2} > \frac{1}{9}$$

よって

$$f(a, b, c, d) \geq f\left(a, \frac{b+d}{2}, c, \frac{b+d}{2}\right)$$

$f(a, b, c, d)$ は b, c, d に関する対称式だから, SMV-Theorem より

$$f(a, b, c, d) \geq f(a, t, t, t), t = \frac{b+c+d}{3}$$

したがって, $0 < a \leq \frac{1}{4} \leq t < \frac{1}{3}$, $a + 3t = 1$ のとき $f(a, t, t, t) \geq 0$ を示せばよい.

$$\begin{aligned} f(a, t, t, t) &= 6(a^3 + 3t^3) - (a^2 + 3t^2) - \frac{1}{8} \\ &= 6 \left\{ (1-3t)^3 + 3t^3 \right\} - \left\{ (1-3t)^2 + 3t^2 \right\} - \frac{1}{8} \\ &= -\frac{3(384t^3 - 400t^2 + 128t - 13)}{8} \\ &= \frac{3(4t-1)^2(13-24t)}{8} \geq 0 \end{aligned}$$

■

(解 2) $f(x) = 6x^3 - x^2$ ($x > 0$) とおくと, 証明すべき不等式は

$$f(a) + f(b) + f(c) + f(d) \geq 4f\left(\frac{a+b+c+d}{4}\right)$$

となる.

$$f''(x) = 36x - 2$$

だから $f(x)$ は $\left[\frac{1}{18}, \infty\right)$ で凸関数である.

$s = \frac{a+b+c+d}{4} = \frac{1}{4} > \frac{1}{18}$ となる $s = \frac{1}{4}$ に対して, $f(x)$ は $x \geq s$ で凸関数である.

RCF-Theorem より

$$a \leqq \frac{1}{4} \leqq b = c = d$$

のとき不等式が成り立つことを示せばよい.

系 2 により

$$g(t) = \frac{f(t) - f\left(\frac{1}{4}\right)}{t - \frac{1}{4}} = \frac{48t^2 + 4t + 1}{8}$$

とおくと, $0 < x \leqq 1 \leqq y$, $x + 3y = 1$ に対して, $g(x) \leqq g(y)$ が成り立つことを示せばよい.

$$g(x) - g(y) = 6(x^2 - y^2) + \frac{1}{2}(x - y) = (x - y) \left\{ 6(x + y) + \frac{1}{2} \right\} \leqq 0 \quad \blacksquare$$

問題 24 (China 2005)

a, b, c は正の実数で、 $a + b + c = 1$ を満たすとき、次の不等式を証明せよ。

$$10(a^3 + b^3 + c^3) - 9(a^5 + b^5 + c^5) \geq 1$$

(初等的な不等式 I 問題 180)

(解 1) $f(x) = 9x^5 - 10x^3$ ($x > 0$) とおくと、証明すべき不等式は

$$f(a) + f(b) + f(c) \leq 3f\left(\frac{a+b+c}{3}\right)$$

となる。

$$f''(x) = 60x(3x^2 - 1)$$

だから $f(x)$ は $\left(0, \frac{\sqrt{3}}{3}\right]$ で凹関数である。

$s = \frac{a+b+c}{3} = \frac{1}{3} < \frac{\sqrt{3}}{3}$ となる $s = \frac{1}{3}$ に対して、 $f(x)$ は $x \leq s$ で凹関数である。

LCF-Theorem より

$$a = b \leq \frac{1}{3} \leq c$$

のとき不等式が成り立つことを示せばよい。

$$F(x) = f(1 - 2x) + 2f(x) \quad \left(0 < x \leq \frac{1}{3}\right)$$

を考える。

$$\begin{aligned} -1 - F(t) &= -1 - f(1 - 2x) - 2f(x) \\ &= 10(1 - 2x)^3 - 9(1 - 2x)^5 + 2(10x^3 - 9x^5) - 1 \\ &= 30(9x^5 - 24x^4 + 22x^3 - 8x^2 + x) \\ &= 30x(x - 1)^2(3x - 1)^2 \geq 0 \end{aligned}$$

から

$$f(1 - 2x) + 2f(x) \leq -1$$

■

(解 2) 系 2.8 ($p = 3, q = 5$) を適用する。

一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c$ と仮定できる。

$a + b + c = 1, a^3 + b^3 + c^3 = \text{constant}$ ならば、 $a^5 + b^5 + c^5$ は $a = b \leq c$ のとき最大となる。したがって、

$$a = b \leq \frac{1}{3} \leq c$$

のとき不等式が成り立つことを示せばよい。後は解 1 参照。

■

問題 25 (Mihai Piticari, Dan Popescu)

a, b, c は正の実数で, $a + b + c = 1$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$5(a^2 + b^2 + c^2) \leq 6(a^3 + b^3 + c^3) + 1$$

(初等的な不等式 I 問題 179)

(解 1) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c$ と仮定できる.

$f(a, b, c) = 6(a^3 + b^3 + c^3) + 1 - 5(a^2 + b^2 + c^2)$ とおくと

$$\begin{aligned} & f(a, b, c) - f\left(a, \frac{b+c}{2}, \frac{b+c}{2}\right) \\ &= 6 \left\{ b^3 + c^3 - 2 \left(\frac{b+c}{2}\right)^3 \right\} - 5 \left\{ b^2 + c^2 - 2 \left(\frac{b+c}{2}\right)^2 \right\} \\ &= 6 \cdot \frac{3(b-c)^2(b+c)}{4} - 5 \cdot \frac{(b-c)^2}{2} \\ &= \frac{(b-c)^2}{2} \{9(b+c) - 5\} \end{aligned}$$

$9(b+c) - 5 > 0$ を示す.

$0 < a \leq \frac{1}{3}$ だから, $9(b+c) - 5 = 9(1-a) - 5 = 4 - 9a \geq 1 > 0$

よって

$$f(a, b, c) \geq f\left(a, \frac{b+c}{2}, \frac{b+c}{2}\right)$$

$t = \frac{b+c}{2}$ とおくと, $0 < a \leq \frac{1}{3} \leq t, a + 2t = 1$ で

$$\begin{aligned} f(a, t, t) &= 6(a^3 + 2t^3) + 1 - 5(a^2 + 2t^2) \\ &= 6a^3 + 12\left(\frac{1-a}{2}\right)^3 + 1 - 5a^2 - 10\left(\frac{1-a}{2}\right)^2 \\ &= \frac{9a^3 - 6a^2 + a}{2} \\ &= \frac{a(3a-1)^2}{2} \geq 0 \end{aligned}$$

ゆえに, $f(a, t, t) \geq 0$

(解 2) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c$ と仮定できる.

$f(x) = 6x^3 - 5x^2$ ($x > 0$) とおくと, 証明すべき不等式は

$$f(a) + f(b) + f(c) \geq 3f\left(\frac{a+b+c}{3}\right)$$

となる.

$$f''(x) = 36x - 10$$

だから $f(x)$ は $\left[\frac{5}{18}, \infty\right)$ で凸関数である.

$s = \frac{a+b+c}{3} = \frac{1}{3} > \frac{5}{18}$ となる $s = \frac{1}{3}$ に対して, $f(x)$ は $x \geq s$ で凸関数である.

RCF-Theorem より

$$a \leqq \frac{1}{3} \leqq b = c$$

のとき不等式が成り立つことを示せばよい.

$$b = c = x \text{ とおくと, } a = 1 - 2x, \frac{1}{3} \leqq x < \frac{1}{2}$$

$$F(x) = f(1 - 2x) + 2f(x) = -36x^3 + 42x^2 - 16x + 1 \quad \left(\frac{1}{3} \leqq x < \frac{1}{2}\right)$$

を考える.

$$\begin{aligned} 1 + F(x) &= -36x^3 + 42x^2 - 16x + 2 \\ &= 2(1 - 2x)(3x - 1)^2 \geqq 0 \end{aligned}$$

から

$$f(1 - 2x) + 2f(x) \geqq -1$$

■

(解 3) 系 2.8 ($p = 2, q = 3$) を適用する.

一般性を失うことなく $0 < a \leqq b \leqq c$ と仮定できる.

$$a + b + c = 1, a^2 + b^2 + c^2 = \text{constant}$$

ならば, $a^3 + b^3 + c^3$ は $a \leqq b = c$ のとき最小となる. したがって,

$$a \leqq \frac{1}{3} \leqq b = c$$

のとき不等式が成り立つことを示せばよい. 後は解 1 参照.

■

問題 26 (Darij Grinberg)

a, b, c は非負の実数のとき、次の不等式を証明せよ。

$$a^2 + b^2 + c^2 + 2abc + 1 \geq 2(ab + bc + ca)$$

(初等的な不等式 I 問題 115(2))

(解 1) 一般性を失うことなく $0 \leq a \leq b \leq c$ と仮定できる。

(i) $0 \leq a \leq 2$ の場合

$$\begin{aligned} f(a, b, c) &= a^2 + b^2 + c^2 + 2abc + 1 - 2(ab + bc + ca) \\ &= a^2 + b^2 + c^2 + 2abc + 1 - 2a(b + c) - 2bc \end{aligned}$$

とおくと

$$\begin{aligned} &f(a, b, c) - f\left(a, \frac{b+c}{2}, \frac{b+c}{2}\right) \\ &= b^2 + c^2 - 2\left(\frac{b+c}{2}\right)^2 + 2a\left\{bc - \left(\frac{b+c}{2}\right)^2\right\} - 2\left\{bc - \left(\frac{b+c}{2}\right)^2\right\} \\ &= \frac{(b-c)^2}{2} - \frac{a(b-c)^2}{2} + \frac{(b-c)^2}{2} \\ &= \frac{(b-c)^2(2-a)}{2} \geq 0 \end{aligned}$$

よって

$$f(a, b, c) \geq f\left(a, \frac{b+c}{2}, \frac{b+c}{2}\right)$$

$t = \frac{b+c}{2}$ とおくと

$$\begin{aligned} f(a, t, t) &= a^2 + 2t^2 + 2at^2 + 1 - 2(2at + t^2) \\ &= a^2 + 2at^2 + 1 - 4at \\ &= 2a(t-1)^2 + (a-1)^2 \geq 0 \end{aligned}$$

(ii) $a > 2$ の場合

$$\begin{aligned} f(a, b, c) &= a^2 + b^2 + c^2 + 2abc + 1 - 2(ab + bc + ca) \\ &\geq a^2 + b^2 + c^2 + 4bc + 1 - 2(ab + bc + ca) \\ &= a^2 + b^2 + c^2 + 2bc + 1 - 2ab - 2ca \\ &= (a-b)^2 + 2c(b-a) + c^2 + 1 > 0 \end{aligned}$$

■

(解 2) 一般性を失うことなく $0 \leqq a \leqq b \leqq c$ と仮定できる.

(i) $a = 0$ の場合 $b^2 + c^2 + 1 \geqq 2bc$ を示せばよし, これは $b^2 + c^2 + 1 - 2bc = (b-c)^2 + 1 > 0$ から成り立つ.

(ii) $0 < a \leqq b \leqq c$ の場合 系 2.8 ($p = 0, q = 2$) を適用する. 証明すべき不等式は

$$a^2 + b^2 + c^2 + 2abc + 1 \geqq (a+b+c)^2 - (a^2 + b^2 + c^2)$$

と変形できる.

$$a + b + c = \text{constant}, abc = \text{constant}$$

ならば, $a^2 + b^2 + c^2$ は $0 < a \leqq b = c$ のとき最小となるから

$0 < a \leqq b$ のとき

$$a^2 + 2b^2 + 2ab^2 + 1 \geqq 2(2ab + b^2) \quad \text{すなわち} \quad a^2 + 2ab^2 + 1 \geqq 4ab$$

を示せばよい.

$$\begin{aligned} a^2 + 2b^2 + 2ab^2 + 1 &\geqq 2(2ab + b^2) \\ \iff a^2 + 2ab(b-2) + 1 &\geqq 0 \end{aligned} \quad \dots\dots (*)$$

$b \geqq 2$ のとき (*) は明らかに成り立つ.

$0 < b < 2$ のとき

$$\begin{aligned} a^2 + 2ab(b-2) + 1 &= \{a + b(b-2)\}^2 - b^2(b-2)^2 + 1 \\ &= \{a + b(b-2)\}^2 + (b-1)^2 \{1 + b(2-b)\} \geqq 0 \end{aligned} \quad \blacksquare$$

問題 27 a, b, c は正の実数で, $abc = 1$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$1 + a + b + c \geq 2\sqrt{1 + \frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c}}$$

(解 1) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c$ と仮定できる.

$$\begin{aligned} 1 + a + b + c &\geq 2\sqrt{1 + \frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c}} \\ \iff (1 + a + b + c)^2 &\geq \left(2\sqrt{1 + \frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c}}\right)^2 \\ \iff a^2 + b^2 + c^2 + 2(a + b + c) &\geq 2\left(\frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c}\right) + 3 \end{aligned}$$

$$f(a, b, c) = a^2 + b^2 + c^2 + 2(a + b + c) - 2\left(\frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c}\right) - 3 \text{ とおくと}$$

$$\begin{aligned} f(a, b, c) - f(a, \sqrt{bc}, \sqrt{bc}) &= b^2 + c^2 - 2bc + 2(b + c - 2\sqrt{bc}) - 2\left(\frac{1}{b} + \frac{1}{c} - \frac{2}{\sqrt{bc}}\right) \\ &= (b - c)^2 + 2(\sqrt{b} - \sqrt{c})^2 - \frac{(\sqrt{b} - \sqrt{c})^2}{bc} \\ &= (\sqrt{b} - \sqrt{c})^2 \left\{ (\sqrt{b} + \sqrt{c})^2 + 2 - \frac{1}{bc} \right\} \\ &= (\sqrt{b} - \sqrt{c})^2 \left\{ (\sqrt{b} + \sqrt{c})^2 + 2 - a \right\} \end{aligned}$$

$0 < a \leq b \leq c, abc = 1$ から $0 < a \leq 1 < 2$ なので

$$(\sqrt{b} - \sqrt{c})^2 \left\{ (\sqrt{b} + \sqrt{c})^2 + 2 - a \right\} \geq 0$$

すなわち

$$f(a, b, c) \geq f(a, \sqrt{bc}, \sqrt{bc})$$

$t = \sqrt{bc}$ とおくと, $0 < a \leq 1 \leq t, at^2 = 1$ のとき

$$f(a, t, t) \geq 0$$

を示せばよい.

$at^2 = 1$ の両辺を t で微分すると, $a't^2 + 2at = 0$ だから $a' = -\frac{2a}{t}$ である.

$$g(t) = f(a, t, t) = a^2 + 2t^2 + 2(a + 2t) - 2\left(\frac{1}{a} + \frac{2}{t}\right) - 3 \text{ とおくと}$$

$$\begin{aligned} g'(t) &= 2aa' + 4t + 2(a' + 2) + 2\left(\frac{a'}{a^2} + \frac{2}{t^2}\right) \\ &= -\frac{4a^2}{t} + 4t - \frac{4a}{t} + 4 - \frac{4}{at} + \frac{4}{t^2} \\ &= \frac{4(t^2 - a^2)}{t} + \frac{4(t - a)}{t} - \frac{4(t - a)}{at^2} \\ &= 4(t - a)\left\{\frac{t + a}{t} + \frac{1}{t} - 1\right\} \\ &= \frac{4(t - a)(a + 1)}{t} \geqq 0 \end{aligned}$$

$g(t)$ は増加関数で、 $1 \leqq t$ のとき、 $g(t) \geqq g(1) = 0$

(解 2) 系 2.8 ($p = 0, q = -1$) を適用する。

一般性を失うことなく $0 < a \leqq b \leqq c$ と仮定できる。

$abc = 1, a + b + c = constant$ ならば、 $\frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c}$ は $a \leqq b = c$ のとき最大となる。

したがって、

$$0 < a \leqq 1 \leqq b = c, ab^2 = 1$$

のとき不等式

$$1 + a + 2b \geqq 2\sqrt{1 + \frac{1}{a} + \frac{2}{b}}$$

が成り立つことを示せばよい。

$$\begin{aligned} 1 + a + 2b &\geqq 2\sqrt{1 + \frac{1}{a} + \frac{2}{b}} \iff \left(1 + \frac{1}{b^2} + 2b\right)^2 \geqq 4\left(1 + b^2 + \frac{2}{b}\right) \\ &\iff (2b^3 + b^2 + 1)^2 \geqq 4b^3(b^3 + b + 2) \\ &\iff 4b^5 - 3b^4 - 4b^3 + 2b^2 + 1 \geqq 0 \\ &\iff (b - 1)^2(b + 1)(4b^2 + b + 1) \geqq 0 \end{aligned}$$

$4b^2 + b + 1 > 0$ であるから、最後の不等式は明らかに成り立つ。

[注] 解 1 でみたように

$$a^2 + b^2 + c^2 + 2(a + b + c) \geqq 2\left(\frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c}\right) + 3$$

を示せばよいから

$$f(t) = t^2 + 2t - \frac{2}{t} \quad (t > 0), \quad f_1(u) = f(e^u) = e^{2u} + 2e^u - 2e^{-u}$$

において、RCF-Corollary を使っても証明できる。

問題 28 (Vasile Cîrtoaje , Romania TST,2006)

a, b, c は正の実数で, $a + b + c = 3$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$\frac{1}{a^2} + \frac{1}{b^2} + \frac{1}{c^2} \geq a^2 + b^2 + c^2$$

(初等的な不等式 I 問題 184)

(解 1) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c$ と仮定できる.

$$f(a, b, c) = \frac{1}{a^2} + \frac{1}{b^2} + \frac{1}{c^2} - (a^2 + b^2 + c^2) \text{ とおくと}$$

$$\begin{aligned} f(a, b, c) - f\left(\frac{a+b}{2}, \frac{a+b}{2}, c\right) \\ = \frac{1}{a^2} + \frac{1}{b^2} + \frac{8}{(a+b)^2} - \left\{a^2 + b^2 - 2\left(\frac{a+b}{2}\right)^2\right\} \\ = \frac{(a^2 + b^2)(a+b)^2 - 8a^2b^2}{a^2b^2(a+b)^2} - \frac{a^2 - 2ab + b^2}{2} \\ = \frac{(a-b)^2}{2a^2b^2(a+b)^2} \{2(a^2 + 4ab + b^2) - a^2b^2(a+b)^2\} \end{aligned}$$

$2(a^2 + 4ab + b^2) - a^2b^2(a+b)^2 > 0$ を示す.

$0 < a \leq b \leq c, a + b + c = 3$ より $c \geq 1$ で $a + b = 3 - c \leq 2$

$2 \geq a + b \geq 2\sqrt{ab}$ から $ab \leq 1$ よって

$$a^2b^2(a+b)^2 \leq (a+b)^2 < 2(a^2 + 4ab + b^2)$$

だから

$$f(a, b, c) \geq f\left(\frac{a+b}{2}, \frac{a+b}{2}, c\right)$$

が成り立つ.

$t = \frac{a+b}{2}$ とおくと, $0 < t \leq 1 \leq c, 2t + c = 3$ のとき $f(t, t, c) \geq 0$ を示せばよい.

$$\begin{aligned} f(t, t, c) \geq 0 &\iff \frac{2}{t^2} + \frac{1}{c^2} \geq 2t^2 + c^2 \\ &\iff \frac{2}{t^2} + \frac{1}{(3-2t)^2} \geq 2t^2 + (3-2t)^2 \\ &\iff -\frac{24t^6 - 120t^5 + 234t^4 - 216t^3 + 72t^2 + 24t - 18}{t^2(3-2t)^2} \geq 0 \\ &\iff 6(t-1)^2(-4t^4 + 12t^3 - 11t^2 + 2t + 3) \geq 0 \end{aligned}$$

ここで

$$\begin{aligned}
 -4t^4 + 12t^3 - 11t^2 + 2t + 3 &= (-4t^4 + 12t^3 - 11t^2 + 2t + 1) + 2 \\
 &= -(t-1)^2(4t^2 - 4t - 1) + 2 \\
 &= (t-1)^2(\underbrace{-4t^2 + 4t + 1}_{\geq 0}) + 2 > 0
 \end{aligned}$$

だから, $f(t, t, c) \geq 0$ が成り立つ. ■

(解 2) 系 2.8 ($p = -2, q = 2$) を適用する.

一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c$ と仮定できる.

$$a + b + c = \text{constant}, \frac{1}{a^2} + \frac{1}{b^2} + \frac{1}{c^2} = \text{constant}$$

ならば, $a^2 + b^2 + c^2$ は $0 < a = b \leq c$ の最大となる.

$0 < a \leq 1 \leq c, 2a + c = 3$ のとき $\frac{2}{a^2} + \frac{1}{c^2} \geq 2a^2 + c^2$ を示せばよい.

$f(a) = \frac{2}{a^2} + \frac{1}{c^2} - (2a^2 + c^2)$ ($0 < a \leq 1 \leq c, 2a + c = 3$) とおくと

$$\begin{aligned}
 f'(a) &= -\frac{4}{t^3} - \frac{2c'}{c^3} - 4t - 2cc' = -\frac{4}{t^3} + \frac{4}{c^3} - 4t + 4c \\
 &= \frac{4(a^3 - c^3)}{a^3 c^3} - 4(a - c) = \frac{4(a - c)}{a^3 c^3} (a^2 + ac + c^2 - a^3 c^3) \\
 &= \frac{4(a - c)}{a^3 c^3} \{a^2 + a(3 - 2a) + (3 - 2a)^2 - a^3 (3 - 2a)^3\} \\
 &= \frac{4(a - c)}{a^3 c^3} (8a^6 - 36a^5 + 54a^4 - 27a^3 + 3a^2 - 9a + 9) \\
 &= \frac{4(a - c)}{a^3 c^3} (8a^6 - 36a^5 + 54a^4 - 27a^3 + 3a^2 - 9a + 7 + 2) \\
 &= \frac{4(a - c)}{a^3 c^3} \{(a - 1)^2 (8a^4 - 20a^3 + 6a^2 + 5a + 7) + 2\}
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 8a^4 - 20a^3 + 6a^2 + 5a + 7 &\geq 8a^4 - 20a^3 + 6a^2 + 5a^2 + 7a^2 \\
 &= (8a^2 - 20a + 18)a^2 > 0
 \end{aligned}$$

だから $f'(a) \leq 0$ となり, $f(a)$ は減少関数である.

よって, $0 < a \leq 1$ のとき $f(a) \geq f(1) = 0$ ■

(解 3) 一般性を失うことなく $0 < a \leqq b \leqq c$ と仮定できる.

$$f(x) = x^2 - \frac{1}{x^2} \quad (x > 0)$$

とおくと、証明すべき不等式は

$$f(a) + f(b) + f(c) \leqq 3f\left(\frac{a+b+c}{3}\right)$$

となる.

$$f''(x) = \frac{2(x^4 - 3)}{x^4}$$

だから $f(x)$ は $(0, \sqrt[4]{3}]$ において凹関数である.

$s = \frac{a+b+c}{3} = 1$ とおくと、 $f(x)$ は $(0, 1]$ において凹関数であるから、LCF-Theorem より

$0 < a = b \leqq 1 \leqq c, 2a + c = 3$ のとき

$$\frac{2}{a^2} + \frac{1}{c^2} \geqq 2a^2 + c^2$$

が成り立つことを示せばよい。後は解 1 参照. ■

問題 29 a, b, c は正の実数で, $abc = 1$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$a^2 + b^2 + c^2 + 9(ab + bc + ca) \geq 10(a + b + c)$$

(解 1) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c$ と仮定できる.

このとき, $0 < a \leq b \leq c$ と $abc = 1$ から $0 < a \leq 1 \leq c$ となる.

$f(a, b, c) = a^2 + b^2 + c^2 + 9(ab + bc + ca) - 10(a + b + c)$ とおくと

$$\begin{aligned} f(a, b, c) - f(\sqrt{ab}, \sqrt{ab}, c) &= a^2 + b^2 - 2ab + 9c(a + b - 2\sqrt{ab}) - 10(a + b - 2\sqrt{ab}) \\ &= (a - b)^2 + 9c(\sqrt{a} - \sqrt{b})^2 - 10(\sqrt{a} - \sqrt{b})^2 \\ &= (\sqrt{a} - \sqrt{b})^2 \left\{ (\sqrt{a} + \sqrt{b})^2 + 9c - 10 \right\} \end{aligned}$$

$(\sqrt{a} + \sqrt{b})^2 + 9c - 10 > 0$ を示す.

$$\begin{aligned} (\sqrt{a} + \sqrt{b})^2 + 9c &\geq 4\sqrt{a} + \sqrt{b} + 9c \\ &= \frac{4}{\sqrt{c}} + 9c \\ &\geq 2\sqrt{\frac{4}{\sqrt{c}} \cdot 9c} \\ &= 12\sqrt[4]{c} \geq 12 > 10 \end{aligned}$$

だから

$$f(a, b, c) \geq f(\sqrt{ab}, \sqrt{ab}, c)$$

$t = \sqrt{ab}$ とおくと, $0 < t \leq 1 \leq c$, $t^2c = 1$ のとき $f(t, t, c) \geq 0$ を示せばよい.

$$\begin{aligned} f(t, t, c) \geq 0 &\iff 2t^2 + c^2 + 9(t^2 + 2tc) \geq 10(2t + c) \\ &\iff 2t^2 + \frac{1}{t^4} + 9\left(\frac{2}{t} + t^2\right) \geq 10\left(2t + \frac{1}{t^2}\right) \\ &\iff 11t^6 - 20t^5 + 18t^3 - 10t^2 + 1 \geq 0 \\ &\iff (t-1)^2(11t^4 + 2t^3 - 7t^2 + 2t + 1) \geq 0 \end{aligned}$$

ここで

$$11t^4 + 2t^3 - 7t^2 + 2t + 1 \geq 11t^4 + 2t^4 - 7t^2 + 2t + 1 = \underbrace{(13t^4 - 7t^2 + 1)}_{>0} + 2t > 0$$

だから, $f(t, t, c) \geq 0$

■

(解 2) 系 2.8 ($p = 0, q = 2$) を適用する.

一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c$ と仮定できる.

証明すべき不等式を変形する.

$$\begin{aligned} a^2 + b^2 + c^2 + 9(ab + bc + ca) &\geq 10(a + b + c) \\ \iff 2(a^2 + b^2 + c^2) + 9\{(a + b + c)^2 - (a^2 + b^2 + c^2)\} &\geq 20(a + b + c) \\ \iff 9(a + b + c)^2 - 20(a + b + c) &\geq 7(a^2 + b^2 + c^2) \\ abc = 1, a + b + c = \text{constant} \end{aligned}$$

ならば, $a^2 + b^2 + c^2$ は $0 < a = b \leq c$ のとき最大となる.

したがって, $0 < a \leq 1 \leq c, a^2c = 1$ のとき, 不等式が成り立つことを示せばよい.

$$f(a) = 2a^2 + c^2 + 9(a^2 + 2ac) - 10(2a + c) \quad (0 < a \leq 1 \leq c)$$

とおくと

$$\begin{aligned} f'(a) &= 4a + 2cc' + 9(2a + 2c + 2ac') - 10(2 + c') \\ &= 4a - \frac{4c^2}{a} + 9(2a - 2c) - 10 \cdot \frac{2a - 2c}{a} \\ &= \frac{2(a - c)}{a}(11a + 4c - 10) \\ &= \frac{2(a - c)}{a^3}(11a^3 - 10a^2 + 4) \end{aligned}$$

ここで

$$11a^3 - 10a^2 + 4 \geq 11a^4 - 10a^2 + 4 > 0$$

だから $f'(a) \leq 0$

$f(a)$ は減少関数で, $0 < a \leq 1$ のとき, $f(a) \geq f(1) = 0$

■

問題 30 (Tran Nam Dung)

a, b, c は非負の実数のとき、次の不等式を証明せよ。

$$2(a^2 + b^2 + c^2) + abc + 8 \geq 5(a + b + c)$$

(解 1) 一般性を失うことなく $0 \leq a \leq b \leq c$ と仮定できる。

$f(a, b, c) = 2(a^2 + b^2 + c^2) + abc + 8 - 5(a + b + c)$ とおくと

(i) $0 \leq a \leq 4$ の場合

$$\begin{aligned} & f(a, b, c) - f\left(a, \frac{b+c}{2}, \frac{b+c}{2}\right) \\ &= 2 \left\{ b^2 + c^2 - 2 \left(\frac{b+c}{2} \right)^2 \right\} + a \left\{ bc - \left(\frac{b+c}{2} \right)^2 \right\} \\ &= 2 \cdot \frac{(b-c)^2}{2} - \frac{a(b-c)^2}{4} \\ &= (b-c)^2 \left(1 - \frac{a}{4} \right) \geq 0 \end{aligned}$$

よって

$$f(a, b, c) \geq f\left(a, \frac{b+c}{2}, \frac{b+c}{2}\right)$$

$t = \frac{b+c}{2}$ とおくと $0 \leq a \leq 4, a \leq t$ で

$$\begin{aligned} f(a, t, t) &= 2(a^2 + 2t^2) + at^2 + 8 - 5(a + 2t) \\ &= (a+4)t^2 - 10t + 2a^2 - 5a + 8 \end{aligned}$$

ここで

$$\begin{aligned} D/4 &= 25 - (a+4)(2a^2 - 5a + 8) \\ &= -(2a^3 + 3a^2 - 12a + 7) \\ &= -(a-1)^2(2a+7) \leq 0 \end{aligned}$$

だから、 $f(a, t, t) \geq 0$

(ii) $a \geq 4$ の場合

$4 \leq a \leq b \leq c$ から

$$2(a^2 + b^2 + c^2) \geq 2(4a + 4b + 4c) > 5(a + b + c)$$

が成り立つ。これを用いると、 $f(a, b, c) > 0$ は成り立つ。 ■

(解 2) 一般性を失うことなく $0 \leqq a \leqq b \leqq c$ と仮定できる.

(i) $a = 0$ の場合

$2(b^2 + c^2) + 8 \geqq 5(b + c)$ を示せばよい.

$$2(b^2 + c^2) + 8 - 5(b + c) = \underbrace{2b^2 - 5b + 4}_{>0} + \underbrace{2c^2 - 5c + 4}_{>0} > 0$$

(ii) $0 < a \leqq b \leqq c$ の場合

系 2.8 ($p = 0, q = 2$) を適用する.

$$abc = \text{constant}, a + b + c = \text{constant}$$

ならば, $a^2 + b^2 + c^2$ は $0 < a \leqq b = c$ のとき最小となる.

したがって, $0 < a \leqq b$ のとき

$$2(a^2 + 2b^2) + ab^2 + 8 \geqq 5(a + 2b)$$

が成り立つことを示せばよい. 後は解 1 参照. ■

問題 31 a, b, c, d は正の実数で, $a + b + c + d + abcd = 5$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$\frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} + \frac{1}{d} \geq 4$$

(解答) 系 2.8 ($p = 0, q = -1$) を適用する.

一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c \leq d$ と仮定できる.

$$a + b + c + d = \text{constant}, abcd = \text{constant}$$

ならば, $\frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} + \frac{1}{d}$ は $0 < a = b = c \leq d$ のとき最小となる.

したがって, $0 < a \leq d, 3a + d + ad^3 = 5$ のとき

$$\frac{3}{a} + \frac{1}{d} \geq 4$$

を示せばよい.

$$3a + d + ad^3 = 5 \text{ から } d = \frac{5 - 3a}{a^3 + 1}$$

次に, $a \leq d$ から

$$\begin{aligned} a \leq d &\iff a \leq \frac{5 - 3a}{a^3 + 1} \\ &\iff a^4 + 4a - 5 \leq 0 \\ &\iff (a - 1)(a^3 + a^2 + a + 5) \leq 0 \end{aligned}$$

よって, $0 < a \leq 1$

$$f(a) = \frac{3}{a} + \frac{1}{d} = \frac{3}{a} + \frac{a^3 + 1}{5 - 3a} \quad (0 < a \leq 1) \text{ とおくと}$$

$$\begin{aligned} f'(a) &= -\frac{6a^5 - 15a^4 + 24a^2 - 90a + 75}{a^2(5 - 3a)^2} \\ &= -\frac{3(a - 1)(5 - 2a)(a^3 + a^2 + a + 5)}{a^2(5 - 3a)^2} \leq 0 \end{aligned}$$

から $f(a)$ は減少関数で, $0 < a \leq 1$ のとき, $f(a) \geq f(1) = 4$

■

問題 32 a, b, c は正の実数で, $a + b + c = 1$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$\frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} + 48(ab + bc + ca) \geq 25$$

(解 1) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c$ と仮定できる.

$$f(a, b, c) = \frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} + 48(ab + bc + ca) \text{ とおくと}$$

$$\begin{aligned} & f(a, b, c) - f\left(\frac{a+b}{2}, \frac{a+b}{2}, c\right) \\ &= \frac{1}{a} + \frac{1}{b} - \frac{4}{a+b} + 48 \left\{ ab - \left(\frac{a+b}{2}\right)^2 \right\} \\ &= \frac{(a-b)^2}{ab(a+b)} - 48 \cdot \frac{(a-b)^2}{4} \\ &= \frac{(a-b)^2}{ab(a+b)} \{1 - 12ab(a+b)\} \end{aligned}$$

$1 - 12ab(a+b) > 0$ を示す.

$$c \geq \frac{1}{3} \text{ だから } a+b = 1-c \leq \frac{2}{3} \text{ すなわち } a+b \leq \frac{2}{3}$$

次に

$$\frac{2}{3} \geq a+b \geq 2\sqrt{ab} \quad \text{から} \quad ab \leq \frac{1}{9}$$

これらを使うと

$$ab(a+b) \leq \frac{2}{3} \cdot \frac{1}{9} = \frac{2}{27} < \frac{1}{12}$$

よって

$$f(a, b, c) \geq f(t, t, c), \quad t = \frac{a+b}{2}$$

$0 < t \leq \frac{1}{3} \leq c, 2t+c=1$ のとき $f(t, t, c) \geq 0$ を示せばよい.

$$\begin{aligned} & f(t, t, c) \geq 0 \\ \iff & \frac{2}{t} + \frac{1}{c} + 48(t^2 + 2ct) - 25 \geq 0 \\ \iff & \frac{2}{t} + \frac{1}{1-2t} + 48 \{t^2 + 2(1-2t)t\} - 25 \geq 0 \\ \iff & \frac{288t^4 - 336t^3 + 146t^2 - 28t + 2}{t(1-2t)} \geq 0 \\ \iff & \frac{2(3t-1)^2(4t-1)^2}{t(1-2t)} \geq 0 \end{aligned}$$

最後の不等式は明らかに成り立つから, $f(t, t, c) \geq 0$ は成り立つ. ■

(解 2) 系 2.8 ($p = -1, q = 2$) を適用する.

一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c$ と仮定できる.

不等式を同値変形する.

$$\begin{aligned} & \frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} + 48(ab + bc + ca) \geq 25 \\ \iff & \frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} + 24 \{(a+b+c)^2 - (a^2 + b^2 + c^2)\} \geq 25 \\ & a + b + c = \text{constant}, \frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} = \text{constant} \end{aligned}$$

ならば, $a^2 + b^2 + c^2$ は $0 < a = b \leq c$ のとき最大となる.

したがって, $0 < a \leq \frac{1}{3} \leq c, 2a + c = 1$ のとき

$$\frac{2}{a} + \frac{1}{c} + 48(a^2 + 2ac) \geq 25$$

が成り立つことを示せばよい. 後は解 1 参照. ■

問題 33 (Vasile Cîrtoaje)

a, b, c は正の実数で, $abc = 1$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$a^2 + b^2 + c^2 + 6 \geq \frac{3}{2} \left(a + b + c + \frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} \right)$$

(解 1) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c$ と仮定できる.

$$f(a, b, c) = a^2 + b^2 + c^2 + 6 - \frac{3}{2} \left(a + b + c + \frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} \right) \text{ とおくと}$$

$$\begin{aligned} f(a, b, c) - f(a, \sqrt{bc}, \sqrt{bc}) &= b^2 + c^2 - 2bc - \frac{3}{2} \left(b + c - 2\sqrt{bc} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} - \frac{2}{\sqrt{bc}} \right) \\ &= (b - c)^2 - \frac{3}{2} \left\{ (\sqrt{b} - \sqrt{c})^2 + \frac{(\sqrt{b} - \sqrt{c})^2}{bc} \right\} \\ &= (\sqrt{b} - \sqrt{c})^2 \left\{ (\sqrt{b} + \sqrt{c})^2 - \frac{3}{2}(1 + a) \right\} \end{aligned}$$

$$(\sqrt{b} + \sqrt{c})^2 - \frac{3}{2}(1 + a) > 0 \text{ を示す.}$$

$0 < a \leq 1$ だから

$$\sqrt{b} + \sqrt{c} \geq 4\sqrt{bc} = \frac{4}{\sqrt{a}} \geq 4 > 3 \geq \frac{3}{2}(1 + a)$$

よって, $f(a, b, c) \geq f(a, \sqrt{bc}, \sqrt{bc})$

$t = \sqrt{bc}$ とおくと, $a \leq 1 \leq t$, $at^2 = 1$ のとき, $f(a, t, t) \geq 0$ を示せばよい.

$$\begin{aligned} f(a, t, t) \geq 0 &\iff a^2 + 2t^2 + 6 \geq \frac{3}{2} \left(a + 2t + \frac{1}{a} + \frac{2}{t} \right) \\ &\iff \frac{1}{t^4} + 2t^2 + 6 \geq \frac{3}{2} \left(\frac{1}{t^2} + 2t + t^2 + \frac{2}{t} \right) \\ &\iff t^6 - 6t^5 + 12t^4 - 6t^3 - 3t^2 + 2 \geq 0 \\ &\iff (t - 1)^2(t^4 - 4t^3 + 3t^2 + 4t + 2) \geq 0 \end{aligned}$$

ここで

$$\begin{aligned} t^4 - 4t^3 + 3t^2 + 4t + 2 &= t^4 - 4t^3 + 3t^2 + 4t - 4 + 6 \\ &= (t - 2)^2(t - 1)(t + 1) + 6 > 0 \end{aligned}$$

だから, $f(a, t, t) \geq 0$

■

(解 2) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c$ と仮定できる.

$$f(x) = x^2 - \frac{3}{2} \left(x + \frac{1}{x} \right) (x > 0) \text{ とおくと, 証明すべき不等式は}$$

$$f(a) + f(b) + f(c) \geq 3f(\sqrt[3]{abc})$$

となる.

$$f_1(u) = f(e^u) = e^{2u} - \frac{3}{2}(e^u + e^{-u}) \text{ とおくと}$$

$$f_1''(u) = \frac{8e^{3u} - 3e^{2u} - 3}{2e^u}$$

$u \leq 0$ すなわち $e^u \geq 1$ のとき

$$8e^{3u} - 3e^{2u} - 3 = 3(e^{3u} - e^{2u}) + 3(e^{3u} - 1) + 2e^{3u} > 0$$

だから, $f_1(u)$ は $[0, \infty)$ で凸関数である.

$r = \sqrt[3]{abc} = 1$ とおくと, $f_1(u)$ は $u \geq \log r = 0$ で凸関数であるから, RCF-Corollary より $a \leq 1 \leq b = c, ab^2 = 1$ のとき不等式が成り立つことをいえばよい.

$$g(a) = a^2 + 2b^2 + 6 - \frac{3}{2} \left(a + 2b + \frac{1}{a} + \frac{2}{b} \right), \quad (a \leq 1 \leq b, ab^2 = 1) \text{ とおくと}$$

$$\begin{aligned} g'(a) &= 2a + 4bb' - \frac{3}{2} \left(1 + 2b' - \frac{1}{a^2} - \frac{2b'}{b^2} \right) \\ &= 2a - \frac{2b^2}{a} - \frac{3}{2} \left(1 - \frac{b}{a} - \frac{1}{a^2} + \frac{1}{ab} \right) \\ &= \frac{2(a^2 - b^2)}{a} - \frac{3}{2} \left(\frac{a-b}{a} + \frac{a-b}{a^2b} \right) \\ &= \frac{(a-b)}{2a^2b} \cdot \{4(a+b)ab - 3ab - 3\} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} 4(a+b)ab - 3ab - 3 &= 4 \left(\frac{1}{b^2} + b \right) \cdot \frac{1}{b^2} \cdot b - 3 \cdot \frac{1}{b^2} \cdot b - 3 \\ &= \frac{b^3 - 3b^2 + 4}{b^3} = \frac{(b+1)(b-2)^2}{b^3} \geq 0 \end{aligned}$$

だから, $g'(a) \leq 0$ となる.

$g(a)$ は減少関数で, $0 < a \leq 1$ のとき $g(a) \geq g(1) = 0$

(解 3) 系 2.8 $\left(p = 0, q = \frac{1}{2}\right)$ を適用する.

一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c$ と仮定できる.

$$abc = 1, a + b + c = \text{constant}$$

ならば, $\frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c}$ は $0 < a \leq b = c$ のとき最大で, $a^2 + b^2 + c^2$ は $0 < a \leq b = c$ のとき最小であるから, $0 < a \leq b = c$ のとき

$$a^2 + 2b^2 + 6 \geq \frac{3}{2} \left(a + 2b + \frac{1}{a} + \frac{2}{b} \right)$$

を示せばよい. 後は解 1 参照.

問題 34 (Serbia 2008)

a, b, c は正の実数で、 $a + b + c = 1$ を満たすとき、次の不等式を証明せよ。

$$a^2 + b^2 + c^2 + 3abc \geq \frac{4}{9}$$

(初等的な不等式 I 問題 95)

(解 1) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c$ と仮定できる。

$0 < a \leq b \leq c$ と $a + b + c = 1$ から $a \leq \frac{1}{3} \leq c$ が成り立つ。

$f(a, b, c) = a^2 + b^2 + c^2 + 3abc$ とおくと

$$\begin{aligned} f(a, b, c) - f\left(a, \frac{b+c}{2}, \frac{b+c}{2}\right) &= b^2 + c^2 - 2\left(\frac{b+c}{2}\right)^2 + 3a\left\{bc - \left(\frac{b+c}{2}\right)^2\right\} \\ &= \frac{(b-c)^2}{2} - \frac{3a(b-c)^2}{4} \\ &= \frac{(b-c)^2}{4}(2-3a) \geq 0 \end{aligned}$$

ゆえに、 $f(a, b, c) \geq f\left(a, \frac{b+c}{2}, \frac{b+c}{2}\right)$

$t = \frac{b+c}{2}$ とおくと、 $a \leq \frac{1}{3} \leq t, a + 2t = 1$ のとき、 $f(a, t, t) \geq 0$ を示せばよい。

$$\begin{aligned} a^2 + 2t^2 + 3at^2 &\geq \frac{4}{9} \\ \iff a^2 + 2\left(\frac{1-a}{2}\right)^2 + 3a\left(\frac{1-a}{2}\right)^2 &\geq \frac{4}{9} \\ \iff \frac{27a^3 - 9a + 2}{36} &\geq 0 \\ \iff (3a-1)^2(3a+2) &\geq 0 \end{aligned}$$

最後の不等式は明らかに成り立つから、 $f(a, t, t) \geq 0$ ■

(解 2) 系 2.8 ($p = 0, q = 2$) を適用する。

一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c$ と仮定できる。

$$a + b + c = 1, abc = \text{constant}$$

ならば、 $a^2 + b^2 + c^2$ は $0 < a \leq \frac{1}{3} \leq b$ のとき最小であるから、 $0 < a \leq \frac{1}{3} \leq b$ のとき

$$a^2 + 2b^2 + 3ab^2 \geq \frac{4}{9}$$

を示せばよい。後は解 1 参照。 ■

問題 35 a, b, c は非負の実数のとき, 次の不等式を証明せよ.

$$a^3 + b^3 + c^3 + abc \geq \frac{1}{7}(a+b+c)^3$$

(解 1) 一般性を失うことなく $0 \leq a \leq b \leq c$ と仮定できる.

$f(a, b, c) = a^3 + b^3 + c^3 + abc - \frac{1}{7}(a+b+c)^3$ とおくと

$$\begin{aligned} f(a, b, c) - f\left(a, \frac{b+c}{2}, \frac{b+c}{2}\right) &= b^3 + c^3 - 2\left(\frac{b+c}{2}\right)^3 + a\left\{bc - \left(\frac{b+c}{2}\right)^2\right\} \\ &= \frac{3(b-c)^2(b+c)}{4} - \frac{a(b-c)^2}{4} \\ &= \frac{(b-c)^2}{4}(3b+3c-a) \geq 0 \end{aligned}$$

ゆえに, $f(a, b, c) \geq f\left(a, \frac{b+c}{2}, \frac{b+c}{2}\right)$

$t = \frac{b+c}{2}$ とおくと, $a \leq t$ のとき, $f(a, t, t) \geq 0$ を示せばよい.

$t = a+x$ ($x \geq 0$) とおくと

$$\begin{aligned} a^3 + 2t^3 + at^2 &\geq \frac{1}{7}(a+2t)^3 \\ \iff a^3 + 2(a+x)^3 + a(a+x)^2 &\geq \frac{1}{7}\{a+2(a+x)\}^3 \\ \iff a^3 + 2a^2x + 13ax^2 + 6x^3 &\geq 0 \end{aligned}$$

最後の不等式は明らかに成り立つから, $f(a, t, t) \geq 0$ ■

(解 2) 一般性を失うことなく $0 \leq a \leq b \leq c$ と仮定できる.

(i) $a = 0$ の場合 $b^3 + c^3 \geq \frac{1}{7}(b+c)^3$ を示せばよい.

$b^2 - bc + c^2 \geq \frac{1}{4}(b+c)^2$ が成り立つから

$$b^3 + c^3 = (b+c)(b^2 - bc + c^2) \geq \frac{1}{4}(b+c)^3 \geq \frac{1}{7}(b+c)^3$$

(ii) $0 < a \leq b \leq c$ の場合

系 2.8 ($p = 0, q = 2$) を適用する.

$$a + b + c = \text{constant}, abc = \text{constant}$$

ならば, $a^3 + b^3 + c^3$ は $0 < a \leq b = c$ のとき最小であるから, $0 < a \leq b = c$ のとき

$$a^3 + 2b^3 + ab^2 \geq \frac{1}{7}(a+2b)^3$$

を示せばよい. 後は解 1 参照. ■

問題 35 の不等式は次のように変えても成立する.

a, b, c は非負の実数のとき, 次の不等式を証明せよ.

$$a^3 + b^3 + c^3 + \frac{6}{7}abc \geq \frac{1}{7}(a+b+c)^3$$

(解答) 一般性を失うことなく $0 \leq a \leq b \leq c$ と仮定できる.

(i) $a = 0$ の場合 $b^3 + c^3 \geq \frac{1}{7}(b+c)^3$ を示せばよい.

ヘルダーの不等式を使うと

$$(1^3 + 1^3)(1^3 + 1^3)(b^3 + c^3) \geq (b+c)^3$$

が成り立つから

$$b^3 + c^3 \geq \frac{1}{4}(b+c)^3 \geq \frac{1}{7}(b+c)^3$$

(ii) $0 < a \leq b \leq c$ の場合

不等式は同次式であるから $a+b+c=1$ とおく.

系 2.8 ($p=0, q=2$) を適用する.

$$a+b+c=1, abc=constant$$

ならば, $a^3 + b^3 + c^3$ は $0 < a \leq b = c$ のとき最小であるから, $0 < a \leq \frac{1}{3} \leq b, a+2b=1$ のとき

$$a^3 + 2b^3 + \frac{6}{7}ab^2 \geq \frac{1}{7}$$

を示せばよい.

$$f(a) = a^3 + 2b^3 + \frac{6}{7}ab^2 \text{ とおくと}$$

$$\begin{aligned} f'(a) &= 3a^2 + 6b^2b' + \frac{6}{7}(b^2 + 2abb') \\ &= 3a^2 - 3b^2 + \frac{6}{7}(b^2 - ab) \\ &= 3(a-b)(a+b) + \frac{6}{7}b(b-a) \\ &= (a-b) \left\{ 3(a+b) - \frac{6}{7}b \right\} \\ &= (a-b) \left(3a + \frac{15}{7}b \right) \leq 0 \end{aligned}$$

$f(a)$ は減少関数で, $0 < a \leq \frac{1}{3}$ のとき, $f(a) \geq f\left(\frac{1}{3}\right) = \frac{1}{7}$

■

問題 36 a, b, c は非負の実数で, $a + b + c = 2$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$a^3 + b^3 + c^3 + \frac{15abc}{4} \geq 2$$

(解 1) 一般性を失うことなく $0 \leq a \leq b \leq c$ と仮定できる.

$$f(a, b, c) = a^3 + b^3 + c^2 + \frac{15}{4}abc - 2 \text{ とおくと}$$

$$\begin{aligned} & f(a, b, c) - f\left(a, \frac{b+c}{2}, \frac{b+c}{2}\right) \\ &= b^3 + c^3 - 2\left(\frac{b+c}{2}\right)^3 + \frac{15}{4}a \left\{ bc - \left(\frac{b+c}{2}\right)^2 \right\} \\ &= \frac{3(b-c)^2(b+c)}{4} - \frac{15a}{4} \cdot \frac{(b-c)^2}{4} \\ &= \frac{3(b-c)^2}{4} \left\{ (b+c) - \frac{5}{4}a \right\} \geq 0 \end{aligned}$$

ゆえに

$$f(a, b, c) \geq f(a, t, t), \quad t = \frac{b+c}{2}$$

が成り立つ.

したがって, $a \leq \frac{2}{3} \leq t, a + 2t = 2$ のとき, $f(a, t, t) \geq 0$ を示せばよい.

$$\begin{aligned} & a^3 + 2t^3 + \frac{15}{4}at^2 \geq 2 \\ \iff & a^3 + 2\left(\frac{2-a}{2}\right)^3 + \frac{15}{4}a\left(\frac{2-a}{2}\right)^2 \geq 2 \\ \iff & \frac{27a^3 - 36a^2 + 12a}{16} \geq 0 \\ \iff & 3a(3a-2)^2 \geq 0 \end{aligned}$$

最後の不等式は明らかに成り立つから, $f(a, t, t) \geq 0$

■

(解 2) 一般性を失うことなく $0 \leq a \leq b \leq c$ と仮定できる.

(i) $a = 0$ の場合 $b^3 + c^3 \geq 2$ を示せばよい.

$$b^2 - bc + c^2 \geq \frac{1}{4}(b+c)^2 = 1 \text{ が成り立つから}$$

$$b^3 + c^3 = (b+c)(b^2 - bc + c^2) = 2(b+c)(b^2 - bc + c^2) \geq 2$$

(ii) $0 < a \leq b \leq c$ の場合

系 2.8 ($p = 0, q = 2$) を適用する。

$$a + b + c = 2, abc = \text{constant}$$

ならば、 $a^3 + b^3 + c^3$ は $0 < a \leqq b = c$ のとき最小であるから

$$0 < a \leqq \frac{2}{3} \leqq b \text{ のとき}$$

$$a^3 + 2b^3 + \frac{15}{4}ab^2 \geq 2$$

を示せばよい。後は解 1 参照。 ■

問題 37 (Vasile Cîrtoaje)

a, b, c は正の実数で, $a^2 + b^2 + c^2 = 3$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$5(a+b+c) + \frac{3}{abc} \geq 18$$

(解答) 系 2.8 $\left(p=0, q=\frac{1}{2}\right)$ を適用する.

一般性を失うことなく $0 < a \leqq b \leqq c$ と仮定できる.

$a^2 = A, b^2 = B, c^2 = C$ とおくと, $0 < A \leqq B \leqq C, A + B + C = 3$ のとき

$$5\left(\sqrt{A} + \sqrt{B} + \sqrt{C}\right) + \frac{3}{\sqrt{ABC}} \geq 18$$

を示せばよい.

$$A + B + C = 3, ABC = constant$$

ならば, $\sqrt{A} + \sqrt{B} + \sqrt{C}$ は $A = B \leqq C$ のとき最小となる. したがって,

$$0 < a = b \leqq 1 \leqq c, 2a^2 + c^2 = 3$$

のとき不等式

$$5(2a+c) + \frac{3}{a^2c} \geq 18$$

が成り立つことを示せばよい. $f(a) = 5(2a+c) + \frac{3}{a^2c}$ とおくと

$$\begin{aligned} f'(a) &= 10 + 5c' - \frac{3(2ac + a^2c')}{(a^2c)^2} \\ &= 10 - \frac{10a}{c} - \frac{6\left(ac - \frac{a^3}{c}\right)}{(a^2c)^2} \\ &= \frac{10(c-a)}{c} - \frac{6(c-a)(c+a)}{a^3c^3} \\ &= \frac{2(c-a)\{5a^3c^2 - 3(c+a)\}}{a^3c^3} \end{aligned}$$

$5a^3c^2 < 3(c+a)$ を示す.

相加平均と相乗平均の不等式から

$$3 = a^2 + a^2 + c^2 \geq 3\sqrt[3]{a^4c^2} \quad \text{ゆえに} \quad a^2c \leqq 1$$

コーシーシュワルツの不等式から

$$\frac{9}{2} = \left(\frac{1}{2} + 1\right)(2a^2 + c^2) \geq (a+c)^2 \quad \text{ゆえに} \quad a+c \leqq \frac{3}{\sqrt{2}}$$

$$\frac{1}{c} + \frac{1}{a} \geq \frac{4}{a+c} \geq \frac{4\sqrt{2}}{3}$$

から, $c+a \geq \frac{4\sqrt{2}}{3}ca$

よって

$$5a^3c^2 = 5ac \cdot a^2c \leq 5ac \leq \frac{15\sqrt{2}}{8}(a+c) < 3(a+c)$$

から, $f'(a) \leq 0$

$f(a)$ は減少関数で, $0 < a \leq 1$ のとき, $f(a) \geq f(1) = 18$

[注] $5a^3c^2 < 3(c+a)$ はもっと簡単に示せる.

$$3 = 2a^2 + c^2 \geq 2\sqrt{2}ac \quad \text{ゆえに} \quad a^2c^2 \leq \frac{9}{8}$$

が成り立つから

$$5a^3c^2 = 5a \cdot a^2c^2 \leq \frac{45}{8}a < 6a \leq 3(c+a)$$

[注] $0 < a = b \leq 1 \leq c, 2a^2 + c^2 = 3$ のとき

$$\begin{aligned} & 5(2a+c) + \frac{3}{a^2c} \geq 18 \\ \iff & 5(2a+c)a^2c + 3 \geq 18a^2c \\ \iff & (18a^2 - 10a^3)c \leq 3 + 15a^2 - 10a^4 \\ \iff & (18a^2 - 10a^3)^2(3 - 2a^2) \leq (3 + 15a^2 - 10a^4)^2 \\ \iff & 300a^8 - 720a^7 + 48a^6 + 1080a^5 - 807a^4 + 90a^2 + 9 \geq 0 \\ \iff & 3(a-1)^2(100a^6 - 40a^5 - 164a^4 + 72a^3 + 39a^2 + 6a + 3) \geq 0 \end{aligned}$$

ここで

$$\begin{aligned} & 100a^6 - 40a^5 - 164a^4 + 72a^3 + 39a^2 + 6a + 3 \\ \geq & 100a^6 - 40a^5 - 164a^4 + 72a^3 + 39a^2 + 6a + 3 \\ = & (25a^6 - 40a^5 + 16a^4) + (75a^6 - 108a^4 + 39a^2) + 6a + 3 \\ = & (5a-4)^2a^4 + \underbrace{(75a^4 - 108a^2 + 39)}_{>0}a^2 + 6a + 3 > 0 \end{aligned}$$

が成り立つから,

$$3(a-1)^2(100a^6 - 40a^5 - 164a^4 + 72a^3 + 39a^2 + 6a + 3) \geq 0$$

問題 38 (Vasile Cîrtoaje)

a, b, c は非負の実数で, $a^2 + b^2 + c^2 = 3$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$12 + 9abc \geq 7(ab + bc + ca)$$

(解答) 一般性を失うことなく $0 \leqq a \leqq b \leqq c$ と仮定できる.

$a = 0$ の場合

$b^2 + c^2 = 3, 0 \leqq b \leqq c$ のとき, $12 \geqq 7bc$ を示せばよい.

これは

$$3 = b^2 + c^2 \geqq 2bc \quad \text{から} \quad bc \leqq \frac{3}{2} < \frac{12}{7}$$

から示される.

$0 < a \leqq b \leqq c$ の場合

系 2.8 ($p = 0, q = \frac{1}{2}$) を適用する.

$a^2 = A, b^2 = B, c^2 = C$ とおくと, 証明すべき不等式は

$0 < A \leqq B \leqq C, A + B + C = 3$ のとき

$$12 + 9\sqrt{ABC} \geqq \frac{7}{2} \left\{ (\sqrt{A} + \sqrt{B} + \sqrt{C})^2 - (A + B + C) \right\}$$

となる.

$$A + B + C = 3, ABC = \text{constant}$$

ならば, $\sqrt{A} + \sqrt{B} + \sqrt{C}$ は $A \leqq B = C$ のとき最大となる. したがって

$$0 < a \leqq 1 \leqq b = c, a^2 + 2b^2 = 3$$

のとき不等式

$$12 + 9ab^2 \geqq 14ab + 7b^2$$

が成り立つことを示せばよい.

$f(a) = 12 + 9ab^2 - (14ab + 7b^2)$ とおくと, $b' = -\frac{a}{2b}$ で

$$\begin{aligned} f'(a) &= 9b^2 + 18abb' - 14(b + ab') - 14bb' \\ &= 9b^2 - 9a^2 - 14b + \frac{7a^2}{b} + 7a \\ &= 9(b - a)(b + a) + \frac{7(a - b)(a + 2b)}{b} \\ &= \frac{(b - a)\{9(ab + b^2) - 7(a + 2b)\}}{b} \end{aligned}$$

$9(ab + b^2) < 7(a + 2b)$ を示す。

コーシーシュワルツの不等式から

$$9 = (1+2)(a^2 + 2b^2) \geq (a+2b)^2 \quad \text{ゆえに} \quad a+2b \leq 3$$

これを使うと

$$\frac{1}{b} + \frac{1}{a+b} \geq \frac{4}{a+2b} \geq \frac{4}{3}$$

から、 $a+2b \geq \frac{4}{3}b(a+b)$ を得る。

よって

$$9b(a+b) \leq \frac{27}{4}(a+2b) < 7(a+2b)$$

から、 $9(ab + b^2) < 7(a + 2b)$ となり、 $f'(a) \leq 0$

$f(a)$ は減少関数で、 $0 < a \leq 1$ のとき、 $f(a) \geq f(1) = 0$

■

問題 39 (Vasile Cîrtoaje)

a, b, c は非負の実数で, $ab + bc + ca = 3$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$a^3 + b^3 + c^3 + 7abc \geq 10$$

(解答) 一般性を失うことなく $0 \leq a \leq b \leq c$ と仮定できる.

$a = 0$ の場合

$bc = 3, b > 0, c > 0$ のとき, $b^3 + c^3 \geq 10$ を示せばよい.

$$b^3 + c^3 \geq 2\sqrt{(bc)^3} = 6\sqrt{3} > 10$$

$0 < a \leq b \leq c$ の場合

系 2.8 ($p = 0, q = -3$) を適用する.

$\frac{1}{a} = A, \frac{1}{b} = B, \frac{1}{c} = C$ とおくと, 証明すべき不等式は

$0 < C \leq B \leq A, A + B + C = 3ABC$ のとき

$$\frac{1}{A^3} + \frac{1}{B^3} + \frac{1}{C^3} + \frac{7}{ABC} \geq 10$$

となる.

$$A + B + C = \text{constant}, \quad ABC = \text{constant}$$

ならば, $\frac{1}{A^3} + \frac{1}{B^3} + \frac{1}{C^3}$ は $C = B \leq A$ のとき最小となる. したがって,

$$0 < a \leq 1 \leq b = c, \quad b^2 + 2ab = 3$$

のとき不等式

$$a^3 + 2b^3 + 7ab^2 \geq 10$$

が成り立つことを示せばよい.

$$\begin{aligned} a^3 + 2b^3 + 7ab^2 &\geq 10 \\ \iff \left(\frac{3-b^2}{2b} \right)^3 + 2b^3 + 7 \cdot \frac{3-b^2}{2b} \cdot b^2 &\geq 10 \\ \iff -\frac{13b^6 - 93b^4 + 80b^3 + 27b^2 - 27}{8b^3} &\geq 0 \\ \iff (b-1)^2(b+3)(-13b^3 + 13b^2 + 15b + 9) &\geq 0 \end{aligned} \tag{*}$$

$1 \leqq b < \sqrt{3}$ だから

$$\begin{aligned} 13b^3 &= b^3 + 5b^3 + 7b^3 \\ &< 3\sqrt{3} + 15b + 7\sqrt{3}b^2 \\ &< 9 + 15b + 13b^2 \end{aligned}$$

よって $-13b^3 + 13b^2 + 15b + 9 > 0$ となり, (*) は成り立つ. ■

[注] $-13b^3 + 13b^2 + 15b + 9 > 0$ は次のように示すこともできる.

$f(b) = -13b^3 + 13b^2 + 15b + 9 (1 \leqq b < \sqrt{3})$ とおくと

$$f'(b) = -39b^2 + 26b + 15$$

$f'(b) = 0$ は $1 < b < \sqrt{3}$ においてただ 1 つの解をもつから, これを α とおくと,
 $1 \leqq b < \alpha \Rightarrow f'(b) > 0, \alpha < b < \sqrt{3} \Rightarrow f'(b) < 0$
また, $f(1) = 24, \lim_{b \rightarrow \sqrt{3}} f(b) = 48 - 24\sqrt{3} > 0$ なので, $f(b) > 0$

問題 40 a, b, c は正の実数で, $abc = 1$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$\frac{2}{a+b+c} + \frac{1}{3} \geq \frac{3}{ab+bc+ca}$$

(解答) 系 2.8 ($p=0, q=2$) を適用する.

一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c$ と仮定できる.

証明すべき不等式は

$$\frac{2}{a+b+c} + \frac{1}{3} \geq \frac{6}{(a+b+c)^2 - (a^2 + b^2 + c^2)}$$

と変形できる.

$$abc = 1, a+b+c = \text{constant}$$

ならば, $a^2 + b^2 + c^2$ は $a = b \leq c$ のとき最大となる.

したがって

$$0 < a \leq 1 \leq c, a^2c = 1$$

のとき不等式

$$\frac{2}{2a+c} + \frac{1}{3} \geq \frac{3}{a^2 + 2ca}$$

が成り立つことを示せばよい.

$$\begin{aligned} & \frac{2}{2a+c} + \frac{1}{3} \geq \frac{3}{a^2 + 2ca} \\ \iff & \frac{2}{2a + \frac{1}{a^2}} + \frac{1}{3} \geq \frac{3}{a^2 + 2a \cdot \frac{1}{a^2}} \\ \iff & \frac{2a^2}{2a^3 + 1} + \frac{1}{3} \geq \frac{3a}{a^3 + 2} \\ \iff & 2a^6 + 6a^5 - 18a^4 + 5a^3 + 12a^2 - 9a + 2 \geq 0 \\ \iff & (a-1)^2(2a^4 + 10a^3 - 5a + 2) \geq 0 \end{aligned} \tag{*}$$

ここで

$$\begin{aligned} 2a^4 + 10a^3 - 5a + 2 & \geq 2a^4 + 10a^4 - 5a + 2 \\ & = \underbrace{12a^4}_{>0} - \underbrace{\frac{13}{2}a^2 + 1}_{>0} + \underbrace{\frac{13}{2}a^2 - 5a + 1}_{>0} > 0 \end{aligned}$$

だから, (*) は成り立つ. ■

[注] $0 < a \leq 1$ のとき $2a^4 + 10a^3 - 5a + 2 > 0$ が成り立つことは次のように示すことができる。

$$s = \frac{1}{a} (s \geq 1), t = s + 1 (s \geq 0) \text{ とおくと}$$

$$\begin{aligned} & 2a^4 + 10a^3 - 5a + 2 \geq 0 \\ \iff & 2s^4 - 5s^3 + 10s + 2 > 0 \\ \iff & 2(t+1)^4 - 5(t+1)^3 + 10(t+1) + 2 > 0 \\ \iff & 2t^4 + 3t^3 - 3t^2 + 3t + 9 > 0 \end{aligned}$$

ここで

$$2t^4 + 3t^3 - 3t^2 + 3t + 9 = 2t^4 + 3\underbrace{(t^2 - t + 1)}_{>0} t + 9 > 0$$

となる。

問題 41 a, b, c は正の実数で, $a^2 + b^2 + c^2 = 3$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$ab + bc + ca \leq abc + 2$$

(解 1) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c$ と仮定できる.

$0 < a \leq b \leq c, a^2 + b^2 + c^2 = 3$ から $0 < a \leq 1 \leq c$ が成り立つ.

$f(a, b, c) = ab + bc + ca - abc = a(b + c) + bc - abc$ とおくと

$$\begin{aligned} f(a, b, c) - f\left(a, \sqrt{\frac{b^2 + c^2}{2}}, \sqrt{\frac{b^2 + c^2}{2}}\right) \\ = a\left(b + c - 2\sqrt{\frac{b^2 + c^2}{2}}\right) + bc - \frac{b^2 + c^2}{2} - a\left(bc - \frac{b^2 + c^2}{2}\right) \\ = a \cdot \frac{(b+c)^2 - 2(b^2 + c^2)}{b+c + \sqrt{2(b^2 + c^2)}} - \frac{(b-c)^2}{2} + \frac{a(b-c)^2}{2} \\ = (b-c)^2 \left(-\frac{a}{b+c + \sqrt{2(b^2 + c^2)}} - \frac{1-a}{2}\right) \leq 0 \end{aligned}$$

よって

$$f(a, b, c) \leq f(a, t, t), t = \sqrt{\frac{b^2 + c^2}{2}}$$

が成り立つ.

したがって $0 < a \leq 1 \leq t, a^2 + 2t^2 = 3$ のとき

$$f(a, t, t) = t^2 + 2at - at^2 \leq 2$$

を示せばよい.

$$\begin{aligned} t^2 + 2at - at^2 \leq 2 &\iff 3 - a^2 + 4at - 2at^2 \leq 4 \\ &\iff 2a(t-1)^2 + (a-1)^2 \geq 0 \end{aligned}$$

最後の不等式は明らかに成り立つ. ■

(解 2) 系 2.8 $\left(p = 0, q = \frac{1}{2}\right)$ を適用する.

一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c$ と仮定できる.

$a = \sqrt{A}, b = \sqrt{B}, c = \sqrt{C}$ とおくと, $0 < A \leq B \leq C, A + B + C = 3$ のとき

$$(\sqrt{A} + \sqrt{B} + \sqrt{C})^2 - (A + B + C) \leq 2\sqrt{ABC} + 4$$

を示せばよい。

$$A + B + C = 3, ABC = \text{constant}$$

ならば、 $(\sqrt{A} + \sqrt{B} + \sqrt{C})^2$ は $0 < A \leq B = C$ のとき最大となる。

したがって、 $0 < a \leq b = c$ のときを考えればよい。

$0 < a \leq 1 \leq b, a^2 + 2b^2 = 3$ のとき、 $2ab + b^2 \leq ab^2 + 2$ を示す。

$$f(a) = ab^2 + 2 - 2ab - b^2 \text{ とおくと, } a^2 + 2b^2 = 3 \text{ から } b' = -\frac{a}{2b}$$

$$\begin{aligned} f'(a) &= b^2 + 2abb' - 2b - 2ab' - 2bb' \\ &= b^2 - a^2 - 2b + \frac{a^2}{b} + a \\ &= b^2 - a^2 + \frac{a^2 + ab - 2b^2}{b} \\ &= (b-a)(b+a) + \frac{(a-b)(a+2b)}{b} \\ &= \frac{(b-a)}{b}(ab + b^2 - a - 2b) \end{aligned}$$

$b(a+b) - (a+2b) < 0$ を示す。

$$9 = (1+2)(a^2 + 2b^2) \geq (a+2b)^2 \text{ から } a+2b \leq 3$$

これを使うと

$$\frac{1}{b} + \frac{1}{a+b} \geq \frac{4}{a+2b} \geq \frac{4}{3} > 1$$

よって、 $a+2b > b(a+b)$ が成り立つから、 $f'(a) \leq 0$

$f(a)$ は減少関数で、 $0 < a \leq 1$ のとき、 $f(a) \geq f(1) = 0$

■

問題 42 a, b, c は正の実数で, $a + b + c = 3$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$12 \left(\frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} \right) \geq 4(a^3 + b^3 + c^3) + 21$$

(解 1) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c$ と仮定できる.

$$f(a, b, c) = 12 \left(\frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} \right) - 4(a^3 + b^3 + c^3) - 21 \text{ とおくと}$$

$$\begin{aligned} & f(a, b, c) - f \left(\frac{a+b}{2}, \frac{a+b}{2}, c \right) \\ &= 12 \left(\frac{1}{a} + \frac{1}{b} - \frac{4}{a+b} \right) - 4 \left\{ a^3 + b^3 - 2 \left(\frac{a+b}{2} \right)^3 \right\} \\ &= \frac{12(a-b)^2}{ab(a+b)} - 3(a-b)^2(a+b) \\ &= \frac{3(a-b)^2}{ab(a+b)} \{ 4 - ab(a+b)^2 \} \end{aligned}$$

$4 - ab(a+b)^2 \geq 0$ を示す.

$c \geq 1$ となるから $a+b = 3-c \leq 2$

これを使うと, $2 \geq a+b \geq 2\sqrt{ab}$ から $ab \leq 1$

よって, $ab(a+b)^2 \leq (a+b)^2 \leq 4$ だから

$$f(a, b, c) \geq f(t, t, c), \quad t = \frac{a+b}{2}$$

したがって $0 < t \leq 1 \leq c, 2t+c = 3$ のとき, $f(t, t, c) \geq 0$ を示せばよい.

$$\begin{aligned} f(t, t, c) \geq 0 &\iff 12 \left(\frac{2}{t} + \frac{1}{c} \right) - 4(2t^3 + c^3) - 21 \geq 0 \\ &\iff 12 \left(\frac{2}{t} + \frac{1}{3-2t} \right) - 4 \{ 2t^3 + (3-2t)^3 \} - 21 \geq 0 \\ &\iff - \frac{48t^5 - 360t^4 + 864t^3 - 906t^2 + 423t - 72}{t(3-2t)} \geq 0 \\ &\iff 3(2t-1)^2(-4t^3 + 26t^2 - 45t + 24) \geq 0 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} -4t^3 + 26t^2 - 45t + 24 &= -4t^3 + 26t^2 - 45t + 23 + 1 \\ &= (1-t) \underbrace{(4t^2 - 22t + 23)}_{>0} + 1 > 0 \end{aligned}$$

だから, $f(t, t, c) \geq 0$

■

(解 2) 系 2.8 ($p = -1, q = 3$) を適用する.

一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c$ と仮定できる.

$$a + b + c = 3, \frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} = constant$$

ならば, $a^3 + b^3 + c^3$ は $0 < a = b \leq c$ のとき最大となる.

したがって, $0 < a \leq 1 \leq c, 2a + c = 3$ のとき

$$12 \left(\frac{2}{a} + \frac{1}{c} \right) \geq 4(2a^3 + c^3) + 21$$

を示せばよい. 後は解 1 参照. ■

問題 43 a, b, c は正の実数で, $abc = 1$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$\frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} + \frac{6}{a+b+c} \geq 5$$

(解 1) 一般性を失うことなく $0 < a < b \leq c$ と仮定できる.

$$f(a, b, c) = \left(\frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} \right) + \frac{6}{a+b+c} \text{ とおくと}$$

$$\begin{aligned} & f(a, b, c) - f(\sqrt{ab}, \sqrt{ab}, c) \\ &= \left(\frac{1}{a} + \frac{1}{b} - \frac{2}{\sqrt{ab}} \right) + \frac{6}{a+b+c} - \frac{6}{2\sqrt{ab}+c} \\ &= \frac{(\sqrt{a}-\sqrt{b})^2}{ab} - \frac{6(\sqrt{a}-\sqrt{b})^2}{(a+b+c)(2\sqrt{ab}+c)} \\ &= \frac{(\sqrt{a}-\sqrt{b})^2}{ab(a+b+c)(2\sqrt{ab}+c)} \left\{ (a+b+c)(2\sqrt{ab}+c) - 6ab \right\} \end{aligned}$$

$(a+b+c)(2\sqrt{ab}+c) - 6ab > 0$ を示す.

$$\begin{aligned} (a+b+c)(2\sqrt{ab}+c) &\geq (a+2b)(2a+b) \\ &> 2\sqrt{2ab} \cdot 2\sqrt{2ab} \\ &= 8ab > 6ab \end{aligned}$$

したがって, $f(a, b, c) \geq f(\sqrt{ab}, \sqrt{ab}, c)$ が成り立つ.

$t = \sqrt{ab}$ とおくと, $0 < t \leq 1 \leq c$, $t^2c = 1$ のとき, $f(t, t, c) \geq 5$ を示せばよい.

$$\begin{aligned} f(t, t, c) \geq 5 &\iff \frac{2}{t} + \frac{1}{c} + \frac{6}{2t+c} \geq 5 \\ &\iff \frac{2}{t} + t^2 + \frac{6t^2}{2t^3+1} \geq 5 \\ &\iff \frac{2t^6 - 10t^4 + 11t^3 - 5t + 2}{t(2t^3+1)} \geq 0 \\ &\iff (t-1)^2(2t^4 + 4t^3 - 4t^2 - t + 2) \geq 0 \end{aligned}$$

$u = \frac{1}{t}$ (≥ 1), $v = u-1$ (≥ 0) とおくと

$$\begin{aligned} 2t^4 + 4t^3 - 4t^2 - t + 2 > 0 &\iff 2u^4 - u^3 - 4u^2 + 4u + 2 > 0 \\ &\iff 2(v+1)^4 - (v+1)^3 - 4(v+1)^2 + 4(v+1) + 2 > 0 \\ &\iff 2v^3 + 7v^2 + 5v^2 + v + 3 > 0 \end{aligned}$$

だから, $f(t, t, c) \geq 5$ は成り立つ. ■

(解 2) 系 2.8 ($p = 0, q = -1$) を適用する.

一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c$ と仮定できる.

$$abc = 1, a + b + c = \text{constant}$$

ならば, $\frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c}$ は $a = b \leq c$ のとき最小となる.

したがって

$$0 < a \leq 1 \leq c, a^2 c = 1$$

のとき不等式

$$\frac{2}{a} + \frac{1}{c} + \frac{6}{2a+c} \geq 5$$

が成り立つことを示せばよい.

$$\frac{2}{a} + \frac{1}{c} + \frac{6}{2a+c} \geq 5 \iff \frac{2}{a} + a^2 + \frac{6a^2}{2a^3+1} \geq 5$$

$$f(a) = \frac{2}{a} + a^2 + \frac{6a^2}{2a^3+1} \quad (0 < a \leq 1) \text{ とおくと}$$

$$\begin{aligned} f'(a) &= -\frac{2}{a^2} + 2a - \frac{12a(a^3 - 1)}{(2a^3 + 1)^2} \\ &= -\frac{2(a^3 - 1)}{a^2} - \frac{12a(a^3 - 1)}{(2a^3 + 1)^2} \\ &= \frac{2(a^3 - 1)(4a^6 - 2a^3 + 1)}{a^2(2a^3 + 1)^2} \leq 0 \end{aligned}$$

$f(a)$ は減少関数で, $0 < a \leq 1$ のとき, $f(a) \geq f(1) = 5$

■

問題 44 a, b, c は正の実数で, $a + b + c = 3$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$abc + \frac{12}{ab + bc + ca} \geq 5$$

(解答) 系 2.8 ($p = 0, q = 2$) を適用する.

一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c$ と仮定できる.

証明すべき不等式は

$$abc + \frac{24}{(a+b+c)^2 - (a^2 + b^2 + c^2)} \geq 5$$

と変形できる.

$$a + b + c = 3, abc = \text{constant}$$

ならば, $a^2 + b^2 + c^2$ は $a \leq b = c$ のとき最小となる. したがって,

$$0 < a \leq 1 \leq b = c, a + 2b = 3$$

のとき不等式

$$ab^2 + \frac{12}{b^2 + 2ab} \geq 5$$

が成り立つことを示せばよい.

$$\begin{aligned} ab^2 + \frac{12}{b^2 + 2ab} &\geq 5 \\ \iff (3-2b)b^2 + \frac{12}{(b^2 + 2(3-2b)b} &\geq 5 \\ \iff 2b^5 - 7b^4 + 6b^3 + 5b^2 - 10b + 4 &\geq 0 \\ \iff (b-1)^2(2b^3 - 3b^2 - 2b + 4) &\geq 0 \end{aligned}$$

だから, $0 \leq b < \frac{3}{2}$ のとき $2b^3 - 3b^2 - 2b + 4 > 0$ を示す.

$f(b) = 2b^3 - 3b^2 - 2b + 4$ とおくと

$$f'(b) = 6b^2 - 6b - 2$$

$$\alpha = \frac{3 + \sqrt{21}}{6} < \frac{3}{2} \text{ とおくと, 増減表は次のようになる.}$$

b	1	\dots	α	\dots	$\frac{3}{2}$
$f'(b)$		−	0	+	0
$f(b)$		↘	極小	↗	

$f(b)$ は $x = \alpha$ で最小値

$$f'(\alpha) = (3\alpha^2 - 3\alpha - 1) \cdot \frac{2\alpha - 1}{3} - \frac{7\alpha - 11}{3} = \frac{11 - 7\alpha}{3}$$

をとる。

$$\alpha = \frac{3 + \sqrt{21}}{6} < \frac{3}{2} < \frac{11}{7} \text{ だから, } 11 - 7\alpha > 0$$

よって, $f(\alpha) > 0$ となるから, $f(b) > 0$

■

問題 45 (Zdravko Cvetkovski)

a, b, c は正の実数で、 $ab + bc + ca = 3$ を満たすとき、次の不等式を証明せよ。

$$(a^3 - a + 5)(b^5 - b^3 + 5)(c^7 - c^5 + 5) \geq 125$$

(解答) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c$ と仮定できる。

$(a-1)(a^2-1) \geq 0, (b^2-1)(b^3-1) \geq 0, (c^2-1)(c^5-1) \geq 0$ から

$$a^3 - a \geq a^2 - 1, b^5 - b^3 \geq b^2 - 1, c^7 - c^5 \geq c^2 - 1$$

よって

$$a^3 - a + 5 \geq a^2 + 4, b^5 - b^3 + 5 \geq b^2 + 4, c^7 - c^5 + 5 \geq c^2 + 4$$

の辺々をかけると

$$(a^3 - a + 5)(b^5 - b^3 + 5)(c^7 - c^5 + 5) \geq (a^2 + 4)(b^2 + 4)(c^2 + 4)$$

したがって

$$(a^2 + 4)(b^2 + 4)(c^2 + 4) \geq 125$$

を示せばよい。

$$\begin{aligned} & (a^2 + 4)(b^2 + 4)(c^2 + 4) \geq 125 \\ \iff & a^2b^2c^2 + 4(a^2b^2 + b^2c^2 + c^2a^2) + 16(a^2 + b^2 + c^2) \geq 61 \end{aligned}$$

$x^2 + y^2 + z^2 \geq xy + yz + zx$ が成り立つから、 $a^2b^2 + b^2c^2 + c^2a^2 \geq abc(a + b + c)$

これを使うと

$$a^2b^2c^2 + 4abc(a + b + c) + 16(a^2 + b^2 + c^2) \geq 61$$

を証明すればよい。

系 2.7 ($p = 2$) を適用する。

$$3 = ab + bc + ca = \frac{(a + b + c)^2 - (a^2 + b^2 + c^2)}{2} \text{ より}$$

$$a + b + c = \text{constant}, a^2 + b^2 + c^2 = \text{constant}$$

ならば、 $abc 0 < a \leq b = c$ のとき最小となる。

したがって、 $0 < a \leq 1 \leq b, 2ab + b^2 = 3$ のとき

$$a^2b^4 + 4ab^2(a + 2b) + 16(a^2 + 2b^2) \geq 61$$

を示せばよい。

$$\begin{aligned}
 & a^2b^4 + 4ab^2(a+2b) + 16(a^2 + 2b^2) \geq 61 \\
 \iff & \left(\frac{3-b^2}{2b}\right)^2 b^4 + 4\left(\frac{3-b^2}{2b}\right)^2 b^2 + 8\left(\frac{3-b^2}{2b}\right) b^3 + 16\left(\frac{3-b^2}{2b}\right)^2 + 32b^2 \geq 61 \\
 \iff & \frac{b^8 - 18b^6 + 177b^4 - 304b^2 + 144}{4b^2} \geq 0 \\
 \iff & \frac{(b-1)^2(b+1)^2(b^4 - 16b^2 + 144)}{4b^2} \geq 0
 \end{aligned}$$

最後の不等式は明らかに成り立つ。 ■

[注] a, b, c は正の実数で, $ab + bc + ca = 3$ を満たすとき

$$(a^2 + 4)(b^2 + 4)(c^2 + 4) \geq 125$$

を示したが, 一般的に

x, y, z が正の実数のとき

$$(x^2 + 4)(y^2 + 4)(z^2 + 4) \geq 5(x + y + z + 2)^2 \quad (*)$$

が成り立つ。

$ab + bc + ca = 3$ のときは, $(a+b+c)^2 \geq 3(ab + bc + ca) = 9$ から $a+b+c \geq 3$ で $a+b+c+2 \geq 5$

よって, $(a^2 + 4)(b^2 + 4)(c^2 + 4) \geq 5(a+b+c)^2 \geq 125$ がいえる。

(*) の証明

$$(x^2 - 1)(y^2 - 1) < 0 \text{かつ } (y^2 - 1)(z^2 - 1) < 0 \text{かつ } (z^2 - 1)(x^2 - 1) < 0$$

と仮定して, これらの不等式の辺々をかけると, $(x^2 - 1)^2(y^2 - 1)^2(z^2 - 1)^2 < 0$ となるが, これは $(x^2 - 1)^2(y^2 - 1)^2(z^2 - 1)^2 \geq 0$ に矛盾する。

よって

$(x^2 - 1)(y^2 - 1) \geq 0$ または $(y^2 - 1)(z^2 - 1) \geq 0$ または $(z^2 - 1)(x^2 - 1) \geq 0$ となる。

$(y^2 - 1)(z^2 - 1) \geq 0$ とすると

$$\begin{aligned}
 & (y^2 + 4)(z^2 + 4) - 5(y^2 + z^2 + 3) \\
 &= y^2z^2 + 3(y^2 + z^2) - 2yz - 6(y+z) + 7 \\
 &= (y^2 - 1)(z^2 - 1) + (y-z)^2 + 3(y-1)^2 + 3(z-1)^2 \geq 0
 \end{aligned}$$

から

$$(y^2 + 4)(z^2 + 4) \geq 5(y^2 + z^2 + 3)$$

を得る。したがって

$$(x^2 + 4)(y^2 + z^2 + 3) \geq (x + y + z + 2)^2$$

を示せばよい。これは、コーシーシュワルツの不等式

$$(x^2 + 1 + 1 + 2)(1 + y^2 + z^2 + 2) \geq (x + y + z + 2)^2$$

から得られる。 ■

問題 46 a, b, c は正の実数のとき、次の不等式を証明せよ。

$$8(a^3 + b^3 + c^3) \geq (a+b)^3 + (b+c)^3 + (c+a)^3$$

(解 1) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c$ と仮定できる。

$f(a, b, c) = 8(a^3 + b^3 + c^3) - (a+b)^3 - (b+c)^3 - (c+a)^3$ とおくと

$$\begin{aligned} f(a, b, c) - f\left(a, \frac{b+c}{2}, \frac{b+c}{2}\right) \\ = 8 \left\{ b^3 + c^3 - 2 \left(\frac{b+c}{2} \right)^3 \right\} - (a+b)^3 - (c+a)^3 + 2 \left(a + \frac{b+c}{2} \right)^3 \\ = 8 \cdot \frac{3(b-c)^2(b+c)}{4} - \frac{3(b-c)^2(2a+b+c)}{4} \\ = \frac{3(b-c)^2}{4} \{8(b+c) - (2a+b+c)\} \\ = \frac{3(b-c)^2}{4} \{7(b+c) - 2a\} \geq 0 \end{aligned}$$

から

$$f(a, b, c) \geq f(a, t, t), \quad t = \frac{b+c}{2}$$

が成り立つ。

$0 < a \leq t$ のとき

$$\begin{aligned} f(a, t, t) &= 8(a^3 + 2t^3) - 2(a+t)^3 - (2t)^3 \\ &= 6t^3 - 6at^2 - 6a^2t + 6a^3 \\ &= 6(t-a)^2(t+a) \geq 0 \end{aligned}$$
■

(解 2) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c$ と仮定できる。

不等式は同次式だから、 $a+b+c=3$ と仮定できる。このとき、証明すべき不等式は

$$8(a^3 + b^3 + c^3) \geq (3-a)^3 + (3-b)^3 + (3-c)^3$$

となる。

$$f(x) = 8x^3 - (3-x)^3 \quad (x > 0) \text{ とおくと, } f''(x) = 18(3x-1)$$

$f(x)$ は $\left[\frac{1}{3}, \infty\right)$ で凸関数である。

$$s = \frac{a+b+c}{3} = 1 \text{ とおくと, } f(x) \text{ は } [1, \infty) \text{ で凸関数である。}$$

RCF-Theorem より $0 < a \leq 1 \leq b = c$ のとき不等式が成り立つことを示せばよい。
後は解 1 参照。

■

(解 3) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c$ と仮定できる.

$$\begin{aligned} 8(a^3 + b^3 + c^3) &\geq (a+b)^3 + (b+c)^3 + (c+a)^3 \\ \iff 2(a^3 + b^3 + c^3) &\geq a^2b + a^2c + b^2c + b^2a + c^2a + c^2b \\ \iff 3(a^3 + b^3 + c^3) &\geq (a+b+c)(a^2 + b^2 + c^2) \end{aligned} \quad \dots\dots (*)$$

系 2.8 ($p = 2, q = 3$) を適用する.

$$a + b + c = \text{constant}, a^2 + b^2 + c^2 = \text{constant}$$

ならば, $a^3 + b^3 + c^3$ は $0 < a \leq b = c$ のとき最小となる. 後は解 1 参照. ■

(解 4) 不等式を同値変形して

$$3(a^3 + b^3 + c^3) \geq (a+b+c)(a^2 + b^2 + c^2) \quad \dots\dots (*)$$

を示せばよい.

コーチーシュワルツの不等式より

$$(a+b+c)(a^3 + b^3 + c^3) \geq (a^2 + b^2 + c^2)^2 \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

ヘルダーの不等式より

$$(1+1+1)(1+1+1)(a^3 + b^3 + c^3) \geq (a+b+c)^3 \quad \dots\dots \textcircled{2}$$

$\textcircled{1} \times \textcircled{2}$ から

$$9(a^3 + b^3 + c^3)^2 \geq (a+b+c)^2(a^2 + b^2 + c^2)^2$$

よって, (*) は成り立つ. ■

(解 5) $f(t) = t^3$ ($t > 0$) は凸関数だから

$$\frac{f(a) + f(b)}{2} \geq f\left(\frac{a+b}{2}\right) \quad \text{より} \quad \frac{a^3 + b^3}{2} \geq \left(\frac{a+b}{2}\right)^3$$

よって, $4(a^3 + b^3) \geq (a+b)^3$ が成り立つ.

同様にして, $4(b^3 + c^3) \geq (b+c)^3, 4(c^3 + a^3) \geq (c+a)^3$ が成り立つから, これらの不等式の辺々を加えると

$$8(a^3 + b^3 + c^3) \geq (a+b)^3 + (b+c)^3 + (c+a)^3 \quad \blacksquare$$

問題 47 a, b, c は非負の実数のとき、次の不等式を証明せよ。

$$a^4(b+c) + b^4(c+a) + c^4(a+b) \leq \frac{1}{12}(a+b+c)^5$$

(解答) 一般性を失うことなく $0 \leq a \leq b \leq c$ と仮定できる。

$a = 0$ のとき

$$b^4c + bc^4 \leq \frac{1}{12}(b+c)^5$$

を示せばよい。

$$\begin{aligned} & b^4c + bc^4 \leq \frac{1}{12}(b+c)^5 \\ \iff & \frac{b^5 - 7b^4c + 10b^3c^2 + 10b^2c^3 - 7bc^4 + c^5}{12} \geq 0 \\ \iff & \frac{(b+c)(b^2 - 4bc + c^2)^2}{12} \geq 0 \end{aligned}$$

$$\frac{(b+c)(b^2 - 4bc + c^2)^2}{12} \geq 0 \text{ は明らかに成り立つ。}$$

$0 < a \leq b \leq c$ の場合

証明すべき不等式は同次式だから、 $a+b+c=3$ と仮定できる。

このとき

$$\begin{aligned} & a^4(b+c) + b^4(c+a) + c^4(a+b) \leq \frac{1}{12}(a+b+c)^5 \\ \iff & a^4(3-a) + b^4(3-b) + c^4(3-c) \leq \frac{81}{4} \\ \iff & 3(a^4 + b^4 + c^4) \leq a^5 + b^5 + c^5 + \frac{81}{4} \end{aligned}$$

系 2.8 ($p=4, q=5$) を適用する。

$$a+b+c=3, a^4 + b^4 + c^4 = \text{constant}$$

ならば、 $a^5 + b^5 + c^5$ は $0 < a \leq b = c$ のとき最小となる。

$0 < a \leq 1 \leq b, a+2b=3$ のとき

$$a^4(3-a) + 2b^4(3-b) \leq \frac{81}{4}$$

を示せばよい。

$$\begin{aligned} a^4(3-a) + 2b^4(3-b) &\leqq \frac{81}{4} \\ \iff a^4(3-a) + 2\left(\frac{3-a}{2}\right)^4\left(3-\frac{3-a}{2}\right) &\leqq \frac{81}{4} \\ \iff \frac{15a^5 - 39a^4 - 18a^3 - 54a^2 + 243a + 81}{16} &\geqq 0 \end{aligned}$$

$$39a^4 + 18a^3 + 54a^2 \leqq 39a + 18a + 54a = 111a$$

より

$$\begin{aligned} 15a^5 - 39a^4 - 18a^3 - 54a^2 + 243a + 81 \\ = (\underbrace{111a - 39a^4 - 18a^3 - 54a^2}_{\geqq 0}) + 15a^5 + 132a + 81 > 0 \end{aligned} \quad \blacksquare$$

問題 48 a, b, c は正の実数で, $a^2 + b^2 + c^2 = 3$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$a^2b^2 + b^2c^2 + c^2a^2 \leqq a + b + c$$

(解 1) 一般性を失うことなく $0 < a \leqq b \leqq c$ と仮定できる.

$f(a, b, c) = a + b + c - (a^2b^2 + b^2c^2 + c^2a^2)$ とおくと

$$\begin{aligned} f(a, b, c) - f\left(a, \sqrt{\frac{b^2 + c^2}{2}}, \sqrt{\frac{b^2 + c^2}{2}}\right) \\ = b + c - 2\sqrt{\frac{b^2 + c^2}{2}} - \left\{ b^2c^2 - \left(\frac{b^2 + c^2}{2}\right)^2 \right\} \\ = \frac{-(b - c)^2}{b + c + \sqrt{2(b^2 + c^2)}} + \frac{(b^2 - c^2)^2}{4} \\ = (b - c)^2 \left\{ \frac{(b + c)^2}{4} - \frac{1}{b + c + \sqrt{2(b^2 + c^2)}} \right\} \end{aligned}$$

$$\frac{(b + c)^2}{4} - \frac{1}{b + c + \sqrt{2(b^2 + c^2)}} > 0 \text{ を示す.}$$

$a \leqq 1$ の $b^2 + c^2 = 3 - a^2 \geqq 2$ から $b^2 + c^2 \geqq 2$

また, $(b + c)^2 > b^2 + c^2 \geqq 2$ から $b + c > \sqrt{2}$

これらのことから

$$\begin{aligned} \frac{(b + c)^2}{4} &> \frac{(\sqrt{2})^2}{4} = \frac{1}{2} \\ \frac{1}{b + c + \sqrt{2(b^2 + c^2)}} &< \frac{1}{\sqrt{2} + \sqrt{2 \cdot 2}} = \frac{1}{\sqrt{2} + 2} < \frac{1}{2} \end{aligned}$$

よって, $\frac{(b + c)^2}{4} - \frac{1}{b + c + \sqrt{2(b^2 + c^2)}} > 0$ となるから,

$$f(a, b, c) \geqq f(a, t, t), t = \sqrt{\frac{b^2 + c^2}{2}}$$

したがって, $0 < a \leqq t, a^2 + 2t^2 = 3$ のとき, $f(a, t, t) \geqq 0$ が成り立つことを示せば

よい.

$$\begin{aligned}
f(a, t, t) \geqq 0 &\iff 2t \geqq -a + 2a^2t^2 + t^4 \\
&\iff 2t \geqq -a + 2a^2 \left(\frac{3-a^2}{2} \right) + \left(\frac{3-a^2}{2} \right)^4 \\
&\iff \sqrt{2(3-a^2)} \geqq -\frac{3a^4 - 6a^2 + 4a - 9}{4} \\
&\iff 2(3-a^2) \geqq \left(\frac{3a^4 - 6a^2 + 4a - 9}{4} \right)^2 \\
&\quad \because -3a^4 + 6a^2 - 4a + 9 = (-3a^4 + 6a^2) + (-4a + 9) > 0 \\
&\iff -\frac{9a^8 - 36a^6 + 24a^5 - 18a^4 - 48a^3 + 156a^2 - 72a - 15}{16} \geqq 0 \\
&\iff 3(a-1)^2(-3a^6 - 6a^5 + 3a^4 + 4a^3 + 11a^2 + 34a + 5) \geqq 0
\end{aligned}$$

ここで

$$\begin{aligned}
&-3a^6 - 6a^5 + 3a^4 + 4a^3 + 11a^2 + 34a + 5 \\
&= \underbrace{(-3a^6 + 3a^4)}_{\geqq 0} + \underbrace{(-6a^5 + 11a^2)}_{>0} + 4a^3 + 34a + 5 > 0
\end{aligned}$$

が成り立つから, $f(a, t, t) \geqq 0$

■

(解 2) 系 2.8 ($p = 2, q = 4$) を適用する.

一般性を失うことなく $0 < a \leqq b \leqq c$ と仮定できる.

不等式を変形した

$$(a^2 + b^2 + c^2)^2 - (a^4 + b^4 + c^4) \leqq 2(a + b + c)$$

を示せばよい.

$$a^2 + b^2 + c^2 = 3, a + b + c = \text{constant}$$

ならば, $a^4 + b^4 + c^4$ は $0 < a \leqq b = c$ のとき最小となる.

したがって, $0 < a \leqq 1 \leqq b, a^2 + 2b^2 = 3$ のとき, $2a^2b^2 + b^4 \leqq a + 2b$ を示せばよい.

$f(a) = a + 2b - (2a^2b^2 + b^4)$ ($0 < a \leqq 1 \leqq b, a^2 + 2b^2 = 3$) とおくと

$$\begin{aligned}
f'(a) &= 1 + 2b' - 4ab^2 - 4a^2bb' - 4b^3b' \\
&= 1 - \frac{a}{b} - 4ab^2 + 2a^3 + 2ab^2 = 1 - \frac{a}{b} - 2ab^2 + 2a^3 \\
&= \frac{b-a}{b} - 2a(b^2 - a^2) \\
&= \frac{b-a}{b} \{1 - 2ab(a+b)\}
\end{aligned}$$

$h(a) = 1 - 2ab(a + b) = 1 - 2(a^2b + ab^2)$ とおくと

$$\begin{aligned} h'(a) &= -2(2ab + a^2b' + b^2 + 2abb') \\ &= -2 \left\{ 2ab - \frac{a^3}{2b} + b^2 - a^2 \right\} \\ &= - \left\{ \frac{a(4b^2 - a^2)}{b} + 2(b^2 - a^2) \right\} < 0 \end{aligned}$$

より, $h(a)$ は減少関数で

$$\lim_{a \rightarrow +0} h(a) = 1 > 0, h(1) = -3 < 0$$

だから, $h(a) = 0$ は $(0, 1)$ の範囲にただ 1 つの実数解をもつ. この解を α とおくと

$0 < a < \alpha$ のとき, $h(a) > 0$, $\alpha < a \leq 1$ のとき, $h(a) < 0$ である.

よって $0 < a < \alpha$ のとき, $f'(a) > 0$, $\alpha < a < 1$ のとき, $f'(a) < 0$ である.

$$\lim_{a \rightarrow +0} f(a) = \sqrt{6} - \frac{9}{4} > 0, f(1) = 0$$

だから, $f(a)$ は $a = 1$ で最小値 $f(1) = 0$ をとるから, $0 < a \leq 1$ のとき $f(a) \geq 0$ ■

問題 49 (Vasile Cîrtoaje)

a, b, c, d は非負の実数で, $a + b + c + d = 4$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$3(a^2 + b^2 + c^2 + d^2) + 4abcd \geq 16$$

(解 1) 一般性を失うことなく $0 \leq a \leq b \leq c \leq d$ と仮定できる.

$f(a, b, c, d) = 3(a^2 + b^2 + c^2 + d^2) + 4abcd - 16$ とおくと

$$\begin{aligned} & f(a, b, c, d) - f\left(a, \frac{b+d}{2}, c, \frac{b+d}{2}\right) \\ &= 3\left\{b^2 + d^2 - 2\left(\frac{b+d}{2}\right)^2\right\} + 4ac\left\{bd - \left(\frac{b+d}{2}\right)^2\right\} \\ &= \frac{3(b-d)^2}{2} - ac(b-d)^2 \\ &= (b-d)^2\left(\frac{3}{2} - ac\right) \end{aligned}$$

$\frac{3}{2} - ac > 0$ を示す.

$a + c \leq b + d$, $(a + c) + (b + d) = 4$ より $a + c \leq 2$

これから

$$2 \geq a + c \geq 2\sqrt{ac} \quad \text{より} \quad ac \leq 1 < \frac{3}{2}$$

よって, $f(a, b, c, d) \geq f\left(a, \frac{b+d}{2}, c, \frac{b+d}{2}\right)$

$f(a, b, c, d)$ は b, c, d に関する対称式だから, SMV-Theorem より

$$f(a, b, c, d) \geq f(a, t, t, t), \quad t = \frac{b+c+d}{3}$$

が成り立つ. したがって, $0 \leq a \leq 1 \leq t \leq \frac{4}{3}$, $a + 3t = 4$ のとき, $f(a, t, t, t) \geq 0$ を示せばよい.

$$\begin{aligned} & f(a, t, t, t) \geq 0 \\ & \iff 3(a^2 + 3t^2) + 4at^3 \geq 16 \\ & \iff 3(4 - 3t)^2 + 9t^2 + 4(4 - 3t)t^3 \geq 16 \\ & \iff -12t^4 + 16t^3 + 36t^2 - 72t + 32 \geq 0 \\ & \iff 4(t-1)^2(t+2)(4-3t) \geq 0 \end{aligned}$$

最後の不等式は明らかに成り立つ. ■

(解 2) 一般性を失うことなく $0 \leqq a \leqq b \leqq c \leqq d$ と仮定できる。

(i) $a = 0$ のとき

$b + c + d = 4$ のとき, $3(b^2 + c^2 + d^2) \geqq 16$ をしめせばよく, これは コーシーシュワルツの不等式を使うと

$$(1+1+1)(b^2 + c^2 + d^2) \geqq (b+c+d)^2 = 4^2$$

が成り立つことから得られる。

(ii) $0 < a \leqq b \leqq c \leqq d$ の場合

系 2.8 ($p = 0, q = 2$) を適用する。

$$a + b + c + d = 4, abcd = constant$$

ならば, $a^2 + b^2 + c^2 + d^2$ は $0 < a \leqq b = c = d$ のとき最小となる。後は解 1 参照。 ■

問題 50 (Vasile Cîrtoaje)

a, b, c は非負の実数で、 $a^2 + b^2 + c^2 = a + b + c$ を満たすとき、次の不等式を証明せよ。

$$a^2b^2 + b^2c^2 + c^2a^2 \leq ab + bc + ca$$

(解 1) 一般性を失うことなく $0 \leq a \leq b \leq c$ と仮定できる。

$0 < a \leq b \leq c$ の場合

証明すべき不等式を変形する。

$$\begin{aligned} (a^2 + b^2 + c^2)^2 - (a^4 + b^4 + c^4) &\leq (a + b + c)^2 - (a^2 + b^2 + c^2) \\ \iff a^4 + b^4 + c^4 &\geq a^2 + b^2 + c^2 \\ \iff (a + b + c)^2(a^4 + b^4 + c^4) &\geq (a^2 + b^2 + c^2)^3 \end{aligned}$$

系 2.8 ($p = 2, q = 4$) を適用する。

$$a + b + c = \text{constant}, a^2 + b^2 + c^2 = \text{constant}$$

ならば、 $a^4 + b^4 + c^4$ は $0 < a \leq b = c$ のとき最小となる。

$$\begin{aligned} (a + 2b)^2(a^4 + 2b^4) &\geq (a^2 + 2b^2)^3 \\ \iff 4a^5b - 2a^4b^2 - 10a^2b^4 + 8ab^5 &\geq 0 \\ \iff 2ab(a - b)^2(2a^2 + 3ab + 4b^2) &\geq 0 \end{aligned}$$

明らかに、 $2ab(a - b)^2(2a^2 + 3ab + 4b^2) \geq 0$ は成り立つ。

$a = 0$ の場合

$b^2 + c^2 = b + c$ のとき $(bc)^2 \leq bc$ を示せばよい。

$$b^2 + c^2 = b + c \text{ から } (b + c)^2 - 2bc = b + c \text{ すなわち } bc = \frac{(b + c)^2 - (b + c)}{2}$$

$bc \leq \frac{(b + c)^2}{4}$ が成り立つから

$$\frac{(b + c)^2 - (b + c)}{2} \leq \frac{(b + c)^2}{4}$$

を解くと、 $0 \leq b + c \leq 2$

これを使うと、 $2 \geq b + c \geq 2\sqrt{bc}$ から、 $bc \leq 1$ なので $(bc)^2 \leq bc$ が成り立つ。 ■

(解 2) 証明すべき不等式を変形すると

$$\begin{aligned} (a^2 + b^2 + c^2)^2 - (a^4 + b^4 + c^4) &\leq (a + b + c)^2 - (a^2 + b^2 + c^2) \\ \iff a^4 + b^4 + c^4 &\geq a^2 + b^2 + c^2 \end{aligned} \tag{*}$$

ヘルダーの不等式から

$$(a+b+c)(a+b+c)(a^4+b^4+c^4) \geq (a^2+b^2+c^2)^3 \quad (**)$$

$a+b+c = a^2+b^2+c^2 > 0$ のときは, $(**)$ から $(*)$ が得られる.

$a^2+b^2+c^2 = 0$ のときは, $a=b=c=0$ だから, $(*)$ は成り立つ. ■

問題 51 (Macedomia MO 1999)

a, b, c は正の実数で, $a^2 + b^2 + c^2 = 1$ を満たすとき

$$A = a + b + c + \frac{1}{abc}$$

の最小値を求めよ.

(初等的な不等式 問題 121)

(解答) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c$ と仮定できる.

$$f(a, b, c) = a + b + c + \frac{1}{abc} \text{ とおくと}$$

$$\begin{aligned} f(a, b, c) - f\left(\sqrt{\frac{a^2 + b^2}{2}}, \sqrt{\frac{a^2 + b^2}{2}}, c\right) \\ = a + b - 2\sqrt{\frac{a^2 + b^2}{2}} + \frac{1}{abc} - \frac{1}{\frac{a^2 + b^2}{2} \cdot c} \\ = a + b - \sqrt{2(a^2 + b^2)} + \frac{1}{c} \left(\frac{1}{ab} - \frac{2}{a^2 + b^2} \right) \\ = \frac{(a+b)^2 - 2(a^2 + b^2)}{a+b + \sqrt{2(a^2 + b^2)}} + \frac{1}{c} \cdot \frac{a^2 + b^2 - 2ab}{ab(a^2 + b^2)} \\ = \frac{-(a-b)^2}{a+b + \sqrt{2(a^2 + b^2)}} + \frac{1}{c} \cdot \frac{(a-b)^2}{ab(a^2 + b^2)} \\ = \frac{(a-b)^2 \{a+b + \sqrt{2(a^2 + b^2)} - abc(a^2 + b^2)\}}{\{a+b + \sqrt{2(a^2 + b^2)}\} abc(a^2 + b^2)} \end{aligned}$$

$a + b + \sqrt{2(a^2 + b^2)} - abc(a^2 + b^2) > 0$ を示す.

$0 < a \leq b \leq c, a^2 + b^2 + c^2 = 1$ のとき, $a^2 \leq \frac{1}{3} \leq c^2, a^2 + b^2 < 1$ で

また, $0 < a, b, c < 1$ から $abc < 1$

よって

$$abc(a^2 + b^2) < a^2 + b^2 < \sqrt{a^2 + b^2} < \sqrt{2(a^2 + b^2)} < a + b + \sqrt{2(a^2 + b^2)}$$

が成り立つから

$$f(a, b, c) \geq f(t, t, c), \quad t = \sqrt{\frac{a^2 + b^2}{2}}$$

$0 < t \leq \frac{1}{\sqrt{3}} \leq c, 2t^2 + c^2 = 1$ のとき

$$2t + c + \frac{1}{t^2 c}$$

の最小値を求める。

$$g(t) = 2t + c + \frac{1}{t^2 c} \text{ とおくと, } c' = -\frac{2t}{c} \text{ で}$$

$$\begin{aligned} g'(t) &= 2 + c' - \frac{2tc + t^2 c'}{(t^2 c)^2} \\ &= 2 - \frac{2t}{c} - \frac{2tc + t^2 \left(-\frac{2t}{c}\right)}{(t^2 c)^2} \\ &= \frac{2(c-t)}{c} - \frac{2(c^2 - t^2)}{t^3 c^3} \\ &= \frac{2(c-t)(t^3 c^2 - c - t)}{t^3 c^3} \end{aligned}$$

$0 < t, c < 1$ ので $t^3 c^2 < c < c + t$ だから $g'(t) \leq 0$

$$g(t) \text{ は減少関数で, } g(t) \geq g\left(\frac{1}{\sqrt{3}}\right) = 4\sqrt{3}$$

したがって, $a = b = c = \frac{1}{\sqrt{3}}$ のとき A は最小値 $4\sqrt{3}$ をとる。 ■

問題 52 (Vasile Cîrtoaje)

a, b, c は非負の実数で, $a^2 + b^2 + c^2 = 3$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$21 + 18abc \geq 13(ab + bc + ca)$$

(解答) 一般性を失うことなく $0 \leq a \leq b \leq c$ と仮定できる.

(i) $a = 0$ のとき

$0 \leq b \leq c, b^2 + c^2 = 3$ のとき, $21 \geq 13bc$ を示せばよい.

$$3 = b^2 + c^2 \geq 2bc \text{ から } bc \leq \frac{3}{2} < \frac{21}{13}$$

よって, $21 > 13bc$

(ii) $0 < a \leq b \leq c$ の場合 系 2.8 $\left(p = 0, q = \frac{1}{2}\right)$ を適用する.

$A = a^2, B = b^2, C = c^2$ とおくと, $0 < A \leq B \leq C, A + B + C = 3$ のとき

$$21 + 18\sqrt{ABC} \geq \frac{13}{2} \left\{ (\sqrt{A} + \sqrt{B} + \sqrt{C})^2 - (A + B + C) \right\}$$

を示せばよく

$$A + B + C = 3, ABC = \text{constant}$$

ならば, $\sqrt{A} + \sqrt{B} + \sqrt{C}$ は $0 < A \leq B = C$ のとき最大である.

すなわち, $0 < a \leq b = c$ の場合を考えればよい.

$0 < a \leq 1 \leq b, a^2 + 2b^2 = 3$ のとき

$$21 + 18ab^2 \geq 13(2ab + b^2)$$

を示せばよい.

$$\begin{aligned} 21 + 18ab^2 &\geq 13(2ab + b^2) \\ \iff 42 + 18a(3 - a^2) &\geq 52ab + 13(3 - a^2) \\ \iff 52ab &\leq 3 + 54a + 13a^2 - 18a^3 \\ \iff 52^2 a^2 b^2 &\leq (3 + 54a + 13a^2 - 18a^3)^2 \\ \iff 52^2 a^2 \cdot \frac{3 - a^2}{2} &\leq (3 + 54a + 13a^2 - 18a^3)^2 \\ \iff 324a^6 - 468a^5 - 423a^4 + 1296a^3 - 1062a^2 + 324a + 9 &\geq 0 \\ \iff 9(a - 1)^2(36a^4 + 20a^3 - 43a^2 + 38a + 1) &\geq 0 \\ \iff 9(a - 1)^2 \{(6a^2 - 1)^2 + a(20a^2 - 31a + 38)\} &\geq 0 \end{aligned}$$

最後の不等式は明らかに成り立つ. ■

問題 53 (Art of problem solving)

a, b, c は正の実数で、 $a + b + c = 3$ を満たすとき、次の不等式を証明せよ。

$$\frac{1}{2+a^2+b^2} + \frac{1}{2+b^2+c^2} + \frac{1}{2+c^2+a^2} \leq \frac{3}{4}$$

(解答) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c$ と仮定できる。

$$\begin{aligned} f(a, b, c) &= \frac{1}{2+a^2+b^2} + \frac{1}{2+b^2+c^2} + \frac{1}{2+c^2+a^2} \text{ とおくと} \\ &f\left(\frac{a+b}{2}, \frac{a+b}{2}, c\right) - f(a, b, c) \\ &= \left[\frac{1}{2+2\left(\frac{a+b}{2}\right)^2} - \frac{1}{2+a^2+b^2} \right] + \left[\frac{1}{2+\left(\frac{a+b}{2}\right)^2+c^2} - \frac{1}{2+b^2+c^2} \right] \\ &\quad + \left[\frac{1}{2+\left(\frac{a+b}{2}\right)^2+a^2} - \frac{1}{2+c^2+a^2} \right] \\ &= \frac{a^2+b^2-2\left(\frac{a+b}{2}\right)^2}{\left\{2+2\left(\frac{a+b}{2}\right)^2\right\}(2+a^2+b^2)} + \frac{b^2-\left(\frac{a+b}{2}\right)^2}{\left\{2+\left(\frac{a+b}{2}\right)^2+c^2\right\}(2+b^2+c^2)} \\ &\quad + \frac{a^2-\left(\frac{a+b}{2}\right)^2}{\left\{2+\left(\frac{a+b}{2}\right)^2+a^2\right\}(2+c^2+a^2)} \\ &= \frac{(a-b)^2}{2\left\{2+2\left(\frac{a+b}{2}\right)^2\right\}(2+a^2+b^2)} + \frac{(b-a)(a+3b)}{4\left\{2+\left(\frac{a+b}{2}\right)^2+c^2\right\}(2+b^2+c^2)} \\ &\quad - \frac{(b-a)(3a+b)}{4\left\{2+\left(\frac{a+b}{2}\right)^2+c^2\right\}(2+c^2+a^2)} \\ &= \frac{(a-b)^2}{2\left\{2+2\left(\frac{a+b}{2}\right)^2\right\}(2+a^2+b^2)} \\ &\quad + \frac{(b-a)\{(a+3b)(2+c^2+a^2)-(3a+b)(2+b^2+c^2)\}}{4\left\{2+\left(\frac{a+b}{2}\right)^2+c^2\right\}(2+b^2+c^2)(2+c^2+a^2)} \end{aligned}$$

ここで

$$\begin{aligned}
 & (a+3b)(2+c^2+a^2) - (3a+b)(2+b^2+c^2) \\
 &= \{(a+3b) - (3a+b)\} (2+c^2) + (a+3b)a^2 - (3a+b)b^2 \\
 &= (b-a)(4-4ab+2c^2-a^2-b^2) \\
 &= (b-a) \{4(1-ab) + (c^2-a^2) + (c^2-b^2)\}
 \end{aligned}$$

$1-ab \leqq 0$ を示す.

$c \geqq 1$ だから $a+b = 3-c \leqq 2$ で $2 \geqq a+b \geqq 2\sqrt{ab}$

よって, $ab \leqq 1$

以上のことから

$$f(t, t, c) \geqq f(a, b, c), \quad t = \frac{a+b}{2}$$

$0 < t \leqq 1 \leqq c, 2t+c = 3$ のとき, $f(t, t, c) \leqq \frac{3}{4}$ を示せばよい.

$$\begin{aligned}
 f(t, t, c) &= \frac{1}{2+2t^2} + \frac{2}{2+t^2+c^2} \leqq \frac{3}{4} \\
 \iff & \frac{1}{2+2t^2} + \frac{2}{2+t^2+(3-2t)^2} \leqq \frac{3}{4} \\
 \iff & \frac{15t^4 - 36t^3 + 30t^2 - 12t + 3}{4(t^2+1)(5t^2-12t+11)} \geqq 0 \\
 \iff & \frac{3(t-1)^2(5t^2-2t+1)}{4(t^2+1)(5t^2-12t+11)} \geqq 0
 \end{aligned}$$

最後の不等式は明らかに成り立つ. ■

問題 54 (Vasile Cîrtoaje)

a, b, c は正の実数で, $a + b + c = 3$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$8\left(\frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c}\right) + 9 \geq 10(a^2 + b^2 + c^2)$$

(解 1) 系 2.8 ($p = -1, q = 2$) を適用する.

一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c$ と仮定できる.

$$a + b + c = 3, \frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} = \text{constant}$$

ならば, $a^2 + b^2 + c^2$ は $a = b \leq c$ のとき最大となる.

したがって, $0 < a \leq 1 \leq c, 2a + c = 3$ のとき

$$8\left(\frac{2}{a} + \frac{1}{c}\right) + 9 \geq 10(2a^2 + c^2)$$

を示せばよい.

$$\begin{aligned} & 8\left(\frac{2}{a} + \frac{1}{c}\right) + 9 \geq 10(2a^2 + c^2) \\ \iff & 8\left(\frac{2}{a} + \frac{1}{3-2a}\right) + 9 \geq 10\{2a^2 + (3-2a)^2\} \\ \iff & \frac{120a^4 - 420a^3 + 522a^2 - 267a + 48}{a(3-2a)} \geq 0 \\ \iff & \frac{3(2a-1)^2(10a^2 - 25a + 16)}{ac} \geq 0 \end{aligned}$$

最後の不等式は明らかになり立つ. ■

(解 2) $f(x) = 10x^2 - \frac{8}{x}$ ($x > 0$) とおくと

$$\lim_{x \rightarrow +0} f(x) = -\infty, f''(x) = \frac{4(5x^3 - 4)}{x^3}$$

$f(x)$ は $\left(0, \sqrt[3]{\frac{4}{5}}\right]$ で凹関数, $\left[\sqrt[3]{\frac{4}{5}}, \infty\right)$ で凸関数である.

LCRCF-Theorem より $f(a) + f(b) + f(c)$ は $a = b \leq c$ のとき最大となる. 後は解 1 参照. ■

問題 55 (Pham Kim Hung)

a, b, c, d は正の実数で, $a + b + c + d = 4$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$9\left(\frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} + \frac{1}{d}\right) + 56 \geq 15(a^2 + b^2 + c^2 + d^2)$$

(解 1) 系 2.8 ($p = -1, q = 2$) を適用する.

一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c \leq d$ と仮定できる.

$$a + b + c + d = 4, \frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} + \frac{1}{d} = \text{constant}$$

ならば, $a^2 + b^2 + c^2 + d^2$ は $a = b = c \leq d$ のとき最大となる.

$$F(a) = 9\left(\frac{3}{a} + \frac{1}{d}\right) - 15(3a^2 + d^2) \quad 0 < a \leq 1 \leq d, 3a + d = 4 \text{ とおくと}$$

$$\begin{aligned} F'(a) &= 9\left(-\frac{3}{a^2} - \frac{d'}{d^2}\right) - 15(6a + 2dd') \\ &= 9\left(-\frac{3}{a^2} + \frac{3}{d^2}\right) - 15(6a - 6d) \\ &= 9(d-a)\left\{10 - \frac{3(a+d)}{a^2d^2}\right\} \\ &= 36(1-a) \cdot \frac{10a^2(4-3a)^2 - 3(4-2a)}{a^2d^2} \\ &= 72(1-a) \cdot \frac{45a^4 - 120a^3 + 80a^2 + 3a - 6}{a^2d^2} \\ &= 72(1-a)(3a-1) \cdot \frac{15a^3 - 35a^2 + 15a + 6}{a^2d^2} \end{aligned}$$

$0 < a \leq 1$ のとき

$$15a^3 - 35a^2 + 15a + 6 \geq 15a^3 - 35a^2 + 15a + 6a = (15a^2 - 35a + 21)a > 0$$

である.

a	0	\cdots	$\frac{1}{3}$	\cdots	1
$F'(a)$		-	0	+	0
$F(a)$		\searrow	極小	\nearrow	

よって

$$F(a) \geq F\left(\frac{1}{3}\right) = -56$$

■

(解 2) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c \leq d$ と仮定できる.

$f(x) = 15x^2 - \frac{9}{x}$ ($x > 0$) とおくと, 証明すべき不等式は

$$f(a) + f(b) + f(c) + f(d) \leq 56$$

となる.

$\lim_{x \rightarrow +0} f(x) = -\infty$ を満たし

$$f''(x) = 30 - \frac{18}{x^3}$$

より, $f(x)$ は $\left(0, \sqrt[3]{\frac{3}{5}}\right]$ で凹関数, $\left[\sqrt[3]{\frac{3}{5}}, \infty\right]$ で凸関数である.

LCRCF-Theorem より $a, b, c, d > 0$, $a + b + c + d = 4$ のとき

$f(a) + f(b) + f(c) + f(d)$ は $0 < a = b = c \leq d$ のとき最大となる.

$a = b = c = t$ とおくと $t \leq 1 \leq d$, $3t + d = 4$ だから

$$g(t) = 3f(t) + f(4 - 3t) \quad (0 < t < 1)$$

とおき, $g(t) \leq 56$ を示せばよい.

$$\begin{aligned} 56 - g(t) &= 56 + 9 \left(\frac{3}{t} + \frac{1}{4-3t} \right) - 15 \{3t^2 + (4-3t)^2\} \\ &= \frac{4(135t^4 - 450t^3 + 498t^2 - 202t + 27)}{t(4-3t)} \\ &= \frac{4(3t-1)^2(15t^2 - 40t + 27)}{t(4-3t)} \geq 0 \end{aligned}$$

したがって, $g(t) \leq 56$

■

問題 56 (Pham Kim Hung)

a, b, c, d は正の実数で, $abcd = 1$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$a^3 + b^3 + c^3 + d^3 + 12 \geq 2(a + b + c + d + abc + bcd + cda + dab)$$

(解 1) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c \leq d$ と仮定できる.

$$\begin{aligned} f(a, b, c, d) &= a^3 + b^3 + c^3 + d^3 + 12 - 2(a + b + c + d + abc + bcd + cda + dab) \\ &= a^3 + b^3 + c^3 + d^3 + 12 - 2(a + b + c + d) - 2ac(b + d) - 2bd(a + c) \end{aligned}$$

とおくと

$$\begin{aligned} &f(a, b, c, d) - f(a, \sqrt{bd}, c, \sqrt{bd}) \\ &= b^3 + d^3 - 2\sqrt{b^3d^3} - 2(b + d - 2\sqrt{bd}) - 2ac(b + d - 2\sqrt{bd}) \\ &= (\sqrt{b^3} - \sqrt{d^3})^2 - 2(\sqrt{b} - \sqrt{d})^2 - 2ac(\sqrt{b} - \sqrt{d})^2 \\ &= (\sqrt{b} - \sqrt{d})^2 \left\{ (b + \sqrt{bd} + d)^2 - 2 - 2ac \right\} \\ &= (\sqrt{b} - \sqrt{d})^2 \left\{ b^2 + d^2 + 2(b + d)\sqrt{bd} + 3bd - 2 - 2ac \right\} \end{aligned}$$

ここで, $0 < ac \leq bd$, $(ac)(bd) = 1$ より $bd \geq 1$ だから

$$\begin{aligned} b^2 + d^2 + 2(b + d)\sqrt{bd} + 3bd - 2 - 2ac &\geq 2bd + 2(b + d)\sqrt{bd} + 3bd - 2 - 2ac \\ &= 2(bd - ac) + 2(bd - 1) + bd > 0 \end{aligned}$$

よって, $b^2 + d^2 + 2(b + d)\sqrt{bd} + 3bd - 2 - 2ac > 0$ となり

$$f(a, b, c, d) \geq f(a, \sqrt{bd}, c, \sqrt{bd})$$

がいえる.

$f(a, b, c, d)$ は b, c, d に関する対称式だから, SMV-Theorem より

$$f(a, b, c, d) \geq f(a, t, t, t), t = \sqrt[3]{bcd}$$

が成り立つ.

したがって, $0 < a \leq 1 \leq t$, $at^3 = 1$ のとき

$$a^3 + 3t^3 + 12 \geq 2 \left(a + 3t + \frac{1}{a} + \frac{3}{t} \right)$$

を示す。

$$\begin{aligned}
& a^3 + 3t^3 + 12 \geq 2 \left(a + 3t + \frac{1}{a} + \frac{3}{t} \right) \\
\iff & \frac{1}{t^9} + 3t^3 + 12 \geq 2 \left(\frac{1}{t^3} + 3t + t^3 + \frac{3}{t} \right) \\
\iff & t^{12} - 6t^{10} + 12t^9 - 6t^8 - 2t^6 + 1 \geq 0 \\
\iff & (t-1)^2(t^{10} + 2t^9 - 3t^8 + 4t^7 + 5t^6 + 6t^5 + 5t^4 + 4t^3 + 3t^2 + 2t + 1) \geq 0 \\
\iff & (t-1)^2 \left\{ t^{10} + t^7 \underbrace{(2t^2 - 3t + 4)}_{>0} + 5t^6 + 6t^5 + 5t^4 + 4t^3 + 3t^2 + 2t + 1 \right\} \geq 0
\end{aligned}$$

最後の不等式は明らかに成り立つ。 ■

(解 2) 系 2.8 ($p = 0, q = 3, q = -1$) を適用する。

一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c \leq d$ と仮定できる。

証明すべき不等式は

$$a^3 + b^3 + c^3 + d^3 + 12 \geq 2 \left(a + b + c + d + \frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} + \frac{1}{d} \right)$$

と変形できる。

$$abcd = 1, \quad a + b + c + d = constant$$

ならば

$\frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} + \frac{1}{d}$ は $a \leq b = c = d$ のとき最大,
 $a^3 + b^3 + c^3 + d^3$ は $a \leq b = c = d$ のとき最小となる。

したがって, $0 < a \leq 1 \leq b, ab^3 = 1$ のとき

$$a^3 + 3b^3 + 12 \geq 2 \left(a + 3b + \frac{1}{a} + \frac{3}{b} \right)$$

を示せばよい。後は解 1 参照。 ■

(解 3) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c \leq d$ と仮定できる。

証明すべき不等式は

$$a^3 + b^3 + c^3 + d^3 + 12 \geq 2 \left(a + b + c + d + \frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} + \frac{1}{d} \right)$$

と変形できる。

$f(x) = x^3 - 2 \left(x + \frac{1}{x} \right)$ ($x > 0$) とおくと, 証明すべき不等式は

$$f(a) + f(b) + f(c) + f(d) \geq 4f(\sqrt[4]{abcd})$$

となる。

$$f_1(u) = f(e^u) = e^{3u} - 2(e^u + e^{-u}) \text{ とおくと}$$

$$f_1''(u) = \frac{9e^{4u} - 2e^{2u} - 2}{e^u}$$

$$f_1''(u) \geq 0 \text{ を解くと } u \geq \log \sqrt{\frac{1 + \sqrt{19}}{9}}$$

$r = \sqrt[4]{abcd} = 1 > \sqrt{\frac{1 + \sqrt{19}}{9}}$ とおくと, $f_1''(u)$ は $u \geq \log r = 0$ で凸関数であるから, RCF-Corollary より, $0 < a \leq 1 \leq b = c = d$ のとき不等式が成り立つことを示せばよい。後は解 1 参照。 ■

問題 57 (Austria 2005)

a, b, c, d が正の実数のとき, 次の不等式を証明せよ.

$$\frac{1}{a^3} + \frac{1}{b^3} + \frac{1}{c^3} + \frac{1}{d^3} \geq \frac{a+b+c+d}{abcd}$$

(初等的な不等式 I 問題 164)

(解 1) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c \leq d$ と仮定できる.

また, 証明すべき不等式は, 同次式であるから $abcd = 1$ と仮定できる.

$$f(x) = x - \frac{1}{x^3} \quad (x > 0) \text{ とおくと, 証明すべき不等式は}$$

$$f(a) + f(b) + f(c) + f(d) \leq 4f\left(\sqrt[4]{abcd}\right)$$

となる. $f_1(e^u) = f(e^u) = e^u - \frac{1}{e^{3u}}$ とおくと

$$f_1''(x) = \frac{e^{4u} - 9}{e^{3u}}$$

だから $f_1(u)$ は $\left(-\infty, \frac{1}{2} \log 3\right]$ で凹関数である.

$r = \sqrt[4]{abcd} = 1 < \sqrt{3}$ となる $r = 1$ に対して, $f_1(u)$ は $u \leq \log r = 0$ で凹関数である.

LCF-Corollary より $a = b = c \leq d$ のとき不等式が成り立つことを示せばよい.

$$a = b = c = x, d = y \text{ とおくと, } 0 < x \leq 1 \leq y, x^3y = 1$$

$$F(x) = \frac{3}{x^3} + \frac{1}{y^3} - (3x + y) \quad (0 < x \leq 1 \leq y)$$

を考える. $x^3y = 1$ から $y' = -\frac{3y}{x}$

$$\begin{aligned}
 F'(x) &= -\frac{9}{x^4} - \frac{3y'}{y^4} - (3 + y') \\
 &= -\frac{9}{x^4} + \frac{9}{xy^3} - 3 + \frac{3y}{x} \\
 &= \frac{9(x^3 - y^3)}{x^4 y^3} - \frac{3(x - y)}{x} \\
 &= \frac{3(x - y)\{3(x^2 + xy + y^2) - \overbrace{x^3 y^3}^{=y^2}\}}{x^4 y^3} \\
 &= \frac{3(x - y)(3x^2 + 3xy + 2y^2)}{x^4 y^3} \leqq 0
 \end{aligned}$$

$F'(x) \leqq 0$ から $F(x)$ は減少関数で

$$F(x) \geqq F(1) = 0$$

■

(解 2) 系 2.8 ($p = 0, q = -3$) を適用する. 同次式であるから $abcd = 1$ と仮定できる.

一般性を失うことなく $0 < a \leqq b \leqq c \leqq d$ と仮定できる.

$$a + b + c = \text{constant}, abc = 1$$

ならば, $\frac{1}{a^3} + \frac{1}{b^3} + \frac{1}{c^3}$ は $a = b = c \leqq d$ のとき最小となる. 後は解 1 参照.

■

問題 58 (MOSP 2007)

a, b, c が正の実数のとき, 次の不等式を証明せよ.

$$\left(\frac{a}{a+2b}\right)^2 + \left(\frac{b}{b+2c}\right)^2 + \left(\frac{c}{c+2a}\right)^2 \geq \frac{1}{3}$$

(初等的な不等式 I 問題 128)

(解答) $x = \frac{2b}{a}, y = \frac{2c}{b}, z = \frac{2a}{c}$ とおくと, $x, y, z > 0, xyz = 8$ で証明すべき不等式は

$$\left(\frac{1}{1+x}\right)^2 + \left(\frac{1}{1+y}\right)^2 + \left(\frac{1}{1+z}\right)^2 \geq \frac{1}{3}$$

となる. ここで一般性を失うことなく $0 < x \leq y \leq z$ と仮定できる.

$f(x) = \left(\frac{1}{1+x}\right)^2$ ($x > 0$) とおくと, 証明すべき不等式は

$$f(x) + f(y) + f(z) \geq 3f(\sqrt[3]{xyz})$$

である.

$$f_1(u) = f(e^u) = (1+e^u)^{-2} \text{ とおくと, } f_1''(u) = \frac{2e^u(2e^u-1)}{(e^u+1)^4}$$

$f_1(u)$ は $u \geq -\log 2$ で凸関数だから, $r = \sqrt[3]{xyz} = 2$ とおくと, $u \geq \log r = \log 2$ で凸関数となる,

RCF-Corollary より, $0 < x \leq 2 \leq y = z$ のとき, 不等式が成り立つことを示せばよい.

$0 < x \leq 2 \leq y, xy^2 = 8$ のとき

$$\left(\frac{1}{1+x}\right)^2 + 2\left(\frac{1}{1+y}\right)^2 \geq \frac{1}{3}$$

を示す.

$$\begin{aligned} & \left(\frac{1}{1+x}\right)^2 + 2\left(\frac{1}{1+y}\right)^2 \geq \frac{1}{3} \\ \iff & \left(\frac{y^2}{y^2+8}\right)^2 + 2\left(\frac{1}{1+y}\right)^2 \geq \frac{1}{3} \\ \iff & \frac{2y^6 + 4y^5 - 8y^4 - 32y^3 + 16y^2 - 128y + 320}{3(y+1)^2(y^2+8)^2} \geq 0 \\ \iff & \frac{2(y-2)^2(y^4 + 6y^3 + 16y^2 + 24y + 40)}{3(y+1)^2(y^2+8)^2} \geq 0 \end{aligned}$$

最後の不等式は明らかに成り立つ. ■

問題 59 (China Western MO 2004)

a, b, c が正の実数のとき, 次の不等式を証明せよ.

$$1 < \frac{a}{\sqrt{a^2 + b^2}} + \frac{b}{\sqrt{b^2 + c^2}} + \frac{c}{\sqrt{c^2 + a^2}} \leq \frac{3\sqrt{2}}{2}$$

(初等的な不等式 I 問題 171)

(解答) 右側の不等式を示す. $x = \frac{b}{a}, y = \frac{c}{b}, z = \frac{a}{c}$ とおくと, $x, y, z > 0, xyz = 1$ で証明すべき不等式は

$$\frac{1}{\sqrt{1+x^2}} + \frac{1}{\sqrt{1+y^2}} + \frac{1}{\sqrt{1+z^2}} \leq \frac{3\sqrt{2}}{2}$$

となる. ここで一般性を失うことなく $0 < x \leq y \leq z$ と仮定できる.

$f(x) = \frac{1}{\sqrt{1+x^2}}$ ($x > 0$) とおくと, 証明すべき不等式は

$$f(x) + f(y) + f(z) \leq 3f(\sqrt[3]{xyz})$$

である.

$f_1(u) = f(e^u) = \frac{1}{\sqrt{1+e^{2u}}}$ とおくと

$$f_1''(u) = \frac{e^{2u}(e^{2u}-2)}{(e^{2u}+1)^{\frac{5}{2}}}$$

$f_1(u)$ は $u \leq \frac{1}{2}\log 2$ で凹関数だから, $r = \sqrt[3]{xyz} = 1$ とおくと, $u \leq \log r = 0$ で凹関数となる,

LCF-Corollary より, $0 < x = y \leq 1 \leq z$ のとき, 不等式が成り立つことを示せばよい.

$0 < x \leq 1 \leq z, x^2z = 1$ のとき

$$\frac{2}{\sqrt{1+x^2}} + \frac{1}{\sqrt{1+z^2}} \leq \frac{3\sqrt{2}}{2}$$

を示す.

$$\begin{aligned} & \frac{2}{\sqrt{1+x^2}} + \frac{1}{\sqrt{1+z^2}} \leq \frac{3\sqrt{2}}{2} \\ \iff & \frac{2}{\sqrt{1+x^2}} + \frac{x^2}{\sqrt{1+x^4}} \leq \frac{3\sqrt{2}}{2} \end{aligned}$$

$$g(x) = \frac{2}{\sqrt{1+x^2}} + \frac{x^2}{\sqrt{1+x^4}} \quad (0 < x \leq 1) \text{ とおくと}$$

$$g'(x) = \frac{2x \left\{ (x^2+1)^{\frac{3}{2}}(x^4+1)^{\frac{1}{2}} - x^8 - 2x^4 - 1 \right\}}{(1+x^2)^{\frac{3}{2}}(1+x^4)^2}$$

ここで

$$\begin{aligned} (x^2+1)^3(x^4+1) - (x^4+1)^4 &= (x^4+1) \left\{ (x^2+1)^3 - (x^4+1)^3 \right\} \\ &= (x^4+1)(-x^{12} - 3x^8 + x^6 + 3x^2) \\ &= (x^4+1) \left\{ \underbrace{(-x^{12} + x^6)}_{\geqq 0} + \underbrace{(-3x^8 + 3x^2)}_{\geqq 0} \right\} \geqq 0 \end{aligned}$$

$g'(x) \geqq 0$ となり, $g(x)$ は増加関数で, $0 < x \leq 1$ のとき, $g(x) \leqq g(1) = \frac{3\sqrt{2}}{2}$

左側の不等式は省略.

■

問題 60 (Vietnam 2005)

a, b, c が正の実数のとき, 次の不等式を証明せよ.

$$\left(\frac{a}{a+b}\right)^3 + \left(\frac{b}{b+c}\right)^3 + \left(\frac{c}{c+a}\right)^3 \geq \frac{3}{8}$$

(初等的な不等式 I 問題 172)

(解答) $x = \frac{b}{a}, y = \frac{c}{b}, z = \frac{a}{c}$ とおくと, $x, y, z > 0, xyz = 1$ で証明すべき不等式は

$$\left(\frac{1}{1+x}\right)^3 + \left(\frac{1}{1+y}\right)^3 + \left(\frac{1}{1+z}\right)^3 \geq \frac{3}{8}$$

となる.

$f(x) = \left(\frac{1}{1+x}\right)^3$ ($x > 0$) とおくと, 証明すべき不等式は

$$f(x) + f(y) + f(z) \geq 3f(\sqrt[3]{xyz})$$

である.

$$f_1(u) = f(e^u) = (1+e^u)^{-3} \text{ とおくと, } f_1''(u) = \frac{3e^u(3e^u - 1)}{(e^u + 1)^5}$$

$f_1(u)$ は $u \geq -\log 3$ で凸関数だから, $r = \sqrt[3]{xyz} = 1$ とおくと, $u \geq \log r = 0$ で凸関数となる,

RCF-Corollary より, $0 < x \leq 1 \leq y = z$ のとき, 不等式が成り立つことを示せばよい.

$0 < x \leq 1 \leq y, xy^2 = 1$ のとき

$$\left(\frac{1}{1+x}\right)^3 + 2\left(\frac{1}{1+y}\right)^3 \geq \frac{3}{8}$$

を示す.

$$\begin{aligned} & \left(\frac{1}{1+x}\right)^3 + 2\left(\frac{1}{1+y}\right)^3 \geq \frac{3}{8} \\ \iff & \left(\frac{y^2}{y^2+1}\right)^3 + 2\left(\frac{1}{1+y}\right)^3 \geq \frac{3}{8} \\ \iff & \frac{5y^9 + 15y^8 + 6y^7 - 6y^6 - 36y^5 + 12y^4 - 30y^3 + 30y^2 - 9y + 13}{8(y+1)^3(y^2+1)^3} \geq 0 \\ \iff & \frac{(y-1)^2(5y^7 + 25y^6 + 51y^5 + 71y^4 + 55y^3 + 51y^2 + 17y + 13)}{8(y+1)^3(y^2+1)^3} \geq 0 \end{aligned}$$

最後の不等式は明らかに成り立つ. ■

この不等式は, 変数が 4 個の場合でも成り立つ.

a, b, c, d が正の実数のとき、次の不等式を証明せよ。

$$\left(\frac{a}{a+b}\right)^3 + \left(\frac{b}{b+c}\right)^3 + \left(\frac{c}{c+d}\right)^3 + \left(\frac{d}{d+a}\right)^3 \geq \frac{1}{2}$$

(yanagita)

(解答) $x = \frac{b}{a}, y = \frac{c}{b}, z = \frac{d}{c}, t = \frac{a}{d}$ とおくと、 $x, y, z, t > 0, xyzt = 1$ で証明すべき不等式は

$$\left(\frac{1}{1+x}\right)^3 + \left(\frac{1}{1+y}\right)^3 + \left(\frac{1}{1+z}\right)^3 + \left(\frac{1}{1+t}\right)^3 \geq \frac{1}{2}$$

となる。

$f(x) = \left(\frac{1}{1+x}\right)^3$ ($x > 0$) とおくと、証明すべき不等式は

$$f(x) + f(y) + f(z) + f(t) \geq 4f(\sqrt[4]{xyzt})$$

である。

$$f_1(u) = f(e^u) = (1+e^u)^{-3} \text{ とおくと, } f_1''(u) = \frac{3e^u(3e^u-1)}{(e^u+1)^5}$$

$f_1(u)$ は $u \geq -\log 3$ で凸関数だから、 $r = \sqrt[4]{xyzt} = 1$ とおくと、 $u \geq \log r = 0$ で凸関数となる。

RCF-Corollary より、 $0 < x \leq 1 \leq y = z = t$ のとき、不等式が成り立つことを示せばよい。

$0 < x \leq 1 \leq y, xy^3 = 1$ のとき

$$\left(\frac{1}{1+x}\right)^3 + 3\left(\frac{1}{1+y}\right)^3 \geq \frac{1}{2}$$

を示す。

$$\begin{aligned} & \left(\frac{1}{1+x}\right)^3 + 3\left(\frac{1}{1+y}\right)^3 \geq \frac{1}{2} \\ \iff & \left(\frac{y^3}{y^3+1}\right)^3 + 3\left(\frac{1}{1+y}\right)^3 \geq \frac{1}{2} \\ \iff & \frac{y^9 + 3y^6 - 18y^5 + 36y^4 - 45y^3 + 36y^2 - 18y + 5}{2(y^3+1)^3} \geq 0 \\ \iff & \frac{(y-1)^2(y^7 + 2y^6 + 3y^5 + 7y^4 - 7y^3 + 15y^2 - 8y + 5)}{2(y^3+1)^3} \geq 0 \end{aligned}$$

最後の不等式は明らかに成り立つ。 ■

問題 61 (Vasile Cîrtoaje)

a, b, c, d が正の実数のとき, 次の不等式を証明せよ.

$$\left(\frac{a}{a+b}\right)^2 + \left(\frac{b}{b+c}\right)^2 + \left(\frac{c}{c+d}\right)^2 + \left(\frac{d}{d+a}\right)^2 \geq 1$$

(解答) $x = \frac{b}{a}, y = \frac{c}{b}, z = \frac{d}{c}, t = \frac{a}{d}$ とおくと, $x, y, z, t > 0, xyzt = 1$ で証明すべき不等式は

$$\left(\frac{1}{1+x}\right)^2 + \left(\frac{1}{1+y}\right)^2 + \left(\frac{1}{1+z}\right)^2 + \left(\frac{1}{1+t}\right)^2 \geq 1$$

となる.

$f(x) = \left(\frac{1}{1+x}\right)^2$ ($x > 0$) とおくと, 証明すべき不等式は

$$f(x) + f(y) + f(z) + f(t) \geq 4f(\sqrt[4]{xyzt})$$

である.

$$f_1(u) = f(e^u) = (1+e^u)^{-2} \text{ とおくと, } f_1''(u) = \frac{2e^u(2e^u-1)}{(e^u+1)^4}$$

$f_1(u)$ は $u \geq -\log 2$ で凸関数だから, $r = \sqrt[4]{xyzt} = 1$ とおくと, $u \geq \log r = 0$ で凸関数となる,

RCF-Corollary より, $0 < x \leq 1 \leq y = z = t$ のとき, 不等式が成り立つことを示せばよい.

$0 < x \leq 1 \leq y, xy^3 = 1$ のとき

$$\left(\frac{1}{1+x}\right)^2 + 3\left(\frac{1}{1+y}\right)^2 \geq 1$$

を示す.

$$\begin{aligned} & \left(\frac{1}{1+x}\right)^2 + 3\left(\frac{1}{1+y}\right)^2 \geq 1 \\ \iff & \left(\frac{y^3}{y^3+1}\right)^2 + 3\left(\frac{1}{1+y}\right)^2 \geq 1 \\ \iff & \frac{3y^4 - 8y^3 + 9y^2 - 6y + 2}{(y^3+1)^2} \geq 0 \\ \iff & \frac{(y-1)^2(3y^2-2y+2)}{(y^3+1)^2} \geq 0 \end{aligned}$$

最後の不等式は明らかに成り立つ. ■

問題 62 (Zdravko Cvetkovski)

a, b, c, d は正の実数のとき、次の不等式を証明せよ。

$$\left(\frac{a}{a+b}\right)^5 + \left(\frac{b}{b+c}\right)^5 + \left(\frac{c}{c+d}\right)^5 + \left(\frac{d}{d+a}\right)^5 \geq \frac{1}{8}$$

(解答) $x = \frac{b}{a}, y = \frac{c}{b}, z = \frac{d}{c}, t = \frac{a}{d}$ とおくと、 $x, y, z, t > 0, xyzt = 1$ で証明すべき不等式は

$$\left(\frac{1}{1+x}\right)^5 + \left(\frac{1}{1+y}\right)^5 + \left(\frac{1}{1+z}\right)^5 + \left(\frac{1}{1+t}\right)^5 \geq \frac{1}{8}$$

となる。ここで一般性を失うことなく $0 < x \leq y \leq z \leq t$ と仮定できる。

$$f(x) = \left(\frac{1}{1+x}\right)^5 \quad (x > 0)$$

とおくと、証明すべき不等式は

$$f(x) + f(y) + f(z) + f(t) \geq 4f(\sqrt[4]{xyzt})$$

である。

$$f_1(u) = f(e^u) = (1 + e^u)^{-5}$$

とおくと

$$f_1''(u) = \frac{5e^u(5e^u - 1)}{(e^u + 1)^7}$$

$f_1(u)$ は $u \geq -\log 5$ で凸関数だから、 $r = \sqrt[4]{xyzt} = 1$ とおくと、 $u \geq \log r = 0$ で凸関数となる。

RCF-Corollary より、 $0 < x \leq 1 \leq y = z = t$ のとき、不等式が成り立つことを示せばよい。

$0 < x \leq 1 \leq y, xy^3 = 1$ のとき

$$\left(\frac{1}{1+x}\right)^5 + 3\left(\frac{1}{1+y}\right)^5 \geq \frac{1}{8}$$

を示す。

$$F(x) = \left(\frac{1}{1+x}\right)^5 + 3\left(\frac{1}{1+y}\right)^5 - \frac{1}{8} \quad (0 < x \leq 1 \leq y)$$

とおくと、 $y' = -\frac{y}{3x}$ だから

$$\begin{aligned}
F'(x) &= -5(1+x)^{-6} - 15(1+y)^{-6}y' \\
&= -5(1+x)^{-6} + \frac{5y}{x}(1+y)^{-6} \\
&= \frac{5\{y(1+x)^6 - x(1+y)^6\}}{x(1+x)^6(1+y)^6} \\
&= \frac{5\left\{y(1+x)^6 - \frac{1}{y^3}(1+y)^6\right\}}{x(1+x)^6(1+y)^6} \\
&= \frac{5\{y^4(1+x)^6 - (1+y)^6\}}{xy^3(1+x)^6(1+y)^6} \\
&= \frac{5\{y^2(1+x)^3 - (1+y)^3\}\{y^2(1+x)^3 + (1+y)^3\}}{xy^3(1+x)^6(1+y)^6}
\end{aligned}$$

$$y^2(1+x)^3 - (1+y)^3 \leqq 0$$

を示す。

$y \geqq 1$ なので

$$\begin{aligned}
y^2(1+x)^3 - (1+y)^3 &= y^2 \left(1 + \frac{1}{y^3}\right)^3 - (1+y)^3 \\
&= \frac{-y^{10} - 2y^9 - 3y^8 - y^7 + 3y^6 + 3y^3 + 1}{y^7} \\
&= \frac{(-y^{10} - 2y^9 + 3y^6) + (-3y^8 + 3y^3) + (-y^7 + 1)}{y^7} \\
&\leqq 0
\end{aligned}$$

よって、 $F'(x) \leqq 0$ となる。

$F(x)$ は減少関数で、 $0 < x \leqq 1$ で $F(x) \geqq F(1) = 0$

■

問題 63 (Pham Kim Hung)

a, b, c, d が正の実数で, $a + b + c + d = 4$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$\frac{1}{11+a^2} + \frac{1}{11+b^2} + \frac{1}{11+c^2} + \frac{1}{11+d^2} \leq \frac{1}{3}$$

(初等的な不等式 I 問題 204)

(解答) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c \leq d$ と仮定できる.

$$f(x) = \frac{1}{11+x^2}$$

とおくと, 証明すべき不等式は

$$f(a) + f(b) + f(c) + f(d) \leq 4f\left(\frac{a+b+c+d}{4}\right)$$

である.

$f''(x) = \frac{2(3x^2 - 11)}{(11+x^2)^3}$ より $f(x)$ は $\left(-\infty, \sqrt{\frac{11}{3}}\right]$ で凹関数である.

$s = \frac{a+b+c+d}{4} = 1 < \sqrt{\frac{11}{3}}$ となる s に対して, $f(x)$ は $x \leq s$ で凹関数である.

LCF-Theorem より $a = b = c \leq 1 \leq d$ のとき不等式が成り立つことを示せばよい.

$0 < a \leq 1 \leq d, 3a + d = 4$ のとき

$$\begin{aligned} \frac{1}{3} - 3f(a) - f(d) &= \frac{1}{3} - \frac{3}{11+a^2} - \frac{1}{11+d^2} \\ &= \frac{1}{3} - \frac{3}{11+a^2} - \frac{1}{11+(4-3a)^2} \\ &= \frac{3a^4 - 8a^3 + 14a^2 - 16a + 7}{(11+a^2)\{11+(4-3a)^2\}} \\ &= \frac{(a-1)^2(3a^2 - 2a + 7)}{(11+a^2)\{11+(4-3a)^2\}} \geq 0 \end{aligned}$$

よって

$$3f(a) + f(d) \leq \frac{1}{3}$$

■

問題 64 (China 2005)

a, b, c, d は正の実数で, $abcd = 1$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$\frac{1}{(1+a)^2} + \frac{1}{(1+b)^2} + \frac{1}{(1+c)^2} + \frac{1}{(1+d)^2} \geq 1$$

(初等的な不等式 I 問題 173)

(解答) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c \leq d$ と仮定できる.

$$f(x) = \frac{1}{(1+x)^2} \quad (x > 0)$$

とおくと, 証明すべき不等式は

$$f(a) + f(b) + f(c) + f(d) \geq 4f(\sqrt[4]{abcd})$$

となる.

$$f_1(u) = f(e^u) = \frac{1}{(1+e^u)^2}$$

とおくと

$$f_1''(u) = \frac{2e^u(2e^u - 1)}{(1+e^u)^4}$$

よって, $[-\log 2, \infty)$ で $f_1(u)$ は凸関数.

$r = \sqrt[4]{abcd} = 1$ とおくと, $f_1(u)$ は $[\log r, \infty)$ で凸関数だから, RCF-Corollary より,
 $0 < a \leq b = c = d$ に対して不等式が成り立つことを示せばよい.

$0 < a \leq 1 \leq b$, $ab^3 = 1$ のとき

$$\begin{aligned} \frac{1}{(1+a)^2} + \frac{3}{(1+b)^2} \geq 1 &\iff \frac{1}{\left(1 + \frac{1}{b^3}\right)^2} + \frac{3}{(1+b)^2} \geq 1 \\ &\iff \frac{b^6}{(1+b^3)^2} + \frac{3}{(1+b)^2} \geq 1 \\ &\iff 3b^4 - 8b^3 + 9b^2 - 6b + 2 \geq 0 \\ &\iff (b-1)^2(3b^2 - 2b + 2) \geq 0 \end{aligned}$$

$(b-1)^2(3b^2 - 2b + 2) \geq 0$ は明らかに成り立つ. ■

問題 65 (Vasile Cîrtoaje)

a, b, c, d は正の実数で, $abcd = 1$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$\frac{1}{(1+a)(1+a^2)} + \frac{1}{(1+b)(1+b^2)} + \frac{1}{(1+c)(1+c^2)} + \frac{1}{(1+d)(1+d^2)} \geq 1$$

(初等的な不等式 I 問題 191)

(解答) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c \leq d$ と仮定できる.

$$f(x) = \frac{1}{(1+x)(1+x^2)} \quad (x > 0)$$

とおくと, 証明すべき不等式は

$$f(a) + f(b) + f(c) + f(d) \geq 4f\left(\sqrt[4]{abcd}\right)$$

となる.

$$f_1(u) = f(e^u) = \frac{1}{(1+e^u)(1+e^{2u})}$$

とおくと

$$f_1''(u) = \frac{e^u(9e^{5u} + 11e^{4u} + 6e^{3u} - 6e^{2u} - 3e^u - 1)}{(1+e^u)^3(1+e^{2u})^3}$$

$$g(t) = 9t^5 + 11t^4 + 6t^3 - 6t^2 - 3t - 1 \quad (t > 0) \text{ とおくと}$$

$$g'(t) = 45t^4 + 44t^3 + 18t^2 - 12t - 3, \quad g''(t) = 180t^3 + 132t^2 + 36t - 12$$

$g'''(t) = 540t^2 + 264t + 36 > 0$ より $g''(t)$ は増加関数である.

$$\lim_{t \rightarrow +0} g''(t) = -12 < 0, \quad g''(1) = 336 > 0$$

より $g''(t) = 0$ ただ 1 つの正の解 α ($0 < \alpha < 1$) をもち

$0 < t < \alpha$ で $g''(t) < 0$, $\alpha < t$ で $g''(t) > 0$

$$\lim_{t \rightarrow +0} g'(t) = -3 < 0, \quad g'(1) = 92 > 0$$

より $g'(t) = 0$ ただ 1 つの正の解 β ($0 < \beta < 1$) をもち

$0 < t < \beta$ で $g'(t) < 0$, $\beta < t$ で $g'(t) > 0$

$$\lim_{t \rightarrow +0} g(t) = -1 < 0, \quad g(1) = 16 > 0$$

より $g(t) = 0$ ただ 1 つの正の解 γ ($0 < \gamma < 1$) をもち

$0 < t < \gamma \Leftrightarrow g(t) < 0, \gamma < t \Leftrightarrow g(t) > 0$
 よって, $f_1(u)$ は $[\log \gamma, \infty)$ で凸関数である.

$$r = \sqrt[4]{abcd} = 1 > \gamma$$

となる r に対して, $f_1(u)$ は $u \geq \log r = 0$ で凸関数である.

RCF-Corollary より $a \leqq b = c = d$ のとき不等式が成り立つことを示せばよい.

$a \leqq 1 \leqq b = c = d, ab^3 = 1$ のとき

$$\begin{aligned} & \frac{1}{(1+a)(1+a^2)} + \frac{3}{(1+b)(1+b^2)} - 1 \\ &= \frac{1}{\left(1 + \frac{1}{b^3}\right)\left(1 + \frac{1}{b^6}\right)} + \frac{3}{(1+b)(1+b^2)} - 1 \\ &= \frac{b^9}{(1+b^3)(1+b^6)} + \frac{3}{(1+b)(1+b^2)} - 1 \\ &= \frac{2b^6 - 3b^5 + 2b^3 - 3b + 2}{(1+b^3)(1+b^6)} \\ &= \frac{(b-1)^2(2b^4 + b^3 + b + 2)}{(1+b^3)(1+b^6)} \geqq 0 \end{aligned}$$

よって

$$\frac{1}{(1+a)(1+a^2)} + \frac{3}{(1+b)(1+b^2)} \geqq 1$$

■

問題 66 a, b, c, d は非負の実数で, $a + b + c + d = 4$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$abc + bcd + cda + dab + (abc)^2 + (bcd)^2 + (cda)^2 + (dab)^2 \leq 8$$

(解 1) 一般性を失うことなく $0 \leq a \leq b \leq c \leq d$ と仮定できる.

$$\begin{aligned} f(a, b, c, d) &= abc + bcd + cda + dab + (abc)^2 + (bcd)^2 + (cda)^2 + (dab)^2 \\ &= ac(b+d) + (a+c)bd + a^2c^2(b^2 + d^2) + (a^2 + c^2)b^2d^2 \end{aligned}$$

とおくと

$$\begin{aligned} &f(a, b, c, d) - f\left(a, \frac{b+d}{2}, c, \frac{b+d}{2}\right) \\ &= (a+c)\left\{bd - \left(\frac{b+d}{2}\right)^2\right\} + a^2c^2\left\{b^2 + d^2 - 2\left(\frac{b+d}{2}\right)^2\right\} \\ &\quad + (a^2 + c^2)\left\{b^2d^2 - \left(\frac{b+d}{2}\right)^4\right\} \\ &= -\frac{(a+c)(b-d)^2}{4} + \frac{a^2c^2(b-d)^2}{2} - \frac{(a^2 + c^2)(b-d)^2(b^2 + 6bd + d^2)}{16} \\ &= (b-d)^2\left[-\frac{a+c}{4} + \frac{a^2c^2}{2} - \frac{(a^2 + c^2)(b^2 + 6bd + d^2)}{16}\right] \\ &- \frac{a+c}{4} + \frac{a^2c^2}{2} \leq 0 \text{ を示す.} \end{aligned}$$

$$(a+c) + (b+d) = 4, a+c \leq b+d \text{ より } a+c \leq 2$$

$$2 \geq a+c \geq 2\sqrt{ac} \text{ から } ac \leq 1$$

$$(i) a > 0 \text{ のとき, } \frac{1}{a} + \frac{1}{c} \geq \frac{4}{a+c} \geq 2 \text{ から } a+c \geq 2ac$$

$$\text{よって, } a+c \geq 2ac \geq 2a^2c^2$$

$$(ii) a = 0 \text{ のとき, } a+c \geq 2a^2c^2 \text{ は明らかに成り立つ.}$$

$$\text{以上のことから, } -\frac{a+c}{4} + \frac{a^2c^2}{2} \leq 0 \text{ が成り立つので}$$

$$f(a, b, c, d) \geq f\left(a, \frac{b+d}{2}, c, \frac{b+d}{2}\right)$$

$f(a, b, c, d)$ は b, c, d に関する対称式だから, SMV-Theorem より

$$f(a, b, c, d) \leq f(a, t, t, t), t = \frac{b+c+d}{3}$$

したがって、 $0 < a \leq 1 \leq t$, $a + 3t = 4$ のとき

$$f(a, t, t, t) = t^3 + 3at^2 + t^6 + 3a^2t^4 \leq 8$$

を示せばよい。

$$\begin{aligned} t^3 + 3at^2 + t^6 + 3a^2t^4 &\leq 8 \\ \iff t^3 + 3(4 - 3t)t^2 + t^6 + 3(4 - 3t)^2t^4 &\leq 8 \\ \iff 28t^6 - 72t^5 + 48t^4 - 8t^3 + 12t^2 - 8 &\leq 0 \\ \iff 4(t - 1)^2(7t^4 - 4t^3 - 3t^2 - 4t - 2) &\leq 0 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} 7t^4 - 4t^3 - 3t^2 - 4t - 2 \\ = 4\underbrace{(t^4 - t^3)}_{\leq 0} + 3\underbrace{(t^4 - t^2)}_{\leq 0} - 4t - 2 < 0 \end{aligned}$$

だから、 $f(a, t, t, t) \leq 8$ は成り立つ。 ■

(解 2) 一般性を失うことなく $0 \leq a \leq b \leq c \leq d$ と仮定できる。

(i) $a = 0$ のとき

$b, c, d \geq 0$, $b + c + d = 4$ のとき、 $bcd + (bcd)^2 \leq 8$ を示せばよい。

$$4 = b + c + d \geq 3\sqrt[3]{bcd} \text{ より } bcd \leq \left(\frac{4}{3}\right)^3$$

よって

$$bcd + (bcd)^2 \leq \left(\frac{4}{3}\right)^3 + \left(\frac{4}{3}\right)^6 = \frac{5824}{729} < 8$$

(ii) $0 < a \leq b \leq c \leq d$ の場合

系 2.8 ($p = 0, q = -1, r = -2$) を適用する。

証明すべき不等式を

$$abcd \left(\frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} + \frac{1}{d} \right) + (abcd)^2 \left(\frac{1}{a^2} + \frac{1}{b^2} + \frac{1}{c^2} + \frac{1}{d^2} \right) \leq 8$$

と変形する。

$$a + b + c + d = \text{constant}, abcd = \text{constant}$$

ならば、 $\frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} + \frac{1}{d}$, $\frac{1}{a^2} + \frac{1}{b^2} + \frac{1}{c^2} + \frac{1}{d^2}$ はともに $0 < a \leq b = c = d$ のとき最大となる。後は解 1 参照。 ■

問題 67 a, b, c, d は非負の実数で, $a + b + c + d = 1$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$a^4 + b^4 + c^4 + d^4 + \frac{148}{27}abcd \geq \frac{1}{27}$$

(解 1) 一般性を失うことなく $0 \leq a \leq b \leq c \leq d$ と仮定できる.

$$f(a, b, c, d) = a^4 + b^4 + c^4 + d^4 + \frac{148}{27}abcd \text{ とおくと}$$

$$\begin{aligned} & f(a, b, c, d) - f\left(a, \frac{b+d}{2}, c, \frac{b+d}{2}\right) \\ &= b^4 + d^4 - 2\left(\frac{b+d}{2}\right)^4 + \frac{148}{27}ac\left\{bd - \left(\frac{b+d}{2}\right)^2\right\} \\ &= (b-d)^2 \left(\frac{7b^2 + 10bd + 7d^2}{8} - \frac{37}{27}ac \right) \end{aligned}$$

$$\frac{7b^2 + 10bd + 7d^2}{8} - \frac{37}{27}ac = \frac{7}{8}(b-d)^2 + 3\underbrace{(bd-ac)}_{\geq 0} + \frac{44}{27}ac > 0$$

$$\text{だから, } f(a, b, c, d) \geq f\left(a, \frac{b+d}{2}, c, \frac{b+d}{2}\right)$$

$f(a, b, c, d) \geq$ は b, c, d に関する対称式だから, SMV-Theorem より

$$f(a, b, c, d) \geq f(a, t, t, t), \quad t = \frac{b+c+d}{3}$$

したがって, $0 < a \leq \frac{1}{4} \leq t, a + 3t = 1$ のとき, $a^4 + 3t^4 + \frac{148}{27}at^3 \geq \frac{1}{27}$ を示せばよい.

$$\begin{aligned} & a^4 + 3t^4 + \frac{148}{27}at^3 \geq \frac{1}{27} \\ & \iff a^4 + 3\left(\frac{1-a}{3}\right)^4 + \frac{148}{27}a\left(\frac{1-a}{3}\right)^3 \geq \frac{1}{27} \\ & \iff \frac{608a^4 + 336a^3 - 282a^2 + 40a}{729} \geq 0 \\ & \iff 2a(4a-1)^2(19a+20) \geq 0 \end{aligned}$$

最後の不等式は明らかに成り立つ. ■

(解 2) 一般性を失うことなく $0 \leq a \leq b \leq c \leq d$ と仮定できる.

$$(i) a = 0 \text{ の場合 } b^4 + c^4 + d^4 \geq \frac{1}{27} \text{ を示せばよい.}$$

この不等式は, ヘルダーの不等式

$$(1^4 + 1^4 + 1^4)(1^4 + 1^4 + 1^4)(1^4 + 1^4 + 1^4)(b^4 + c^4 + d^4) \geq (b + c + d)^4 = 1$$

から $27(b^4 + c^4 + d^4) \geq 1$ がいえる.

(ii) $0 < a \leqq b \leqq c \leqq d$ の場合

系 2.8 ($p = 0, q = 4$) を適用する.

$a + b + c + d = 1, abcd = constant$ ならば, $a^4 + b^4 + c^4$ は $0 < a \leqq b = c = d$ のとき最小となる.

したがって, $0 < a \leqq \frac{1}{4} \leqq b, a + 3b = 1$ のとき, $a^4 + 3b^4 + \frac{148}{27}ab^3 \geq \frac{1}{27}$ を示せばよい.

$$f(a) = a^4 + 3b^4 + \frac{148}{27}ab^3 \quad \left(0 < a \leqq \frac{1}{4} \leqq b, a + 3b = 1\right) \text{ とおくと}$$

$$\begin{aligned} f'(a) &= 4a^3 + 12b^3b' + \frac{148}{27}(b^3 + 3ab^2b') \\ &= 4(a^3 - b^3) + \frac{148}{27}(b^3 - ab^2) \\ &= (b - a) \left\{ \frac{148}{27}b^2 - 4(a^2 + ab + b^2) \right\} = (b - a) \left\{ \frac{40}{27}b^2 - 4(a^2 + ab) \right\} \\ &= \frac{4(b - a)}{243} \cdot (-152a^2 - 101a + 10) \end{aligned}$$

$g(a) = -152a^2 - 101a + 10$ とおくと, $0 < a \leqq \frac{1}{4}$ で $g(a)$ は減少関数で

$$\lim_{a \rightarrow +0} g(a) = 10 > 0, g\left(\frac{1}{4}\right) = -\frac{99}{4} < 0$$

だから, $g(a) = 0$ は $\left(0, \frac{1}{4}\right)$ の範囲でただ 1 つの実数解をもつ. この解を α とおくと $0 < a < \alpha$ のとき, $g(a) > 0$, $\alpha < a < \frac{1}{4}$ のとき, $g(a) < 0$ である.

よって $0 < a < \alpha$ のとき, $f'(a) > 0$, $\alpha < a < \frac{1}{4}$ のとき, $f'(a) < 0$ である.

$$\lim_{a \rightarrow +0} f(a) = \frac{1}{27} > 0, f\left(\frac{1}{4}\right) = \frac{1}{27}$$

だから, $f(a)$ は $a = \frac{1}{4}$ で最小値 $f\left(\frac{1}{4}\right) = \frac{1}{27}$ をとる.

$$0 < a \leqq \frac{1}{4} \text{ のとき } f(a) \geqq \frac{1}{27}$$

■

問題 68 (Pham Kim Hung)

a, b, c, d は正の実数で, $a^2 + b^2 + c^2 + d^2 = 4$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$\frac{1}{5-a} + \frac{1}{5-b} + \frac{1}{5-c} + \frac{1}{5-d} \leq 1$$

(解 1) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c \leq d$ と仮定できる.

$$f(a, b, c, d) = \frac{1}{5-a} + \frac{1}{5-b} + \frac{1}{5-c} + \frac{1}{5-d}$$

$$\begin{aligned} & f\left(\sqrt{\frac{a^2+c^2}{2}}, b, \sqrt{\frac{a^2+c^2}{2}}, d\right) - f(a, b, c, d) \\ &= \frac{1}{5-\sqrt{\frac{a^2+c^2}{2}}} - \frac{1}{5-a} + \frac{1}{5-\sqrt{\frac{a^2+c^2}{2}}} - \frac{1}{5-c} \\ &= \frac{\sqrt{\frac{a^2+c^2}{2}}-a}{\left(5-\sqrt{\frac{a^2+c^2}{2}}\right)(5-a)} + \frac{\sqrt{\frac{a^2+c^2}{2}}-c}{\left(5-\sqrt{\frac{a^2+c^2}{2}}\right)(5-c)} \\ &= \frac{c^2-a^2}{2\left(\sqrt{\frac{a^2+c^2}{2}}+a\right)\left(5-\sqrt{\frac{a^2+c^2}{2}}\right)(5-a)} \\ &\quad - \frac{c^2-a^2}{2\left(\sqrt{\frac{a^2+c^2}{2}}+c\right)\left(5-\sqrt{\frac{a^2+c^2}{2}}\right)(5-c)} \\ &= \frac{(c^2-a^2)\left\{\left(\sqrt{\frac{a^2+c^2}{2}}+c\right)(5-c)-\left(\sqrt{\frac{a^2+c^2}{2}}+a\right)(5-a)\right\}}{2\left(\sqrt{\frac{a^2+c^2}{2}}+a\right)\left(\sqrt{\frac{a^2+c^2}{2}}+c\right)\left(5-\sqrt{\frac{a^2+c^2}{2}}\right)(5-a)(5-c)} \end{aligned}$$

ここで

$$\begin{aligned} & \left(\sqrt{\frac{a^2+c^2}{2}}+c\right)(5-c)-\left(\sqrt{\frac{a^2+c^2}{2}}+a\right)(5-a) \\ &= \left(\sqrt{\frac{a^2+c^2}{2}}\{(5-c)-(5-a)\}\right) + c(5-c) - a(5-a) \\ &= (c-a)\left\{5-(c+a)-\sqrt{\frac{a^2+c^2}{2}}\right\} \end{aligned}$$

において、 $5 - (c + a) - \sqrt{\frac{a^2 + c^2}{2}} > 0$ を示す。

$(a^2 + c^2) + (b^2 + d^2) = 4$, $a^2 + c^2 \leq b^2 + d^2$ より $a^2 + c^2 \leq 2$ だから $\sqrt{\frac{a^2 + c^2}{2}} \leq 1$
また、 $a + c \leq \sqrt{2(a^2 + c^2)} \leq 2$ が成り立つから

$$(c + a) + \sqrt{\frac{a^2 + c^2}{2}} \leq 3 < 5$$

よって

$$f(a, b, c, d) \leq f\left(\sqrt{\frac{a^2 + c^2}{2}}, b, \sqrt{\frac{a^2 + c^2}{2}}, d\right)$$

$f(a, b, c, d)$ は a, b, c に関する対称式だから、SMV-Theorem より

$$f(a, b, c, d) \leq f(t, t, t, d), t = \sqrt{\frac{a^2 + b^2 + c^2}{3}}$$

したがって、 $0 < t \leq 1 \leq d$, $3t^2 + d^2 = 4$ のとき

$$\frac{3}{5-t} + \frac{1}{5-d} \leq 1$$

を示せばよい。

$$g(t) = \frac{3}{5-t} + \frac{1}{5-d} \quad (0 < t \leq 1 \leq d, 3t^2 + d^2 = 4) \text{ とおくと, } d' = -\frac{3t}{d} \text{ で}$$

$$\begin{aligned} g'(t) &= \frac{3}{(5-t)^2} + \frac{d'}{(5-d)^2} \\ &= \frac{3}{(5-t)^2} - \frac{3t}{d(5-d)^2} \\ &= \frac{3\{d(5-d)^2 - t(5-t)^2\}}{(5-t)^2 d(5-d)^2} \\ &= \frac{3\{d^3 - t^3 + 10(t^2 - t^2) + 25(d-t)\}}{(5-t)^2 d(5-d)^2} \\ &= \frac{3(d-t)\{t^2 + td + d^2 - 10(t+d) + 25\}}{(5-t)^2 d(5-d)^2} \\ &= \frac{3(d-t)\{(t-1)^2 + td + (d-1)^2 - 8(t+d) + 23\}}{(5-t)^2 d(5-d)^2} \end{aligned}$$

ここで

$$\frac{16}{3} = \left(\frac{1}{3} + 1\right)(3t^2 + d^2) \geq (t+d)^2$$

から

$$t+d \leq \frac{4}{\sqrt{3}} < \frac{23}{8}$$

よって、 $(t-1)^2 + td + (d-1)^2 - 8(t+d) + 23 > 0$ となり、 $g'(t) \geq 0$

$g(t)$ は増加関数で、 $0 < t \leq 1$ のとき、 $g(t) \leq g(1) = 1$

(解 2) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c \leq d$ と仮定できる。

$A = a^2, B = b^2, C = c^2, D = d^2$ とおくと、証明すべき不等式は

$0 < A \leq B \leq C \leq D, A + B + C + D = 4$ のとき

$$\frac{1}{5 - \sqrt{A}} + \frac{1}{5 - \sqrt{B}} + \frac{1}{5 - \sqrt{C}} + \frac{1}{5 - \sqrt{D}} \leq 1$$

となる。

$f(x) = \frac{1}{5 - \sqrt{x}}$ ($0 < x < 4$) とおくと、証明すべき不等式は、

$$f(A) + f(B) + f(C) + f(D) \leq 4f\left(\frac{A+B+C+D}{4}\right)$$

である。

$f''(x) = \frac{3\sqrt{x} - 5}{4x\sqrt{x}(5 - \sqrt{x})^3}$ から $f(x)$ は $\left(0, \frac{25}{9}\right]$ で凹関数である。

$s = \frac{A+B+C+D}{4} = 1$ とおくと、 $f(x)$ は $(0, 1]$ で凹関数だから

$0 < A = B = C \leq 1 \leq D$ のとき、不等式が成り立つことを示せばよい。

すなわち、 $0 < a = b = c \leq 1 \leq d$ のとき、不等式が成り立つことを示せばよい。

$0 < a \leq 1 \leq d, 3a^2 + d^2 = 4$ のとき、 $\frac{3}{5-a} + \frac{1}{5-d} \leq 1$ を示す。

$$\begin{aligned} & \frac{3}{5-a} + \frac{1}{5-d} \leq 1 \\ \iff & ad - 4a - 2d + 5 \geq 0 \\ \iff & d(2-a) \leq 5 - 4a \\ \iff & d^2(2-a)^2 \leq (5-4a)^2 \\ \iff & (4-3a^2)(2-a)^2 \leq (5-4a)^2 \\ \iff & 3a^4 - 12a^3 + 24a^2 - 24a + 9 \geq 0 \\ \iff & 3(a-1)^2 \underbrace{(a^2 - 2a + 3)}_{>0} \geq 0 \end{aligned}$$

問題 69 a, b, c, d は正の実数で, $a^2 + b^2 + c^2 + d^2 = 1$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$\sqrt{1-a} + \sqrt{1-b} + \sqrt{1-c} + \sqrt{1-d} \geq \sqrt{a} + \sqrt{b} + \sqrt{c} + \sqrt{d}$$

(解答) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c \leq d$ と仮定できる.

$A = a^2, B = b^2, C = c^2, D = d^2$ とおくと, 証明すべき不等式は

$0 < A \leq B \leq C \leq D, A + B + C + D = 1$ のとき

$$\sqrt{1 - \sqrt{A}} + \sqrt{1 - \sqrt{B}} + \sqrt{1 - \sqrt{C}} + \sqrt{1 - \sqrt{D}} \geq \sqrt[4]{A} + \sqrt[4]{B} + \sqrt[4]{C} + \sqrt[4]{D}$$

となる.

$f(x) = \sqrt[4]{x} - \sqrt{1 - \sqrt{x}}$ ($0 < x < 1$) とおくと, 証明すべき不等式は,

$$f(A) + f(B) + f(C) + f(D) \leq 4f\left(\frac{A+B+C+D}{4}\right)$$

である.

$t = \sqrt{x}$ とおくと

$$\begin{aligned} f''(x) &= -\left[-\frac{1}{16x(\sqrt{1-\sqrt{x}})^3} + \frac{1}{8x\sqrt{x}\sqrt{1-\sqrt{x}}} + \frac{3}{16x^{\frac{7}{4}}}\right] \\ &= -\left[-\frac{1}{16t^2(\sqrt{1-t})^3} + \frac{1}{8t^3\sqrt{1-t}} + \frac{3}{16t^{\frac{7}{2}}}\right] \\ &= -\left[\frac{2-3t}{16t^3(\sqrt{1-t})^3} + \frac{3}{16t^{\frac{7}{2}}}\right] \end{aligned}$$

より, $0 < t \leq \frac{2}{3}$ のとき $f''(x) < 0$ となるから $f(x)$ は $0 < x \leq \frac{4}{9}$ で凹関数である.

$s = \frac{A+B+C+D}{4} = \frac{1}{4} < \frac{4}{9}$ とおくと, $f(x)$ は $0 < x \leq s = \frac{1}{4}$ で凹関数である

から, LCF-Theorem より $0 < A = B = C \leq \frac{1}{4} \leq D$ のとき, 不等式が成り立つことを示せばよい.

すなわち, $0 < a = b = c \leq \frac{1}{2} \leq d, 3a^2 + d^2 = 1$ のとき

$$3\sqrt{1-a} + \sqrt{1-d} \geq 3\sqrt{a} + \sqrt{d}$$

を示せばよい.

$$F(a) = 3\sqrt{1-a} + \sqrt{1-d} - 3\sqrt{a} - \sqrt{d} \quad \left(0 < a \leq \frac{1}{2} \leq d, 3a^2 + d^2 = 1\right) \text{ とおくと,}$$

$$d' = -\frac{3a}{d} \quad \text{て}$$

$$\begin{aligned} F'(a) &= -\frac{3}{2\sqrt{1-a}} - \frac{d'}{2\sqrt{1-d}} - \frac{3}{2\sqrt{a}} - \frac{d'}{2\sqrt{d}} \\ &= -\frac{3}{2\sqrt{1-a}} + \frac{3a}{2d\sqrt{1-d}} - \frac{3}{2\sqrt{a}} + \frac{3a}{2d\sqrt{d}} \\ &= \frac{3}{2d\sqrt{1-a}\sqrt{1-d}} (a\sqrt{1-a} - d\sqrt{1-d}) + \frac{3}{2d\sqrt{a}\sqrt{d}} (a\sqrt{a} - d\sqrt{d}) \\ &= \frac{3\{a^2(1-a) - d^2(1-d)\}}{2d\sqrt{1-a}\sqrt{1-d}(a\sqrt{1-a} + d\sqrt{1-d})} + \frac{3(a^3 - d^3)}{2d\sqrt{a}\sqrt{d}(a\sqrt{a} + d\sqrt{d})} \\ &= \frac{3(a-d)\{a+d - (a^2 + ad + d^2)\}}{2d\sqrt{1-a}\sqrt{1-d}(a\sqrt{1-a} + d\sqrt{1-d})} + \frac{3(a-d)(a^2 + ad + d^2)}{2d\sqrt{a}\sqrt{d}(a\sqrt{a} + d\sqrt{d})} \end{aligned}$$

$a + d - (a^2 + ad + d^2) > 0$ を示せば, $F'(a) \leq 0$ がいえる.

$$\begin{aligned} a + d - (a^2 + ad + d^2) &> 0 \iff a + d - (a^2 + ad + 1 - 3a^2) > 0 \\ &\iff d(1-a) > 1 - a - 2a^2 \\ &\iff d^2(1-a)^2 > (1-a-2a^2)^2 \quad \because 1-a-2a^2 = (1+a)(1-2a) \geq 0 \\ &\iff -7a^4 + 2a^3 + a^2 > 0 \\ &\iff a^2(-7a^2 + 2a + 1) > 0 \end{aligned}$$

ここで, $0 < a \leq \frac{1}{2}$ なので

$$7a^2 = \frac{7}{4}(2a)^2 \leq \frac{7}{4}(2a) = 2a + \frac{3}{4}(2a) \leq 2a + \frac{3}{4} < 2a + 1$$

から, $a^2(-7a^2 + 2a + 1) > 0$ は成り立つ.

$F'(a)$ は減少関数で, $0 < a \leq \frac{1}{2}$ のとき, $F(a) \geq F\left(\frac{1}{2}\right) = 0$

■

問題 70 (Vasile Cîrtoaje)

a, b, c, d は非負の実数で、 $a^2 + b^2 + c^2 + d^2 = 4$ を満たすとき、次の不等式を証明せよ。

$$(abc)^3 + (bcd)^3 + (cda)^3 + (dab)^3 \leq 4$$

(解答) 一般性を失うことなく $0 \leq a \leq b \leq c \leq d$ と仮定できる。

(i) $a = 0$ のとき

$b^2 + c^2 + d^2 = 4$ のとき $(bcd)^3 \leq 4$ を示せばよい。

$$4 = b^2 + c^2 + d^2 \geq 3\sqrt[3]{(bcd)^2} \quad \text{から} \quad bcd \leq \left(\frac{4}{3}\right)^{\frac{3}{2}}$$

よって

$$(bcd)^3 \leq \left(\frac{4}{3}\right)^{\frac{9}{2}} < 4$$

(ii) $0 < a \leq b \leq c \leq d$ の場合

$A = a^2, B = b^2, C = c^2, D = d^2$ とおくと、 $0 < A \leq B \leq C \leq D, A + B + C + D = 4$ のとき

$$(ABC)^{\frac{3}{2}} + (BCD)^{\frac{3}{2}} + (CDA)^{\frac{3}{2}} + (DAB)^{\frac{3}{2}} \leq 4$$

を示せばよい。

$$\begin{aligned} (ABC)^{\frac{3}{2}} + (BCD)^{\frac{3}{2}} + (CDA)^{\frac{3}{2}} + (DAB)^{\frac{3}{2}} &\leq 4 \\ \iff (ABCD)^{\frac{3}{2}} \left(A^{-\frac{3}{2}} + B^{-\frac{3}{2}} + C^{-\frac{3}{2}} + D^{-\frac{3}{2}}\right) &\leq 4 \end{aligned}$$

系 2.8 $\left(p = 0, q = -\frac{3}{2}\right)$ を適用する。

$$A + B + C + D = 4, \quad ABCD = \text{constant}$$

ならば、 $A^{-\frac{3}{2}} + B^{-\frac{3}{2}} + C^{-\frac{3}{2}} + D^{-\frac{3}{2}}$ は $0 < A \leq B = C = D$ のとき最大となる。

したがって、 $0 < a \leq b = c = d$ のときを考えればよい。

$0 < a \leq 1 \leq b, a^2 + 3b^2 = 4$ のとき

$$3(ab^2)^3 + b^9 \leq 4$$

を示せばよい。

$$\begin{aligned}
& 3(ab^2)^3 + b^9 \leqq 4 \\
\iff & b^9 \leqq 4 - 3a^3b^6 \\
\iff & b^{18} \leqq (4 - 3a^3b^6)^2 \\
\iff & \left(\frac{4-a^2}{3}\right)^9 \leqq \left\{4 - 3a^3 \left(\frac{4-a^2}{3}\right)^3\right\}^2 \\
\iff & 244a^{18} - 5868a^{16} + 58896a^{14} - 316416a^{12} + 965376a^{10} \\
& + 17496a^9 - 1622016a^8 - 209952a^7 + 1339392a^6 + 839808a^5 - 589824a^4 \\
& - 1119744a^3 + 589824a^2 + 52784 \geqq 0 \\
= & 4(a-1)^2(61a^{16} + 122a^{15} - 1284a^{14} - 2690a^{13} + 10628a^{12} \\
& + 23946a^{11} - 41840a^{10} - 107626a^9 + 67932a^8 + 247864a^7 + 22292a^6 \\
& - 255768a^5 - 198980a^4 + 67760a^3 + 187044a^2 + 26392a + 13196) \geqq 0 \quad (*) \\
0 < a \leqq 1 \text{ だから } & x = \frac{1}{a} - 1 \geqq 0 \text{ とおくと} \\
& 61a^{16} + 122a^{15} - 1284a^{14} - 2690a^{13} + 10628a^{12} \\
& + 23946a^{11} - 41840a^{10} - 107626a^9 + 67932a^8 + 247864a^7 + 22292a^6 \\
& - 255768a^5 - 198980a^4 + 67760a^3 + 187044a^2 + 26392a + 13196 \\
= & 61 + 122(x+1) - 1284(x+1)^2 - 2690(x+1)^3 + 10628(x+1)^4 + 23946(x+1)^5 \\
& - 41840(x+1)^6 - 107626(x+1)^7 + 67932(x+1)^8 + 247864(x+1)^9 \\
& + 22292(x+1)^{10} - 255768(x+1)^{11} - 198980(x+1)^{12} + 67760(x+1)^{13} \\
& + 187044(x+1)^{14} + 26392(x+1)^{15} + 13196(x+1)^{16} \\
= & 13196x^{16} + 237528x^{15} + 2166444x^{14} + 12847296x^{13} + 53727984x^{12} \\
& + 164390976x^{11} + 375615312x^{10} + 648592632x^9 + 851170320x^8 \\
& + 849044302x^7 + 640321254x^6 + 360972936x^5 + 149225976x^4 \\
& + 43859556x^3 + 8695512x^2 + 1049760x + 59049 \\
> & 0
\end{aligned}$$

より、(*) は成り立つ。 ■

[注] $0 < a \leqq 1 \leqq b, a^2 + 3b^2 = 4$ のとき

$$3(ab^2)^3 + b^9 \leqq 4$$

の証明は次のように微分を利用することができる。

$f(a) = 3a^3b^6 + b^9$ ($0 < a \leq 1 \leq b$) とおくと, $b' = -\frac{a}{3b}$ で

$$\begin{aligned} f'(a) &= 9a^2b^6 + 18a^3b^5b' + 9b^8b' \\ &= 9a^2b^6 - 6a^4b^4 - 3ab^7 \\ &= 3ab^4(3ab^2 - 2a^3 - b^3) \\ &= 3ab^4(b - a)(2a^2 + 2ab - b^2) \end{aligned}$$

ここで $g(a) = 2a^2 + 2ab - b^2$ とおくと

$$\begin{aligned} g'(a) &= 4a + 2b + 2ab' - 2bb' \\ &= 4a + 2b - \frac{2a^2}{3b} + \frac{2}{3}a \\ &= \frac{14}{3}a + 2b - \frac{2a^2}{3b} \\ &= \frac{14ab + \overbrace{(6b^2 - 2a^2)}^{>0}}{3} > 0 \end{aligned}$$

これから, $g(a)$ は増加関数で

$$\lim_{a \rightarrow +0} g(a) = -\frac{4}{3} < 0, \quad g(1) = 3 > 0$$

だから, $g(a) = 0$ は $(0, 1)$ の範囲でただ 1 つの実数解をもつ.

これを α とおくと, $0 < a < \alpha$ のとき $g(a) < 0$, $\alpha < a \leq 1$ のとき $g(a) > 0$ である.

a	0	\cdots	α	\cdots	1
$f'(a)$		-	0	+	
$f(a)$		\searrow	極小	\nearrow	

$$\lim_{a \rightarrow +0} f(a) = \left(\sqrt{\frac{4}{3}} \right)^9, \quad f(1) = 4$$

で, $\left(\sqrt{\frac{4}{3}} \right)^9 < 4$ だから, 増減表より $0 < a \leq 1$ のとき $f(a) \leq 4$

問題 71 a, b, c は非負の実数で, $a+b \neq 0, b+c \neq 0, c+a \neq 0$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$\sqrt{\frac{a}{4a+5b}} + \sqrt{\frac{b}{4b+5c}} + \sqrt{\frac{c}{4c+5a}} \leq 1$$

(解答) (i) $a = 0$ のとき

$b, c > 0$ で, このとき $\sqrt{\frac{b}{4b+5c}} + \sqrt{\frac{c}{4c}} \leq 1$ すなわち $\sqrt{\frac{b}{4b+5c}} \leq \frac{1}{2}$ を示せばよい.

$$\begin{aligned} \sqrt{\frac{b}{4b+5c}} \leq \frac{1}{2} &\iff \frac{b}{4b+5c} \leq \frac{1}{4} \\ &\iff 4b \leq 4b+5c \\ &\iff 0 \leq c \end{aligned}$$

最後の不等式は明らかになり立つ. 他の場合も同様.

(ii) $a, b, c > 0$ の場合

$$p = \frac{b}{a}, q = \frac{c}{b}, r = \frac{a}{c} \text{ とおくと, } p, q, r > 0, pqr = 1 \text{ で}$$

$$\begin{aligned} \sqrt{\frac{a}{4a+5b}} + \sqrt{\frac{b}{4b+5c}} + \sqrt{\frac{c}{4c+5a}} &\leq 1 \\ \iff \sqrt{\frac{1}{4+5 \cdot \frac{b}{a}}} + \sqrt{\frac{1}{4+5 \cdot \frac{c}{b}}} + \sqrt{\frac{1}{4+5 \cdot \frac{a}{c}}} &\leq 1 \\ \iff \sqrt{\frac{1}{4+5p}} + \sqrt{\frac{1}{4+5q}} + \sqrt{\frac{1}{4+5r}} &\leq 1 \end{aligned}$$

$0 < p \leq q \leq r$ と仮定できる.

$$f(x) = \sqrt{\frac{1}{4+5x}} \quad (x > 0)$$

とおくと, 証明すべき方程式は

$$f(p) + f(q) + f(r) \leq 3f(\sqrt[3]{pqr})$$

である.

$$f_1(u) = f(e^u) = \sqrt{\frac{1}{4+5e^u}}$$

とおくと

$$f_1''(u) = \frac{5e^u(5e^u - 8)}{4(4 + 5e^u)^{\frac{5}{2}}}$$

$f_1(u)$ は $e^u \leq \frac{8}{5}$ すなわち $u \leq \log \frac{8}{5}$ で凹関数である.

$R = \sqrt[3]{pqr} = 1$ とおくと, $f_1(u)$ は $u \leq \log R = 0 < \log \frac{8}{5}$ で凹関数だから,
LCF-Corollary より, $0 < p = q \leq 1 \leq r$ のとき不等式が成り立つことを示せばよい.

$0 < p \leq 1 \leq r, p^2r = 1$ のとき

$$\begin{aligned} & 2\sqrt{\frac{1}{4+5p}} + \sqrt{\frac{1}{4+5r}} \leq 1 \\ \iff & 2\sqrt{\frac{1}{4+5p}} + \sqrt{\frac{p^2}{4p^2+5}} \leq 1 \\ \iff & \frac{p^2}{4p^2+5} \leq \left(1 - 2\sqrt{\frac{1}{4+5p}}\right)^2 \\ \iff & 4\sqrt{\frac{1}{4+5p}} \leq 1 + \frac{4}{4+5p} - \frac{p^2}{4p^2+5} \\ \iff & \left(4\sqrt{\frac{1}{4+5p}}\right)^2 \leq \left(1 + \frac{4}{4+5p} - \frac{p^2}{4p^2+5}\right)^2 \\ \iff & \frac{16}{4+5p} \leq \left\{ \frac{15p^3 + 28p^2 + 25p + 40}{(5p+4)(4p^2+5)} \right\}^2 \\ \iff & \frac{225p^6 - 440p^5 + 510p^4 - 600p^3 + 305p^2}{(5p+4)^2(4p^2+5)^2} \\ \iff & \frac{5p^2(p-1)^2(45p^2+2p+61)}{(5p+4)^2(4p^2+5)^2} \geq 0 \end{aligned}$$

最後の不等式は明らかに成り立つ. ■

問題 72 a, b, c, d は正の実数で, $abcd = 1$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$\frac{1}{1+a+a^2+a^3} + \frac{1}{1+b+b^2+b^3} + \frac{1}{1+c+c^2+c^3} + \frac{1}{1+d+d^2+d^3} \geq 1$$

(解答) 一般性を失うことなく $0 < a \leqq b \leqq c \leqq d$ と仮定できる.

$$f(x) = \frac{1}{1+x+x^2+x^3} \quad (x > 0)$$

とおくと, 証明すべき不等式は

$$f(a) + f(b) + f(c) + f(d) \geq 4f(\sqrt[4]{abcd})$$

となる.

$$f_1(u) = f(e^u) = \frac{1}{1+e^u+e^{2u}+e^{3u}}$$

とおくと

$$f_1''(u) = \frac{e^u (9e^{5u} + 11e^{4u} + 6e^{3u} - 6e^{2u} - 3e^u - 1)}{(1+e^u+e^{2u}+e^{3u})^3}$$

$r = \sqrt[4]{abcd} = 1$ とおくと, $u \geqq \log r = 0$ すなわち $e^u \geqq 1$ で $f_1''(u) > 0$ だから, $f_1(u)$ は凸関数である. RCF-Corollary より, $0 < a \leqq b = c = d$ のとき不等式が成り立つことを示せばよい.

$0 < a \leqq 1 \leqq b, ab^3 = 1$ のとき

$$\begin{aligned} & \frac{1}{1+a+a^2+a^3} + \frac{3}{1+b+b^2+b^3} \geq 1 \\ \iff & \frac{1}{1+\frac{1}{b^3}+\frac{1}{b^6}+\frac{1}{b^9}} + \frac{3}{1+b+b^2+b^3} \geq 1 \\ \iff & \frac{b^9}{b^9+b^6+b^3+1} + \frac{3}{1+b+b^2+b^3} \geq 1 \\ \iff & \frac{2b^6-3b^5+2b^3-3b+2}{(b^6+1)(b^3+1)} \geq 0 \\ \iff & \frac{(b-1)^2(2b^4+b^3+b+2)}{(b^6+1)(b^3+1)} \geq 0 \end{aligned}$$

最後の不等式は明らかに成り立つ. ■

問題 73 $1 < r \leq 2$ は実数の定数, a, b, c は非負の実数で, $ab + bc + ca = 3$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$a^r(b+c) + b^r(c+a) + c^r(a+b) \geq 6$$

(解答) 一般性を失うことなく $0 \leq a \leq b \leq c$ と仮定できる.

不等式を同次化すると

$$a^r(b+c) + b^r(c+a) + c^r(a+b) \geq 6 \left(\frac{ab+bc+ca}{3} \right)^{\frac{r+1}{2}}$$

同次化したことにより, $ab + bc + ca = 3$ を取り除く. 代わりに, $a+b+c=1$ と仮定できる. このとき証明すべき不等式は

$$a^r(1-a) + b^r(1-b) + c^r(1-c) \geq 6 \left(\frac{1-a^2-b^2-c^2}{6} \right)^{\frac{r+1}{2}}$$

となる.

この不等式を証明するために, 系 2.4 を適用する.

$$f(u) = -u^r(1-u) \quad (0 \leq u)$$

とおくと

$$f'(u) = -ru^{r-1} + (r+1)u^r$$

ここで

$$g(x) = f'(x) = -rx^{r-1} + (r+1)x^r \quad (x \geq 0)$$

とおくと

$$\begin{aligned} g''(x) &= -r(r-1)(r-2)x^{r-3} + (r+1)r(r-1)x^{r-2} \\ &= r(r-1)x^{r-3} \{(r+1)x + 2 - r\} \end{aligned}$$

より, $x > 0$ で $g''(x) > 0$ だから $g(x)$ は $[0, \infty)$ で狭義の凸関数である.

系 2.4 より

$$0 \leq a \leq b \leq c, a+b+c=1, a^2+b^2+c^2 = \text{constant}$$

ならば, $f(a) + f(b) + f(c)$ は $0 \leq a = b \leq c$ のとき最大となる.

ゆえに, $0 < x \leq 1 \leq y, x^2 + 2xy = 3$ のとき

$$x^r(x+y) + xy^r \geq 3$$

を示せばよい. ($x = 0$ のときは, $x^2 + 2xy = 3$ を満たさない.)

$x^2 + 2xy = 3$ の両辺を x で微分すると $2x + 2(y + xy') = 0$ から

$$y' = -\frac{x+y}{x}$$

となる.

$$F(x) = x^r(x+y) + xy^r - 3 (= x^{r+1} + x^ry + xy^r - 3)$$

とおくと

$$\begin{aligned} F'(x) &= (r+1)x^r + rx^{r-1}y + x^ry' + y^r + rxy^{r-1}y' \\ &= (r+1)x^r + rx^{r-1}y + y^r + (x^r + rxy^{r-1}) \left(-\frac{x+y}{x} \right) \\ &= rx^r + (1-r)y^r + (r-1)x^{r-1}y - rxy^{r-1} \\ &= rx(x^{r-1} - y^{r-1}) + (r-1)y(x^{r-1} - y^{r-1}) \\ &= (x^{r-1} - y^{r-1}) \{(r-1)y + rx\} \leqq 0 \end{aligned}$$

$F(x)$ は減少関数で, $0 \leqq x \leqq 1$ のとき $F(x) \geqq F(1) = 0$

■

問題 74 (Gabriel Dospinescu , Călin Popa)

a_1, a_2, \dots, a_n は正の実数で, $a_1 a_2 \cdots a_n = 1$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$a_1^2 + a_2^2 + \cdots + a_n^2 - n \geq \frac{2n\sqrt[n]{n-1}}{n-1} (a_1 + a_2 + \cdots + a_n - n)$$

(解 1) 系 2.8 ($p=0, q=2$) を適用する. $0 < a_1 \leq a_2 \leq \cdots \leq a_n$ で

$$a_1 + a_2 + \cdots + a_n = \text{constant}, \quad a_1 a_2 \cdots a_n = 1$$

ならば, $a_1^2 + a_2^2 + \cdots + a_n^2$ は $0 < a_1 \leq a_2 = a_3 = \cdots = a_n$ のとき最小となる.

$$0 < x \leq 1 \leq y, \quad xy^{n-1} = 1, \quad k = \frac{n\sqrt[n]{n-1}}{n-1}$$

$$f(x) = x^2 - 2kx, \quad F(x) = f(x) + (n-1)f(y)$$

とおき, $F(x) \geq F(1)$ を証明する.

$xy^{n-1} = 1$ の両辺を x で微分すると

$$y^{n-1} + (n-1)xy^{n-2}y' = 0 \quad \text{から} \quad y' = -\frac{y}{(n-1)x}$$

$F(x)$ を x で微分すると

$$\begin{aligned} F'(x) &= f'(x) + (n-1)f'(y)y' \\ &= f'(x) + (n-1)f'(y) \left(-\frac{y}{(n-1)x} \right) \\ &= \frac{xf'(x) - yf'(y)}{x} \\ &= \frac{x(2x - 2k) - y(2y - 2k)}{x} \\ &= \frac{2(x-y)\{(x+y)-k\}}{x} \end{aligned}$$

となるから, $x+y \geq k$ を示す. 相加平均・相乗平均の不等式を使うと

$$x+y = x + \underbrace{\frac{y}{n-1} + \frac{y}{n-1} + \cdots + \frac{y}{n-1}}_{n-1} \geq n \sqrt[n]{\frac{xy^{n-1}}{(n-1)^{n-1}}} = \frac{n\sqrt[n]{n-1}}{n-1}$$

よって, $F'(x) \leq 0$ となるから $F(x)$ は減少関数となる.

$0 < x \leq 1$ のとき $F(x) \geq F(1) = n - 2kn$ となるから与えられた不等式は成り立つ. ■

(解 2) $k = \frac{n\sqrt[n]{n-1}}{n-1}$, $f(t) = t^2 - 2kt$ ($t > 0$) とおくと, 証明すべき不等式は

$$f(a_1) + f(a_2) + \cdots + f(a_n) \geq nf(\sqrt[n]{a_1 a_2 \cdots a_n})$$

となる. $r = 1$ として, RCF-Corollary を適用する.

$$f_1(u) = f(e^u) = e^{2u} - 2ke^u \text{ とおくと } f_1''(u) = 2e^u(2e^u - k)$$

$f_1(u)$ が $u \geq \log r = 0$ で凸であることをいうために

$$\frac{k}{2} = \frac{n\sqrt[n]{n-1}}{2(n-1)} \leqq 1$$

を示す.

$$\frac{n\sqrt[n]{n-1}}{2(n-1)} \leqq 1 \iff \left(1 - \frac{1}{n}\right)^n \geqq \frac{n-1}{2^n}$$

このために, $g(x) = \left(1 - \frac{1}{x}\right)^x$ ($x \geqq 2$) が増加関数であることを示し, $n \geqq 2$ のとき, $g(2) \geqq g(2) = \frac{1}{4}$ を導く. そして, $n \geqq 2$ のとき $\frac{1}{4} \geqq \frac{n-1}{2^n}$ を示す.

$\log g(x) = x \log \left(1 - \frac{1}{x}\right)$ の両辺を x で微分すると

$$\frac{f'(x)}{f(x)} = \log \left(1 - \frac{1}{x}\right) + \frac{1}{x-1}$$

$h(x) = \log \left(1 - \frac{1}{x}\right) + \frac{1}{x-1}$ とおくと

$$h'(x) = -\frac{1}{x(x-1)} - \frac{1}{(x-1)^2} < 0$$

$h(x)$ は減少関数で, $\lim_{x \rightarrow \infty} h(x) = 0$ だから $h(x) > 0$
したがって, $f'(x) > 0$ より $f(x)$ は増加関数である.

次に, $n \geqq 2$ のとき

$$\frac{1}{4} \geqq \frac{n-1}{2^n}$$

を示す.

$n = 2$ のときは $\frac{1}{4} = \frac{2-1}{2^2}$ で成り立つから, $n \geqq 3$ とする. すると
 m が自然数, $x > 0$ のとき, $(1+x)^m \geqq 1+mx$ が成り立つから, この不等式で
 $m = n-2, x = 1$ とおけばよい.

RCF-Corollary より, $x \leqq 1 \leqq y, xy^{n-1} = 1$ のとき $xf'(x) \leqq yf'(y)$ を示せばよい.
残りは, 解1の解答参照. ■

問題 75 $m \geq n - 1$ は正の整数, a_1, a_2, \dots, a_n は正の実数で, $a_1 a_2 \cdots a_n = 1$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$a_1^m + a_2^m + \cdots + a_n^m + (m-1)n \geq m \left(\frac{1}{a_1} + \frac{1}{a_2} + \cdots + \frac{1}{a_n} \right)$$

(解 1) $n = 2$ の場合

$m = 1$ のときは明らかに成り立つから, $m \geq 2$ とする.

$a_1 a_2 = 1$ のとき

$$a_1^m + a_2^m + 2(m-1) \geq m \left(\frac{1}{a_1} + \frac{1}{a_2} \right)$$

を示せばよい.

$0 < a_1 \leq a_2$ として

$$a_1^m + \frac{1}{a_1^m} + 2(m-1) \geq m \left(\frac{1}{a_1} + a_1 \right)$$

を示せばよい.

$f(x) = x^m + \frac{1}{x^m} + 2(m-1) - m \left(\frac{1}{x} + x \right)$ ($0 < x \leq 1$) とおくと

$$\begin{aligned} f'(x) &= mx^{m-1} - \frac{m}{x^{m+1}} - m \left(1 - \frac{1}{x^2} \right) \\ &= m \left(\frac{x^{2m} - 1}{x^{m+1}} - \frac{x^2 - 1}{x^2} \right) \\ &= m \left(\frac{(x^m - 1)(x^m + 1)}{x^{m+1}} - \frac{(x - 1)(x + 1)}{x^2} \right) \\ &= \frac{m(x - 1)}{x^{m+1}} \left\{ \underbrace{(x^{m-1} + x^{m-2} + \cdots + x + 1)(x^m + 1) - x^{m-1}(x + 1)}_{\geq 0} \right\} \leq 0 \end{aligned}$$

$f(x)$ は減少関数で, $0 < x \leq 1$ のとき $f(x) \geq f(1) = 0$

$n \geq 3$ のとき

$x_i = \frac{1}{a_i}$ ($i = 1, 2, \dots, n$) とおくと, 証明すべき不等式は

$x_1 x_2 \cdots x_n = 1$ のとき

$$\frac{1}{x_1^m} + \frac{1}{x_2^m} + \cdots + \frac{1}{x_n^m} + (m-1)n \geq m(x_1 + x_2 + \cdots + x_n)$$

となる.

一般性を失うことなく $0 < x_1 \leq x_2 \leq \cdots \leq x_n$ と仮定できる。

$$x_1 x_2 \cdots x_n = 1, x_1 + x_2 + \cdots + x_n = \text{constant}$$

ならば、 $\frac{1}{x_1^m} + \frac{1}{x_2^m} + \cdots + \frac{1}{x_n^m}$ は $0 < x_1 = x_2 = \cdots = x_{n-1} \leq x_n$ のとき最小となる。
 $0 < x_1 \leq 1 \leq x_n, x_1^{n-1} x_n = 1$ のとき

$$\frac{n-1}{x_1^m} + \frac{1}{x_n^m} + (m-1)n \geq m \{(n-1)x_1 + x_n\}$$

を示せばよい。 $x = x_1, y = x_n$ とおく。

相加平均・相乗平均の不等式から

$$\begin{aligned} & \frac{n-1}{x^m} + (m-n+1) \\ &= \underbrace{\frac{1}{x^m} + \frac{1}{x^m} + \cdots + \frac{1}{x^m}}_{n-1} + \underbrace{1+1+\cdots+1}_{m-n+1} \\ &\geq m \sqrt[m]{\left(\frac{1}{x^m}\right)^{n-1}} = \frac{m}{x^{n-1}} = my \end{aligned}$$

が成り立つから

$$\frac{1}{y^m} + (m-1)n - (m-n+1) \geq m(n-1)x$$

を示せばよい。

$$\begin{aligned} & \frac{1}{y^m} + (m-1)n - (m-n+1) \geq m(n-1)x \\ \iff & \frac{1}{y^m} - 1 \geq m(n-1)(x-1) \\ \iff & x^{m(n-1)} - 1 \geq m(n-1)(x-1) \end{aligned}$$

$k = m(n-1)$ (≥ 4) とおくと

$$\begin{aligned} x^k - 1 - k(x-1) &= (x-1) \{(x^{k-1} + x^{k-1} + \cdots + x + 1) - k\} \\ &= (x-1) \{(x^{k-1} - 1) + (x^{k-1} - 1) + \cdots + (x-1)\} \geq 0 \quad \blacksquare \end{aligned}$$

(解 2) $f(x) = x^m - \frac{m}{x}$ ($x > 0$) とおくと、証明すべき不等式は

$$f(a_1) + f(a_2) + \cdots + f(a_n) \geq n f(\sqrt[n]{a_1 a_2 \cdots a_n})$$

となる。

$f_1(u) = f(e^u) = e^{mu} - me^{-u}$ とおくと

$$f_1''(u) = \frac{m \{me^{(m+1)u} - 1\}}{e^u}$$

$u > 0$ で $f_1''(u) > 0$ だから $f_1(u)$ は $[0, \infty)$ で凸関数である.

$r = \sqrt[n]{a_1 a_2 \cdots a_n} = 1$ とおくと, $f_1(u)$ は $[\log r, \infty)$ で凸関数である.

RCF-Corollary より

$$a_1 \leqq 1 \leqq a_2 = a_3 = \cdots = a_n$$

のとき不等式が成り立つことを示せばよい.

$0 < x \leqq 1 \leqq y, xy^{n-1} = 1$ のとき

$$x^m + (n-1)y^m + (m-1)n \geqq m \left(\frac{1}{x} + \frac{n-1}{y} \right)$$

を示す.

$$F(x) = x^m + (n-1)y^m + (m-1)n - m \left(\frac{1}{x} + \frac{n-1}{y} \right)$$

とおくと, $y' = -\frac{y}{(n-1)x}$ で

$$\begin{aligned} F'(x) &= mx^{m-1} + (n-1)my^{m-1}y' - m \left(-\frac{1}{x^2} - \frac{(n-1)y'}{y^2} \right) \\ &= m \left(\frac{x^m - y^m}{x} \right) + m \left(\frac{y-x}{x^2 y} \right) \\ &= \frac{m(x-y)}{x^2 y} \{xy(x^{m-1} + x^{m-2}y + \cdots + y^{m-1}) - 1\} \end{aligned}$$

$xy(x^{m-1} + x^{m-2}y + \cdots + y^{m-1}) - 1 > 0$ を示す.

$$xy(x^{m-1} + x^{m-2}y + \cdots + y^{m-1}) > xy^{m-1} = xy^m \geqq xy^{n-1} = 1$$

よって, $F'(x) \leqq 0$ となり $F(x)$ は減少関数で, $0 < x \leqq 1$ のとき $F(x) \geqq F(1) = 0$ ■

問題 76 (Vasile Cîrtoaje)

x_1, x_2, \dots, x_n が非負の実数で, $x_1 + x_2 + \dots + x_n = n$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$(x_1 x_2 \dots x_n)^{\frac{1}{\sqrt{n-1}}} (x_1^2 + x_2^2 + \dots + x_n^2) \leq n$$

(解答) x_1, x_2, \dots, x_n の中に 0 が含まれているときは, 明らかに不等式は成立するので, 以下においては, $x_1, x_2, \dots, x_n (> 0)$ とする.

一般性を失うことなく $0 < x_1 \leq x_2 \leq \dots \leq x_n$ と仮定できる.

系 2.8 ($p = 0, q = 2$) を適用する.

$$x_1 + x_2 + \dots + x_n = n, x_1 x_2 \dots x_n = \text{constant}$$

ならば, $x_1^2 + x_2^2 + \dots + x_n^2$ は $0 < x_1 = x_2 = \dots = x_{n-1} \leq x_n$ のとき最大となる.

$$m = \sqrt{n-1}, x = x_1, y = x_n \text{ とおくと } 0 < x \leq 1 \leq y, m^2 x + y = m^2 + 1$$

$$\begin{aligned} & (x^{n-1} y)^{\frac{1}{\sqrt{n-1}}} \{(n-1)x^2 + y^2\} \leq n \\ \iff & (x^{m^2} y)^{\frac{1}{m}} (m^2 x^2 + y^2) \leq m^2 + 1 \\ \iff & m \log x + \frac{1}{m} \log y + \log(m^2 x^2 + y^2) \leq \log(m^2 + 1) \end{aligned}$$

$$0 < x \leq 1 \leq y, m^2 x + y = m^2 + 1 \text{ のとき}$$

$$F(x) = m \log x + \frac{1}{m} \log y + \log(m^2 x^2 + y^2)$$

とおくと

$$\begin{aligned} F'(x) &= \frac{m}{x} + \frac{1}{m} \cdot \frac{y'}{y} + \frac{2m^2 x + 2yy'}{m^2 x^2 + y^2} \\ &= \frac{m}{x} - \frac{m}{y} + \frac{2m^2(x-y)}{m^2 x^2 + y^2} \\ &= m(y-x) \left(\frac{1}{xy} - \frac{2m}{m^2 x^2 + y^2} \right) \\ &= \frac{m(y-x)(mx-y)^2}{xy(m^2 x^2 + y^2)} \geq 0 \end{aligned}$$

$F(x)$ は増加関数で, $0 < x \leq 1$ のとき $F(x) \leq F(1) = \log(m^2 + 1)$

■

問題 77 (Romania TST 1998)

x_1, x_2, \dots, x_n は正の実数で, $x_1 x_2 \cdots x_n = 1$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$\frac{1}{n-1+x_1} + \frac{1}{n-1+x_2} + \cdots + \frac{1}{n-1+x_n} \leq 1$$

(解答) 一般性を失うことなく $0 < x_1 \leq x_2 \leq \cdots \leq x_n$ と仮定できる.

$n = 2$ のときは

$$\frac{1}{1+x_1} + \frac{1}{1+x_2} = \frac{1}{1+x_1} + \frac{x_1}{x_1+x_1x_2} = \frac{1}{1+x_1} + \frac{x_1}{x_1+1} = 1$$

より不等式は成り立つので, 以下においては, $n \geq 3$ とする.

$$f(x) = \frac{1}{n-1+x} \quad (x > 0)$$

とおくと, 証明すべき不等式は

$$f(x_1) + f(x_2) + \cdots + f(x_n) \leq n f(\sqrt[n]{x_1 x_2 \cdots x_n})$$

となる.

$$f_1(u) = f(e^u) = \frac{1}{n-1+e^u}$$

とおくと

$$f_1''(u) = \frac{e^u(e^u - n + 1)}{(n-1+e^u)^3}$$

より, $(-\infty, \log(n-1)]$ で $f_1(u)$ は凹関数である.

$r = \sqrt[n]{x_1 x_2 \cdots x_n} = 1$ とおくと, $f_1(u)$ は $(-\infty, \log r]$ で凹関数であるから, LCF-Corollary より $x_1 = x_2 = \cdots = x_{n-1} \leq 1 \leq x_n$, $x_1^{n-1} x_n = 1$ に対して不等式が成り立つことを示せばよい.

$$F(x) = \frac{n-1}{n-1+x} + \frac{1}{n-1+y} \quad (0 < x \leq 1 \leq y, x^{n-1}y = 1)$$

とおくと, $y' = -\frac{(n-1)y}{x}$ で

$$\begin{aligned}
 F'(x) &= -\frac{n-1}{(n-1+x)^2} - \frac{y'}{(n-1+y)^2} \\
 &= -\frac{n-1}{(n-1+x)^2} + \frac{(n-1)y}{x(n-1+y)^2} \\
 &= \frac{(n-1)\{y(n-1+x)^2 - x(n-1+y)^2\}}{x(n-1+x)^2(n-1+y)^2} \\
 &= \frac{(n-1)(y-x)\{(n-1)^2 - xy\}}{x(n-1+x)^2(n-1+y)^2} \\
 &= \frac{(n-1)(y-x)\left\{(n-1)^2 - \frac{1}{x^{n-2}}\right\}}{x(n-1+x)^2(n-1+y)^2}
 \end{aligned}$$

$n \geq 3$ だから, $F(x)$ の増減表は次のようになる. ところで

x	0	\cdots	$\frac{1}{(n-1)^{\frac{1}{n-2}}}$	\cdots	1
$F'(x)$		-	0	+	
$F(x)$		\searrow	極小	\nearrow	

$$\lim_{x \rightarrow +0} F(x) = 1, \quad F(1) = 1$$

となるから, $F(x) \leqq F(1) = 1$

■

問題 78 a, b, c は正の実数で、 $a^{\frac{2}{3}} + b^{\frac{2}{3}} + c^{\frac{2}{3}} = 3$ を満たすとき、次の不等式を証明せよ。

$$a^2 + b^2 + c^2 \geq a^{\frac{4}{3}} + b^{\frac{4}{3}} + c^{\frac{4}{3}}$$

(解答) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c$ と仮定できる。

$A = a^{\frac{2}{3}}, B = b^{\frac{2}{3}}, C = c^{\frac{2}{3}}$ とおくと、 $0 < A \leq B \leq C, A + B + C = 3$ のとき

$$A^3 + B^3 + C^3 \geq A^2 + B^2 + C^2 \quad (\star)$$

を示せばよい。

$f(A, B, C) = A^3 + B^3 + C^3 - (A^2 + B^2 + C^2)$ とおくと

$$\begin{aligned} & f(A, B, C) - f\left(A, \frac{B+C}{2}, \frac{B+C}{2}\right) \\ &= B^3 + C^3 - 2\left(\frac{B+C}{2}\right)^3 - \left\{B^2 + C^2 - 2\left(\frac{B+C}{2}\right)^2\right\} \\ &= \frac{3(B-C)^2(B+C)}{4} - \frac{(B-C)^2}{2} \\ &= \frac{(B-C)^2}{4} \{3(B+C) - 2\} \end{aligned}$$

$3(B+C) - 2 > 0$ を示す。

$C \geq 1$ だから、 $3(B+C) - 2 = 3(C-1) + 2B + 1 > 0$

よって

$$f(A, B, C) \geq f(A, t, t), \quad t = \frac{B+C}{2}$$

したがって $A \leq 1 \leq t, A + 2t = 3$ のとき、 $f(A, t, t) \geq 0$ を示せばよい。

$$\begin{aligned} f(A, t, t) &= A^3 + 2t^3 - (A^2 + 2t^2) \\ &= A^3 + 2\left(\frac{3-A}{2}\right)^3 - A^2 - 2\left(\frac{3-A}{2}\right)^2 \\ &= \frac{3A^3 + 3A^2 - 15A + 9}{4} \\ &= \frac{3(A-1)^2(A+3)}{4} \geq 0 \end{aligned}$$
■

[注] (\star) は問題 79 で $k = 3$ とおいたものである。

問題 79 $k (\geq 2)$ は正の整数, x_1, x_2, \dots, x_n は正の実数で, $x_1 + x_2 + \dots + x_n = n$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$x_1^k + x_2^k + \dots + x_n^k \geq x_1^{k-1} + x_2^{k-1} + \dots + x_n^{k-1}$$

(解 1) 一般性を失うことなく $0 < x_1 \leq x_2 \leq \dots \leq x_n$ と仮定できる.

$k \geq 3$ の場合

系 2.8 ($p = k - 1, q = k$) を適用する.

$$x_1 + x_2 + \dots + x_n = n, x_1^{k-1} + x_2^{k-1} + \dots + x_n^{k-1} = \text{constant}$$

ならば, $x_1^k + x_2^k + \dots + x_n^k$ は $0 < x_1 \leq x_2 = \dots = x_n$ のとき最小である.

したがって, $0 < x_1 \leq 1 \leq x_2, x_1 + (n-1)x_2 = n$ のとき

$$x_1^k + (n-1)x_2^k \geq x_1^{k-1} + (n-1)x_2^{k-1}$$

を示せばよい.

$$f(x_1) = x_1^k + (n-1)x_2^k - x_1^{k-1} - (n-1)x_2^{k-1} \quad (0 < x_1 \leq 1 \leq x_2, x_1 + (n-1)x_2 = n)$$

とおくと, $x_2' = -\frac{1}{n-1}$ で

$$\begin{aligned} f'(x_1) &= kx_1^{k-1} + (n-1)kx_2^{k-1}x_2' - (k-1)x_1^{k-2} - (n-1)(k-1)x_2^{k-2}x_2' \\ &= kx_1^{k-1} - kx_2^{k-1} - (k-1)x_1^{k-2} + (k-1)x_2^{k-2} \\ &= -k(x_2^{k-1} - x_1^{k-1}) + (k-1)(x_2^{k-2} - x_1^{k-2}) \\ &= (x_2 - x_1) \{ -k(x_1^{k-2} + x_1^{k-3}x_2 + \dots + x_2^{k-2}) + (k-1)(x_1^{k-3} + x_1^{k-4}x_2 + \dots + x_2^{k-3}) \} \end{aligned}$$

ここで, $-k(x_1^{k-2} + x_1^{k-3}x_2 + \dots + x_2^{k-2}) + (k-1)(x_1^{k-3} + x_1^{k-4}x_2 + \dots + x_2^{k-3}) < 0$ を示す.

$$\begin{aligned} (k-1)x_1^{k-3} &\leq (k-1)x_1^{k-3}x_2 < kx_1^{k-3}x_2 \\ (k-1)x_1^{k-4}x_2 &\leq (k-1)x_1^{k-4}x_2^2 < kx_1^{k-4}x_2^2 \\ &\dots \\ (k-1)x_2^{k-3} &\leq (k-1)x_2^{k-2} < kx_2^{k-2} \end{aligned}$$

これらの不等式の辺々を加えると

$$\begin{aligned} (k-1)(x_1^{k-3} + x_1^{k-4}x_2 + \dots + x_2^{k-3}) &< k(x_1^{k-3}x_2 + x_1^{k-4}x_2^2 + \dots + x_2^{k-2}) \\ &< k(x_1^{k-2} + x_1^{k-3}x_2 + \dots + x_2^{k-2}) \end{aligned}$$

以上のことから, $f'(x_1) \leq 0$ となり, $f(x_1)$ は減少関数で

$0 < x_1 \leq 1$ のとき, $f(x_1) \geq f(1) = 0$

$k = 2$ のとき

$$(1 + 1 + \cdots + 1)(x_1^2 + x_2^2 + \cdots + x_n^2) \geq (x_1 + x_2 + \cdots + x_n)^2 = n^2$$

から, $x_1^2 + x_2^2 + \cdots + x_n^2 \geq n = x_1 + x_2 + \cdots + x_n$

よって, $x_1^2 + x_2^2 + \cdots + x_n^2 \geq x_1 + x_2 + \cdots + x_n$ ■

(解 2) 一般性を失うことなく $0 < x_1 \leq x_2 \leq \cdots \leq x_n$ と仮定できる.

$f(x) = x^k - x^{k-1}$ ($x \geq 0$) とおくと, 証明すべき不等式は

$$f(x_1) + f(x_2) + \cdots + f(x_n) \geq nf\left(\frac{x_1 + x_2 + \cdots + x_n}{n}\right)$$

となる.

$f''(x) = k(k-1)x^{k-2} - (k-1)(k-2)x^{k-3}$ より $f(x)$ は $\left[\frac{k-2}{k}, \infty\right)$ で凸関数である.

$s = \frac{x_1 + x_2 + \cdots + x_n}{n} = 1 > \frac{k-2}{k}$ となる s に対して, $f(x)$ は $[s, \infty)$ で凸関数である.

RCF-Theorem より $0 < x_1 \leq x_2 = \cdots = x_n$, $x_1 + (n-1)x_2 = n$ のとき不等式が成り立つことを示せばよい. 後は解 1 参照. ■

(解 3) $S_k = x_1^k + x_2^k + \cdots + x_n^k$ とおくと, $S_m \leq S_{m+1}$ ($m = 1, 2, \dots$) が成り立つことを数学的帰納法で示す.

(i) $m = 1$ のとき, $S_1 \leq S_2$ を示す.

$$(1 + 1 + \cdots + 1)(x_1^2 + x_2^2 + \cdots + x_n^2) \geq (x_1 + x_2 + \cdots + x_n)^2 = n^2$$

から, $x_1^2 + x_2^2 + \cdots + x_n^2 \geq n = x_1 + x_2 + \cdots + x_n$

よって, $S_1 \leq S_2$

(ii) $m = k$ のとき成り立つと仮定すると, $S_{k+1} \geq S_k$.

コーシー・シュワルツの不等式より

$$(x_1^k + x_2^k + \cdots + x_n^k)(x_1^{k+2} + x_2^{k+2} + \cdots + x_n^{k+2}) \geq (x_1^{k+1} + x_2^{k+1} + \cdots + x_n^{k+1})^2$$

よって

$$S_{k+2} \geq \frac{S_{k+1}^2}{S_k} = S_{k+1} \cdot \frac{S_{k+1}}{S_k} \geq S_{k+1}$$

となり, $m = k + 1$ のときも成り立つ.

(i), (ii) からすべての正の整数 m について成り立つ. ■

問題 80 (Vasile Cîrtoaje and Pham Kim Hung)

a, b, c, d は非負の実数で、 $a^2 + b^2 + c^2 + d^2 = 1$ を満たすとき、次の不等式を証明せよ。

$$a^3 + b^3 + c^3 + d^3 + abc + bcd + cda + dab \leq 1$$

(解答) 一般性を失うことなく $0 \leq a \leq b \leq c \leq d$ と仮定できる。

系 2.10 を適用する。

$$a^2 + b^2 + c^2 + d^2 = \text{constant}, a^3 + b^3 + c^3 + d^3 = \text{constant}$$

ならば、 $abc + bcd + cda + dab$ は $0 \leq a = b = c \leq d$ のとき最大となる。

したがって、 $0 \leq a \leq \frac{1}{2} \leq d, 3a^2 + d^2 = 1$ のとき

$$4a^3 + d^3 + 3a^2d \leq 1$$

を示せばよい。

$$\begin{aligned} & 4a^3 + d^3 + 3a^2d \leq 1 \\ \iff & 4a^3 + d(d^2 + 3a^2) \leq 1 \\ \iff & 4a^3 + d \leq 1 \\ \iff & d \leq 1 - 4a^3 \\ \iff & d^2 \leq (1 - 4a^3)^2 \\ \iff & 1 - 3a^2 \leq (1 - 4a^3)^2 \\ \iff & 16a^6 - 8a^3 + 3a^2 \geq 0 \\ \iff & a^2(16a^4 - 8a + 3) \geq 0 \\ \iff & a^2(2a - 1)^2(4a^2 + 4a + 3) \geq 0 \end{aligned}$$

最後の不等式は明らかになり立つ。 ■

問題 81 (Vasile Cîrtoaje)

x_1, x_2, \dots, x_n は非負の実数で、 $x_1^2 + x_2^2 + \dots + x_n^2 = 1$ を満たすとき、次の不等式を証明せよ。

$$\sum_{i=1}^n x_i^3 + \frac{6}{(n-2)(\sqrt{n}+1)} \sum_{1 \leq i < j < k \leq n} x_i x_j x_k \leq 1$$

(解答) 一般性を失うことなく $0 \leq x_1 \leq x_2 \leq \dots \leq x_n$ と仮定できる。

系 2.10 を適用する。

$$\sum_{i=1}^n x_i^2 = \text{constant}, \sum_{i=1}^n x_i^3 = \text{constant}$$

ならば $\sum_{1 \leq i < j < k \leq n} x_i x_j x_k$ は $0 \leq x_1 = x_2 = \dots = x_{n-1} \leq x_n$ のとき最大となる。

このとき、 $x_1 = x, x_n = t, \sqrt{n} = m$ とおくと

$$(m^2 - 1)x^2 + t^2 = 1, 0 \leq x \leq \frac{1}{m} \leq t$$

$$\begin{aligned} & \sum_{i=1}^n x_i^3 + \frac{6}{(n-2)(\sqrt{n}+1)} \sum_{1 \leq i < j < k \leq n} x_i x_j x_k \leq 1 \\ \iff & (n-1)x_1^3 + x_n^3 + \frac{6}{(n-2)(\sqrt{n}+1)} \left(\binom{n-1}{3} x_1^3 + \binom{n-1}{2} x_1^2 x_n \right) \leq 1 \\ \iff & (n-1)x_1^3 + x_n^3 \\ & + \frac{6}{(n-2)(\sqrt{n}+1)} \left\{ \frac{(n-1)(n-2)(n-3)}{3!} x_1^3 + \frac{(n-1)(n-2)}{2!} x_1^2 x_n \right\} \leq 1 \\ \iff & (m^2 - 1)x^3 + t^3 + (m-1)(m^2 - 3)x^3 + 3(m-1)x^2 t \leq 1 \\ \iff & (m^2 - 1)x^3 + t \{1 - (m^2 - 1)x^2\} + (m-1)(m^2 - 3)x^3 + 3(m-1)x^2 t \leq 1 \\ \iff & t \{1 - (m^2 - 3m + 2)x^2\} \leq 1 - (m^3 - 3m + 2)x^3 \\ \iff & t^2 \{1 - (m^2 - 3m + 2)x^2\}^2 \leq \{1 - (m^3 - 3m + 2)x^3\}^2 \\ \iff & \{1 - (m^2 - 1)x^2\} \{1 - (m^2 - 3m + 2)x^2\}^2 \leq \{1 - (m^3 - 3m + 2)x^3\}^2 \\ \iff & (2m^6 - 6m^5 + 6m^4 - 2m^3)x^6 - (3m^4 - 12m^3 + 15m^2 - 6m)x^4 \\ & - (2m^3 - 6m + 4)x^3 + (3m^2 - 6m + 3)x^2 \geq 0 \\ \iff & (m-1)^2 x^2 (mx-1)^2 \{2(m^2 - m)x^2 + 4(m-1)x + 3\} \geq 0 \end{aligned}$$

ここで、 $2(m^2 - m)x^2 + 4(m - 1)x + 3$ の判別式 D は

$$\frac{D}{4} = 4(m - 1)^2 - 6(m^2 - m) = -2(m - 1)(m + 2) < 0$$

より

$$(m - 1)^2 x^2 (mx - 1)^2 \{2(m^2 - m)x^2 + 4(m - 1)x + 3\} \geq 0$$

は成り立つ。 ■

問題 82 x_1, x_2, \dots, x_n は非負の実数で, $x_1 + x_2 + \dots + x_n = n$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$2(x_1^3 + x_2^3 + \dots + x_n^3) + n^2 \leq (2n+1)(x_1^2 + x_2^2 + \dots + x_n^2)$$

(解 1) 一般性を失うことなく $0 \leq x_1 \leq x_2 \leq \dots \leq x_n$ と仮定できる.

$$f(x_1, x_2, \dots, x_n) = (2n+1)(x_1^2 + x_2^2 + \dots + x_n^2) - 2(x_1^3 + x_2^3 + \dots + x_n^3) - n^2$$

とおくと

$$\begin{aligned} & f(x_1, x_2, \dots, x_n) - f\left(\frac{x_1 + x_{n-1}}{2}, x_2, \dots, \frac{x_1 + x_{n-1}}{2}, x_n\right) \\ &= (2n+1) \left\{ x_1^2 + x_{n-1}^2 - 2 \left(\frac{x_1 + x_{n-1}}{2} \right)^2 \right\} - 2 \left\{ x_1^3 + x_{n-1}^3 - 2 \left(\frac{x_1 + x_{n-1}}{2} \right)^3 \right\} \\ &= \frac{(2n+1)(x_1 - x_{n-1})^2}{2} - 2 \left\{ \frac{3(x_1 + x_{n-1})(x_1 - x_{n-1})^2}{4} \right\} \\ &= \frac{(x_1 - x_{n-1})^2}{2} \{(2n+1) - 3(x_1 + x_{n-1})\} \end{aligned}$$

$(2n+1) - 3(x_1 + x_{n-1}) \geq 0$ を示す.

$0 \leq x_1 \leq x_2 \leq \dots \leq x_n, x_1 + x_2 + \dots + x_n = n$ から $0 \leq x_1 \leq 1$ なので

$3x_1 \leq 2x_1 + 1$ が成り立つ.

また $3x_{n-1} \leq 4x_{n-1} \leq 2(x_{n-1} + x_n)$ が成り立つから

$$\begin{aligned} 3(x_1 + x_{n-1}) &\leq 2x_1 + 1 + 2(x_{n-1} + x_n) \\ &\leq 2(x_1 + x_2 + \dots + x_n) + 1 = 2n + 1 \end{aligned}$$

よって

$$f(x_1, x_2, \dots, x_n) \geq f\left(\frac{x_1 + x_{n-1}}{2}, x_2, \dots, \frac{x_1 + x_{n-1}}{2}, x_n\right)$$

が成り立つ.

$f(x_1, x_2, \dots, x_n)$ は x_1, x_2, \dots, x_{n-1} に関する対称式だから, SMV-Theorem より

$$f(x_1, x_2, \dots, x_n) \geq f(t, t, \dots, t, x_n), \quad t = \frac{x_1 + x_2 + \dots + x_{n-1}}{n-1}$$

したがって, $0 \leq t \leq 1 \leq x_n, (n-1)t + x_n = n$ のとき

$f(t, t, \dots, t, x_n) \geq n^2$ を示せばよい。

$$\begin{aligned}
& f(t, t, \dots, t, x_n) \geq n^2 \\
\iff & 2 \{(n-1)t^3 + x_n^3\} + n^2 \leq (2n+1) \{(n-1)t^2 + x_n^2\} \\
\iff & 2 \left[(n-1)t^3 + \{n-(n-1)t\}^3 \right] + n^2 \leq (2n+1) \left[(n-1)t^2 + \{n-(n-1)t\}^2 \right] \\
\iff & (2n^3 - 6n^2 + 4n)t^3 - (4n^3 - 11n^2 + 7n)t^2 + (2n^3 - 4n^2 + 2n)t \geq 0 \\
\iff & (n-1)nt \{(2n-4)t^2 - (4n-7)t + 2n-2\} \geq 0
\end{aligned} \tag{*}$$

$n \geq 3$ のとき, $(2n-4)t^2 - (4n-7)t + 2n-2$ の判別式 D は

$$D = (4n-7)^2 - 4(2n-4)(2n-2) = -8n + 17 < 0$$

だから, (*) は成り立つ。

$n=2$ のとき, (*) は $2t(-t+2) \geq 0$ となるが, $0 \leq t \leq 1$ だから, この不等式は明らかに成り立つ。 ■

(解 2) 一般性を失うことなく $0 \leq x_1 \leq x_2 \leq \dots \leq x_n$ と仮定できる。

系 2.8 ($p=2, q=3$) を適用する。

$$x_1 + x_2 + \dots + x_n = n, x_1^2 + x_2^2 + \dots + x_n^2 = \text{constant}$$

ならば, $x_1^3 + x_2^3 + \dots + x_n^3$ は $0 \leq x_1 = x_2 = \dots = x_{n-1} \leq x_n$ のとき最大となる。

したがって, $0 \leq t \leq 1 \leq x_n$, $(n-1)t + x_n = n$ のとき

$$2 \{(n-1)t^3 + x_n^3\} + n^2 \leq (2n+1) \{(n-1)t^2 + x_n^2\}$$

を示せばよい。

$$f(t) = (2n+1) \{(n-1)t^2 + x_n^2\} - 2 \{(n-1)t^3 + x_n^3\} - n^2$$

とおくと, $(x_n)' = -(n-1)$ で

$$\begin{aligned}
f'(t) &= (2n+1) \{2(n-1)t + 2x_n(x_n)'\} - 2 \{3(n-1)t^2 + 3x_n^2(x_n)'\} \\
&= (2n+1) \{2(n-1)t - 2(n-1)x_n\} - 2 \{3(n-1)t^2 - 3(n-1)x_n^2\} \\
&= 2(n-1)(2n+1)(t-x_n) - 6(n-1)(t^2 - x_n^2) \\
&= 2(n-1)(t-x_n) \{(2n+1) - 3(t+x_n)\}
\end{aligned}$$

$$(2n+1) - 3(t+x_n) = 2n+1 - 3\{t+n-(n-1)t\} = 3(n-2)t - (n-1)$$

$n=2$ のとき $f'(t) = -2(t-x_2) \geq 0$

$f(t)$ は増加関数で, $f(t) \geq f(0) = 0$

$n \geqq 3$ の場合

$0 < \frac{n-1}{3(n-2)} < 1$ で増減表は次のようになる.

t	0	\dots	$\frac{n-1}{3(n-2)}$	\dots	1
$f'(t)$		+	0	-	
$f(t)$	0	\nearrow	極大	\searrow	0

増減表から

$$f(t) \geqq \min\{f(0), f(1)\} = 0$$

■

問題 83 (Vasile Cîrtoaje)

x_1, x_2, \dots, x_n は非負の実数で, $x_1 + x_2 + \dots + x_n = n$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$x_1^3 + x_2^3 + \dots + x_n^3 + n^2 \leq (n+1)(x_1^2 + x_2^2 + \dots + x_n^2)$$

(解 1) 一般性を失うことなく $0 \leq x_1 \leq x_2 \leq \dots \leq x_n$ と仮定できる.

$f(x_1, x_2, \dots, x_n) = (n+1)(x_1^2 + x_2^2 + \dots + x_n^2) - (x_1^3 + x_2^3 + \dots + x_n^3) - n^2$ とおくと

$$\begin{aligned} & f(x_1, x_2, \dots, x_n) - f\left(\frac{x_1 + x_{n-1}}{2}, x_2, \dots, \frac{x_1 + x_{n-1}}{2}, x_n\right) \\ &= (n+1) \left\{ x_1^2 + x_{n-1}^2 - 2 \left(\frac{x_1 + x_{n-1}}{2} \right)^2 \right\} - \left\{ x_1^3 + x_{n-1}^3 - 2 \left(\frac{x_1 + x_{n-1}}{2} \right)^3 \right\} \\ &= (n+1) \cdot \frac{(x_1 - x_{n-1})^2}{2} - \frac{3(x_1 - x_{n-1})^2(x_1 + x_{n-1})}{4} \\ &= \frac{(x_1 - x_{n-1})^2}{4} \{2(n+1) - 3(x_1 + x_{n-1})\} \end{aligned}$$

$2(n+1) - 3(x_1 + x_{n-1}) > 0$ を示す.

$$\begin{aligned} & 2(n+1) - 3(x_1 + x_{n-1}) \\ &= 2(x_1 + x_2 + \dots + x_n) - 3(x_1 + x_{n-1}) + 2 \\ &= 2(x_3 + \dots + x_{n-2}) + (x_2 - x_1) + (x_n - x_{n-1}) + x_2 + x_n + 2 > 0 \end{aligned}$$

より $f(x_1, x_2, \dots, x_n) \geq f\left(\frac{x_1 + x_{n-1}}{2}, x_2, \dots, \frac{x_1 + x_{n-1}}{2}, x_n\right)$

$f(x_1, x_2, \dots, x_n)$ は x_1, x_2, \dots, x_{n-1} に関する対称式だから, SMV-Theorem より

$$f(x_1, x_2, \dots, x_n) \geq f(t, t, \dots, t, x_n), \quad t = \frac{x_1 + x_2 + \dots + x_{n-1}}{n-1}$$

が成り立つ. したがって, $0 \leq t \leq 1 \leq x_n$, $(n-1)t + x_n = n$ のとき

$$f(t, t, \dots, t, x_n) \geq 0$$

を示せばよい.

$$\begin{aligned} & f(t, t, \dots, t, x_n) \\ &= (n+1) \{ (n-1)t^2 + x_n^2 \} - (n-1)t^3 - x_n^3 - n^2 \\ &= (n^2 - 1)t^2 + (n+1) \{ n - (n-1)t \}^2 - (n-1)t^3 - \{ n - (n-1)t \}^3 - n^2 \\ &= (n^3 - 3n^2 + 2n)t^3 - (2n^3 - 6n^2 + 4n)t^2 + (n^3 - 3n^2 + 2n)t \\ &= (n-2)(n-1)nt(t-1)^2 \geq 0 \end{aligned}$$

■

(解 2) 系 2.8 ($p = 2, q = 3$) を適用する.

一般性を失うことなく $0 \leqq x_1 \leqq x_2 \leqq \cdots \leqq x_n$ と仮定できる.

$$x_1 + x_2 + \cdots + x_n = n, \quad x_1^2 + x_2^2 + \cdots + x_n^2 = \text{constant}$$

ならば, $x_1^3 + x_2^3 + \cdots + x_n^3$ は $0 < x_1 = x_2 = \cdots = x_{n-1} \leqq x_n$ のとき最大となる. したがって, $0 \leqq x_1 \leqq 1 \leqq x_n, (n-1)x_1 + x_n = n$ のとき

$$(n-1)x_1^3 + x_n^3 + n^2 \leqq (n+1) \{(n-1)x_1^2 + x_n^2\}$$

を示せばよい. 後は解 1 参照. ■

(解 3) 一般性を失うことなく $0 \leqq x_1 \leqq x_2 \leqq \cdots \leqq x_n$ と仮定できる.

$f(x) = x^3 - (n+1)x^2$ ($x \geqq 0$) とおくと, 証明すべき不等式は

$$f(x_1) + f(x_2) + \cdots + f(x_n) \leqq nf\left(\frac{x_1 + x_2 + \cdots + x_n}{n}\right)$$

となる.

$f''(x) = 6x - 2(n+1)$ より $f(x)$ は $\left[0, \frac{n+1}{3}\right]$ で凹関数である.

$s = \frac{x_1 + x_2 + \cdots + x_n}{n} = 1 \leqq \frac{n+1}{3}$ となる s に対して, $f(x)$ は $[0, 1]$ で凹関数である.

LCF-Theorem より $0 \leqq x_1 = x_2 = \cdots = x_{n-1} \leqq x_n, (n-1)x_1 + x_n = n$ のとき不等式が成り立つことを示せばよい.

$0 \leqq x \leqq 1 \leqq y, (n-1)x + y = n$ のとき

$$g(t) = \frac{f(t) - f(1)}{t - 1} = t^2 - nt - n$$

とおくと, $g(x) \geqq g(y)$ が成り立つことを示せばよい.

$$\begin{aligned} g(x) - g(y) &= x^2 - y^2 - n(x - y) \\ &= (x - y)(x + y - n) \\ &= (x - y)[x + y - \{(n-1)x + y\}] \\ &= (n-2)x(y - x) \geqq 0 \end{aligned}$$

■

問題 84 (Vasile Cîrtoaje)

x_1, x_2, \dots, x_n は非負の実数で, $x_1 + x_2 + \dots + x_n = n$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$(n-1)(x_1^3 + x_2^3 + \dots + x_n^3) + n^2 \geq (2n-1)(x_1^2 + x_2^2 + \dots + x_n^2)$$

(初等的な不等式 I 問題 191)

(解答) 一般性を失うことなく $0 \leq x_1 \leq x_2 \leq \dots \leq x_n$ と仮定できる.

$$f(x) = (n-1)x^3 - (2n-1)x^2 \quad (x \geq 0)$$

とおくと, 証明すべき不等式は

$$f(x_1) + f(x_2) + \dots + f(x_n) \geq nf\left(\frac{x_1 + x_2 + \dots + x_n}{n}\right)$$

となる.

$f''(x) = 6(n-1)x - 2(2n-1)$ より $f(x)$ は $\left[\frac{2n-1}{3(n-1)}, \infty\right)$ で凸関数である.

$s = \frac{x_1 + x_2 + \dots + x_n}{n} = 1 \geq \frac{2n-1}{3(n-1)}$ となる s に対して, $f(x)$ は $[s, \infty)$ で凸関数である.

RCF-Theorem より $0 \leq x_1 \leq 1 \leq x_2 = x_3 = \dots = x_n$ のとき不等式が成り立つことを示せばよい.

$x = x_1, y = x_2 = x_3 = \dots = x_n$ とおくと $0 \leq x \leq 1 \leq y, x + (n-1)y = n$ で

$$\begin{aligned} & (n-1)x^3 + (n-1)^2y^3 + n^2 \geq (2n-1)x^2 + (2n-1)(n-1)y^2 \\ \iff & (n-1)x^3 + (n-1)^2 \frac{(n-x)^3}{(n-1)^3} + n^2 \geq (2n-1)x^2 + (2n-1)(n-1) \frac{(n-x)^2}{(n-1)^2} \\ \iff & (n-1)^2 x^3 + (n-x)^3 + n^2(n-1) \geq (2n-1)(n-1)x^2 + (2n-1)(n-x)^2 \\ \iff & (n^2 - 2n)x^3 - 2(n^2 - 2n)x^2 + (n^2 - 2n)x \geq 0 \\ \iff & n(n-2)x(x-1)^2 \geq 0 \end{aligned}$$

最後の不等式は $n \geq 2$ のとき成り立つ. ■

問題 85 (Vasile Cîrtoaje)

x_1, x_2, \dots, x_n は正の実数で, $x_1 + x_2 + \dots + x_n = 1$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$\frac{1}{x_1} + \frac{1}{x_2} + \dots + \frac{1}{x_n} \geq (n-2)^2 + 4n(n-1)(x_1^2 + x_2^2 + \dots + x_n^2)$$

(解 1) 系 2.8 ($p = -1, q = 2$) を適用する.

一般性を失うことなく $0 < x_1 \leq x_2 \leq \dots \leq x_n$ と仮定できる.

$$x_1 + x_2 + \dots + x_n = 1, \quad \frac{1}{x_1} + \frac{1}{x_2} + \dots + \frac{1}{x_n} = \text{constant}$$

ならば, $x_1^2 + x_2^2 + \dots + x_n^2$ は $0 < x_1 = x_2 = \dots = x_{n-1} \leq x_n$ のとき最大となる.

したがって, $x_1 \leq \frac{1}{n} \leq x_n, (n-1)x_1 + x_n = 1$ のとき

$$\frac{n-1}{x_1} + \frac{1}{x_n} \geq (n-2)^2 + 4n(n-1)\{(n-1)x_1^2 + x_n^2\}$$

を示せばよい.

$$\begin{aligned} & \frac{n-1}{x_1} + \frac{1}{x_n} \geq (n-2)^2 + 4n(n-1)\{(n-1)x_1^2 + x_n^2\} \\ \iff & \frac{(n-1)^2}{1-x_n} + \frac{1}{x_n} \geq (n-2)^2 + 4n\{(1-x_n)^2 + (n-1)x_n^2\} \\ \iff & \frac{4n^2x_n^4 - (4n^2 + 8n)x_n^3 + (n^2 + 8n + 4)x_n^2 - (2n + 4)x_n + 1}{x_n(1-x_n)} \geq 0 \\ \iff & \frac{(2x_n - 1)^2(nx_n - 1)^2}{x_n(1-x_n)} \geq 0 \end{aligned}$$

最後の不等式は明らかに成り立つ. ■

(解 2) 一般性を失うことなく $0 < x_1 \leq x_2 \leq \dots \leq x_n$ と仮定できる.

$$f(x) = 4n(n-1)x^2 - \frac{1}{x} \quad (x > 0)$$

とおくと, 証明すべき不等式は

$$f(x_1) + f(x_2) + \dots + f(x_n) \leq nf\left(\frac{x_1 + x_2 + \dots + x_n}{n}\right)$$

となる.

$f''(x) = 8n(n-1) - \frac{2}{x^3}$ より, $f(x)$ は $\left(0, \sqrt[3]{\frac{1}{4n(n-1)}}\right]$ で凹関数である.

$s = \frac{x_1 + x_2 + \cdots + x_n}{n} = \frac{1}{n} \leq \sqrt[3]{\frac{1}{4n(n-1)}}$ とおくと, $f(x)$ は $\left(0, \frac{1}{n}\right]$ で凸関数だから, LCF-Corollary より
 $0 < x \leq \frac{1}{n} \leq y, (n-1)x + y = 1$ に対して

$$g(t) = \frac{f(t) - f(\frac{1}{n})}{t - \frac{1}{n}} = 4n(n-1) \left(t + \frac{1}{n} \right) + \frac{n}{t}$$

とおくと, $g(x) \geqq g(y)$ が成り立つことを示せばよい.

$$\begin{aligned} g(x) - g(y) &= 4n(n-1)(x-y) + n \left(\frac{1}{x} - \frac{1}{y} \right) \\ &= \frac{n(y-x)}{xy} \{1 - 4(n-1)xy\} \\ &= \frac{n(y-x)}{xy} [1 - 4(n-1)x \{1 - (n-1)x\}] \\ &= \frac{n(y-x)}{xy} \{2(n-1)x - 1\}^2 \geqq 0 \end{aligned}$$

より $g(x) \geqq g(y)$ が成り立つ. ■

問題 86 (Vasile Cîrtoaje)

x_1, x_2, \dots, x_n は正の実数で, $x_1 + x_2 + \dots + x_n = n$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$x_1 x_2 \cdots x_n \left(\frac{1}{x_1} + \frac{1}{x_2} + \cdots + \frac{1}{x_n} - n + 3 \right) \leq 3$$

(解答) 系 2.8 ($p = 0, q = -1$) を適用する.

一般性を失うことなく $0 < x_1 \leq x_2 \leq \cdots \leq x_n$ と仮定できる.

$$x_1 + x_2 + \cdots + x_n = n, \quad x_1 x_2 \cdots x_n = \text{constant}$$

ならば, $\frac{1}{x_1} + \frac{1}{x_2} + \cdots + \frac{1}{x_n}$ は $0 < x_1 \leq x_2 = x_3 = \cdots = x_n$ のとき最大となる.
 $0 < x_1 \leq 1 \leq x_2, x_1 + (n-1)x_2 = n$ のとき

$$x_1 x_2^{n-1} \left(\frac{1}{x_1} + \frac{n-1}{x_2} - n + 3 \right) \leq 3$$

を示せばよい.

$$\begin{aligned} & x_1 x_2^{n-1} \left(\frac{1}{x_1} + \frac{n-1}{x_2} - n + 3 \right) \leq 3 \\ \iff & x_2^{n-1} + (n-1)x_1 x_2^{n-2} - (n-3)x_1 x_2^{n-1} \leq 3 \\ \iff & x_2^{n-1} + (n-1)\{n - (n-1)x_2\} x_2^{n-2} - (n-3)\{n - (n-1)x_2\} x_2^{n-1} \leq 3 \\ \iff & (n-1)(n-3)x_2^n - (2n^2 - 5n)x_2^{n-1} + (n-1)nx_2^{n-2} \leq 3 \end{aligned}$$

$f(x) = (n-1)(n-3)x^n - (2n^2 - 5n)x^{n-1} + (n-1)nx^{n-2}$ $\left(1 \leq x < \frac{n}{n-1} \right)$ とおくと

$$\begin{aligned} f'(x) &= n(n-1)(n-3)x^{n-1} - (n-1)(2n^2 - 5n)x^{n-2} + (n-2)(n-1)nx^{n-3} \\ &= (n-1)nx^{n-3} \{(n-3)x^2 - (2n-5)x + n-2\} \\ &= (n-1)nx^{n-3}(x-1)\{(n-3)x - (n-2)\} \end{aligned}$$

$n = 2$ のとき, $f'(x) = -2(x-1) \leq 0$

$n = 3$ のとき, $f'(x) = -6(x-1) \leq 0$

$n \geq 4$ のとき, $\frac{n}{n-1} < \frac{n-2}{n-3}$ より $f'(x) \leq 0$

$f(x)$ は減少関数で, $1 \leq x < \frac{n}{n-1}$ のとき, $f(x) \leq f(1) = 3$

■

問題 87 (F.Shleifer,Kvant ,No.3,1979)

x_1, x_2, \dots, x_n は正の実数のとき, 次の不等式を証明せよ.

$$(n-1)(x_1^2 + x_2^2 + \cdots + x_n^2) + n \sqrt[n]{x_1^2 x_2^2 \cdots x_n^2} \geq (x_1 + x_2 + \cdots + x_n)^2$$

(解答) 系 2.8 ($p = 0, q = 2$) を適用する.

一般性を失うことなく $0 < x_1 \leq x_2 \leq \cdots \leq x_n$ と仮定できる.

$$x_1 + x_2 + \cdots + x_n = \text{constant}, \quad x_1 x_2 \cdots x_n = \text{constant}$$

ならば, $x_1^2 + x_2^2 + \cdots + x_n^2$ は $0 < x_1 \leq x_2 = x_3 = \cdots = x_n$ のとき最小となる.

$$(n-1) \{x_1^2 + (n-1)x_2^2\} + n \sqrt[n]{x_1^2 x_2^{2(n-1)}} \geq \{x_1 + (n-1)x_2\}^2$$

を証明すればよい.

$$\sqrt[n]{x_1} = x, \quad \sqrt[n]{x_2} = y, \quad t = \frac{x}{y} \quad (0 < t \leq 1) \text{ とおくと}$$

$$\begin{aligned} & (n-1) \{x_1^2 + (n-1)x_2^2\} + n \sqrt[n]{x_1^2 x_2^{2(n-1)}} \geq \{x_1 + (n-1)x_2\}^2 \\ \iff & (n-1) \{x^{2n} + (n-1)y^{2n}\} + nx^2 y^{2(n-1)} \geq \{x^n + (n-1)y^n\}^2 \\ \iff & (n-1)(t^{2n} + n - 1) + nt^2 \geq (t^n + n - 1)^2 \\ \iff & (n-2)t^{2n} - 2(n-1)t^n + nt^2 \geq 0 \\ \iff & (n-2)t^{2n-2} - 2(n-1)t^{n-2} + n \geq 0 \end{aligned}$$

$$f(t) = (n-2)t^{2n-2} - 2(n-1)t^{n-2} + n \quad (0 < t \leq 1) \text{ とおくと}$$

$$\begin{aligned} f'(t) &= (2n-2)(n-2)t^{2n-3} - 2(n-1)(n-2)t^{n-3} \\ &= 2(n-1)(n-2)t^{n-3}(t^n - 1) \leq 0 \end{aligned}$$

$f(t)$ は減少関数で, $0 < t \leq 1$ のとき, $f(t) \geq f(1) = 0$

■

問題 88 x_1, x_2, \dots, x_n は正の実数で, $x_1 x_2 \cdots x_n = 1$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$\sqrt{x_1} + \sqrt{x_2} + \cdots + \sqrt{x_n} \leq x_1 + x_2 + \cdots + x_n$$

(解 1) 一般性を失うことなく $0 < x_1 \leq x_2 \leq \cdots \leq x_n$ と仮定できる.

$f(x_1, x_2, \dots, x_n) = x_1 + x_2 + \cdots + x_n - (\sqrt{x_1} + \sqrt{x_2} + \cdots + \sqrt{x_n})$ とおくと

$$\begin{aligned} & f(x_1, x_2, \dots, x_n) - f(x_1, \sqrt{x_2 x_n}, x_3, \dots, x_{n-1}, \sqrt{x_2 x_n}) \\ &= x_2 + x_n - 2\sqrt{x_2 x_n} - (\sqrt{x_2} + \sqrt{x_n} - 2\sqrt[4]{x_2 x_n}) \\ &= (\sqrt{x_2} - \sqrt{x_n})^2 - (\sqrt[4]{x_2} - \sqrt[4]{x_n})^2 \\ &= (\sqrt[4]{x_2} - \sqrt[4]{x_n})^2 \left\{ (\sqrt[4]{x_2} + \sqrt[4]{x_n})^2 - 1 \right\} \\ &= (\sqrt[4]{x_2} - \sqrt[4]{x_n})^2 (\sqrt{x_2} + \sqrt{x_n} + 2\sqrt[4]{x_2 x_n} - 1) \geqq 0 \end{aligned}$$

より $f(x_1, x_2, \dots, x_n) \geqq f(x_1, \sqrt{x_2 x_n}, x_3, \dots, x_{n-1}, \sqrt{x_2 x_n})$

$f(x_1, x_2, \dots, x_n)$ は x_2, x_3, \dots, x_n に関する対称式だから, SMV-Theorem より

$$f(x_1, x_2, \dots, x_n) \geqq f(x_1, t, \dots, t), \quad t = \sqrt[n-1]{x_2 x_3 \cdots x_n}$$

$s = \sqrt{t} (\geqq 1)$ とおくと

$$\begin{aligned} f(x_1, t, \dots, t) &= x_1 + (n-1)t + \left\{ \sqrt{x_1} + (n-1)\sqrt{t} \right\} \\ &= \frac{1}{t^{n-1}} + (n-1)t - \left\{ \frac{1}{(\sqrt{t})^{n-1}} + (n-1)\sqrt{t} \right\} \\ &= \frac{1}{s^{2n-2}} + (n-1)s^2 - \left\{ \frac{1}{s^{n-1}} + (n-1)s \right\} \end{aligned}$$

$$g(s) = \frac{1}{s^{2n-2}} + (n-1)s^2 - \left\{ \frac{1}{s^{n-1}} + (n-1)s \right\} (s \geqq 1) \text{ とおくと}$$

$$\begin{aligned} g'(s) &= -\frac{(2n-2)}{s^{2n-1}} + 2(n-1)s + \frac{n-1}{s^n} - (n-1) \\ &= \frac{n-1}{s^{2n-1}} (2s^{2n} - s^{2n-1} + s^{n-1} - 2) \\ &= \frac{n-1}{s^{2n-1}} \{2(s^{2n} - 1) - s^{n-1}(s^n - 1)\} \\ &= \frac{n-1}{s^{2n-1}} (s^n - 1) \{2(s^n + 1) - s^{n-1}\} \geqq 0 \end{aligned}$$

$g(s)$ は増加関数で, $s \geqq 1$ のとき, $g(s) \geqq g(1) = 0$

よって, $f(x_1, t, \dots, t) \geqq 0$

■

(解 2) 系 2.8 $\left(p = 0, q = \frac{1}{2}\right)$ を適用する.

一般性を失うことなく $0 < x_1 \leqq x_2 \leqq \cdots \leqq x_n$ と仮定できる.

$$x_1 + x_2 + \cdots + x_n = \text{constant}, \quad x_1 x_2 \cdots x_n = 1$$

ならば, $\sqrt{x_1} + \sqrt{x_2} + \cdots + \sqrt{x_n}$ は $0 < x_1 \leqq x_2 = x_3 = \cdots = x_n$ のとき最大となる.
後は解 1 参照. ■

(解 3) 一般性を失うことなく $0 < x_1 \leqq x_2 \leqq \cdots \leqq x_n$ と仮定できる.

$f(x) = x - \sqrt{x}$ ($x > 0$) とおくと, 証明すべき不等式は

$$f(x_1) + f(x_2) + \cdots + f(x_n) \geq n f(\sqrt[n]{x_1 x_2 \cdots x_n})$$

となる.

$$f_1(u) = f(e^u) = e^u - e^{\frac{u}{2}}$$
 とおくと

$$f_1''(u) = e^u - \frac{1}{4}e^{\frac{u}{2}} = e^{\frac{u}{2}} \left(e^{\frac{u}{2}} - \frac{1}{4} \right)$$

$f_1(u)$ は $u \geqq -4 \log 2$ で凸関数である.

$r = \sqrt[n]{x_1 x_2 \cdots x_n} = 1$ とおくと, $f_1(u)$ は $u \geqq \log r = 0$ で凸関数だから, RCF-Corollary により, $0 < x_1 \leqq x_2 = x_3 = \cdots = x_n$ のとき不等式が成り立つことを示せばよい. 後は解 1 参照. ■

問題 89 x_1, x_2, \dots, x_n ($n > 2$) が非負の実数で, x_1, x_2, \dots, x_n のすべてが等しくはないものとする. このとき, 次の不等式を証明せよ.

$$(n-2) \sum_i x_i + n(x_1 x_2 \dots x_n)^{\frac{1}{n}} - 2 \sum_{1 \leq i < j \leq n} (x_i x_j)^{\frac{1}{2}} \geq 0$$

0 に等しくなるのは, ある番号 i に対して

$$x_i = 0, \quad x_1 = \dots = x_{i-1} = x_{i+1} = \dots = x_n > 0$$

のときのみに限る.

(不等式への招待 P.90)

(解答) 一般性を失うことなく $0 \leq x_1 \leq x_2 \leq \dots \leq x_n$ と仮定できる.

$$\begin{aligned} & (n-2) \sum_i x_i + n(x_1 x_2 \dots x_n)^{\frac{1}{n}} - 2 \sum_{1 \leq i < j \leq n} (x_i x_j)^{\frac{1}{2}} \geq 0 \\ \iff & (n-2) \sum_i x_i + n(x_1 x_2 \dots x_n)^{\frac{1}{n}} \\ & - \left\{ (\sqrt{x_1} + \sqrt{x_2} + \dots + \sqrt{x_n})^2 - (x_1 + x_2 + \dots + x_n) \right\} \geq 0 \\ \iff & (n-1)(x_1 + x_2 + \dots + x_n) + n \sqrt[n]{x_1 x_2 \dots x_n} - (\sqrt{x_1} + \sqrt{x_2} + \dots + \sqrt{x_n})^2 \geq 0 \end{aligned}$$

$x_1 = 0$ の場合

$$(n-1)(x_2 + \dots + x_n) \geq (\sqrt{x_2} + \dots + \sqrt{x_n})^2$$

を示せばよく, これは, コーシーシュワルツの不等式を使えば証明できる.

$$(1+1+\dots+1)(x_2 + \dots + x_n) \geq (\sqrt{x_2} + \dots + \sqrt{x_n})^2$$

等号は $x_2 = x_3 = \dots = x_n$ のときに限り成り立つ.

$x_1 > 0$ の場合

$$x_1 + x_2 + \dots + x_n = \text{constant}, \quad x_1 x_2 \dots x_n = \text{constant}$$

ならば, $\sqrt{x_1} + \sqrt{x_2} + \dots + \sqrt{x_n}$ は $0 < x_1 \leq x_2 = x_3 = \dots = x_n$ のとき最大となる.

したがって, $0 < x_1 \leq x_2$ のとき

$$(n-1)x_1 + (n-1)^2 x_2 + n \sqrt[n]{x_1 x_2^{n-1}} - \{\sqrt{x_1} + (n-1)\sqrt{x_2}\}^2 \geq 0$$

を示せばよい。

$$(n-1)x_1 + (n-1)^2x_2 + n\sqrt[n]{x_1x_2^{n-1}} - \{\sqrt{x_1} + (n-1)\sqrt{x_2}\}^2 \geq 0$$

$$\iff (n-2)x_1 + n\sqrt[n]{x_1x_2^{n-1}} - 2(n-1)\sqrt{x_1x_2} \geq 0$$

$s = \sqrt[n]{x_1}$, $t = \sqrt[n]{x_2}$ とおくと, $0 < s \leq t$ で

$$(n-2)x_1 + n\sqrt[n]{x_1x_2^{n-1}} - 2(n-1)\sqrt{x_1x_2}$$

$$\iff (n-2)s^{2n} + ns^2t^{2(n-1)} - 2(n-1)s^n t^n \geq 0$$

$$\iff s^2 \left\{ (n-2)s^{2n-2} + nt^{2(n-1)} - 2(n-1)s^{n-2}t^n \right\} \geq 0$$

$f(t) = (n-2)s^{2n-2} + nt^{2(n-1)} - 2(n-1)s^{n-2}t^n$ ($0 < s \leq t$) とおくと

$$f'(t) = 2(n-1)nt^{n-1}(t^{n-2} - s^{n-2}) \geq 0$$

だから, $f(t)$ は増加関数で, $0 < s \leq t$ のとき, $f(t) \geq f(s) = 0$

■

問題 90 (Lithuania 2006)

a, b, c が正の実数であるとき, 次の不等式を証明せよ.

$$\frac{1}{a^2 + bc} + \frac{1}{b^2 + ca} + \frac{1}{c^2 + ab} \leq \frac{1}{2} \left(\frac{1}{ab} + \frac{1}{bc} + \frac{1}{ca} \right)$$

(初等的な不等式 I 問題 151)

(解 1) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c$ と仮定できる.

不等式は同次式であるから, $abc = 1$ と仮定できる. このとき

$$\begin{aligned} & \frac{1}{a^2 + bc} + \frac{1}{b^2 + ca} + \frac{1}{c^2 + ab} \leq \frac{1}{2} \left(\frac{1}{ab} + \frac{1}{bc} + \frac{1}{ca} \right) \\ \iff & \frac{1}{a^2 + \frac{1}{a}} + \frac{1}{b^2 + \frac{1}{b}} + \frac{1}{c^2 + \frac{1}{c}} \leq \frac{1}{2} (a + b + c) \\ \iff & \frac{a}{a^3 + 1} + \frac{b}{b^3 + 1} + \frac{c}{c^3 + 1} \leq \frac{1}{2} (a + b + c) \end{aligned}$$

$f(x) = \frac{1}{2}x - \frac{x}{x^3 + 1}$ ($x > 0$) とおくと, 証明すべき不等式は

$$f(a) + f(b) + f(c) \geq 3f(\sqrt[3]{abc})$$

となる.

$$f_1(u) = f(e^u) = \frac{1}{2}e^u - \frac{e^u}{e^{3u} + 1} \text{ とおくと}$$

$$f_1''(u) = \frac{e^u(e^{9u} - 5e^{6u} + 29e^{3u} - 1)}{2(e^{3u} + 1)^3}$$

$g(t) = t^3 - 5t^2 + 29t - 1$ ($t > 0$) を考える.

$t > 0$ で $g'(t) = 3t^2 - 10t + 29 > 0$ だから $g(t)$ は増加関数である.

$\lim_{t \rightarrow +0} g(t) = -1 < 0$, $g(1) = 24 > 0$ より, $g(t) = 0$ はただ 1 つの正の解を $(0, 1)$ でもつ.

これを α ($0 < \alpha < 1$) とおくと

$0 < t < \alpha$ で $g(t) < 0$, $\alpha < t$ で $g(t) > 0$ となるから, $e^{3u} \geq \alpha$ すなわち $u \geq \frac{1}{3} \log \alpha$ で $f_1(u)$ は凸関数である.

$r = \sqrt[3]{abc} = 1$ とおくと, $u \geq \log r = 0 > \frac{1}{3} \log \alpha$ で $f_1(u)$ は凸関数だから, $0 < a \leq 1 \leq b = c$ で不等式が成り立つことをいえばよい.

$0 < a \leqq 1 \leqq b$, $ab^2 = 1$ のとき

$$\begin{aligned}
& \frac{a}{a^3 + 1} + \frac{2b}{b^3 + 1} \leqq \frac{1}{2}(a + 2b) \\
\iff & \frac{\frac{1}{b^2}}{\frac{1}{b^6} + 1} + \frac{2b}{b^3 + 1} \leqq \frac{1}{2}\left(\frac{1}{b^2} + 2b\right) \\
\iff & \frac{b^4}{b^6 + 1} + \frac{2b}{b^3 + 1} \leqq \frac{1}{2}\left(\frac{1}{b^2} + 2b\right) \\
\iff & \frac{2b^{12} - 3b^9 + b^6 - b^3 + 1}{2b^2(b^3 + 1)(b^6 + 1)} \geqq 0 \\
\iff & \frac{(b-1)^2(b^2+b+1)^2(2b^6+b^3+1)}{2b^2(b^3+1)(b^6+1)} \geqq 0 \quad \blacksquare
\end{aligned}$$

(解 2) 不等式は同次式であるから, $abc = 1$ と仮定できる. このとき

$$\begin{aligned}
& \frac{1}{a^2 + bc} + \frac{1}{b^2 + ca} + \frac{1}{c^2 + ab} \leqq \frac{1}{2}\left(\frac{1}{ab} + \frac{1}{bc} + \frac{1}{ca}\right) \\
\iff & \frac{1}{a^2 + \frac{1}{a}} + \frac{1}{b^2 + \frac{1}{b}} + \frac{1}{c^2 + \frac{1}{c}} \leqq \frac{1}{2}(a + b + c) \\
\iff & \frac{a}{a^3 + 1} + \frac{b}{b^3 + 1} + \frac{c}{c^3 + 1} \leqq \frac{1}{2}(a + b + c)
\end{aligned}$$

$f(x) = \frac{1}{2}x - \frac{x}{x^3 + 1} - \frac{3}{4}\log x$ ($x > 0$) とおくと, 証明すべき不等式は

$$f(a) + f(b) + f(c) \geqq 0 \quad \dots\dots\dots (*)$$

となる.

$$\begin{aligned}
f'(x) &= \frac{2x^7 - 3x^6 + 12x^4 - 6x^3 - 2x - 3}{4x(x^3 + 1)^2} \\
&= \frac{(x-1)(2x^6 - x^5 - x^4 + 11x^3 + 5x^2 + 5x + 3)}{4x(x^3 + 1)^2}
\end{aligned}$$

ここで

$$\begin{aligned}
& 2x^6 - x^5 - x^4 + 11x^3 + 5x^2 + 5x + 3 \\
&= \underbrace{(x^6 - x^5 + x^4)}_{>0} + \underbrace{(x^6 - 2x^4 + 5x^2)}_{>0} + 11x^3 + 5x + 3 > 0
\end{aligned}$$

だから, $0 < x < 1 \Rightarrow f'(x) < 0$, $1 < x \Rightarrow f'(x) > 0$

したがって, $f(x) \geqq f(1) = 0$ となり, $(*)$ は成り立つ. \blacksquare

問題 91 (Romania 2008)

a, b, c は正の実数で, $abc = 8$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$\frac{a-2}{a+1} + \frac{b-2}{b+1} + \frac{c-2}{c+1} \leq 0$$

(初等的な不等式 I 問題 154)

(解答) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c$ と仮定できる.

$$f(x) = -\frac{x-2}{x+1} \quad (x > 0)$$

とおくと, 証明すべき不等式は

$$f(a) + f(b) + f(c) \geq 3f(\sqrt[3]{abc})$$

となる.

$$f_1(u) = f(e^u) = -\frac{e^u - 2}{e^u + 1}$$

とおくと

$$f_1''(u) = \frac{3e^u(e^u - 1)}{(e^u + 1)^3}$$

$u \geq 0$ で $f_1(u)$ は凸関数である.

$r = \sqrt[3]{abc} = 2$ とおくと, $u \geq \log r = \log 2$ で $f_1(u)$ は凸関数だから, $0 < a \leq 2 \leq b = c$ で不等式が成り立つことをいえばよい.

$$\begin{aligned} & \frac{a-2}{a+1} + \frac{2(b-2)}{b+1} \leq 0 \\ \iff & \frac{\frac{8}{b^2} - 2}{\frac{8}{b^2} + 1} + \frac{2(b-2)}{b+1} \leq 0 \\ \iff & -\frac{2(b-2)(b+2)}{8+b^2} + \frac{2(b-2)}{b+1} \leq 0 \\ \iff & \frac{-6(b-2)^2}{(b+1)(b^2+8)} \leq 0 \end{aligned}$$

最後の不等式は明らかに成り立つ. ■

問題 92 a, b, c が正の実数のとき、次の不等式を証明せよ。

$$\frac{1}{a+b} + \frac{1}{b+c} + \frac{1}{c+a} \leq \frac{1}{2a} + \frac{1}{2b} + \frac{1}{2c}$$

(初等的な不等式 I 問題 160)

(解答) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c$ と仮定できる。

不等式は同次式だから、 $a+b+c=3$ と仮定できる。

このとき、証明すべき不等式を変形する。

$$\begin{aligned} \frac{1}{a+b} + \frac{1}{b+c} + \frac{1}{c+a} &\leq \frac{1}{2a} + \frac{1}{2b} + \frac{1}{2c} \\ \Leftrightarrow \frac{1}{3-a} + \frac{1}{3-b} + \frac{1}{3-c} &\leq \frac{1}{2a} + \frac{1}{2b} + \frac{1}{2c} \end{aligned}$$

$f(x) = \frac{1}{3-x} - \frac{1}{2x}$ ($x > 0$) とおくと、証明すべき不等式は

$$f(a) + f(b) + f(c) \leq 3f\left(\frac{a+b+c}{3}\right)$$

となる。

$$f''(x) = -\frac{1}{x^3} - \frac{2}{(x-3)^3} = \frac{3(x^3 - 3x^2 + 9x - 9)}{x^3(3-x)^3}$$

$g(x) = x^3 - 3x^2 + 9x - 9$ とおくと、 $g'(x) = 3(x^2 - 2x + 3) > 0$ で $g(x)$ は増加関数である。

$g(1) = -2 < 0, g(2) = 5 > 0$ より $g(x) = 0$ はただ 1 つの実数解を $(1, 2)$ でもつ。これを α ($1 < \alpha < 2$) とおくと

$0 < x < \alpha$ で $g(x) < 0, \alpha < x < 3$ で $g(x) > 0$ であるから、 $0 < x \leq \alpha$ で $f(x)$ は凹関数である。

$r = \frac{a+b+c}{3} = 1 < \alpha$ とおくと、 $0 < x \leq r$ で $f(x)$ は凹関数だから、

$0 < a = b \leq 1 \leq c$ で不等式が成り立つことをいえばよい。

$$\begin{aligned} \frac{2}{3-a} + \frac{1}{3-c} &\leq \frac{2}{2a} + \frac{1}{2c} \\ \Leftrightarrow \frac{2}{3-a} + \frac{1}{2a} &\leq \frac{2}{2a} + \frac{1}{2(3-2a)} \\ \Leftrightarrow \frac{9(a-1)^2}{2a(3-a)(3-2a)} &\geqq 0 \end{aligned}$$

最後の不等式は明らかに成り立つ。 ■

問題 93 (Romanian Regional Mathematic Olympiad 2006)

a, b, c が正の実数のとき，次の不等式を証明せよ.

$$\frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} \geq \frac{4a}{2a^2 + b^2 + c^2} + \frac{4b}{a^2 + 2b^2 + c^2} + \frac{4c}{a^2 + b^2 + 2c^2}$$

(初等的な不等式 I 問題 203)

(解答) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c$ と仮定できる.

不等式は同次式だから， $a^2 + b^2 + c^2 = 3$ と仮定できる.

このとき，証明すべき不等式は

$$\frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} \geq \frac{4a}{a^2 + 3} + \frac{4b}{b^2 + 3} + \frac{4c}{c^2 + 3}$$

となる.

$A = a^2, B = b^2, C = c^2$ とおくと， $0 < A \leq B \leq C, A + B + C = 3$ のとき

$$\frac{1}{\sqrt{A}} + \frac{1}{\sqrt{B}} + \frac{1}{\sqrt{C}} \geq \frac{4\sqrt{A}}{A+3} + \frac{4\sqrt{B}}{B+3} + \frac{4\sqrt{C}}{C+3}$$

を示せばよい.

$$f(x) = \frac{4\sqrt{x}}{x+3} - \frac{1}{\sqrt{x}} \quad (x > 0) \text{ とおくと}$$

$$f(A) + f(B) + f(C) \leq 3f\left(\frac{A+B+C}{3}\right)$$

を示せばよい.

$$f''(x) = \frac{9(x^3 - 11x^2 - 13x - 9)}{4x^{\frac{5}{2}}(x+3)^3}$$

$$g(x) = x^3 - 11x^2 - 13x - 9 \quad (x > 0) \text{ とおくと}$$

$$\begin{aligned} g(x) &= x^3 - 11x^2 - 13x - 9 \\ &= (x^3 - 11x^2 - 12x) - x - 9 \\ &= x(x+1)(x-12) - x - 9 \end{aligned}$$

より， $0 < x < 12$ のとき $g(x) < 0$ がなるから， $f(x)$ は $(0, 12]$ で凹関数である.

$s = \frac{A+B+C}{3} = 1 < 12$ とおくと， $f(x)$ は $(0, 1]$ で凹関数だから，LCF-Theorem より $0 < A = B \leq 1 \leq C, 2A + C = 3$ のとき不等式が成り立つことを示せばよい.

よって， $0 < a = b \leq 1 \leq c, 2a^2 + c^2 = 3$ のとき

$$\frac{2}{a} + \frac{1}{c} \geq \frac{8a}{a^2 + 3} + \frac{4c}{c^2 + 3}$$

を示せばよい。

$$\begin{aligned} \frac{2}{a} + \frac{1}{c} &\geq \frac{8a}{a^2+3} + \frac{4c}{c^2+3} \\ \iff \frac{2}{a} + \frac{1}{c} &\geq \frac{8a}{3a^2+c^2} + \frac{2c}{a^2+c^2} \\ \iff \frac{2c^5 - ac^4 - 2a^3c^2 - 2a^4c + 3a^5}{ac(c^2+3a^2)(c^2+a^2)} &\geq 0 \\ \iff \frac{(c-a)^2(c+a)(2c^2+ca+3a^2)}{ac(c^2+3a^2)(c^2+a^2)} &\geq 0 \end{aligned}$$

最後の不等式は明らかに成り立つ。 ■

問題 94 (Pham Kim Hung)

a, b, c は正の実数で, $a^2 + b^2 + c^2 = 3$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$\frac{1}{a^3+2} + \frac{1}{b^3+2} + \frac{1}{c^3+2} \geq 1$$

(初等的な不等式 I 問題 188)

(解答) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c$ と仮定できる.

$A = a^2, B = b^2, C = c^2$ とおくと, $0 < A \leq B \leq C, A + B + C = 3$

$$f(x) = \frac{1}{x^{\frac{3}{2}} + 3} \quad (x > 0)$$

とおくと, 証明すべき不等式は

$$f(A) + f(B) + f(C) \geq 3f\left(\frac{A+B+C}{3}\right)$$

となる.

$$f''(x) = \frac{9x}{2(x^{\frac{3}{2}} + 2)^3} - \frac{3}{4\sqrt{x}(x^{\frac{3}{2}} + 2)^2}$$

$u = \sqrt{x}$ とおくと

$$\begin{aligned} f''(x) &= \frac{9u^2}{2(u^3 + 2)^3} - \frac{3}{4u(u^3 + 2)^2} \\ &= \frac{3(5u^3 - 2)}{4u(u^3 + 2)^3} \end{aligned}$$

より, $u \geq \sqrt[3]{\frac{2}{5}}$ すなわち $x \geq \sqrt[3]{\frac{4}{25}}$ で $f(x)$ は凸関数である.

$$r = \frac{A+B+C}{3} = 1 > \sqrt[3]{\frac{4}{25}}$$

RCF-Theorem より $0 < A \leq 1 \leq B = C, A + 2C = 3$ のとき不等式が成り立つことを示せばよい.

よって, $0 < a \leq b = c, a^2 + 2b^2 = 3$ のとき

$$\frac{1}{a^3+2} + \frac{2}{b^3+2} \geq 1$$

を示せばよい.

$0 < a \leqq 1 \leqq b$, $a^2 + 2b^2 = 3$ のとき

$$\begin{aligned}
& \frac{1}{a^3 + 2} + \frac{2}{b^3 + 2} \geqq 1 \\
\iff & 2 \geqq (a^3 + 1)b^3 \\
\iff & 4 \geqq (a^3 + 1)^2 b^6 \\
\iff & 4 \geqq (a^3 + 1)^2 \left(\frac{3 - a^2}{2} \right)^3 \\
\iff & a^{12} - 9a^{10} + 2a^9 + 27a^8 - 18a^7 - 26a^6 + 54a^5 - 9a^4 - 54a^3 + 27a^2 + 5 \geqq 0 \\
\iff & (a - 1)^2 \\
& \times (a^{10} + 2a^9 - 6a^8 - 12a^7 + 9a^6 + 12a^5 - 11a^4 + 20a^3 + 42a^2 + 10a + 5) \\
& \geqq 0
\end{aligned} \tag{*}$$

ここで

$$\begin{aligned}
& a^{10} + 2a^9 - 6a^8 - 12a^7 + 9a^6 + 12a^5 - 11a^4 + 20a^3 + 42a^2 + 10a + 5 \\
& = (-6a^8 + 6a^2) + (-12a^7 + 12a^2) + (-11a^4 + 11a^2) \\
& \quad + a^{10} + 2a^9 + 9a^6 + 12a^5 + 20a^3 + 13a^2 + 10a + 5 > 0
\end{aligned}$$

となり、不等式 (*) は成り立つ。 ■

問題 95 (Baltic Way 2011)

a, b, c, d は正の実数で $a + b + c + d = 4$ を満たすとき, 次の不等式が成り立つことを示せ.

$$\frac{a}{a^3 + 8} + \frac{b}{b^3 + 8} + \frac{c}{c^3 + 8} + \frac{d}{d^3 + 8} \leq \frac{4}{9}$$

(解 1) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c \leq d$ と仮定できる.

$f(x) = \frac{x}{x^3 + 8}$ ($x > 0$) とおくと, 証明すべき不等式は

$$f(a) + f(b) + f(c) + f(d) \leq 4f\left(\frac{a+b+c+d}{4}\right) \quad (*)$$

となる.

$$f''(x) = \frac{6x^2(x^3 - 16)}{(x^3 + 8)^3}$$

より $0 < x \leq \sqrt[3]{16}$ で $f(x)$ は凹関数である.

$s = \frac{a+b+c+d}{4} = 1 < \sqrt[3]{16}$ とおくと $f(x)$ は $x \leq s$ で凹関数だから, LCF-Theorem より, $0 < a = b = c \leq d$ のとき不等式が成り立つことを示せばよい.

$0 < a \leq 1 \leq d, 3a + d = 4$ のとき

$$\frac{3a}{a^3 + 8} + \frac{d}{d^3 + 8} \leq \frac{4}{9}$$

を示す.

$$\begin{aligned} & \frac{3a}{a^3 + 8} + \frac{d}{d^3 + 8} \leq \frac{4}{9} \\ \iff & \frac{3a}{a^3 + 8} + \frac{4 - 3a}{(4 - 3a)^3 + 8} \leq \frac{4}{9} \\ \iff & -\frac{12a^6 - 48a^5 - 20a^4 + 392a^3 - 816a^2 + 704a - 224}{(a^3 + 8)\{(4 - 3a)^3 + 8\}} \geq 0 \\ \iff & \frac{4(a-1)^2(-3a^4 + 6a^3 + 20a^2 - 64a + 56)}{(a^3 + 8)(d^3 + 8)} \geq 0 \end{aligned}$$

ここで

$$\begin{aligned} & -3a^4 + 6a^3 + 20a^2 - 64a + 56 \\ = & \underbrace{(-3a^4 + 3a^3)}_{\geq 0} + 3a^3 + \underbrace{(20a^2 - 64a + 56)}_{> 0} > 0 \end{aligned}$$

だから

$$\frac{4(a-1)^2(-3a^4 + 6a^3 + 20a^2 - 64a + 56)}{(a^3+8)(d^3+8)} \geq 0$$

は成り立つ。 ■

(解 2) $f(x) = \frac{x}{x^3+8} - \frac{2}{27}(x-1)$ ($x > 0$) とおくと、証明すべき不等式は

$$f(a) + f(b) + f(c) + f(d) \leq \frac{4}{9}$$

となる。

$$f'(x) = -\frac{2(x-1)(x^2+x+1)(x^3+44)}{27(x^3+8)^2}$$

x	0	\dots	1	\dots	4
$f'(x)$		+	0	-	
$f(x)$		\nearrow	極大	\searrow	

増減表から、 $f(x)$ は $x = 1$ で最大値 $f(1) = \frac{1}{9}$ をとる。

よって

$$f(a) + f(b) + f(c) + f(d) \leq \frac{4}{9}$$
 ■

(解 3) $x > 0$ のとき

$$x^3 + 2 = x^3 + 1 + 1 \geq 3\sqrt[3]{x^3 \cdot 1 \cdot 1} = 3x$$

より、 $x^3 + 8 \geq 3(x+2)$ が成り立つから

$$\frac{a}{a^3+8} + \frac{b}{b^3+8} + \frac{c}{c^3+8} + \frac{d}{d^3+8} \leq \frac{a}{3(a+2)} + \frac{b}{3(b+2)} + \frac{c}{3(c+2)} + \frac{d}{3(d+2)}$$

よって

$$\frac{a}{a+2} + \frac{b}{b+2} + \frac{c}{c+2} + \frac{d}{d+2} \leq \frac{4}{3}$$

を示せばよい。

$$f(x) = \frac{x}{x+2} \quad (x > 0) \text{ とおくと } f''(x) = -\frac{4}{(x+2)^3} < 0$$

$f(x)$ は $x > 0$ で凹関数だから

$$f(a) + f(b) + f(c) + f(d) \leq 4f\left(\frac{a+b+c+d}{4}\right) = 4f(1) = \frac{4}{3}$$
 ■

問題 96 (Romania 2005)

a, b, c は正の実数のとき、次の不等式を証明せよ。

$$\frac{b+c}{a^2} + \frac{c+a}{b^2} + \frac{a+b}{c^3} \geq 2 \left(\frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} \right)$$

(初等的な不等式 I 問題 182)

(解答) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c$ と仮定できる。

$$\begin{aligned} \frac{b+c}{a^2} + \frac{c+a}{b^2} + \frac{a+b}{c^3} &\geq 2 \left(\frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} \right) \\ \iff (a+b+c) \left(\frac{1}{a^2} + \frac{1}{b^2} + \frac{1}{c^2} \right) &\geq 3 \left(\frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} \right) \end{aligned}$$

証明すべき不等式は同次式だから、 $a+b+c=3$ と仮定すると

$$\frac{1}{a^2} + \frac{1}{b^2} + \frac{1}{c^2} \geq \left(\frac{1}{a} + \frac{1}{b} + \frac{1}{c} \right)$$

を示せばよい。

$$f(x) = \frac{1}{x^2} - \frac{1}{x} + (x-1) \quad (x > 0)$$

とおくと、証明すべき不等式は

$$f(a) + f(b) + f(c) \geq 0$$

となる。

$$f'(x) = \frac{x^3 + x - 2}{x^3} = \frac{(x-1)(x^2+x+2)}{x^3}$$

x	0	\cdots	1	\cdots	3
$f'(x)$		-	0	+	
$f(x)$		\searrow	極小	\nearrow	

$f(x)$ は $x=1$ で最小値 $f(1)=0$ をとるから、 $f(x) \geq 0$ よって、 $f(a) + f(b) + f(c) \geq 0$ は成り立つ。 ■

問題 97 (IMO 1984)

a, b, c は非負の実数で, $a + b + c = 1$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$0 \leq ab + bc + ca - 2abc \leq \frac{7}{27}$$

(初等的な不等式 I 問題 97)

(解 1) 一般性を失うことなく $0 \leq a \leq b \leq c$ と仮定できる.

右側の不等式

$f(a, b, c) = ab + bc + ca - 2abc = a(b + c) - 2abc$ とおくと

$$\begin{aligned} f(a, b, c) - f\left(a, \frac{b+c}{2}, \frac{b+c}{2}\right) &= bc - \left(\frac{b+c}{2}\right)^2 - 2a \left\{bc - \left(\frac{b+c}{2}\right)^2\right\} \\ &= -\frac{(b-c)^2}{4} + 2a \cdot \frac{(b-c)^2}{4} \\ &= -\frac{(b-c)^2(1-2a)}{4} \end{aligned}$$

$0 \leq a \leq b \leq c, a + b + c = 1$ より $0 \leq a \leq \frac{1}{3} < \frac{1}{2}$ だから, $1-2a > 0$

よって, $-\frac{(b-c)^2(1-2a)}{4} \leq 0$ だから

$$f(a, b, c) \geq f\left(a, \frac{b+c}{2}, \frac{b+c}{2}\right)$$

が成り立つ.

$t = \frac{b+c}{2}$ とおくと, $0 \leq a \leq \frac{1}{3} \leq t \leq \frac{1}{2}, a + 2t = 1$ のとき

$$f(a, t, t) = t^2 + 2at - 2at^2 \leq \frac{7}{27}$$

を示せばよい.

$$\begin{aligned} t^2 + 2at - 2at^2 &\leq \frac{7}{27} \\ \iff t^2 + 2(1-2t)t - 2(1-2t)t^2 &\leq \frac{7}{27} \\ \iff -\frac{108t^3 - 135t^2 + 54t - 7}{27} &\geq 0 \\ \iff \frac{(3t-1)^2(7-12t)}{27} &\geq 0 \end{aligned}$$

最後の不等式は $\frac{1}{3} \leq t \leq \frac{1}{2} < \frac{7}{12}$ だから成り立つ.

左側の不等式

$ab + bc + ca - 2abc \geq 0$ の代わりに $ab + bc + ca - 9abc \geq 0$ を示す.

$g(a, b, c) = ab + bc + ca - 9abc = ab + c(a + b) - 9abc$ とおくと

$$\begin{aligned} g(a, b, c) - g\left(\frac{a+b}{2}, \frac{a+b}{2}, c\right) &= ab - \left(\frac{a+b}{2}\right)^2 - 9c \left\{ ab - \left(\frac{a+b}{2}\right)^2 \right\} \\ &= -\frac{(a-b)^2}{4} + 9c \cdot \frac{(a-b)^2}{4} \\ &= \frac{(a-b)^2(9c-1)}{4} \end{aligned}$$

$0 \leqq a \leqq b \leqq c, a + b + c = 1$ より $c \geqq \frac{1}{3} > \frac{1}{9}$ だから, $9c - 1 > 0$

よって, $\frac{(a-b)^2(9c-1)}{4} \leqq 0$ だから $g(a, b, c) \geqq g\left(\frac{a+b}{2}, \frac{a+b}{2}, c\right)$ が成り立つ.

$s = \frac{a+b}{2}$ とおくと, $0 \leqq s \leqq \frac{1}{3} \leqq c \leqq \frac{1}{2}, 2s + c = 1$ のとき

$$g(s, s, c) = s^2 + 2cs - 9cs^2 \geqq 0$$

を示せばよい.

$$\begin{aligned} s^2 + 2cs - 9cs^2 &\geqq 0 \\ \iff s^2 + 2(1-2s)s - 9(1-2s)s^2 &\geqq 0 \\ \iff 18s^3 - 12s^2 + 2s &\geqq 0 \\ \iff 2s(3s-1)^2 &\geqq 0 \end{aligned}$$

最後の不等式は明らかになり立つ. ■

(解 2) 一般性を失うことなく $0 \leqq a \leqq b \leqq c$ と仮定できる.

右側の不等式

(i) $a = 0$ のとき

$0 \leqq b \leqq c, b + c = 1$ のとき, $bc \leqq \frac{7}{27}$ を示せばよい.

相加平均・相乗平均の不等式を使うと

$$1 = b + c \geqq 2\sqrt{bc} \quad \text{から} \quad bc \leqq \frac{1}{4} < \frac{7}{27}$$

(ii) $0 < a \leqq b \leqq c$ の場合

$$\begin{aligned} ab + bc + ca - 2abc &\leqq \frac{7}{27} \\ \iff \frac{(a+b+c)^2 - (a^2 + b^2 + c^2)}{2} - 2abc &\leqq \frac{7}{27} \end{aligned}$$

と変形できる。

系 2.8 ($p = 0, q = 2$) を適用する。

$$a + b + c = 1, abc = \text{constant}$$

ならば、 $a^2 + b^2 + c^2$ は $0 < a \leq b = c$ のとき最小となる。

したがって、 $0 \leq a \leq \frac{1}{3} \leq b \leq \frac{1}{2}, a + 2b = 1$ のとき

$$b^2 + 2ab - 2ab^2 \leq \frac{7}{27}$$

を示せばよい。後は解 1 参照。

左側の不等式

(i) $a = 0$ のとき

$0 \leq b \leq c, b + c = 1$ のとき、 $bc \geq 0$ を示せばよいが、これは明らかに成り立つ。

(ii) $0 < a \leq b \leq c$ の場合

$$\begin{aligned} ab + bc + ca - 2abc &\geq 0 \\ \iff \frac{(a+b+c)^2 - (a^2 + b^2 + c^2)}{2} - 2abc &\geq 0 \end{aligned}$$

と変形できる。

系 2.8 ($p = 0, q = 2$) を適用する。

$$a + b + c = 1, abc = \text{constant}$$

ならば、 $a^2 + b^2 + c^2$ は $0 < a = b \leq c$ のとき最大となる。

したがって、 $0 < a \leq \frac{1}{3} \leq c, 2a + c = 1$ のとき

$$a^2 + 2ac - 2a^2c \geq 0$$

を示せばよい。

$$\begin{aligned} a^2 + 2ac - 2a^2c &\geq 0 \\ \iff a^2 + 2a(1 - 2a) - 2a^2(1 - 2a) &\geq 0 \\ \iff a(4a^2 - 5a + 2) &\geq 0 \end{aligned}$$

最後の不等式は明らかに成り立つ。 ■

問題 98 (IMO 2001)

a, b, c が正の実数のとき, 次の不等式を証明せよ.

$$\frac{a}{\sqrt{a^2 + 8bc}} + \frac{b}{\sqrt{b^2 + 8ca}} + \frac{c}{\sqrt{c^2 + 8ab}} \geq 1$$

(初等的な不等式 I 問題 37)

(解 1) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c$ と仮定できる.

また, 証明すべき不等式は, 同次式だから, $abc = 1$ における. このとき

$$\begin{aligned} & \frac{a}{\sqrt{a^2 + 8bc}} + \frac{b}{\sqrt{b^2 + 8ca}} + \frac{c}{\sqrt{c^2 + 8ab}} \geq 1 \\ \iff & \frac{a}{\sqrt{a^2 + \frac{8}{a}}} + \frac{b}{\sqrt{b^2 + \frac{8}{b}}} + \frac{c}{\sqrt{c^2 + \frac{8}{c}}} \geq 1 \\ \iff & \frac{a\sqrt{a}}{\sqrt{a^3 + 8}} + \frac{b\sqrt{b}}{\sqrt{b^3 + 8}} + \frac{c\sqrt{c}}{\sqrt{c^3 + 8}} \geq 1 \end{aligned}$$

$s = a^3, t = b^3, u = c^3$ とおくと, $s, t, u > 0, stu = 1$ となる.

ここで, $f(x) = -\frac{\sqrt{x}}{\sqrt{x+8}}$ ($x > 0$) とおくと, 証明すべき不等式は

$$f(s) + f(t) + f(u) \leq 3f(\sqrt[3]{stu})$$

となる.

$$f_1(u) = f(e^u) = -\frac{\sqrt{e^u}}{\sqrt{e^u + 8}}$$
 とおくと

$$f_1''(u) = \frac{4\sqrt{e^u}(e^u - 4)}{(e^u + 8)^{\frac{5}{2}}}$$

だから, $f_1(u)$ は $u \leq \log 4$ で凹関数である.

$v = \sqrt[3]{stu} = 1$ とおくと, $f_1(u)$ は $u \leq \log v = 0$ で凹関数であるから, LCF-Corollary より, $0 < s = t \leq u$ のとき不等式が成り立つことを示せばよい.

$0 < s \leq 1 \leq u, s^2u = 1$ のとき

$$\begin{aligned} \frac{2\sqrt{s}}{\sqrt{s+8}} + \frac{\sqrt{u}}{\sqrt{u+8}} \geq 1 &\iff \frac{2\sqrt{s}}{\sqrt{s+8}} + \frac{\sqrt{\frac{1}{s^2}}}{\sqrt{\frac{1}{s^2} + 8}} \geq 1 \\ &\iff \frac{2\sqrt{s}}{\sqrt{s+8}} + \frac{1}{\sqrt{8s^2 + 1}} \geq 1 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
F(s) &= \frac{2\sqrt{s}}{\sqrt{s+8}} + \frac{1}{\sqrt{8s^2+1}} - 1 \quad (s \geq 0) \text{ とおくと} \\
F'(s) &= \frac{8 \left\{ \sqrt{s+8}(8s^2+1)^{\frac{3}{2}} - s^{\frac{7}{2}} - 16s^{\frac{5}{2}} - 64s^{\frac{3}{2}} \right\}}{\sqrt{s}(s+8)^2(8s^2+1)^{\frac{3}{2}}} \\
&= \frac{8 \left[\left\{ \sqrt{s+8}(8s^2+1)^{\frac{3}{2}} \right\}^2 - \left(s^{\frac{7}{2}} + 16s^{\frac{5}{2}} + 64s^{\frac{3}{2}} \right)^2 \right]}{\sqrt{s}(s+8)^2(8s^2+1)^{\frac{3}{2}} \left(\sqrt{s+8}(8s^2+1)^{\frac{3}{2}} + s^{\frac{7}{2}} + 16s^{\frac{5}{2}} + 64s^{\frac{3}{2}} \right)} \\
&= \frac{8(511s^7 + 4064s^6 - 192s^5 - 512s^4 - 4072s^3 + 192s^2 + s + 8)}{\sqrt{s}(s+8)^2(8s^2+1)^{\frac{3}{2}} \left(\sqrt{s+8}(8s^2+1)^{\frac{3}{2}} + s^{\frac{7}{2}} + 16s^{\frac{5}{2}} + 64s^{\frac{3}{2}} \right)} \\
&= \frac{8(s-1)(7s-1)(s+8)(s^2+s+1)(73s^2+7s+1)}{\sqrt{s}(s+8)^2(8s^2+1)^{\frac{3}{2}} \left(\sqrt{s+8}(8s^2+1)^{\frac{3}{2}} + s^{\frac{7}{2}} + 16s^{\frac{5}{2}} + 64s^{\frac{3}{2}} \right)}
\end{aligned}$$

したがって、 $F(s)$ の増減は次のようになる。

s	0	\dots	$\frac{1}{7}$	\dots	1
$F'(s)$		+	0	-	
$F(s)$	0	\nearrow	極大	\searrow	0

増減表から、 $0 < s \leq 1$ のとき、 $F(s) \geq 0$

■

(解 2) 証明すべき不等式は、同次式だから、 $abc = 1$ における。このとき

$$\begin{aligned}
&\frac{a}{\sqrt{a^2+8bc}} + \frac{b}{\sqrt{b^2+8ca}} + \frac{c}{\sqrt{c^2+8ab}} \geq 1 \\
\iff &\frac{a}{\sqrt{a^2+\frac{8}{a}}} + \frac{b}{\sqrt{b^2+\frac{8}{b}}} + \frac{c}{\sqrt{c^2+\frac{8}{c}}} \geq 1 \\
\iff &\sqrt{\frac{a^3}{a^3+8}} + \sqrt{\frac{b^3}{b^3+8}} + \sqrt{\frac{c^3}{c^3+8}} \geq 1 \\
\iff &\sqrt{\frac{1}{1+\left(\frac{2}{a}\right)^3}} + \sqrt{\frac{1}{1+\left(\frac{2}{b}\right)^3}} + \sqrt{\frac{1}{1+\left(\frac{2}{c}\right)^3}} \geq 1
\end{aligned}$$

$s = \frac{2}{a}, t = \frac{2}{b}, u = \frac{2}{c}$ とおくと、 $s, t, u > 0, stu = 8$ となる。

ここで、 $f(x) = \frac{1}{\sqrt{1+x^3}}$ ($x > 0$) とおくと、証明すべき不等式は

$$f(s) + f(t) + f(u) \geq 1$$

となる。

相加平均・相乗平均の不等式を使うと

$$x^2 + 2 = (x^2 - x + 1) + (x + 1) \geq 2\sqrt{(x^2 - x + 1)(x + 1)} = 2\sqrt{x^3 + 1}$$

から

$$\frac{1}{\sqrt{x^3 + 1}} \geq \frac{2}{x^2 + 2}$$

よって

$$\frac{1}{\sqrt{s^3 + 1}} + \frac{1}{\sqrt{t^3 + 1}} + \frac{1}{\sqrt{u^3 + 1}} \geq \frac{2}{s^2 + 2} + \frac{2}{t^2 + 2} + \frac{2}{u^2 + 2}$$

が成り立つから、 $s, t, u > 0$, $stu = 8$ のとき

$$\frac{2}{s^2 + 2} + \frac{2}{t^2 + 2} + \frac{2}{u^2 + 2} \geq 1$$

を示せばよい。

$$\begin{aligned} \frac{2}{s^2 + 2} + \frac{2}{t^2 + 2} + \frac{2}{u^2 + 2} &\geq 1 \\ \iff \frac{4(s^2 + t^2 + u^2) + 16 - s^2 t^2 u^2}{(s^2 + 2)(t^2 + 2)(u^2 + 2)} &\geq 0 \\ \iff \frac{4(s^2 + t^2 + u^2 - 12)}{(s^2 + 2)(t^2 + 2)(u^2 + 2)} &\geq 0 \end{aligned}$$

$s^2 + t^2 + u^2 - 12 \geq 0$ は相加平均・相乗平均の不等式を使うと

$$s^2 + t^2 + u^2 \geq 3\sqrt[3]{(stu)^2} = 3\sqrt[3]{8^2} = 12$$

から得られるので

$$\frac{4(s^2 + t^2 + u^2 - 12)}{(s^2 + 2)(t^2 + 2)(u^2 + 2)} \geq 0$$

は成り立つ。 ■

問題 99 (Art of Problem Solving)

a, b, c は正の実数で、 $a + b + c = 3$ を満たすとき、次の不等式を証明せよ。

$$\sqrt[3]{a} + \sqrt[3]{b} + \sqrt[3]{c} \geq ab + bc + ca$$

(解 1) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c$ と仮定できる。

証明すべき不等式は次のように変形できる。

$$\begin{aligned} & \sqrt[3]{a} + \sqrt[3]{b} + \sqrt[3]{c} \geq ab + bc + ca \\ \iff & \sqrt[3]{a} + \sqrt[3]{b} + \sqrt[3]{c} \geq \frac{(a+b+c)^2 - (a^2 + b^2 + c^2)}{2} \\ \iff & 2 \left(\sqrt[3]{a} + \sqrt[3]{b} + \sqrt[3]{c} \right) \geq 9 - (a^2 + b^2 + c^2) \end{aligned}$$

系 2.8 $\left(p = 2, q = \frac{1}{3}\right)$ を適用する。

$$a + b + c = 3, a^2 + b^2 + c^2 = \text{constant}$$

ならば、 $\sqrt[3]{a} + \sqrt[3]{b} + \sqrt[3]{c}$ は $0 < a \leq b = c$ のとき最小となる。

したがって、 $0 < a \leq 1 \leq b, a + 2b = 3$ のとき

$$2 \left(\sqrt[3]{a} + 2\sqrt[3]{b} \right) \geq 9 - (a^2 + 2b^2)$$

を示せばよい。

$A = \sqrt[3]{a}, B = \sqrt[3]{b}$ とおくと、 $0 < A \leq B, A^3 + 2B^3 = 3$ のとき

$2(A + 2B) + A^6 + 2B^6 \geq 9$ を示せばよい。

$$\begin{aligned} & 2(A + 2B) + A^6 + 2B^6 \geq 9 \\ \iff & 4B \geq 9 - A^4 - 2B^4 - 2A \\ \iff & 64B^3 \geq (9 - A^6 - 2B^6 - 2A)^2 \\ \iff & 64 \cdot \frac{3 - A^3}{2} \geq \left\{ 9 - A^6 - 2 \left(\frac{3 - A^3}{2} \right)^2 - 2A \right\}^3 \\ \iff & 27A^{18} - 162A^{15} + 108A^{13} + 81A^{12} - 432A^{10} + 756A^9 + 144A^8 - 216A^7 \\ & - 243A^6 - 288A^5 + 1296A^4 - 1650A^3 - 432A^2 + 972A + 39 \geq 0 \\ \iff & 3(A - 1)^2(9A^{16} + 18A^{15} + 27A^{14} - 18A^{13} - 63A^{12} - 72A^{11} - 54A^{10} - 36A^9 \\ & - 162A^8 - 36A^7 + 138A^6 + 240A^5 + 261A^4 + 186A^3 + 543A^2 + 350A + 13) \\ \geq & 0 \quad \dots\dots (*) \end{aligned}$$

ここで, $0 < A \leqq 1$ より

$$\begin{aligned} & 18A^{13} + 63A^{12} + 72A^{11} + 54A^{10} + 36A^9 + 162A^8 + 36A^7 \\ & \leqq (18 + 63 + 72 + 54 + 36 + 162 + 36)A^7 \\ & = 441A^7 \\ & < 543A^2 \end{aligned}$$

だから

$$\begin{aligned} & 9A^{16} + 18A^{15} + 27A^{14} - 18A^{13} - 63A^{12} - 72A^{11} - 54A^{10} - 36A^9 - 162A^8 \\ & - 36A^7 + 138A^6 + 240A^5 + 261A^4 + 186A^3 + 543A^2 + 350A + 13 \\ & \geqq 0 \end{aligned}$$

すなわち (*) は成り立つ. ■

(解 2) 一般性を失うことなく $0 < a \leqq b \leqq c$ と仮定できる.

証明すべき不等式は次のように変形できる.

$$\begin{aligned} & \sqrt[3]{a} + \sqrt[3]{b} + \sqrt[3]{c} \geqq ab + bc + ca \\ \iff & \sqrt[3]{a} + \sqrt[3]{b} + \sqrt[3]{c} \geqq \frac{(a+b+c)^2 - (a^2 + b^2 + c^2)}{2} \\ \iff & 2(\sqrt[3]{a} + \sqrt[3]{b} + \sqrt[3]{c}) \geqq 9 - (a^2 + b^2 + c^2) \end{aligned}$$

$f(x) = 2\sqrt[3]{x} + x^2$ ($x > 0$) とおくと, 証明すべき不等式は

$$f(a) + f(b) + f(c) \geqq 3f\left(\frac{a+b+c}{3}\right)$$

となる.

$$f''(x) \text{ を求めると } f''(x) = \frac{18x^{\frac{5}{3}} - 4}{9x^{\frac{5}{3}}}$$

$x^{\frac{5}{3}} \geqq \frac{2}{9}$ すなわち $x \geqq \left(\frac{2}{9}\right)^{\frac{3}{5}}$ で $f(x)$ は凸関数である.

$s = \frac{a+b+c}{3} = 1 > \left(\frac{2}{9}\right)^{\frac{3}{5}}$ とおくと, $x \geqq s$ で $f(x)$ は凸関数だから, RCF-Theorem より $0 < a \leqq 1 \leqq b = c$ のとき不等式が成り立つことを示せばよい. 後は解 1 参照. ■

問題 100 (Vasile Cirtoaje)

a, b, c は非負の実数で、 $a + b + c = 3$ を満たし、 $p \geq \frac{\log 9 - \log 8}{\log 3 - \log 2} \doteq 0.2905$ とするとき、次の不等式を証明せよ。

$$a^p + b^p + c^p \geq ab + bc + ca$$

(解 1) 一般性を失うことなく $0 \leq a \leq b \leq c$ と仮定できる。

$$\begin{aligned} a^p + b^p + c^p &\geq ab + bc + ca \\ \iff a^p + b^p + c^p &\geq \frac{(a+b+c)^2 - (a^2 + b^2 + c^2)}{2} \\ \iff a^p + b^p + c^p &\geq \frac{9 - (a^2 + b^2 + c^2)}{2} \end{aligned}$$

$f_1(x) = x^p + \frac{x^2}{2}$ ($x \geq 0$) とおくと証明すべき不等式は

$$f_1(a) + f_1(b) + f_1(c) \geq 3f_1\left(\frac{a+b+c}{3}\right) \quad \dots\dots (*)$$

となる。

$$f_1''(x) = p(p-1)x^{p-2} + 1$$

$p \geq 1$ のとき、 $x > 0$ において $f_1''(x) > 0$ だから $f_1(x)$ は $[0, \infty)$ において凸関数である。

よって、Jensen の不等式より (*) は成り立つ。

$$\begin{aligned} \frac{\log 9 - \log 8}{\log 3 - \log 2} \leq p < 1 \text{ のとき, } r = \frac{\log 9 - \log 8}{\log 3 - \log 2} \text{ とおく.} \\ f_1''(x) = \frac{x^{2-p} - (1-p)p}{x^{2-p}} \text{ と変形できる.} \end{aligned}$$

$x > [p(1-p)]^{\frac{1}{2-p}}$ のとき $f_1''(x) > 0$ だから、 $x \geq [p(1-p)]^{\frac{1}{2-p}}$ において $f_1(x)$ は凸関数である。

$$s = \frac{a+b+c}{3} = 1 > [p(1-p)]^{\frac{1}{2-p}} \text{ とおくと } x \geq 1 \text{ において } f_1(x) \text{ は凸関数である.}$$

RCF-Theorem より $0 \leq a \leq b = c$ のとき、不等式 (*) が成り立つことを示せばよい。

したがって、 $0 \leq a \leq 1 \leq b, a + 2b = 3$ のとき、 $a^p + 2b^p \geq 2ab + b^2$ を示せばよい。

不等式を同次化した

$$(a^p + 2b^p) \left(\frac{a+2b}{3}\right)^{2-p} \geq 2ab + b^2$$

を示す. $x = \frac{a}{b}$ とおくと, $0 \leq x \leq 1$ のとき

$$(x^p + 2) \left(\frac{x+2}{3} \right)^{2-p} \geq 2x + 1$$

を示せばよい.

$$f(x) = \log(x^p + 2) + (2-p) \log \frac{x+2}{3} - \log(2x+1) \quad (0 \leq x \leq 1) \text{ とおくと}$$

$$f'(x) = \frac{2 \{ x^{p+1} + (2p-1)x^p + px^{p-1} - 2(p-1)x - (p+2) \}}{(x+2)(2x+1)(x^p + 2)}$$

$$g(x) = x^{p+1} + (2p-1)x^p + px^{p-1} - 2(p-1)x - (p+2) \quad (0 < x \leq 1) \text{ とおくと}$$

$$g'(x) = (p+1)x^p + p(2p-1)x^{p-1} + p(p-1)x^{p-2} - 2(p-1)$$

$$\begin{aligned} g''(x) &= p(p+1)x^{p-1} + p(p-1)(2p-1)x^{p-2} + p(p-1)(p-2)x^{p-3} \\ &= px^{p-3} \{ (p+1)x^2 + (p-1)(2p-1)x + (p-1)(p-2) \} \end{aligned}$$

ここで, $(p+1)x^2 + (p-1)(2p-1)x + (p-1)(p-2)$ の判別式

$$\begin{aligned} D &= (p-1)^2(2p-1)^2 - 4(p+1)(p-1)(p-2) \\ &= (p-1)(4p^3 - 12p^2 + 9p + 7) \\ &= (p-1) \left\{ \underbrace{4p^3 + 9p(1-p) + 3(1-p^2)}_{>0} + 9p + 4 \right\} < 0 \end{aligned}$$

より $(p+1)x^2 + (p-1)(2p-1)x + (p-1)(p-2) > 0$

よって, $g''(x) > 0$

$$g'(x) = (p+1)x^p + \frac{p(2p-1)x - p(1-p)}{x^{2-p}} - 2(p-1)$$

より

$$\lim_{x \rightarrow +0} g'(x) = -\infty, g'(1) = 3(p^2 - p + 1) > 0$$

$g'(x)$ は増加関数だから, $g'(x) = 0$ は $(0, 1)$ の範囲でただ 1 つの実数解をもつ. これを x_1 とおくと

$$0 < x < x_1 \Rightarrow g'(x) < 0, \quad x_1 < x < 1 \Rightarrow g'(x) > 0$$

また

$$\lim_{x \rightarrow +0} g(x) = \infty, g(1) = 0$$

$g(x) = 0$ は $(0, 1)$ の範囲でただ 1 つの実数解をもつ. これを x_2 とおくと

$$0 < x < x_2 \Rightarrow g(x) > 0, \quad x_2 < x < 1 \Rightarrow g(x) < 0$$

したがって, $0 < x < x_2 \Leftrightarrow f'(x) > 0$, $x_2 < x < 1 \Leftrightarrow f'(x) < 0$

x	0	\cdots	x_2	\cdots	1
$f'(x)$		+	0	-	
$f(x)$		\nearrow	極大	\searrow	

$$f(0) = \log 2 + (2-p) \log \frac{2}{3} \geq \log 2 + (2-r) \log \frac{2}{3} = 0$$

$$f(1) = 0$$

よって, $f(x) \geqq 0$ ■

(解 2) 一般性を失うことなく $0 \leqq a \leqq b \leqq c$ と仮定できる.

$p \geqq 1$ の場合

$f_1(x) = x^p$ ($x \geqq 0$) は凸関数だから

$$a^p + b^p + c^p \geqq 3 \left(\frac{a+b+c}{3} \right)^p = 3$$

が成り立つ. ところで

$$9 = (a+b+c)^2 \geqq 3(ab+bc+ca)$$

から, $3 \geqq ab+bc+ca$ となるので

$$a^p + b^p + c^p \geqq ab + bc + ca$$

は成り立つ.

$$\frac{\log 9 - \log 8}{\log 3 - \log 2} \leqq p < 1 \text{ のとき, } r = \frac{\log 9 - \log 8}{\log 3 - \log 2} \text{ とおく.}$$

不等式を同次化すると

$$2(a^p + b^p + c^p) \left(\frac{a+b+c}{3} \right)^{2-p} + a^2 + b^2 + c^2 \geqq (a+b+c)^2$$

系 2.8 ($0 < p < 1, q = 2$) を適用する.

$$a + b + c = \text{constant}, a^p + b^p + c^p = \text{constant}$$

ならば, $a^2 + b^2 + c^2$ は $a = 0$ か $0 < a \leqq b = c$ のとき最小となる.

$0 < a \leqq b = c$ の場合

条件 $a + b + c = 3$ を取り除いて考える。 $x = \frac{a}{b}$ とおくと $0 < x \leqq 1$ で

$$(a^p + 2b^p) \left(\frac{a+2b}{3} \right)^{2-p} \geq 2ab + b^2$$

$$\iff (x^p + 2) \left(\frac{x+2}{3} \right)^{2-p} \geq 2x + 1$$

$f(x) = \log(x^p + 2) + (2-p) \log \frac{x+2}{3} - \log(2x+1)$ ($0 \leqq x \leqq 1$) において、 $0 < x \leqq 1$ のとき、 $f(x) \geqq 0$ を示す。

$$f'(x) = \frac{2 \{ x^{p+1} + (2p-1)x^p + px^{p-1} - 2(p-1)x - (p+2) \}}{(x+2)(2x+1)(x^p+1)}$$

$$= \frac{2 \{ x^2 + (2p-1)x^p + p + 2(1-p)x^{2-p} - (p+2)x^{1-p} \}}{x^{1-p}(x+2)(2x+1)(x^p+1)}$$

$g(x) = x^2 + (2p-1)x^p + p + 2(1-p)x^{2-p} - (p+2)x^{1-p}$ とおくと

$$g'(x) = 2x + 2p - 1 + 2(1-p)(2-p)x^{1-p} - (p+2)(1-p)x^{-p}$$

$$g''(x) = 2 + 2(1-p)^2(2-p)x^{-p} + p(p+2)(1-p)x^{-p-1}$$

$0 < x \leqq 1$ で $g''(x) > 0$ だから、 $g'(x)$ は $0 < x \leqq 1$ で増加関数で

$$\lim_{x \rightarrow +0} g'(x) = -\infty, g'(1) = 3(p^2 - p + 1) > 0$$

よって、 $g'(x) = 0$ は $(0, 1)$ の範囲でただ 1 つの実数解をもつ。これを x_1 とおくと
 $0 < x < x_1$ で $g'(x) < 0$ 、 $x_1 < x \leqq 1$ で $g'(x) > 0$

また

$$g(0) = p > 0, g(1) = 0$$

が成り立つから、 $g(x) = 0$ は $(0, 1)$ の範囲でただ 1 つの実数解をもつ。これを x_2 とおくと

$$0 \leqq x < x_2 \text{ で } g(x) > 0, x_2 < x < 1 \text{ で } g(x) < 0$$

したがって、 $0 \leqq x < x_2$ で $f'(x) > 0$ 、 $x_2 < x < 1$ で $f'(x) < 0$

増減表は次のようになる。

x	0	\cdots	x_2	\cdots	1
$f'(x)$		+	0	-	
$f(x)$		\nearrow	極大	\searrow	

$$f(0) = \log 2 + (2-p) \log \frac{2}{3} \geq \log 2 + (2-r) \log \frac{2}{3} = 0,$$

$$f(1) = 0$$

よって、 $0 < x \leq 1$ のとき $f(x) \geq 0$

$a = 0$ の場合

条件 $a + b + c = 3$ を取り除いて考える。 $0 \leq b \leq c$ のとき

$$(b^p + c^p) \left(\frac{b+c}{3} \right)^{2-p} \geqq bc$$

を示せばよい。

$b = 0$ のときは明らかになり立つから、 $0 < b \leq c$ としてよい。 $t = \frac{b}{c}$ とおくと
 $0 < t \leq 1$ で

$$(b^p + c^p) \left(\frac{b+c}{3} \right)^{2-p} \geqq bc$$

$$\iff (t^p + 1) \left(\frac{t+1}{3} \right)^{2-p} \geqq t$$

$F(t) = \log(t^p + 1) + (2-p) \log \frac{t+1}{3} - \log t$ ($0 < t \leq 1$) において、 $0 < t \leq 1$ のとき
 $F(t) \geqq 0$ を示す。

$$F'(t) = \frac{\{t^{p+1} - (1-p)t^p + (1-p)t - 1\}}{t(t+1)(t^p + 1)}$$

$G(t) = t^{p+1} - (1-p)t^p + (1-p)t - 1$ ($0 < t \leq 1$) とおくと

$$G'(t) = (p+1)t^p - p(1-p)t^{p-1} + 1 - p$$

$$G''(t) = p(p+1)t^{p-1} + p(1-p)^2 t^{p-2}$$

$0 < t \leq 1$ で $G''(t) > 0$ だから、 $G'(t)$ は $(0, 1]$ において増加関数で

$$\lim_{t \rightarrow +0} G'(t) = -\infty, G'(1) = p^2 - p + 2 > 0$$

よって、 $G'(t) = 0$ は $(0, 1)$ の範囲でただ 1 つの実数解をもつ。これを t_1 とおくと

$0 < t < t_1$ で $G'(t) < 0$, $t_1 < t \leq 1$ で $G'(t) > 0$

また

$$\lim_{t \rightarrow +0} G(t) = -1 > 0, G(1) = 0$$

が成り立つから、 $(0, 1)$ の範囲で $G(t) < 0$ だから、 $F'(t) < 0$

$F(t)$ は $(0, 1]$ において減少関数で、 $0 < t \leq 1$ のとき

$$\begin{aligned} F(t) &\geqq F(1) \\ &= \log 2 + (2-p) \log \frac{2}{3} \\ &\geqq \log 2 + (2-r) \log \frac{2}{3} = 0 \quad \left(\because 1 > p \geqq r = \frac{\log 9 - \log 8}{\log 3 - \log 2} \right) \end{aligned}$$

よって、 $0 < t \leq 1$ のとき $F(t) \geqq 0$

■

[注] 問題 100 で $p = \frac{1}{3}$ とおいたものが問題 99 である。

問題 101 (Bosnia Herzegovina Regional Olympiad 2008 Third Grades)

a, b, c は正の実数のとき、次の不等式を証明せよ。

$$\left(1 + \frac{4a}{b+c}\right) \left(1 + \frac{4b}{c+a}\right) \left(1 + \frac{4c}{a+b}\right) > 25$$

(解答) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c$ と仮定できる。

$$f(a, b, c) = \left(1 + \frac{4a}{b+c}\right) \left(1 + \frac{4b}{c+a}\right) \left(1 + \frac{4c}{a+b}\right)$$

とおくと

$$\begin{aligned} & f(a, b, c) - f\left(a, \frac{b+c}{2}, \frac{b+c}{2}\right) \\ &= \left(1 + \frac{4a}{b+c}\right) \left\{ \left(1 + \frac{4b}{c+a}\right) \left(1 + \frac{4c}{a+b}\right) - \left(1 + \frac{4(b+c)}{2a+b+c}\right)^2 \right\} \\ &= \frac{4(b^4 + c^4 - ab^3 - ac^3 + ab^2c + abc^2 - 2a^2b^2 - a^2c^2 - 2b^2c^2 + 4a^2bc)}{(a+b)(c+a)(2a+b+c)} \\ &= \frac{4(b-c)^2(a+b+c)(b+c-2a)}{(a+b)(c+a)(2a+b+c)} \geq 0 \end{aligned}$$

より

$$f(a, b, c) \geq f(a, t, t), \quad t = \frac{b+c}{2}$$

$0 < a \leq t$ のとき、 $f(a, t, t) > 25$ を示せばよい。

$$\begin{aligned} & f(a, t, t) > 25 \\ & \iff \left(1 + \frac{2a}{t}\right) \left(1 + \frac{4t}{a+t}\right)^2 > 25 \\ & \iff \frac{10at^2 - 4a^2t + 2a^3}{t(t+a)^2} > 0 \\ & \iff \frac{2a(5t^2 - 2at + a^2)}{t(t+a)^2} > 0 \end{aligned}$$

最後の不等式は明らかに成り立つ。 ■

問題 102 (Rioplatense Mathematical Olympiad, Level 3 2013)

a, b, c, d は正の実数で, $a^2 + b^2 + c^2 + d^2 = 1$ を満たすとき, 次の不等式を証明せよ.

$$(1-a)(1-b)(1-c)(1-d) \geq abcd$$

(解 1) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c \leq d$ と仮定できる.

このとき, $a^2 + b^2 + c^2 + d^2 = 1$ から $0 < a \leq b \leq c \leq d < 1$ がわかる.

$$\begin{aligned} &(1-a)(1-b)(1-c)(1-d) \geq abcd \\ \iff &\log(1-a) + \log(1-b) + \log(1-c) + \log(1-d) \geq \log a + \log b + \log c + \log d \end{aligned}$$

$A = a^2, B = b^2, C = c^2, D = d^2, f(x) = \frac{1}{2} \log x - \log(1 - \sqrt{x})$ ($x > 0$) とおくと,
証明すべき不等式は, $0 < A \leq B \leq C \leq D, A + B + C + D = 1$ のとき

$$f(A) + f(B) + f(C) + f(D) \leq 4f\left(\frac{A+B+C+D}{4}\right)$$

となる.

$$f''(x) = \frac{3\sqrt{x}-2}{4x^2(1-\sqrt{x})^2}$$

$f(x)$ は $3\sqrt{x}-2 \leq 0$ すなわち $x \leq \frac{4}{9}$ で凹関数である.

$s = \frac{A+B+C+D}{4} = \frac{1}{4} < \frac{4}{9}$ とおくと, $f(x)$ は $x \leq \frac{1}{4}$ で凹関数だから, LCF-Theorem より, $0 < A = B = C \leq \frac{1}{4} \leq D$ のとき不等式が成り立つことを示せばよい.
したがって, $0 < a = b = c \leq \frac{1}{2} \leq d, 3a^2 + d^2 = 1$ のとき

$$(1-a)^3(1-d) \geq a^3d$$

が成り立つことを示せばよい.

$$\begin{aligned} &(1-a)^3(1-d) \geq a^3d \\ \iff &(3a^2 - 3a + 1)d \leq (1-a)^3 \\ \iff &(3a^2 - 3a + 1)^2 d^2 \leq (1-a)^6 \\ \iff &(3a^2 - 3a + 1)^2 (1 - 3a^2) \leq (1-a)^6 \\ \iff &28a^6 - 60a^5 + 51a^4 - 20a^3 + 3a^2 \geq 0 \\ \iff &a^2(2a-1)^2(7a^2-8a+3) \geq 0 \end{aligned}$$

最後の不等式は明らかに成り立つ. ■

(解 2) $a^2 + b^2 + c^2 + d^2 = 1$ より

$$2cd \leqq c^2 + d^2 = 1 - a^2 - b^2 \quad \text{だから} \quad -cd \geqq \frac{a^2 + b^2 - 1}{2}$$

これを使うと

$$\begin{aligned}(1-a)(1-b) - cd &\geqq (1-a)(1-b) + \frac{a^2 + b^2 - 1}{2} \\&= \frac{(a+b)^2 - 2(a+b) + 1}{2} \\&= \frac{(a+b-1)^2}{2} \geqq 0\end{aligned}$$

から

$$(1-a)(1-b) \geqq cd$$

同様にして

$$(1-c)(1-d) \geqq ab$$

が成り立つから、これらの不等式の辺々をかけると

$$(1-a)(1-b)(1-c)(1-d) \geqq abcd$$

が成り立つ。 ■

問題 103 (Austria Federal Competition For Advanced Students,Part 2 2006)

a, b, c は正の実数のとき、次の不等式を証明せよ。

$$3(a+b+c) \geq 8\sqrt[3]{abc} + \sqrt[3]{\frac{a^3+b^3+c^3}{3}}$$

(解 1) 一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c$ と仮定できる。

系 2.8 ($p = 0, q = 3$) を適用する。

$$a+b+c = \text{constant}, abc = \text{constant}$$

ならば、 $a^3 + b^3 + c^3$ は $0 < a = b \leq c$ のとき最大となる。

したがって、 $0 < a = b \leq c$ のとき

$$3(2a+c) \geq 8\sqrt[3]{a^2c} + \sqrt[3]{\frac{2a^3+c^3}{3}}$$

を示せばよい。

$$x = \frac{a}{c} \leq 1 \text{ において, } 0 < t \leq 1 \text{ のとき}$$

$$3(2x+1) \geq 8\sqrt[3]{x^2} + \sqrt[3]{\frac{2x^3+1}{3}}$$

を示す。 $t = \sqrt[3]{x} \leq 1$ とおくと

$$\begin{aligned} 3(2x+1) &\geq 8\sqrt[3]{x^2} + \sqrt[3]{\frac{2x^3+1}{3}} \\ \iff 3(2t^3+1) &\geq 8t^2 + \sqrt[3]{\frac{2t^9+1}{3}} \\ \iff 6t^3 - 8t^2 + 3 &\geq \sqrt[3]{\frac{2t^9+1}{3}} \\ \iff (6t^3 - 8t^2 + 3)^3 &\geq \frac{2t^9+1}{3} \\ \iff 646t^9 - 2592t^8 + 3456t^7 - 564t^6 - 2592t^5 + 1728t^4 + 486t^3 - 648t^2 + 80 &\geq 0 \\ \iff 2(t-1)^2(323t^7 - 650t^6 + 105t^5 + 578t^4 - 245t^3 - 204t^2 + 80t + 40) &\geq 0 \end{aligned}$$

$323t^7 - 650t^6 + 105t^5 + 578t^4 - 245t^3 - 204t^2 + 80t + 40 \geq 0$ を示す。

$u = \frac{1}{t} \geqq 1$, $v = u - 1 \geqq 0$ とおくと

$$\begin{aligned} & 323t^7 - 650t^6 + 105t^5 + 578t^4 - 245t^3 - 204t^2 + 80t + 40) \geqq 0 \\ \iff & 40(v+1)^7 + 80(v+1)^6 - 204(v+1)^5 - 245(v+1)^4 + 578(v+1)^3 \\ & + 105(v+1)^2 - 650(v+1) + 323 \geqq 0 \\ \iff & 40v^7 + 360v^6 + 1116v^5 + 1335v^4 + 558v^3 + 369v^2 + 54v + 27 \geqq 0 \end{aligned}$$

最後の不等式は明らかになり立つ。 ■

(解 2) $x = \sqrt[3]{\frac{a^3 + b^3 + c^3}{3}}$, $y = \frac{a+b+c}{3}$, $z = \sqrt[3]{abc}$ とおくと

$$x \geqq y \geqq z$$

が成り立ち、証明すべき不等式は、 $3 \cdot 3y \geqq 8z + x$ すなわち

$$9(y - z) \geqq x - z$$

ここで

$$x - z = \frac{x^3 - z^3}{x^2 + xz + z^2} \leqq \frac{x^3 - z^3}{y^2 + yz + z^2}$$

だから、 $9(y - z) \geqq \frac{x^3 - z^3}{y^2 + yz + z^2}$ すなわち

$$9(y^3 - z^3) \geqq x^3 - z^3$$

を示せばよい。

$$\begin{aligned} & 9(y^3 - z^3) \geqq x^3 - z^3 \\ \iff & 9y^3 \geqq 8z^3 + x^3 \\ \iff & (a+b+c)^3 \geqq 24abc + a^3 + b^3 + c^3 \end{aligned}$$

最後の不等式は次のように示すことができる。

$$\begin{aligned} (a+b+c)^3 - (a^3 + b^3 + c^3) &= 3(a+b)(b+c)(c+a) \\ &\geqq 3 \cdot 2\sqrt{ab} \cdot 2\sqrt{bc} \cdot 2\sqrt{ca} \\ &= 24abc \end{aligned}$$

問題 104 k を 2 以上の整数, x_1, x_2, \dots, x_n は正の実数のとき, 次の不等式を証明せよ.

$$n^{k-2}(x_1 + x_2 + \dots + x_n) \geq (n^{k-1} - 1) \sqrt[n]{x_1 x_2 \cdots x_n} + \sqrt[k]{\frac{x_1^k + x_2^k + \dots + x_n^k}{n}}$$

(解答) $x = \sqrt[k]{\frac{x_1^k + x_2^k + \dots + x_n^k}{n}}, y = \frac{x_1 + x_2 + \dots + x_n}{n}, z = \sqrt[n]{x_1 x_2 \cdots x_n}$ とおくと

$$x \geqq y \geqq z$$

が成り立ち, 証明すべき不等式は, $n^{k-2} \cdot ny \geq (n^{k-1} - 1)z + x$ すなわち

$$n^{k-1}(y - z) \geq x - z$$

となる.

$$\begin{aligned} x - z &= \frac{x^k - z^k}{x^{k-1} + x^{k-2}z + x^{k-3}z^2 + \dots + z^{k-1}} \\ &\leq \frac{x^k - z^k}{y^{k-1} + y^{k-2}z + y^{k-3}z^2 + \dots + z^{k-1}} \end{aligned}$$

より

$$n^{k-1}(y - z) \geq \frac{x^k - z^k}{y^{k-1} + y^{k-2}z + y^{k-3}z^2 + \dots + z^{k-1}}$$

すなわち

$$n^{k-1}(y^k - z^k) \geq x^k - z^k$$

を示せばよい.

$$\begin{aligned} n^{k-1}(y^k - z^k) &\geq x^k - z^k \\ \iff n^{k-2} \cdot ny^k &\geq (n^{k-1} - 1)z^k + x^k \\ \iff (x_1 + x_2 + \dots + x_n)^k &\geq x_1^k + x_2^k + \dots + x_n^k + n(n^{k-1} - 1) \sqrt[n]{(x_1 x_2 \cdots x_n)^k} \\ (x_1 + x_2 + \dots + x_n)^k &\geq x_1^k + x_2^k + \dots + x_n^k + n(n^{k-1} - 1) \sqrt[n]{(x_1 x_2 \cdots x_n)^k} \quad \dots\dots (*) \end{aligned}$$

が成り立つことを k に関する数学的帰納法で示す.

(i) $k = 2$ のとき

$$(x_1 + x_2 + \dots + x_n)^2 \geq x_1^2 + x_2^2 + \dots + x_n^2 + n(n-1) \sqrt[n]{(x_1 x_2 \cdots x_n)^2}$$

を示す。相加平均・相乗平均の不等式を使うと

$$\begin{aligned}
& (x_1 + x_2 + \cdots + x_n)^2 - (x_1^2 + x_2^2 + \cdots + x_n^2) \\
&= x_1(x_2 + x_3 + \cdots + x_n) + x_2(x_1 + x_3 + \cdots + x_{n-1}) \\
&\quad + \cdots + x_n(x_1 + x_2 + \cdots + x_{n-1}) \\
&= x_1 \cdot (n-1) \sqrt[n-1]{x_2 x_3 \cdots x_{n-1}} + x_2 \cdot (n-1) \sqrt[n-1]{x_1 x_3 \cdots x_n} \\
&\quad + \cdots + x_n \cdot (n-1) \sqrt[n-1]{x_1 x_2 \cdots x_{n-1}} \\
&= (n-1) (x_1 \cdot \sqrt[n-1]{x_2 x_3 \cdots x_{n-1}} + x_2 \cdot \sqrt[n-1]{x_1 x_3 \cdots x_n} \\
&\quad + \cdots + x_n \cdot \sqrt[n-1]{x_1 x_2 \cdots x_{n-1}}) \\
&\geq (n-1) \cdot n \sqrt[n]{x_1 \sqrt[n-1]{x_2 x_3 \cdots x_{n-1}} \cdot x_2 \sqrt[n-1]{x_1 x_3 \cdots x_n} \cdots x_n \sqrt[n-1]{x_1 x_2 \cdots x_{n-1}}} \\
&= (n-1)n \sqrt[n]{(x_1 x_2 \cdots x_n)^{\frac{n-1}{n}}} \\
&= (n-1) \sqrt[n]{(x_1 x_2 \cdots x_n)^2}
\end{aligned}$$

(ii) k のとき成り立つと仮定すると

$$(x_1 + x_2 + \cdots + x_n)^k \geq x_1^k + x_2^k + \cdots + x_n^k + n(n^{k-1} - 1) \sqrt[n]{(x_1 x_2 \cdots x_n)^k}$$

両辺に $x_1 + x_2 + \cdots + x_n$ をかけると

$$\begin{aligned}
& (x_1 + x_2 + \cdots + x_n)^{k+1} \\
&\geq (x_1 + x_2 + \cdots + x_n)^k (x_1 + x_2 + \cdots + x_n) \\
&\quad + n(n^{k-1} - 1) \sqrt[n]{(x_1 x_2 \cdots x_n)^k} (x_1 + x_2 + \cdots + x_n) \\
&\geq (x_1 + x_2 + \cdots + x_n)^k (x_1 + x_2 + \cdots + x_n) \\
&\quad + n(n^{k-1} - 1) \sqrt[n]{(x_1 x_2 \cdots x_n)^k} \cdot n \sqrt[n]{x_1 x_2 \cdots x_n} \\
&= (x_1 + x_2 + \cdots + x_n)^k (x_1 + x_2 + \cdots + x_n) + n^2(n^{k-1} - 1) \sqrt[n]{(x_1 x_2 \cdots x_n)^{k+1}}
\end{aligned}$$

したがって

$$\begin{aligned}
& (x_1 + x_2 + \cdots + x_n)^k (x_1 + x_2 + \cdots + x_n) + n^2(n^{k-1} - 1) \sqrt[n]{(x_1 x_2 \cdots x_n)^{k+1}} \\
&\geq x_1^{k+1} + x_2^{k+1} + \cdots + x_n^{k+1} + n(n^k - 1) \sqrt[n]{(x_1 x_2 \cdots x_n)^{k+1}}
\end{aligned}$$

すなわち

$$\begin{aligned}
& (x_1 + x_2 + \cdots + x_n)^k (x_1 + x_2 + \cdots + x_n) - (x_1^{k+1} + x_2^{k+1} + \cdots + x_n^{k+1}) \\
&= x_1^k (x_2 + x_3 + \cdots + x_n) + x_2^k (x_1 + x_3 + \cdots + x_{n-1}) \\
&\quad + \cdots + x_n^k (x_1 + x_2 + \cdots + x_{n-1}) \\
&\geq n(n-1) \sqrt[n]{(x_1 x_2 \cdots x_n)^{k+1}}
\end{aligned}$$

を示せばよい。相加平均・相乗平均の不等式を使うと

$$\begin{aligned}
& x_1^k (x_2 + x_3 + \cdots + x_n) + x_2^k (x_1 + x_3 + \cdots + x_{n-1}) \\
&\quad + \cdots + x_n^k (x_1 + x_2 + \cdots + x_{n-1}) \\
&\geq x_1^k \cdot (n-1) \sqrt[n-1]{x_2 x_3 \cdots x_{n-1}} + x_2^k \cdot (n-1) \sqrt[n-1]{x_1 x_3 \cdots x_n} \\
&\quad + \cdots + x_n^k \cdot (n-1) \sqrt[n-1]{x_1 x_2 \cdots x_{n-1}} \\
&= (n-1) \left(x_1^k \cdot \sqrt[n-1]{x_2 x_3 \cdots x_{n-1}} + x_2^k \cdot \sqrt[n-1]{x_1 x_3 \cdots x_n} \right. \\
&\quad \left. + \cdots + x_n^k \cdot \sqrt[n-1]{x_1 x_2 \cdots x_{n-1}} \right) \\
&\geq (n-1) \cdot n \sqrt[n]{x_1^k \sqrt[n-1]{x_2 x_3 \cdots x_{n-1}} \cdot x_2^k \sqrt[n-1]{x_1 x_3 \cdots x_n} \cdots x_n^k \sqrt[n-1]{x_1 x_2 \cdots x_{n-1}}} \\
&= (n-1)n \sqrt[n]{(x_1 x_2 \cdots x_n)^k} \sqrt[n-1]{(x_1 x_2 \cdots x_n)^{n-1}} \\
&= n(n-1) \sqrt[n]{(x_1 x_2 \cdots x_n)^{k+1}}
\end{aligned}$$

$k+1$ のときも成り立つ。したがって、すべての $k \geq 2$ について (*) は成り立つ。 ■

[注] 問題 104 において $k = n = 3$ とおいたものが問題 103 である。

問題 105 (Balkan Mathematical Olympiad 2012)

x, y, z は正の実数のとき、次の不等式を証明せよ。

$$(x+y)\sqrt{(z+x)(z+y)} + (y+z)\sqrt{(x+y)(x+z)} + (z+x)\sqrt{(y+x)(y+z)} \geqq 4(xy+yz+zx)$$

(解 1) $a = \sqrt{y+z}, b = \sqrt{z+x}, c = \sqrt{x+y}$ とおくと

$$x = \frac{-a^2 + b^2 + c^2}{2}, y = \frac{a^2 - b^2 + c^2}{2}, z = \frac{a^2 + b^2 - c^2}{2}$$

ただし

$$a, b, c > 0, a^2 + b^2 > c^2, b^2 + c^2 > a^2, c^2 + a^2 > b^2$$

が成り立つが、ここでは、 $a^2 + b^2 > c^2, b^2 + c^2 > a^2, c^2 + a^2 > b^2$ を除いて、 $a, b, c > 0$ のとき、不等式が成り立つことを示す。

このとき

$$\begin{aligned} \sum_{cyclic} (x+y)\sqrt{(z+x)(z+y)} &= abc(a+b+c), \\ 4(xy+yz+zx) &= (-a^2 + b^2 + c^2)(a^2 - b^2 + c^2) \\ &\quad + (a^2 - b^2 + c^2)(a^2 + b^2 - c^2) \\ &\quad + (a^2 + b^2 - c^2)(-a^2 + b^2 + c^2) \\ &= 2(a^2b^2 + b^2c^2 + c^2a^2) - (a^4 + b^4 + c^4) \end{aligned}$$

となるから

$$abc(a+b+c) \geqq 2(a^2b^2 + b^2c^2 + c^2a^2) - (a^4 + b^4 + c^4)$$

すなわち

$$a^4 + b^4 + c^4 + abc(a+b+c) \geqq 2a^2b^2c^2 \left(\frac{1}{a^2} + \frac{1}{b^2} + \frac{1}{c^2} \right) \quad (\star)$$

を示せばよい。

一般性を失うことなく $0 < a \leqq b \leqq c$ と仮定できる。

$$f(a, b, c) = a^4 + b^4 + c^4 + abc(a+b+c) - 2a^2b^2c^2 \left(\frac{1}{a^2} + \frac{1}{b^2} + \frac{1}{c^2} \right)$$

とおくと

$$\begin{aligned}
f(a, b, c) - f(a, \sqrt{bc}, \sqrt{bc}) &= b^4 + c^4 - 2b^2c^2 + abc(b + c - 2\sqrt{bc}) \\
&\quad - 2a^2b^2c^2 \left(\frac{1}{b^2} + \frac{1}{c^2} - \frac{2}{bc} \right) \\
&= (b^2 - c^2)^2 + abc(\sqrt{b} - \sqrt{c})^2 - 2a^2(b - c)^2 \\
&= (b - c)^2 \{(b + c)^2 - 2a^2\} + abc(\sqrt{b} - \sqrt{c})^2 \\
&= (b - c)^2 \left\{ \underbrace{(b^2 - a^2) + (c^2 - a^2)}_{\geq 0} + 2bc \right\} \\
&\quad + abc(\sqrt{b} - \sqrt{c})^2 \geq 0
\end{aligned}$$

から

$$f(a, b, c) \geq f(a, \sqrt{bc}, \sqrt{bc})$$

が成り立つ。

よって, $t = \sqrt{bc}$ とおき, $0 < a \leqq t$ のとき, $f(a, t, t) \geqq 0$ を示せばよい.

$$\begin{aligned}
f(a, t, t) &= a^4 + 2t^4 + at^2(a + 2t) - 2a^2t^4 \left(\frac{1}{a^2} + \frac{2}{t^2} \right) \\
&= 2at^3 - 3a^2t^2 + a^4 \\
&= a(t - a)^2(2t + a) \geqq 0
\end{aligned}$$
■

(解 2) $a = \sqrt{y+z}$, $b = \sqrt{z+x}$, $c = \sqrt{x+y}$ とおくと

$$x = \frac{-a^2 + b^2 + c^2}{2}, y = \frac{a^2 - b^2 + c^2}{2}, z = \frac{a^2 + b^2 - c^2}{2}$$

ただし, $a, b, c > 0$, $a^2 + b^2 > c^2$, $b^2 + c^2 > a^2$, $c^2 + a^2 > b^2$ が成り立つ。

このとき, 証明すべき不等式は

$$abc(a + b + c) \geqq 2(a^2b^2 + b^2c^2 + c^2a^2) - (a^4 + b^4 + c^4)$$

すなわち

$$a^4 + b^4 + c^4 + abc(a + b + c) \geqq 2a^2b^2c^2 \left(\frac{1}{a^2} + \frac{1}{b^2} + \frac{1}{c^2} \right) \quad (\star)$$

となる。

一般性を失うことなく $0 < a \leqq b \leqq c$ と仮定できる。

系 2.8 ($p = 0, q = 4, -2$) を適用する。

$$a + b + c = \text{constant}, abc = \text{constant}$$

ならば、 $a^4 + b^4 + c^4$ は $0 < a \leq b = c$ のとき最小で、

$\frac{1}{a^2} + \frac{1}{b^2} + \frac{1}{c^2}$ は $0 < a \leq b = c$ のとき最大となる。

したがって、 $0 < a \leq b = c$ のとき

$$a^4 + 2b^4 + ab^2(a + 2b) \geq 2a^2b^4 \left(\frac{1}{a^2} + \frac{2}{b^2} \right)$$

すなわち

$$a^4 - 3a^2b^2 + 2ab^3 \geq 0$$

を示せばよい。これは

$$a^4 - 3a^2b^2 + 2ab^3 = a(a - b)^2(a + 2b) \geq 0$$

からいえる。 ■

(解 3) $a = \sqrt{y+z}$, $b = \sqrt{z+x}$, $c = \sqrt{x+y}$ とおくと

$$x = \frac{-a^2 + b^2 + c^2}{2}, y = \frac{a^2 - b^2 + c^2}{2}, z = \frac{a^2 + b^2 - c^2}{2}$$

ただし、 $a, b, c > 0$, $a^2 + b^2 > c^2$, $b^2 + c^2 > a^2$, $c^2 + a^2 > b^2$ が成り立つ。

このとき、証明すべき不等式は

$$abc(a + b + c) \geq 2(a^2b^2 + b^2c^2 + c^2a^2) - (a^4 + b^4 + c^4)$$

すなわち

$$a^4 + b^4 + c^4 + abc(a + b + c) \geq 2a^2b^2c^2 \left(\frac{1}{a^2} + \frac{1}{b^2} + \frac{1}{c^2} \right) \quad (\star)$$

となる。

一般性を失うことなく $0 < a \leq b \leq c$ と仮定できる。

また、証明すべき不等式は同次式だから、 $abc = 1$ と仮定できるから

$$a^4 + b^4 + c^4 + a + b + c \geq 2 \left(\frac{1}{a^2} + \frac{1}{b^2} + \frac{1}{c^2} \right)$$

を示せばよい。

$$f(x) = x^4 + x - \frac{2}{x^2} \quad (x > 0)$$

とおくと、証明すべき不等式は

$$f(a) + f(b) + f(c) \geq 3f\left(\sqrt[3]{abc}\right)$$

となる。

ここで

$$f_1(u) = f(e^u) = e^{4u} + e^u - \frac{2}{e^{2u}}$$

とおくと

$$f_1''(u) = \frac{16e^{6u} + e^{3u} - 8}{e^{2u}}$$

$u \geq 0$ のとき $f_1''(u) > 0$ だから、 $f_1(u)$ は $u \geq 0$ で凸関数である。

$r = \sqrt[3]{abc} = 1$ とおくと、 $f_1(u)$ は $u \geq \log r = 0$ で凸関数だから、

RCF-Corollary より

$0 < a \leq b = c, ab^2 = 1$ のとき

$$a^4 + 2b^4 + a + 2b \geq 2\left(\frac{1}{a^2} + \frac{2}{b^2}\right)$$

を示せばよい。

$$\begin{aligned} a^4 + 2b^4 + a + 2b &\geq 2\left(\frac{1}{a^2} + \frac{2}{b^2}\right) \\ \iff \frac{1}{b^8} + 2b^4 + \frac{1}{b^2} + 2b &\geq 2\left(b^4 + \frac{2}{b^2}\right) \\ \iff 2b - \frac{3}{b^2} + \frac{1}{b^8} &\geq 0 \\ \iff 2b^9 - 3b^6 + 1 &\geq 0 \\ \iff (b^3 - 1)^2(2b^3 + 1) &\geq 0 \end{aligned}$$

より

$$a^4 + 2b^4 + a + 2b \geq 2\left(\frac{1}{a^2} + \frac{2}{b^2}\right)$$

は成り立つ。 ■

参考文献

- [1] V.Cîrtoaje : THE EQUAL VARIABLE METHOD , journal of inequalities in pure and applied mathematics
- [2] V.Cîrtoaje : ALGEBRAIC INEQUALITIES Old and New Methods , GIL Publishing House
- [3] P. K . Hung : The stronger mixing variables method ,Mathematical Reflections 6 (2006)
- [4] P. K . Hung : Secrets in and Inequalities volume 1 - basic inequalities , GIL Publishing House
- [5] P. K . Hung : Secrets in and Inequalities volume 2 - advanced inequalities -free chapter , GIL Publishing House
- [6] Z. Cvetkovski : Inequalities Theorems , Techniques and Selected Problems , Springer
- [7] 柳田 五夫 : 初等的な不等式 I , 数学のいづみ
- [8] 柳田 五夫 : 初等的な不等式 II , 数学のいづみ
- [9] 柳田 五夫 : 相加平均と相乗平均を含む不等式について , 数学のいづみ
- [10] 大関信雄・大関清太 : 不等式への招待 , 近代科学社

2014 年 8 月 22 日 Ver .1.1

